

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-208929

(P2019-208929A)

(43) 公開日 令和1年12月12日(2019.12.12)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 6 3 F	7/02	3 2 0
7/02		2 C 0 8 8
(2006.01)	A 6 3 F	7/02
	A 6 3 F	7/02
		3 3 4
		2 C 3 3 3

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 196 頁)

(21) 出願番号	特願2018-108222 (P2018-108222)	(71) 出願人	000144153
(22) 出願日	平成30年6月6日 (2018.6.6)		株式会社三共
			東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号
		(72) 発明者	小倉 敏男
			東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号 株
			式会社三共内
		Fターム(参考)	2C088 AA35 BC27 BC58 CA13 CA27
			2C333 AA11 CA15 CA22 CA25 CA49
			CA58 DA04

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【要約】

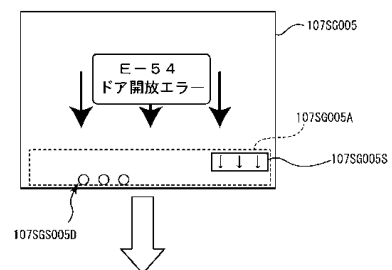
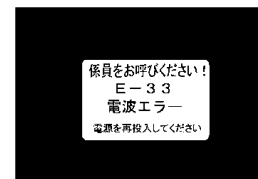
【課題】意図しない縮小演出図柄の可変表示が実行されてしまうことを防ぐことのできる遊技機を提供すること。

【解決手段】画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部の各々において演出用識別情報の可変表示を実行可能であるとともに、演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段と、異常が発生したときに、異常が発生したことを示す異常表示を表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段と、を備え、異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり、表示手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない。

【選択図】 図8-30

【図8-30】

(A) 変動表示中にドア開放エラー発生

(B) ドア開放エラー報知中に電波エラー発生
(飾り図柄及び小図柄に対してエラー報知画像を重複表示)

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技が可能な遊技機であって、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部の各々において演出用識別情報の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段と、

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示せず、

さらに、

遊技者にとって有利な有利状態に制御されることを示唆する示唆演出を実行可能な示唆演出実行手段と、

前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段と、を備え、

前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能であることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

遊技が可能な遊技機であって、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部の各々において演出用識別情報の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段と、

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段と、

を備え、

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示せず、

さらに、

遊技者にとって有利な有利状態に制御されることを示唆する示唆演出を実行可能な示唆演出実行手段と、

前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段と、を備え、

前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能であることを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、遊技が可能な遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、遊技機として、異常が発生したときに、遊技を継続不能な遊技停止状態に移行し、該遊技停止状態を、電源を一旦遮断して、再投入することで解消できるようにしたものがある（例えば、特許文献 1 参照）。

【0003】

また、遊技機として、演出図柄の可変表示と同期して、縮小演出図柄の可変表示を行う

10

20

30

40

50

ものがある（例えば、特許文献 2 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2016-83012 号公報

【特許文献 2】特開 2016-112051 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、特許文献 1 の遊技機において、特許文献 2 の縮小演出図柄の可変表示を実行する場合にあっては、遊技停止状態や電源の復旧時に、意図しない縮小演出図柄の可変表示が実行されてしまう虞があった。

【0006】

本発明は、このような問題点に着目してなされたもので、意図しない縮小演出図柄の可変表示が実行されてしまうことを防ぐことのできる遊技機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

前記課題を解決するために、本発明の手段 1 に記載の遊技機は、

遊技が可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機 1）であって、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報（例えば、小図柄）の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置 107SG005）と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示（例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像）を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段（例えば、演出制御用 CPU 120 が図 8-22、図 8-23 に示すエラー報知処理を実行する部分）と、

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり（例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、VDP に対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置 107SG005 に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる部分）、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示せず（例えば、図 8-30（B）に示すように、画像表示装置 107SG005 の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分）、

さらに、

遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態）に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用 CPU 120）と、

前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用 CPU 120）と、を備え、

前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図 10（D）、（F））ことを特徴としている。

10

20

30

40

50

この特徴によれば、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。また、演出効果を高めることができる。

【0008】

前記課題を解決するために、本発明の手段2に記載の遊技機は、
遊技が可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機1）であって、
画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置107SG005）と、

10

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段（例えば、演出制御用CPU120が図8-27に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置107SG005に電断復旧画像を表示させる部分）と、

を備え、

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示せず（例えば、図8-28及び図8-31に示すように、画像表示装置107SG005において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用CPU120がCPU103から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部分）、

20

さらに、

遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態）に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用CPU120）と、

前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用CPU120）と、を備え、

前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図10（D）、（F））ことを特徴としている。

30

この特徴によれば、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。また、演出効果を高めることができる。

【0009】

本発明の手段3の遊技機は、手段1または手段2に記載の遊技機であって、

特別識別情報（例えば、特別図柄）の可変表示を実行可能な特別可変表示手段（例えば、CPU103が図5に示す特別図柄通常処理、変動パターン設定処理、特別図柄変動処理、特別図柄停止処理を実行する部分）と、

遊技の進行を制御するとともに、前記特別可変表示手段における特別識別情報の可変表示を制御する遊技制御手段（例えば、CPU103）と、

40

前記遊技制御手段から出力される制御情報（例えば、図8-2に示す演出制御コマンド）に基づいて演出を制御するとともに、前記表示手段における演出用識別情報と縮小識別情報の可変表示を、前記特別可変表示手段における特別識別情報の可変表示と開始時及び停止時が同期するように制御する演出制御手段（例えば、演出制御用CPU120が図7に示す演出制御プロセス処理において可変表示開始待ち処理、可変表示開始設定処理、可変表示中演出処理、特図当り待ち処理を実行する部分）と、

を備え、

前記特別可変表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、遊技停止状態ではないときとは異なる態様となる（例えば、図8-16及び図8-26に示すように、遊技停止エラーが発生して遊技が停止された場合は、変動表示中の特別図柄が

50

消灯されるが、非遊技停止エラーが発生して遊技が継続される場合は、特別図柄の変動表示が維持される部分)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、縮小識別情報と特別識別情報の可変表示の同期が不適切となってしまうことを防ぐことができる。

【0010】

本発明の手段4の遊技機は、手段1～手段3のいずれかに記載の遊技機であって、

遊技停止状態とならない異常（例えば、始動口2異常入賞エラー、不正入賞エラー、コントローラ接続エラー、ドア開放エラー、球切れエラー等）が発生したときに、該発生した異常に対応した非遊技停止異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能な異常報知手段（例えば、演出制御用CPU120が図8-22及び図8-23に示すエラー報知処理を実行する部分）を備え、

前記表示手段は、前記非遊技停止異常表示が表示されているときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示する（例えば、図8-30(A)に示すように、ドア開放エラー等の非遊技停止エラーが発生した場合は、画像表示装置107SG005における飾り図柄や小図柄の表示が継続される部分)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、非遊技停止異常表示が表示されても、縮小識別情報を視認することで、可変表示の実行中か否かを把握することができる。

【0011】

本発明の手段5の遊技機は、手段1～手段4のいずれかに記載の遊技機であって、

前記表示手段は、特定表示を前記異常表示または前記非遊技停止異常表示よりも優先して表示可能である（例えば、変形例1として図8-36に示すように、画像表示装置107SG005において可動体32やプッシュボタン31B、スティックコントローラ31Aの動作チェック結果の画像を飾り図柄、小図柄、ドア開放エラー報知画像に重複して表示する部分)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、異常表示の表示中であっても、特定表示を確認できる。

【0012】

本発明の手段6の遊技機は、手段5に記載の遊技機であって、

演出に使用される可動体（例えば、可動体32）を備え、

前記特定表示は、前記可動体の動作検証に関する表示である（例えば、動作チェック結果の画像は、可動体32を所定の位置まで動作させる等の動作検証結果を表示するための画像である部分)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、異常表示の表示中であっても、動作検証に関する表示を確認できる。

【0013】

本発明の手段7の遊技機は、手段1～手段6のいずれかに記載の遊技機であって、

特別識別情報（例えば、特別図柄）の可変表示を実行可能な特別可変表示手段（例えば、CPU103が図5に示す特別図柄通常処理、変動パターン設定処理、特別図柄変動処理、特別図柄停止処理を実行する部分）と、

遊技の進行を制御するとともに、前記特別可変表示手段における特別識別情報の可変表示を制御する遊技制御手段（例えば、CPU103）と、

前記遊技制御手段から出力される制御情報（例えば、図8-2に示す演出制御コマンド）に基づいて演出を制御するとともに、前記表示手段における演出用識別情報と縮小識別情報の可変表示を、前記特別可変表示手段における特別識別情報の可変表示と開始時及び停止時が同期するように制御する演出制御手段（例えば、演出制御用CPU120が図7に示す演出制御プロセス処理において可変表示開始待ち処理、可変表示開始設定処理、可変表示中演出処理、特図当り待ち処理を実行する部分）と、

を備え、

前記演出制御手段は、可変表示中に電断が発生し、その後において該電断から復旧したときに中断された可変表示が実行されていても、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しないように制御する（例えば、図８－２８に示すように、電断から復旧した場合は、次の変動表示が開始されるタイミングまで飾り図柄と小図柄とを表示しない部分）ことを特徴としている。

この特徴によれば、縮小識別情報と特別識別情報の可変表示の同期が不適切となってしまうことを防ぐことができる。

【００１４】

本発明の手段８の遊技機は、手段１～手段７のいずれかに記載の遊技機であって、
所定の契機（例えば、遊技球が大入賞口に入賞したこと）にもとづいて計数表示を更新表示可能な計数表示実行手段（例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０）を備え、

前記計数表示実行手段は、更新後の計数結果を表示するまでの期間が第１期間（例えば、０．１秒）である第１パターン、および更新後の計数結果を表示するまでの期間が第１期間よりも長い第２期間（例えば、０．５秒）である第２パターンにより、計数表示を更新表示可能である（例えば、変形例２として図８－３７～図８－３９に示すように、第１ＫＴ状態において遊技球が大入賞口に入賞した場合は、賞球数表示１０７ＳＧ３０３を０．１秒で更新し、第２ＫＴ状態において遊技球が大入賞口に入賞した場合は、賞球数表示１０７ＳＧ３０５を０．５秒で更新する部分）ことを特徴としている。

この特徴によれば、計数表示を更新表示するパターンを複数種類備えることにより、計数表示の更新表示を行う場合に遊技に対する興趣を向上させることができる。

【００１５】

また、後述する発明を実施するための形態には、以下の手段９～手段１６に係る発明が含まれる。従来より、遊技機において、特開２０１６－１０１４２８号公報に示されているような、リーチ演出の開始時に、リーチ演出の種類を報知するタイトル表示を行うものがあった。上記した従来の遊技機では、演出効果を高めることが望まれており、この点に鑑み、演出効果を高めることができる遊技機の提供が求められている。

【００１６】

上記目的を達成するため、別態様による手段９の遊技機は、
遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当たり遊技状態）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機１）であって、

前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用ＣＰＵ１２０）と、

前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用ＣＰＵ１２０）と、を備え、

前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図１０（Ｄ）、（Ｆ））。

このような構成によれば、演出効果を高めることができる。

【００１７】

手段１０の遊技機は、手段９に記載の遊技機であって、

前記示唆演出実行手段は、複数種類の前記示唆演出を実行可能であって、

複数種類の前記示唆演出において、前記所定期間内の演出の少なくとも一部は共通の態様で実行可能であるようにしてもよい（例えば図１０（Ｃ））。

このような構成によれば、いずれの示唆演出が実行されるかに注目させることができ、興趣が向上する。

【００１８】

手段１１の遊技機は、手段９または手段１０のいずれかに記載の遊技機であって、

前記示唆演出実行中の複数の実行タイミングにおいて、前記有利状態に制御されることを示唆する特定演出（例えば発展演出や予告演出）を実行可能であり、

前記所定期間中には前記特定演出の実行タイミングが設けられないようにしてもよい。
このような構成によれば、タイトルの報知後でも遊技者の期待感を維持することができる。

【0019】

手段12の遊技機は、手段9から手段11のいずれかに記載の遊技機であって、
前記示唆演出実行手段は、前記示唆演出として少なくとも第1示唆演出（例えばスーパーリーチAやスーパーリーチBのリーチ演出）と第2示唆演出（例えばスーパーリーチDやスーパーリーチEのリーチ演出）とを実行可能であり、
前記タイトル報知手段は、前記第2示唆演出では、当該第2示唆演出の開始時から当該第2示唆演出に対応したタイトルを報知するようにしてもよい。

10

このような構成によれば、示唆演出に応じたタイトルの報知を実行できるので演出効果が向上する。

【0020】

手段13の遊技機は、手段12に記載の遊技機であって、
前記第2示唆演出が実行された場合よりも前記第1示唆演出が実行された場合の方が前記有利状態に制御される割合が高いようにしてもよい。

このような構成によれば、演出効果が向上する。

【0021】

手段14の遊技機は、手段9から手段13のいずれかに記載の遊技機であって、
前記示唆演出実行手段は、前記所定期間において報知されるタイトルに関連する演出態
様で前記示唆演出を実行可能であるようにしてもよい。

20

このような構成によれば、演出効果が向上する。

【0022】

手段15の遊技機は、手段9から手段14のいずれかに記載の遊技機であって、
遊技者の動作を検出可能な検出手段（例えばスティックコントローラ31Aやプッシュ
ボタン31B）と、

前記検出手段に対応した特定表示（例えば小ボタン画像31AK043、大ボタン画像
31AK047、スティック画像31AK051）を行う特定表示実行手段（例えば演出
制御用CPU120）と、をさらに備え、

前記特定表示実行手段は、

30

前記特定表示として、第1特定表示（例えば小ボタン画像31AK043）と、前記第
1特定表示よりも遊技者にとって有利度が高い第2特定表示（例えば、大ボタン画像31
AK047、スティック画像31AK051）を表示可能であり、

前記検出手段による検出の有効期間において、前記第1特定表示を表示した後に当該
第1特定表示を前記第2特定表示に変化させ（例えば図18（E）、図19（I））、

前記検出手段による検出の有効期間において、変化後の前記第2特定表示を用いた動作
演出が実行されるようにしてもよい（例えば図19（J）、（K））。

このような構成によれば、演出効果が向上する。

【0023】

手段16の遊技機は、手段9から手段15のいずれかに記載の遊技機であって、

40

前記有利状態への制御の期待度を示唆する示唆表示として、表示サイズが第1サイズで
ある第1示唆表示（図20（a）に示すシャッター演出時に表示する第1サイズのシャッ
ター画像31AK061による表示等）と、表示サイズが第2サイズである第2示唆表示
（図20（d）に示すリーチタイトル演出時に表示する第2サイズのリーチタイトル画像
31AK062等）とを表示可能な表示手段（例えば画像表示装置5、演出制御用CPU
120）をさらに備え、

前記表示手段は、

態様の異なる複数種類の要素（図20（a）、（d）に示す要素E1（バナナ）、要
素E2（メロン）、要素E3（リンゴ）、要素E4（スイカ）、要素E5（イチゴ）等）
を含んで構成された特定画像（図20（a）、（d）に示すフルーツ柄等）を表示可能で

50

あり、

前記特定画像を含むパターンにて前記第1示唆表示および前記第2示唆表示のいずれを表示するときにも、複数種類の要素が前記第1示唆表示および前記第2示唆表示のいずれにも含まれるように表示する（図20（a）、（d）に示すシャッター画像31AK061、リーチタイトル画像31AK062のいずれにも要素E1～E5が含まれるように表示する等）ようにしてもよい。

このような構成によれば、示唆表示の表示サイズに関わらず特定画像を好適に表示することができる。これにより、特定画像が表示されたことを正確に伝えることができる。

【0024】

尚、本発明は、本発明の請求項に記載された発明特定事項のみを有するものであって良いし、本発明の請求項に記載された発明特定事項とともに該発明特定事項以外の構成を有するものであってもよい。

【図面の簡単な説明】

【0025】

【図1】この実施の形態におけるパチンコ遊技機の正面図である。

【図2】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。

【図3】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図4】遊技制御用タイマ割込み処理の一例を示すフローチャートである。

【図5】特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図6】演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図7】演出制御プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図8-1】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。

【図8-2】（A）、（B）は、演出制御コマンドを例示する図である。

【図8-3】各乱数を示す説明図である。

【図8-4】変動パターンを例示する図である。

【図8-5】各変動パターン判定テーブル毎の変動パターンの決定割合を例示する図である。

【図8-6】表示結果判定テーブルを示す説明図である。

【図8-7】（A）は、大当たり種別判定テーブルの構成例を示す図であり、（B）は、各種大当たりの内容を示す図である。

【図8-8】遊技制御用データ保持エリアの構成例を示すブロック図である。

【図8-9】（A）は、演出制御用データ保持エリアの構成例を示すブロック図であり、（B）は、始動入賞時受信コマンドバッファの構成を示す図である。

【図8-10】タイマ割込処理の一部を示すフローチャートである。

【図8-11】電断検出処理の一例を示すフローチャートである。

【図8-12】メイン側エラー処理の一例を示すフローチャートである。

【図8-13】メイン側エラー処理の一例を示すフローチャートである。

【図8-14】エラー指定コマンド形態を例示する説明図である。

【図8-15】パチンコ遊技機で発生するエラーを示す説明図である。

【図8-16】特別図柄プロセス処理の一部を示すフローチャートである。

【図8-17】特別図柄通常処理の一例を示すフローチャートである。

【図8-18】特別図柄停止処理の一例を示すフローチャートである。

【図8-19】大当たり終了処理の一例を示すフローチャートである。

【図8-20】演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図8-21】可変表示開始設定処理の一例を示すフローチャートである。

【図8-22】エラー報知処理の一例を示すフローチャートである。

【図8-23】エラー報知処理の一例を示すフローチャートである。

【図8-24】エラーの発生に応じて演出制御基板からVDPに対して出力するコマンドの説明図である。

【図8-25】エラー報知の報知期間やエラー報知の切替タイミングを示すタイミングチ

10

20

30

40

50

ャートである。

【図 8-26】遊技停止エラーが発生した場合の特別図柄、飾り図柄、小図柄、エラー報知画像の態様の説明図である。

【図 8-27】電断復旧画像表示処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8-28】電断復旧時の特別図柄、飾り図柄、小図柄、電断復旧画像の態様の説明図である。

【図 8-29】画像表示装置の説明図である。

【図 8-30】変動表示中にエラーが発生した場合の画像表示装置の表示態様を示す図である。

【図 8-31】変動表示中に電断が発生した場合の画像表示装置の表示態様を示す図である。

10

【図 8-32】変形例 1 におけるパチンコ遊技機の背面図である。

【図 8-33】変形例 1 における演出制御基板の概略図である。

【図 8-34】変形例 1 における設定切替スイッチを示す図である。

【図 8-35】変形例 1 においてパチンコ遊技機 1 を節電モードに制御する際の画像表示装置の表示態様を示す図である。

【図 8-36】変形例 1 において可動体等の動作チェックを行う際の画像表示装置の表示態様を示す図である。

【図 8-37】変形例 2 における大当たり遊技中の賞球表示の更新態様を示す図である。

【図 8-38】変形例 2 における第 1 K T 状態での賞球表示の更新態様を示す図である。

20

【図 8-39】変形例 2 における第 2 K T 状態での賞球表示の更新態様を示す図である。

【図 9】変動パターンやリーチの種類を説明するための図である。

【図 10】演出動作例を示す図である。

【図 11】演出動作例を示す図である。

【図 12】演出動作例を示す図である。

【図 13】演出動作例を示す図である。

【図 14】演出動作例を示す図である。

【図 15】演出動作例を示す図である。

【図 16】予告演出決定処理の一例を示すフローチャートである。

【図 17】予告演出決定処理における決定割合を示す図である。

30

【図 18】変形例の演出動作例を示す図である。

【図 19】変形例の演出動作例を示す図である。

【図 20】変形例の演出動作例を示す図である。

【図 21-1】他の特徴部に係る各種の制御基板などを示す構成図である。

【図 21-2】他の特徴部に係るパチンコ遊技機を示す背面図である。

【図 21-3】他の特徴部に係る演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。

【図 21-4】他の特徴部に係る遊技用乱数となる乱数値を例示する説明図である。

【図 21-5】他の特徴部に係る変動パターンを示す図である。

【図 21-6】他の特徴部に係る表示結果判定テーブルを示す説明図である。

【図 21-7】他の特徴部に係る当り種別判定テーブルを示す説明図である。

40

【図 21-8】他の特徴部に係る大当たり種別を示す説明図である。

【図 21-9】他の特徴部に係る変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図 21-10】他の特徴部に係る変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図 21-11】他の特徴部に係る遊技制御用データ保持エリアを示す図である。

【図 21-12】他の特徴部に係る表示モニタの配置と表示内容を示す図である。

【図 21-13】他の特徴部に係る賞球数を記憶する記憶領域を示す図である。

【図 21-14】他の特徴部に係るメモリマップを示す図である。

【図 21-15】他の特徴部に係る内蔵 R A M エリアを示す図である。

【図 21-16】他の特徴部に係る表示モニタにおける表示の制御例を示す図である。

【図 21-17】他の特徴部に係るバッファ更新の実行例を示す図である。

50

- 【図 2 1 - 1 8】他の特徴部に係るメイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 2 1 - 1 9】他の特徴部に係る表示モニタの表示態様を示す図である。
- 【図 2 1 - 2 0】他の特徴部に係る表示モニタの表示態様を示す図である。
- 【図 2 1 - 2 1】他の特徴部に係る変形例における表示モニタの表示態様を示す図である。
- 【図 2 1 - 2 2】他の特徴部に係る変形例における表示モニタの表示態様を示す図である。
- 【図 2 1 - 2 3】他の特徴部に係る変形例におけるパチンコ遊技機を示す背面斜視図である。
- 【図 2 1 - 2 4】他の特徴部に係る変形例における遊技機用枠を開放した状態を示す背面斜視図である。 10
- 【図 2 1 - 2 5】他の特徴部に係る変形例におけるセキュリティカバーを示す図である。
- 【図 2 1 - 2 6】他の特徴部に係る変形例におけるセキュリティカバーを示す図である。
- 【図 2 1 - 2 7】他の特徴部に係る状態制御例を示す図である。
- 【図 2 1 - 2 8】他の特徴部に係る演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 2 1 - 2 9】他の特徴部に係る電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 2 1 - 3 0】他の特徴部に係る演出制御の優先度を示す図である。
- 【図 2 1 - 3 1】他の特徴部に係る変形例における演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。 20
- 【図 2 1 - 3 2】他の特徴部に係る変形例における進行中設定確認処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 2 1 - 3 3】特徴部 7 1 A K に係る出力量切替スイッチの構成例を示す図である。
- 【図 2 1 - 3 4】特徴部 7 1 A K に係る初期設定制御を示す図である。
- 【図 2 1 - 3 5】特徴部 7 1 A K に係る報知の実行例を示す図である。
- 【図 2 1 - 3 6】特徴部 7 1 A K に係る表示例を示す図である。
- 【図 2 1 - 3 7】特徴部 7 1 A K に係る演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 2 1 - 3 8】特徴部 7 1 A K に係る開始時出力切替処理の一例を示すフローチャート 30
- である。
- 【図 2 1 - 3 9】特徴部 7 1 A K に係る進行中出力変更処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 2 1 - 4 0】特徴部 7 1 A K に係る変形例における演出制御の優先度を示す図である。
- 【図 2 1 - 4 1】特徴部 7 2 A K に係るイニシャル動作の実行例を示す図である。
- 【図 2 1 - 4 2】特徴部 7 2 A K に係る制御パターンを示す図である。
- 【図 2 1 - 4 3】特徴部 7 2 A K に係る電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 2 1 - 4 4】特徴部 7 2 A K に係る変形例における電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。 40
- 【図 2 1 - 4 5】特徴部 7 3 A K に係る電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 2 1 - 4 6】特徴部 7 3 A K に係る設定確認報知画面の表示例を示す図である。
- 【図 2 1 - 4 7】特徴部 7 4 A K に係る演出制御パターンの構成例を示す図である。
- 【図 2 1 - 4 8】特徴部 7 4 A K に係る演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 2 1 - 4 9】特徴部 7 4 A K に係る確認演出制御処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 2 1 - 5 0】特徴部 7 4 A K に係る確認演出の制御例を示すタイミング図などである 50

。

【図 2 1－5 1】特徴部 7 5 A K に係る電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。

【図 2 1－5 2】特徴部 7 5 A K に係る設定変更中確認演出制御処理の一例を示すフローチャートである。

【図 2 1－5 3】特徴部 7 5 A K に係る確認演出の制御例を示すタイミング図などである。

。

【発明を実施するための形態】

【0 0 2 6】

（基本説明）

まず、パチンコ遊技機 1 の基本的な構成及び制御（一般的なパチンコ遊技機の構成及び制御でもある。）について説明する。

【0 0 2 7】

（パチンコ遊技機 1 の構成等）

図 1 は、パチンコ遊技機 1 の正面図であり、主要部材の配置レイアウトを示す。パチンコ遊技機（遊技機）1 は、大別して、遊技盤面を構成する遊技盤（ゲージ盤）2 と、遊技盤 2 を支持固定する遊技機用枠（台枠）3 とから構成されている。遊技盤 2 には、遊技領域が形成され、この遊技領域には、遊技媒体としての遊技球が、所定の打球発射装置から発射されて打ち込まれる。

【0 0 2 8】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の右側方）には、複数種類の特別識別情報としての特別図柄（特図ともいう）の可変表示（特図ゲームともいう）を行う第 1 特別図柄表示装置 4 A 及び第 2 特別図柄表示装置 4 B が設けられている。これらは、それぞれ、7 セグメントの L E D などからなる。特別図柄は、「0」～「9」を示す数字や「ー」などの点灯パターンなどにより表される。特別図柄には、L E D を全て消灯したパターンが含まれてもよい。

【0 0 2 9】

なお、特別図柄の「可変表示」とは、例えば、複数種類の特別図柄を変動可能に表示することである（後述の他の図柄についても同じ）。変動としては、複数の図柄の更新表示、複数の図柄のスクロール表示、1 以上の図柄の変形、1 以上の図柄の拡大／縮小などがある。特別図柄や後述の普通図柄の変動では、複数種類の特別図柄又は普通図柄が更新表示される。後述の飾り図柄の変動では、複数種類の飾り図柄がスクロール表示又は更新表示されたり、1 以上の飾り図柄が変形や拡大／縮小されたりする。なお、変動には、ある図柄を点滅表示する態様も含まれる。可変表示の最後には、表示結果として所定の特別図柄が停止表示（導出又は導出表示などともいう）される（後述の他の図柄の可変表示についても同じ）。なお、可変表示を変動表示、変動と表現する場合がある。

【0 0 3 0】

なお、第 1 特別図柄表示装置 4 A において可変表示される特別図柄を「第 1 特図」ともいい、第 2 特別図柄表示装置 4 B において可変表示される特別図柄を「第 2 特図」ともいう。また、第 1 特図を用いた特図ゲームを「第 1 特図ゲーム」といい、第 2 特図を用いた特図ゲームを「第 2 特図ゲーム」ともいう。なお、特別図柄の可変表示を行う特別図柄表示装置は 1 種類であってもよい。

【0 0 3 1】

遊技盤 2 における遊技領域の中央付近には画像表示装置 5 が設けられている。画像表示装置 5 は、例えば L C D（液晶表示装置）や有機 E L（Electro Luminescence）等から構成され、各種の演出画像を表示する。画像表示装置 5 は、プロジェクタ及びスクリーンから構成されていてもよい。画像表示装置 5 には、各種の演出画像が表示される。

【0 0 3 2】

例えば、画像表示装置 5 の画面上では、第 1 特図ゲームや第 2 特図ゲームと同期して、特別図柄とは異なる複数種類の装飾識別情報としての飾り図柄（数字などを示す図柄など

10

20

30

40

50

）の可変表示が行われる。ここでは、第1特図ゲーム又は第2特図ゲームに同期して、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて飾り図柄が可変表示（例えば上下方向のスクロール表示や更新表示）される。なお、同期して実行される特図ゲーム及び飾り図柄の可変表示を総称して単に可変表示ともいう。

【0033】

画像表示装置5の画面上には、実行が保留されている可変表示に対応する保留表示や、実行中の可変表示に対応するアクティブ表示を表示するための表示エリアが設けられていてもよい。保留表示及びアクティブ表示を総称して可変表示に対応する可変表示対応表示ともいう。

【0034】

保留されている可変表示の数は保留記憶数ともいう。第1特図ゲームに対応する保留記憶数を第1保留記憶数、第2特図ゲームに対応する保留記憶数を第2保留記憶数ともいう。また、第1保留記憶数と第2保留記憶数との合計を合計保留記憶数ともいう。

【0035】

また、遊技盤2の所定位置には、複数のLEDを含んで構成された第1保留表示器25Aと第2保留表示器25Bとが設けられ、第1保留表示器25Aは、LEDの点灯個数によって、第1保留記憶数を表示し、第2保留表示器25Bは、LEDの点灯個数によって、第2保留記憶数を表示する。

【0036】

画像表示装置5の下方には、入賞球装置6Aと、可変入賞球装置6Bとが設けられている。

【0037】

入賞球装置6Aは、例えば所定の玉受部材によって常に遊技球が進入可能な一定の開放状態に保たれる第1始動入賞口を形成する。第1始動入賞口に遊技球が進入したときには、所定個（例えば3個）の賞球が払い出されるとともに、第1特図ゲームが開始され得る。

【0038】

可変入賞球装置6B（普通電動役物）は、ソレノイド81（図2参照）によって閉鎖状態と開放状態とに変化する第2始動入賞口を形成する。可変入賞球装置6Bは、例えば、一对の可動翼片を有する電動チューリップ型役物を備え、ソレノイド81がオフ状態であるときに可動翼片が垂直位置となることにより、当該可動翼片の先端が入賞球装置6Aに近接し、第2始動入賞口に遊技球が進入しない閉鎖状態になる（第2始動入賞口が閉鎖状態になるともいう。）。その一方で、可変入賞球装置6Bは、ソレノイド81がオン状態であるときに可動翼片が傾動位置となることにより、第2始動入賞口に遊技球が進入できる開放状態になる（第2始動入賞口が開放状態になるともいう。）。第2始動入賞口に遊技球が進入したときには、所定個（例えば3個）の賞球が払い出されるとともに、第2特図ゲームが開始され得る。なお、可変入賞球装置6Bは、閉鎖状態と開放状態とに変化するものであればよく、電動チューリップ型役物を備えるものに限定されない。

【0039】

遊技盤2の所定位置（図1に示す例では、遊技領域の左右下方4箇所）には、所定の玉受部材によって常に一定の開放状態に保たれる一般入賞口10が設けられる。この場合には、一般入賞口10のいずれかに進入したときには、所定個数（例えば10個）の遊技球が賞球として払い出される。

【0040】

入賞球装置6Aと可変入賞球装置6Bの下方には、大入賞口を有する特別可変入賞球装置7が設けられている。特別可変入賞球装置7は、ソレノイド82（図2参照）によって開閉駆動される大入賞口扉を備え、その大入賞口扉によって開放状態と閉鎖状態とに変化する特定領域としての大入賞口を形成する。

【0041】

一例として、特別可変入賞球装置7では、大入賞口扉用（特別電動役物用）のソレノイ

10

20

30

40

50

ド 8 2 がオフ状態であるときに大入賞口扉が大入賞口を閉鎖状態として、遊技球が大入賞口に進入（通過）できなくなる。その一方で、特別可変入賞球装置 7 では、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 がオン状態であるときに大入賞口扉が大入賞口を開放状態として、遊技球が大入賞口に進入しやすくなる。

【 0 0 4 2 】

大入賞口に遊技球が進入したときには、所定個数（例えば 1 4 個）の遊技球が賞球として払い出される。大入賞口に遊技球が進入したときには、例えば第 1 始動入賞口や第 2 始動入賞口及び一般入賞口 1 0 に遊技球が進入したときよりも多くの賞球が払い出される。

【 0 0 4 3 】

一般入賞口 1 0 を含む各入賞口に遊技球が進入することを「入賞」ともいう。特に、始動口（第 1 始動入賞口、第 2 始動入賞口始動口）への入賞を始動入賞ともいう。

10

【 0 0 4 4 】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の左側方）には、普通図柄表示器 2 0 が設けられている。一例として、普通図柄表示器 2 0 は、7 セグメントの L E D などとなり、特別図柄とは異なる複数種類の普通識別情報としての普通図柄の可変表示を行う。普通図柄は、「0」～「9」を示す数字や「ー」などの点灯パターンなどにより表される。普通図柄には、L E D を全て消灯したパターンが含まれてもよい。このような普通図柄の可変表示は、普図ゲームともいう。

【 0 0 4 5 】

画像表示装置 5 の左方には、遊技球が通過可能な通過ゲート 4 1 が設けられている。遊技球が通過ゲート 4 1 を通過したことに基づき、普図ゲームが実行される。

20

【 0 0 4 6 】

普通図柄表示器 2 0 の上方には、普図保留表示器 2 5 C が設けられている。普図保留表示器 2 5 C は、例えば 4 個の L E D を含んで構成され、実行が保留されている普図ゲームの数である普図保留記憶数を L E D の点灯個数により表示する。

【 0 0 4 7 】

遊技盤 2 の表面には、上記の構成以外にも、遊技球の流下方向や速度を変化させる風車及び多数の障害釘が設けられている。遊技領域の最下方には、いずれの入賞口にも進入しなかった遊技球が取り込まれるアウト口が設けられている。

【 0 0 4 8 】

遊技機用枠 3 の左右上部位置には、効果音等を再生出力するためのスピーカ 8 L、8 R が設けられており、さらに遊技領域周辺部には、遊技効果用の遊技効果ランプ 9 が設けられている。遊技効果ランプ 9 は、L E D を含んで構成されている。

30

【 0 0 4 9 】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 では図示略）には、演出に応じて動作する可動体 3 2 が設けられている。

【 0 0 5 0 】

遊技機用枠 3 の右下部位置には、遊技球を打球発射装置により遊技領域に向けて発射するために遊技者等によって操作される打球操作ハンドル（操作ノブ）3 0 が設けられている。

40

【 0 0 5 1 】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、賞球として払い出された遊技球や所定の球貸機により貸し出された遊技球を、打球発射装置へと供給可能に保持（貯留）する打球供給皿（上皿）が設けられている。上皿の下方には、上皿満タン時に賞球が払い出される打球供給皿（下皿）が設けられている。

【 0 0 5 2 】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、遊技者が把持して傾倒操作が可能なスティックコントローラ 3 1 A が取り付けられている。スティックコントローラ 3 1 A には、遊技者が押下操作可能なトリガボタンが設けられている。スティックコントローラ 3 1 A に対する操作は、コントローラセンサユニット 3 5 A（図 2 参照）により検出さ

50

れる。

【0053】

遊技領域の下方における遊技機用枠3の所定位置には、遊技者が押下操作などにより所定の指示操作を可能なプッシュボタン31Bが設けられている。プッシュボタン31Bに対する操作は、プッシュセンサ35B（図2参照）により検出される。

【0054】

パチンコ遊技機1では、遊技者の動作（操作等）を検出する検出手段として、スティックコントローラ31Aやプッシュボタン31Bが設けられるが、これら以外の検出手段が設けられていてもよい。

【0055】

（遊技の進行の概略）

パチンコ遊技機1が備える打球操作ハンドル30への遊技者による回転操作により、遊技球が遊技領域に向けて発射される。遊技球が通過ゲート41を通過すると、普通図柄表示器20による普図ゲームが開始される。なお、前回の普図ゲームの実行中の期間等に遊技球が通過ゲート41を通過した場合（遊技球が通過ゲート41を通過したが当該通過に基づく普図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該通過に基づく普図ゲームは所定の上限数（例えば4）まで保留される。

【0056】

この普図ゲームでは、特定の普通図柄（普図当り図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図当り」となる。その一方、確定普通図柄として、普図当り図柄以外の普通図柄（普図ハズレ図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図ハズレ」となる。「普図当り」となると、可変入賞球装置6Bを所定期間開放状態とする開放制御が行われる（第2始動入賞口が開放状態になる）。

【0057】

入賞球装置6Aに形成された第1始動入賞口に遊技球が進入すると、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図ゲームが開始される。

【0058】

可変入賞球装置6Bに形成された第2始動入賞口に遊技球が進入すると、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図ゲームが開始される。

【0059】

なお、特図ゲームの実行中の期間や、後述する大当り遊技状態や小当り遊技状態に制御されている期間に、遊技球が始動入賞口へ進入（入賞）した場合（始動入賞が発生したが当該始動入賞に基づく特図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該進入に基づく特図ゲームは所定の上限数（例えば4）までその実行が保留される。

【0060】

特図ゲームにおいて、確定特別図柄として特定の特別図柄（大当り図柄、例えば「7」、後述の大当り種別に応じて実際の図柄は異なる。）が停止表示されれば、「大当り」となり、大当り図柄とは異なる所定の特別図柄（小当り図柄、例えば「2」）が停止表示されれば、「小当り」となる。また、大当り図柄や小当り図柄とは異なる特別図柄（ハズレ図柄、例えば「ー」）が停止表示されれば「ハズレ」となる。

【0061】

特図ゲームでの表示結果が「大当り」になった後には、遊技者にとって有利な有利状態として大当り遊技状態に制御される。特図ゲームでの表示結果が「小当り」になった後には、小当り遊技状態に制御される。

【0062】

大当り遊技状態においては、遊技者は、遊技球を大入賞口に進入させることで、賞球を得ることができる。従って、大当り遊技状態は、遊技者にとって有利な状態である。大当り遊技状態におけるラウンド数が多い程、また、開放上限期間が長い程遊技者にとって有利となる。

【0063】

なお、「大当り」には、大当り種別が設定されている。例えば、大入賞口の開放態様（ラウンド数や開放上限期間）や、大当り遊技状態後の遊技状態（後述の、通常状態、時短状態、確変状態など）を複数種類用意し、これらに応じて大当り種別が設定されている。大当り種別として、多くの賞球を得ることができる大当り種別や、賞球の少ない又はほとんど賞球を得ることができない大当り種別が設けられていてもよい。

【0064】

小当り遊技状態では、特別可変入賞球装置7により形成される大入賞口が所定の開放態様で開放状態となる。例えば、小当り遊技状態では、一部の大当り種別のときの大当り遊技状態と同様の開放態様（大入賞口の開放回数が上記ラウンド数と同じであり、かつ、大入賞口の閉鎖タイミングも同じ等）で大入賞口が開放状態となる。なお、大当り種別と同様に、「小当り」にも小当り種別を設けてもよい。

10

【0065】

大当り遊技状態が終了した後は、上記大当り種別に応じて、時短状態や確変状態に制御されることがある。

【0066】

時短状態では、平均的な特図変動時間（特図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させる制御（時短制御）が実行される。時短状態では、平均的な普図変動時間（普図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させたり、普図ゲームで「普図当り」となる確率を通常状態よりも向上させる等により、第2始動入賞口に遊技球が進入しやすくなる制御（高開放制御、高ベース制御）も実行される。時短状態は、特別図柄（特に第2特別図柄）の変動効率が向上する状態であるので、遊技者にとって有利な状態である。

20

【0067】

確変状態（確率変動状態）では、時短制御に加えて、表示結果が「大当り」となる確率が通常状態よりも高くなる確変制御が実行される。確変状態は、特別図柄の変動効率が向上することに加えて「大当り」となりやすい状態であるので、遊技者にとってさらに有利な状態である。

【0068】

時短状態や確変状態は、所定回数の特図ゲームが実行されたことと、次回の大当り遊技状態が開始されたこと等といった、いずれか1つの終了条件が先に成立するまで継続する。所定回数の特図ゲームが実行されたことが終了条件となるものを、回数切り（回数切り時短、回数切り確変等）ともいう。

30

【0069】

通常状態とは、遊技者にとって有利な大当り遊技状態等の有利状態、時短状態、確変状態等の特別状態以外の遊技状態のことであり、普図ゲームにおける表示結果が「普図当り」となる確率及び特図ゲームにおける表示結果が「大当り」となる確率などのパチンコ遊技機1が、パチンコ遊技機1の初期設定状態（例えばシステムリセットが行われた場合のように、電源投入後に所定の復帰処理を実行しなかったとき）と同一に制御される状態である。

【0070】

確変制御が実行されている状態を高確状態、確変制御が実行されていない状態を低確状態ともいう。時短制御が実行されている状態を高ベース状態、時短制御が実行されていない状態を低ベース状態ともいう。これらを組み合わせて、時短状態は低確高ベース状態、確変状態は高確高ベース状態、通常状態は低確低ベース状態などともいわれる。高確状態かつ低ベース状態は高確低ベース状態ともいう。

40

【0071】

小当り遊技状態が終了した後は、遊技状態の変更が行われず、特図ゲームの表示結果が「小当り」となる以前の遊技状態に継続して制御される（但し、「小当り」発生時の特図ゲームが、上記回数切りにおける上記所定回数目の特図ゲームである場合には、当然遊技状態が変更される）。なお、特図ゲームの表示結果として「小当り」がなくてもよい。

【0072】

50

なお、遊技状態は、大当り遊技状態中に遊技球が特定領域（例えば、大入賞口内の特定領域）を通過したことに基づいて、変化してもよい。例えば、遊技球が特定領域を通過したとき、その大当り遊技状態後に確変状態に制御してもよい。

【0073】

（演出の進行など）

パチンコ遊技機1では、遊技の進行に応じて種々の演出（遊技の進行状況を報知したり、遊技を盛り上げたりする演出）が実行される。当該演出について以下説明する。なお、当該演出は、画像表示装置5に各種の演出画像を表示することによって行われるが、当該表示に加えて又は代えて、スピーカ8L、8Rからの音声出力、及び／又は、遊技効果ランプ9の点等／消灯、可動体32の動作等により行われてもよい。

10

【0074】

遊技の進行に応じて実行される演出として、画像表示装置5に設けられた「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rでは、第1特図ゲーム又は第2特図ゲームが開始されることに対応して、飾り図柄の可変表示が開始される。第1特図ゲームや第2特図ゲームにおいて表示結果（確定特別図柄ともいう。）が停止表示されるタイミングでは、飾り図柄の可変表示の表示結果となる確定飾り図柄（3つの飾り図柄の組合せ）も停止表示（導出）される。

【0075】

飾り図柄の可変表示が開始されてから終了するまでの期間では、飾り図柄の可変表示の態様が所定のリーチ態様となる（リーチが成立する）ことがある。ここで、リーチ態様とは、画像表示装置5の画面上にて停止表示された飾り図柄が後述の大当り組合せの一部を構成しているときに未だ停止表示されていない飾り図柄については可変表示が継続している態様などのことである。

20

【0076】

また、飾り図柄の可変表示中に上記リーチ態様となったことに対応してリーチ演出が実行される。パチンコ遊技機1では、演出態様に応じて表示結果（特図ゲームの表示結果や飾り図柄の可変表示の表示結果）が「大当り」となる割合（大当り信頼度、大当り期待度とも呼ばれる。）が異なる複数種類のリーチ演出が実行される。リーチ演出には、例えば、ノーマルリーチと、ノーマルリーチよりも大当り信頼度の高いスーパーリーチと、がある。

30

【0077】

特図ゲームの表示結果が「大当り」となるときには、画像表示装置5の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた大当り組合せとなる確定飾り図柄が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「大当り」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける所定の有効ライン上に同一の飾り図柄（例えば、「7」等）が揃って停止表示される。

【0078】

大当り遊技状態の終了後に確変状態に制御される「確変大当り」である場合には、奇数の飾り図柄（例えば、「7」等）が揃って停止表示され、大当り遊技状態の終了後に確変状態に制御されない「非確変大当り（通常大当り）」である場合には、偶数の飾り図柄（例えば、「6」等）が揃って停止表示されるようにしてもよい。この場合、奇数の飾り図柄を確変図柄、偶数の飾り図柄を非確変図柄（通常図柄）ともいう。非確変図柄でリーチ態様となった後に、最終的に「確変大当り」となる昇格演出を実行するようにしてもよい。

40

【0079】

特図ゲームの表示結果が「小当り」となるときには、画像表示装置5の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた小当り組合せとなる確定飾り図柄（例えば、「1 3 5」等）が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「小当り」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける所定の有効ライン上にチャンス目を構成する飾り図柄が停止表示される。な

50

お、特図ゲームの表示結果が、一部の大当り種別（小当り遊技状態と同様の態様の大当り遊技状態の大当り種別）の「大当り」となるときと、「小当り」となるときとで、共通の確定飾り図柄が導出表示されてもよい。

【0080】

特図ゲームの表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様とならずに、飾り図柄の可変表示の表示結果として、非リーチ組合せの確定飾り図柄（「非リーチハズレ」ともいう。）が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「非リーチハズレ」となる）ことがある。また、表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様となった後に、飾り図柄の可変表示の表示結果として、大当り組合せでない所定のリーチ組合せ（「リーチハズレ」ともいう）の確定飾り図柄が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「リーチハズレ」となる）こともある。

10

【0081】

パチンコ遊技機1が実行可能な演出には、上記の可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）を表示することも含まれる。また、他の演出として、例えば、大当り信頼度を予告する予告演出等が飾り図柄の可変表示中に実行される。予告演出には、実行中の可変表示における大当り信頼度を予告する予告演出や、実行前の可変表示（実行が保留されている可変表示）における大当り信頼度を予告する先読み予告演出がある。先読み予告演出として、可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）の表示態様を通常とは異なる態様に変化させる演出が実行されるようにしてもよい。

20

【0082】

また、画像表示装置5において、飾り図柄の可変表示中に飾り図柄を一旦仮停止させた後に可変表示を再開させることで、1回の可変表示を擬似的に複数回の可変表示のように見せる擬似連演出を実行するようにしてもよい。

【0083】

大当り遊技状態中にも、大当り遊技状態を報知する大当り中演出が実行される。大当り中演出としては、ラウンド数を報知する演出や、大当り遊技状態の価値が向上することを示す昇格演出が実行されてもよい。また、小当り遊技状態中にも、小当り遊技状態を報知する小当り中演出が実行される。なお、小当り遊技状態中と、一部の大当り種別（小当り遊技状態と同様の態様の大当り遊技状態の大当り種別で、例えばその後の遊技状態を高確状態とする大当り種別）での大当り遊技状態とで、共通の演出を実行することで、現在が小当り遊技状態中であるか、大当り遊技状態中であるかを遊技者に分からないようにしてもよい。そのような場合であれば、小当り遊技状態の終了後と大当り遊技状態の終了後とで共通の演出を実行することで、高確状態であるか低確状態であるかを識別できないようにしてもよい。

30

【0084】

また、例えば特図ゲーム等が実行されていないときには、画像表示装置5にデモ（デモンストラーション）画像が表示される（客待ちデモ演出が実行される）。

【0085】

（基板構成）

40

パチンコ遊技機1には、例えば図2に示すような主基板11、演出制御基板12、音声制御基板13、ランプ制御基板14、中継基板15などが搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機1の背面には、例えば払出制御基板、情報端子基板、発射制御基板、電源基板などといった、各種の基板が配置されている。

【0086】

主基板11は、メイン側の制御基板であり、パチンコ遊技機1における上記遊技の進行（特図ゲームの実行（保留の管理を含む）、普図ゲームの実行（保留の管理を含む）、大当り遊技状態、小当り遊技状態、遊技状態など）を制御する機能を有する。主基板11は、遊技制御用マイクロコンピュータ100、スイッチ回路110、ソレノイド回路111などを有する。

50

【0087】

主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100は、例えば1チップのマイクロコンピュータであり、ROM (Read Only Memory) 101と、RAM (Random Access Memory) 102と、CPU (Central Processing Unit) 103と、乱数回路104と、I/O (Input/Output port) 105とを備える。

【0088】

CPU103は、ROM101に記憶されたプログラムを実行することにより、遊技の進行を制御する処理（主基板11の機能を実現する処理）を行う。このとき、ROM101が記憶する各種データ（後述の変動パターン、後述の演出制御コマンド、後述の各種決定を行う際に参照される各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM102がメインメモリとして使用される。RAM102は、その一部または全部がパチンコ遊技機1に対する電力供給が停止しても、所定期間記憶内容が保存されるバックアップRAMとなっている。なお、ROM101に記憶されたプログラムの全部又は一部をRAM102に展開して、RAM102上で実行するようにしてもよい。

10

【0089】

乱数回路104は、遊技の進行を制御するときに使用される各種の乱数値（遊技用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。遊技用乱数は、CPU103が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

【0090】

I/O105は、例えば各種信号（後述の検出信号）が入力される入力ポートと、各種信号（第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4B、普通図柄表示器20、第1保留表示器25A、第2保留表示器25B、普図保留表示器25Cなどを制御（駆動）する信号、ソレノイド駆動信号）を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

20

【0091】

スイッチ回路110は、遊技球検出用の各種スイッチ（ゲートスイッチ21、始動口スイッチ（第1始動口スイッチ22Aおよび第2始動口スイッチ22B）、カウントスイッチ23）からの検出信号（遊技球が通過又は進入してスイッチがオンになったことを示す検出信号など）を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ100に伝送する。検出信号の伝送により、遊技球の通過又は進入が検出されたことになる。

30

【0092】

ソレノイド回路111は、遊技制御用マイクロコンピュータ100からのソレノイド駆動信号（例えば、ソレノイド81やソレノイド82をオンする信号など）を、普通電動役物用のソレノイド81や大入賞口扉用のソレノイド82に伝送する。

【0093】

主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）は、遊技の進行の制御の一部として、遊技の進行に応じて演出制御コマンド（遊技の進行状況等を指定（通知）するコマンド）を演出制御基板12に供給する。主基板11から出力された演出制御コマンドは、中継基板15により中継され、演出制御基板12に供給される。当該演出制御コマンドには、例えば主基板11における各種の決定結果（例えば、特図ゲームの表示結果（大当たり種別を含む。）、特図ゲームを実行する際に使用される変動パターン（詳しくは後述））、遊技の状況（例えば、可変表示の開始や終了、大入賞口の開放状況、入賞の発生、保留記憶数、遊技状態）、エラーの発生等を指定するコマンド等が含まれる。

40

【0094】

演出制御基板12は、主基板11とは独立したサブ側の制御基板であり、演出制御コマンドを受信し、受信した演出制御コマンドに基づいて演出（遊技の進行に応じた種々の演出であり、可動体32の駆動、エラー報知、電断復旧の報知等の各種報知を含む）を実行する機能を有する。

【0095】

演出制御基板12には、演出制御用CPU120と、ROM121と、RAM122と

50

、表示制御部 1 2 3 と、乱数回路 1 2 4 と、I / O 1 2 5 とが搭載されている。

【0 0 9 6】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、ROM 1 2 1 に記憶されたプログラムを実行することにより、表示制御部 1 2 3 とともに演出を実行するための処理（演出制御基板 1 2 の上記機能を実現するための処理であり、実行する演出の決定等を含む）を行う。このとき、ROM 1 2 1 が記憶する各種データ（各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM 1 2 2 がメインメモリとして使用される。

【0 0 9 7】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、コントローラセンサユニット 3 5 A やプッシュセンサ 3 5 B からの検出信号（遊技者による操作を検出したときに出力される信号であり、操作内容を適宜示す信号）に基づいて演出の実行を表示制御部 1 2 3 に指示することもある。

【0 0 9 8】

表示制御部 1 2 3 は、VDP（Video Display Processor）、CGROM（Character Generator ROM）、VRAM（Video RAM）などを備え、演出制御用 CPU 1 2 0 からの演出の実行指示に基づき、演出を実行する。

【0 0 9 9】

表示制御部 1 2 3 は、演出制御用 CPU 1 2 0 からの演出の実行指示に基づき、実行する演出に応じた映像信号を画像表示装置 5 に供給することで、演出画像を画像表示装置 5 に表示させる。表示制御部 1 2 3 は、さらに、演出画像の表示に同期した音声出力や、遊技効果ランプ 9 の点灯／消灯を行うため、音指定信号（出力する音声を指定する信号）を音声制御基板 1 3 に供給したり、ランプ信号（ランプの点灯／消灯態様を指定する信号）をランプ制御基板 1 4 に供給したりする。また、表示制御部 1 2 3 は、可動体 3 2 を動作させる信号を当該可動体 3 2 又は当該可動体 3 2 を駆動する駆動回路に供給する。

【0 1 0 0】

音声制御基板 1 3 は、スピーカ 8 L、8 R を駆動する各種回路を搭載しており、当該音指定信号に基づきスピーカ 8 L、8 R を駆動し、当該音指定信号が指定する音声をスピーカ 8 L、8 R から出力させる。

【0 1 0 1】

ランプ制御基板 1 4 は、遊技効果ランプ 9 を駆動する各種回路を搭載しており、当該ランプ信号に基づき遊技効果ランプ 9 を駆動し、当該ランプ信号が指定する態様で遊技効果ランプ 9 を点灯／消灯する。このようにして、表示制御部 1 2 3 は、音声出力、ランプの点灯／消灯を制御する。

【0 1 0 2】

なお、音声出力、ランプの点灯／消灯の制御（音指定信号やランプ信号の供給等）、可動体 3 2 の制御（可動体 3 2 を動作させる信号の供給等）は、演出制御用 CPU 1 2 0 が実行するようにしてもよい。

【0 1 0 3】

乱数回路 1 2 4 は、各種演出を実行するために使用される各種の乱数値（演出用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。演出用乱数は、演出制御用 CPU 1 2 0 が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

【0 1 0 4】

演出制御基板 1 2 に搭載された I / O 1 2 5 は、例えば主基板 1 1 などから伝送された演出制御コマンドを取り込むための入力ポートと、各種信号（映像信号、音指定信号、ランプ信号）を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

【0 1 0 5】

演出制御基板 1 2、音声制御基板 1 3、ランプ制御基板 1 4 といった、主基板 1 1 以外の基板をサブ基板ともいう。パチンコ遊技機 1 のようにサブ基板が機能別に複数設けられていてもよいし、1 のサブ基板が複数の機能を有するように構成してもよい。

【0 1 0 6】

10

20

30

40

50

(動作)

次に、パチンコ遊技機 1 の動作 (作用) を説明する。

【0107】

(主基板 11 の主要な動作)

まず、主基板 11 における主要な動作を説明する。パチンコ遊技機 1 に対して電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 が起動し、CPU 103 によって遊技制御メイン処理が実行される。図 3 は、主基板 11 における CPU 103 が実行する遊技制御メイン処理を示すフローチャートである。

【0108】

図 3 に示す遊技制御メイン処理では、CPU 103 は、まず、割込禁止に設定する (ステップ S1)。続いて、必要な初期設定を行う (ステップ S2)。初期設定には、スタックポインタの設定、内蔵デバイス (CTC (カウンタ/タイマ回路)、パラレル入出力ポート等) のレジスタ設定、RAM 102 をアクセス可能状態にする設定等が含まれる。

【0109】

次いで、クリアスイッチからの出力信号がオンであるか否かを判定する (ステップ S3)。クリアスイッチは、例えば電源基板に搭載されている。クリアスイッチがオンの状態で電源が投入されると、出力信号 (クリア信号) が入力ポートを介して遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に入力される。クリアスイッチからの出力信号がオンである場合 (ステップ S3; Yes)、初期化处理 (ステップ S8) を実行する。初期化处理では、CPU 103 は、RAM 102 に記憶されるフラグ、カウンタ、バッファをクリアする RAM クリア処理を行い、作業領域に初期値を設定する。

【0110】

また、CPU 103 は、初期化を指示する演出制御コマンドを演出制御基板 12 に送信する (ステップ S9)。演出制御用 CPU 120 は、当該演出制御コマンドを受信すると、例えば画像表示装置 5 において、遊技機の制御の初期化がなされたことを報知するための画面表示を行う。

【0111】

クリアスイッチからの出力信号がオンでない場合には (ステップ S3; No)、RAM 102 (バックアップ RAM) にバックアップデータが保存されているか否かを判定する (ステップ S4)。不測の停電等 (電断) によりパチンコ遊技機 1 への電力供給が停止したときには、CPU 103 は、当該電力供給の停止によって動作できなくなる直前に、電源供給停止時処理を実行する。この電源供給停止時処理では、RAM 102 にデータをバックアップすることを示すバックアップフラグをオンする処理、RAM 102 のデータ保護処理等が実行される。データ保護処理には、誤り検出符号 (チェックサム、パリティビット等) の付加、各種データをバックアップする処理が含まれる。バックアップされるデータには、遊技を進行するための各種データ (各種フラグ、各種タイマの状態等を含む) の他、前記バックアップフラグの状態や誤り検出符号も含まれる。ステップ S4 では、バックアップフラグがオンであるか否かを判定する。バックアップフラグがオフで RAM 102 にバックアップデータが記憶されていない場合 (ステップ S4; No)、初期化处理 (ステップ S8) を実行する。

【0112】

RAM 102 にバックアップデータが記憶されている場合 (ステップ S4; Yes)、CPU 103 は、バックアップしたデータのデータチェックを行い (誤り検出符号を用いて行われる)、データが正常か否かを判定する (ステップ S5)。ステップ S5 では、例えば、パリティビットやチェックサムにより、RAM 102 のデータが、電力供給停止時のデータと一致するか否かを判定する。これらが一致すると判定された場合、RAM 102 のデータが正常であると判定する。

【0113】

RAM 102 のデータが正常でないと判定された場合 (ステップ S5; No)、内部状態を電力供給停止時の状態に戻すことができないので、初期化处理 (ステップ S8) を実

10

20

30

40

50

行する。

【0114】

RAM102のデータが正常であると判定された場合（ステップS5；Yes）、CPU103は、主基板11の内部状態を電力供給停止時の状態に戻すための復旧処理（ステップS6）を行う。復旧処理では、CPU103は、RAM102の記憶内容（バックアップしたデータの内容）に基づいて作業領域の設定を行う。これにより、電力供給停止時の遊技状態に復旧し、特別図柄の変動中であつた場合には、後述の遊技制御用タイマ割込み処理の実行によって、復旧前の状態から特別図柄の変動が再開されることになる。

【0115】

そして、CPU103は、電断からの復旧を指示する演出制御コマンドを演出制御基板12に送信する（ステップS7）。これに合わせて、バックアップされている電断前の遊技状態を指定する演出制御コマンドや、特図ゲームの実行中であつた場合には当該実行中の特図ゲームの表示結果を指定する演出制御コマンドを送信するようにしてもよい。これらコマンドは、後述の特別図柄プロセス処理で送信設定されるコマンドと同じコマンドを使用できる。演出制御用CPU120は、電断からの復旧時を特定する演出制御コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5において、電断からの復旧がなされたこと又は電断からの復旧中であることを報知するための画面表示を行う。演出制御用CPU120は、前記演出制御コマンドに基づいて、適宜の画面表示を行うようにしてもよい。

【0116】

復旧処理または初期化処理を終了して演出制御基板12に演出制御コマンドを送信した後には、CPU103は、乱数回路104を初期設定する乱数回路設定処理を実行する（ステップS10）。そして、所定時間（例えば2ms）毎に定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されているCTCのレジスタの設定を行い（ステップS11）、割込みを許可する（ステップS12）。その後、ループ処理に入る。以後、所定時間（例えば2ms）ごとにCTCから割込み要求信号がCPU103へ送出され、CPU103は定期的にタイマ割込み処理を実行することができる。

【0117】

こうした遊技制御メイン処理を実行したCPU103は、CTCからの割込み要求信号を受信して割込み要求を受け付けると、図4のフローチャートに示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。図4に示す遊技制御用タイマ割込み処理を開始すると、CPU103は、まず、所定のスイッチ処理を実行することにより、スイッチ回路110を介してゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23といった各種スイッチからの検出信号の受信の有無を判定する（ステップS21）。続いて、所定のメイン側エラー処理を実行することにより、パチンコ遊技機1の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を発生可能とする（ステップS22）。この後、所定の情報出力処理を実行することにより、例えばパチンコ遊技機1の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当たり情報（大当たりの発生回数等を示す情報）、始動情報（始動入賞の回数等を示す情報）、確率変動情報（確変状態となった回数等を示す情報）などのデータを出力する（ステップS23）。

【0118】

情報出力処理に続いて、主基板11の側で用いられる遊技用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新するための遊技用乱数更新処理を実行する（ステップS24）。この後、CPU103は、特別図柄プロセス処理を実行する（ステップS25）。CPU103がタイマ割込み毎に特別図柄プロセス処理を実行することにより、特図ゲームの実行及び保留の管理や、大当たり遊技状態や小当たり遊技状態の制御、遊技状態の制御などが実現される（詳しくは後述）。

【0119】

特別図柄プロセス処理に続いて、普通図柄プロセス処理が実行される（ステップS26）。CPU103がタイマ割込み毎に普通図柄プロセス処理を実行することにより、ゲートスイッチ21からの検出信号に基づく（通過ゲート41に遊技球が通過したことに基づ

10

20

30

40

50

く) 普図ゲームの実行及び保留の管理や、「普図当り」に基づく可変入賞球装置 6 B の開放制御などを可能にする。普図ゲームの実行は、普通図柄表示器 2 0 を駆動することにより行われ、普図保留表示器 2 5 C を点灯させることにより普図保留数を表示する。

【0120】

普通図柄プロセス処理を実行した後、遊技制御用タイマ割込み処理の一部として、電断が発生したときの処理、賞球を払い出すための処理等などが行われてもよい。その後、CPU 1 0 3 は、コマンド制御処理を実行する(ステップ S 2 7)。CPU 1 0 3 は、上記各処理にて演出制御コマンドを送信設定することがある。ステップ S 2 7 のコマンド制御処理では、送信設定された演出制御コマンドを演出制御基板 1 2 などのサブ側の制御基板に対して伝送させる処理が行われる。コマンド制御処理を実行した後は、割込みを許可してから、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。

10

【0121】

図 5 は、特別図柄プロセス処理として、図 4 に示すステップ S 2 5 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。この特別図柄プロセス処理において、CPU 1 0 3 は、まず、始動入賞判定処理を実行する(ステップ S 1 0 1)。

【0122】

始動入賞判定処理では、始動入賞の発生を検出し、RAM 1 0 2 の所定領域に保留情報を格納し保留記憶数を更新する処理が実行される。始動入賞が発生すると、表示結果(大当たり種別を含む)や変動パターンを決定するための乱数値が抽出され、保留情報として記憶される。また、抽出した乱数値に基づいて、表示結果や変動パターンを先読み判定する処理が実行されてもよい。保留情報や保留記憶数を記憶した後は、演出制御基板 1 2 に始動入賞の発生、保留記憶数、先読み判定等の判定結果を指定するための演出制御コマンドを送信するための送信設定が行われる。こうして送信設定された始動入賞時の演出制御コマンドは、例えば特別図柄プロセス処理が終了した後、図 4 に示すステップ S 2 7 のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して伝送される。

20

【0123】

S 1 0 1 にて始動入賞判定処理を実行した後、CPU 1 0 3 は、RAM 1 0 2 に設けられた特図プロセスフラグの値に応じて、ステップ S 1 1 0 ~ S 1 2 0 の処理のいずれかを選択して実行する。なお、特別図柄プロセス処理の各処理(ステップ S 1 1 0 ~ S 1 2 0)では、各処理に対応した演出制御コマンドを演出制御基板 1 2 に送信するための送信設定が行われる。

30

【0124】

ステップ S 1 1 0 の特別図柄通常処理は、特図プロセスフラグの値が“0”(初期値)のときに実行される。この特別図柄通常処理では、保留情報の有無などに基づいて、第 1 特図ゲーム又は第 2 特図ゲームを開始するか否かの判定が行われる。また、特別図柄通常処理では、表示結果決定用の乱数値に基づき、特別図柄や飾り図柄の表示結果を「大当たり」または「小当たり」とするか否かや「大当たり」とする場合の大当たり種別を、その表示結果が導出表示される以前に決定(事前決定)する。さらに、特別図柄通常処理では、決定された表示結果に対応して、特図ゲームにおいて停止表示させる確定特別図柄(大当たり図柄や小当たり図柄、ハズレ図柄のいずれか)が設定される。その後、特図プロセスフラグの値が“1”に更新され、特別図柄通常処理は終了する。なお、第 2 特図を用いた特図ゲームが第 1 特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行されるようにしてもよい(特図 2 優先消化ともいう)。また、第 1 始動入賞口及び第 2 始動入賞口への遊技球の入賞順序を記憶し、入賞順に特図ゲームの開始条件を成立させるようにしてもよい(入賞順消化ともいう)。

40

【0125】

乱数値に基づき各種の決定を行う場合には、ROM 1 0 1 に格納されている各種のテーブル(乱数値と比較される決定値が決定結果に割り当てられているテーブル)が参照される。主基板 1 1 における他の決定、演出制御基板 1 2 における各種の決定についても同じ

50

である。演出制御基板 1 2 においては、各種のテーブルが R O M 1 2 1 に格納されている。

【0 1 2 6】

ステップ S 1 1 1 の変動パターン設定処理は、特図プロセスフラグの値が“ 1 ”のときに実行される。この変動パターン設定処理には、表示結果を「大当り」または「小当り」とするか否かの事前決定結果等に基づき、変動パターン決定用の乱数値を用いて変動パターンを複数種類のいずれかに決定する処理などが含まれている。変動パターン設定処理では、変動パターンを決定したときに、特図プロセスフラグの値が“ 2 ”に更新され、変動パターン設定処理は終了する。

【0 1 2 7】

変動パターンは、特図ゲームの実行時間（特図変動時間）（飾り図柄の可変表示の実行時間でもある）や、飾り図柄の可変表示の態様（リーチの有無等）、飾り図柄の可変表示中の演出内容（リーチ演出の種類等）を指定するものであり、可変表示パターンとも呼ばれる。

【0 1 2 8】

ステップ S 1 1 2 の特別図柄変動処理は、特図プロセスフラグの値が“ 2 ”のときに実行される。この特別図柄変動処理には、第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B において特別図柄を変動させるための設定を行う処理や、その特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測する処理などが含まれている。また、計測された経過時間が変動パターンに対応する特図変動時間に達したか否かの判定も行われる。そして、特別図柄の変動を開始してからの経過時間が特図変動時間に達したときには、特図プロセスフラグの値が“ 3 ”に更新され、特別図柄変動処理は終了する。

【0 1 2 9】

ステップ S 1 1 3 の特別図柄停止処理は、特図プロセスフラグの値が“ 3 ”のときに実行される。この特別図柄停止処理には、第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B にて特別図柄の変動を停止させ、特別図柄の表示結果となる確定特別図柄を停止表示（導出）させるための設定を行う処理が含まれている。そして、表示結果が「大当り」である場合には特図プロセスフラグの値が“ 4 ”に更新される。その一方で、大当りフラグがオフであり、表示結果が「小当り」である場合には、特図プロセスフラグの値が“ 8 ”に更新される。また、表示結果が「ハズレ」である場合には、特図プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新される。表示結果が「小当り」又は「ハズレ」である場合、時短状態や確変状態に制御されているときであって、回数切りの終了成立する場合には、遊技状態も更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、特別図柄停止処理は終了する。

【0 1 3 0】

ステップ S 1 1 4 の大当り開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“ 4 ”のときに実行される。この大当り開放前処理には、表示結果が「大当り」となったことなどに基づき、大当り遊技状態においてラウンドの実行を開始して大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。大入賞口を開放状態とするときには、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に対してソレノイド駆動信号を供給する処理が実行される。このときには、例えば大当り種別がいずれであるかに対応して、大入賞口を開放状態とする開放上限期間や、ラウンドの上限実行回数を設定する。これらの設定が終了すると、特図プロセスフラグの値が“ 5 ”に更新され、大当り開放前処理は終了する。

【0 1 3 1】

ステップ S 1 1 5 の大当り開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“ 5 ”のときに実行される。この大当り開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間やカウントスイッチ 2 3 によって検出された遊技球の個数などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。そして、大入賞口を閉鎖状態に戻すときには、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に対するソレノイド駆動信号の供給を停止させる処理などを実行した後、特図プロセスフラグの値が“ 6 ”に更新し、大当り開放中処理を終了する。

【0132】

ステップS116の大当たり開放後処理は、特図プロセスフラグの値が“6”のときに実行される。この大当たり開放後処理には、大入賞口を開放状態とするラウンドの実行回数が設定された上限実行回数に達したか否かを判定する処理や、上限実行回数に達した場合に大当たり遊技状態を終了させるための設定を行う処理などが含まれている。そして、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達していないときには、特図プロセスフラグの値が“5”に更新される一方、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達したときには、特図プロセスフラグの値が“7”に更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、大当たり解放後処理は終了する。

【0133】

ステップS117の大当たり終了処理は、特図プロセスフラグの値が“7”のときに実行される。この大当たり終了処理には、大当たり遊技状態の終了を報知する演出動作としてのエンディング演出が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理や、大当たり遊技状態の終了に対応して確変制御や時短制御を開始するための各種の設定を行う処理などが含まれている。こうした設定が行われたときには、特図プロセスフラグの値が“0”に更新され、大当たり終了処理は終了する。

【0134】

ステップS118の小当たり開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“8”のときに実行される。この小当たり開放前処理には、表示結果が「小当たり」となったことに基づき、小当たり遊技状態において大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。このときには、特図プロセスフラグの値が“9”に更新され、小当たり開放前処理は終了する。

【0135】

ステップS119の小当たり開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“9”のときに実行される。この小当たり開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。大入賞口を閉鎖状態に戻して小当たり遊技状態の終了タイミングとなったときには、特図プロセスフラグの値が“10”に更新され、小当たり開放中処理は終了する。

【0136】

ステップS120の小当たり終了処理は、特図プロセスフラグの値が“10”のときに実行される。この小当たり終了処理には、小当たり遊技状態の終了を報知する演出動作が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理などが含まれている。ここで、小当たり遊技状態が終了するときには、小当たり遊技状態となる以前のパチンコ遊技機1における遊技状態を継続させる。小当たり遊技状態の終了時における待ち時間が経過したときには、特図プロセスフラグの値が“0”に更新され、小当たり終了処理は終了する。

【0137】

(演出制御基板12の主要な動作)

次に、演出制御基板12における主要な動作を説明する。演出制御基板12では、電源基板等から電源電圧の供給を受けると、演出制御用CPU120が起動して、図6のフローチャートに示すような演出制御メイン処理を実行する。図6に示す演出制御メイン処理を開始すると、演出制御用CPU120は、まず、所定の初期化処理を実行して(ステップS71)、RAM122のクリアや各種初期値の設定、また演出制御基板12に搭載されたCTC(カウンタ/タイマ回路)のレジスタ設定等を行う。また、初期動作制御処理を実行する(ステップS72)。初期動作制御処理では、可動体32を駆動して初期位置に戻す制御、所定の動作確認を行う制御といった可動体32の初期動作を行う制御が実行される。

【0138】

その後、タイマ割込みフラグがオンとなっているか否かの判定を行う(ステップS73)。タイマ割込みフラグは、例えばCTCのレジスタ設定に基づき、所定時間(例えば2

10

20

30

40

50

ミリ秒)が経過するごとにオン状態にセットされる。このとき、タイマ割込みフラグがオフであれば(ステップS73; No)、ステップS73の処理を繰り返し実行して待機する。

【0139】

また、演出制御基板12の側では、所定時間が経過するごとに発生するタイマ割込みとは別に、主基板11からの演出制御コマンドを受信するための割込みが発生する。この割込みは、例えば主基板11からの演出制御INT信号がオン状態となることにより発生する割込みである。演出制御INT信号がオン状態となることによる割込みが発生すると、演出制御用CPU120は、自動的に割込み禁止に設定するが、自動的に割込み禁止状態にならないCPUを用いている場合には、割込み禁止命令(DI命令)を発行することが望ましい。演出制御用CPU120は、演出制御INT信号がオン状態となることによる割込みに対応して、例えば所定のコマンド受信割込み処理を実行する。このコマンド受信割込み処理では、I/O125に含まれる入力ポートのうちで、中継基板15を介して主基板11から送信された制御信号を受信する所定の入力ポートより、演出制御コマンドを取り込む。このとき取り込まれた演出制御コマンドは、例えばRAM122に設けられた演出制御コマンド受信用バッファに格納する。その後、演出制御用CPU120は、割込み許可に設定してから、コマンド受信割込み処理を終了する。

【0140】

ステップS73にてタイマ割込みフラグがオンである場合には(ステップS73; Yes)、タイマ割込みフラグをクリアしてオフ状態にするとともに(ステップS74)、コマンド解析処理を実行する(ステップS75)。コマンド解析処理では、例えば主基板11の遊技制御用マイクロコンピュータ100から送信されて演出制御コマンド受信用バッファに格納されている各種の演出制御コマンドを読み出した後に、その読み出された演出制御コマンドに対応した設定や制御などが行われる。例えば、どの演出制御コマンドを受信したかや演出制御コマンドが特定する内容等を演出制御プロセス処理等で確認できるように、読み出された演出制御コマンドをRAM122の所定領域に格納したり、RAM122に設けられた受信フラグをオンしたりする。また、演出制御コマンドが遊技状態を特定する場合、遊技状態に応じた背景の表示を表示制御部123に指示してもよい。

【0141】

ステップS75にてコマンド解析処理を実行した後は、演出制御プロセス処理を実行する(ステップS76)。演出制御プロセス処理では、例えば画像表示装置5の表示領域における演出画像の表示動作、スピーカ8L、8Rからの音声出力動作、遊技効果ランプ9及び装飾用LEDといった装飾発光体における点灯動作、可動体32の駆動動作といった、各種の演出装置を動作させる制御が行われる。また、各種の演出装置を用いた演出動作の制御内容について、主基板11から送信された演出制御コマンド等に応じた判定や決定、設定などが行われる。

【0142】

ステップS76の演出制御プロセス処理に続いて、演出用乱数更新処理が実行され(ステップS77)、演出制御基板12の側で用いられる演出用乱数の少なくとも一部がソフトウェアにより更新される。その後、ステップS73の処理に戻る。ステップS73の処理に戻る前に、他の処理が実行されてもよい。

【0143】

図7は、演出制御プロセス処理として、図6のステップS76にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図7に示す演出制御プロセス処理において、演出制御用CPU120は、まず、先読予告設定処理を実行する(ステップS161)。先読予告設定処理では、例えば、主基板11から送信された始動入賞時の演出制御コマンドに基づいて、先読み予告演出を実行するための判定や決定、設定などが行われる。また、当該演出制御コマンドから特定される保留記憶数に基づき保留表示を表示するための処理が実行される。

【0144】

ステップ S 1 6 1 の処理を実行した後、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば R A M 1 2 2 に設けられた演出プロセスフラグの値に応じて、以下のようなステップ S 1 7 0 ～ S 1 7 7 の処理のいずれかを選択して実行する。

【 0 1 4 5 】

ステップ S 1 7 0 の可変表示開始待ち処理は、演出プロセスフラグの値が “ 0 ”（初期値）のときに実行される処理である。この可変表示開始待ち処理は、主基板 1 1 から可変表示の開始を指定するコマンドなどを受信したか否かに基づき、画像表示装置 5 における飾り図柄の可変表示を開始するか否かを判定する処理などを含んでいる。画像表示装置 5 における飾り図柄の可変表示を開始すると判定された場合、演出プロセスフラグの値を “ 1 ” に更新し、可変表示開始待ち処理を終了する。

10

【 0 1 4 6 】

ステップ S 1 7 1 の可変表示開始設定処理は、演出プロセスフラグの値が “ 1 ” のときに実行される処理である。この可変表示開始設定処理では、演出制御コマンドにより特定される表示結果や変動パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の表示結果（確定飾り図柄）、飾り図柄の可変表示の態様、リーチ演出や各種予告演出などの各種演出の実行の有無やその態様や実行開始タイミングなどを決定する。そして、その決定結果等を反映した演出制御パターン（表示制御部 1 2 3 に演出の実行を指示するための制御データの集まり）を設定する。その後、設定した演出制御パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の実行開始を表示制御部 1 2 3 に指示し、演出プロセスフラグの値を “ 2 ” に更新し、可変表示開始設定処理を終了する。表示制御部 1 2 3 は、飾り図柄の可変表示の実行開始の指示により、画像表示装置 5 において、飾り図柄の可変表示を開始させる。

20

【 0 1 4 7 】

ステップ S 1 7 2 の可変表示中演出処理は、演出プロセスフラグの値が “ 2 ” のときに実行される処理である。この可変表示中演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、表示制御部 1 2 3 を指示することで、ステップ S 1 7 1 にて設定された演出制御パターンに基づく演出画像を画像表示装置 5 の表示画面に表示させることや、可動体 3 2 を駆動させること、音声制御基板 1 3 に対する指令（効果音信号）の出力によりスピーカ 8 L、8 R から音声や効果音を出力させること、ランプ制御基板 1 4 に対する指令（電飾信号）の出力により遊技効果ランプ 9 や装飾用 L E D を点灯／消灯／点滅させることといった、飾り図柄の可変表示中における各種の演出制御を実行する。こうした演出制御を行った後、例えば演出制御パターンから飾り図柄の可変表示終了を示す終了コードが読み出されたこと、あるいは、主基板 1 1 から確定飾り図柄を停止表示させることを指定するコマンドを受信したことなどに対応して、飾り図柄の表示結果となる確定飾り図柄を停止表示させる。確定飾り図柄を停止表示したときには、演出プロセスフラグの値が “ 3 ” に更新され、可変表示中演出処理は終了する。

30

【 0 1 4 8 】

ステップ S 1 7 3 の特図当り待ち処理は、演出プロセスフラグの値が “ 3 ” のときに実行される処理である。この特図当り待ち処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、主基板 1 1 から大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドの受信があったか否かを判定する。そして、大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドを受信したきに、そのコマンドが大当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を “ 6 ” に更新する。これに対して、そのコマンドが小当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を小当り中演出処理に対応した値である “ 4 ” に更新する。また、大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定するコマンドを受信せずに、当該コマンドの受信待ち時間が経過したときには、特図ゲームにおける表示結果が「ハズレ」であったと判定して、演出プロセスフラグの値を初期値である “ 0 ” に更新する。演出プロセスフラグの値を更新すると、特図当り待ち処理を終了する。

40

【 0 1 4 9 】

ステップ S 1 7 4 の小当り中演出処理は、演出制御プロセスフラグの値が “ 4 ” のとき

50

に実行される処理である。この小当り中演出処理において、演出制御用CPU120は、例えば小当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく小当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、小当り中演出処理では、例えば主基板11から小当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出プロセスフラグの値を小当り終了演出に対応した値である“5”に更新し、小当り中演出処理を終了する。

【0150】

ステップS175の小当り終了演出処理は、演出制御プロセスフラグの値が“5”のときに実行される処理である。この小当り終了演出処理において、演出制御用CPU120は、例えば小当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく小当り遊技状態の終了時における各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“0”に更新し、小当り終了演出処理を終了する。

10

【0151】

ステップS176の大当り中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“6”のときに実行される処理である。この大当り中演出処理において、演出制御用CPU120は、例えば大当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、大当り中演出処理では、例えば主基板11から大当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出制御プロセスフラグの値をエンディング演出処理に対応した値である“7”に更新し、大当り中演出処理を終了する。

20

【0152】

ステップS177のエンディング演出処理は、演出プロセスフラグの値が“7”のときに実行される処理である。このエンディング演出処理において、演出制御用CPU120は、例えば大当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態の終了時におけるエンディング演出の各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“0”に更新し、エンディング演出処理を終了する。

【0153】

(基本説明の変形例)

この発明は、上記基本説明で説明したパチンコ遊技機1に限定されず、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、様々な変形及び応用が可能である。

30

【0154】

上記基本説明のパチンコ遊技機1は、入賞の発生に基づいて所定数の遊技媒体を景品として払い出す払出式遊技機であったが、遊技媒体を封入し入賞の発生に基づいて得点を付与する封入式遊技機であってもよい。

【0155】

特別図柄の可変表示中に表示されるものは1種類の図柄（例えば、「一」を示す記号）だけで、当該図柄の表示と消灯とを繰り返すことによって可変表示を行うようにしてもよい。さらに可変表示中に当該図柄が表示されるものも、可変表示の停止時には、当該図柄が表示されなくてもよい（表示結果としては「一」を示す記号が表示されなくてもよい）。

40

【0156】

上記基本説明では、遊技機としてパチンコ遊技機1を示したが、メダルが投入されて所定の賭け数が設定され、遊技者による操作レバーの操作に応じて複数種類の図柄を回転させ、遊技者によるストップボタンの操作に応じて図柄を停止させたときに停止図柄の組合せが特定の図柄の組み合わせになると、所定数のメダルが遊技者に払い出されるゲームを実行可能なスロット機（例えば、ビッグボーナス、レギュラーボーナス、RT、AT、ARRT、CZ（以下、ボーナス等）のうち1以上を搭載するスロット機）にも本発明を適用可能である。

【0157】

50

本発明を実現するためのプログラム及びデータは、パチンコ遊技機 1 に含まれるコンピュータ装置などに対して、着脱自在の記録媒体により配布・提供される形態に限定されるものではなく、予めコンピュータ装置などの有する記憶装置にインストールしておくことで配布される形態を採っても構わない。さらに、本発明を実現するためのプログラム及びデータは、通信処理部を設けておくことにより、通信回線等を介して接続されたネットワーク上の、他の機器からダウンロードすることによって配布する形態を採っても構わない。

【0158】

そして、ゲームの実行形態も、着脱自在の記録媒体を装着することにより実行するものだけではなく、通信回線等を介してダウンロードしたプログラム及びデータを、内部メモリ等に一旦格納することにより実行可能とする形態、通信回線等を介して接続されたネットワーク上における、他の機器側のハードウェア資源を用いて直接実行する形態としてもよい。さらには、他のコンピュータ装置等とネットワークを介してデータの交換を行うことによりゲームを実行するような形態とすることもできる。

【0159】

なお、本明細書において、演出の実行割合などの各種割合の比較の表現（「高い」、「低い」、「異ならせる」などの表現）は、一方が「0 %」の割合であることを含んでもよい。例えば、一方が「0 %」の割合で、他方が「100 %」の割合又は「100 %」未満の割合であることも含む。

【0160】

（本実施形態の特徴部に関する説明）

【0161】

次に、本実施の形態の特徴部について説明する。図 8-1 に示すように、本実施の形態の特徴部においては、遊技領域の左右下方 4 箇所に設けられた各一般入賞口 10 に入賞した遊技球を検出するための第 1 一般入賞口スイッチ 107SG026A、第 2 一般入賞口スイッチ 107SG026、第 3 一般入賞口スイッチ 107SG026C、第 4 一般入賞口スイッチ 107SG026D を有しており、各一般入賞口スイッチはスイッチ回路 110 に接続されている。

【0162】

また、主基板 11 には、磁気を検出可能な磁気センサ 107SG060、電波を検出可能な電波センサ 107SG070、大入賞口扉の開放を検出可能な大入賞口扉センサ 107SG091、上皿が遊技球で満タンになったことを検出可能な満タンセンサ 107SG093、補給球が切れたことを検出可能な球切れセンサ 107SG094 が接続されている。

【0163】

また、演出制御基板 12 には、VDP107SG500 が接続されている。演出制御用 CPU120 は、VDP107SG500 に対して所定のコマンドを送信することによって、該 VDP107SG500 に画像表示装置 107SG005 における画像の表示制御を実行させることが可能となっている。

【0164】

遊技盤 2 における遊技領域の中央付近には、図 8-29 に示す画像表示装置 107SG005 が設けられている。画像表示装置 107SG005 は、例えば LCD（液晶表示装置）等から構成され、各種の演出画像を表示する表示領域を形成している。画像表示装置 107SG005 の表示領域では、第 1 特別図柄表示装置 4A による第 1 特図の変動表示や第 2 特別図柄表示装置 4B による第 2 特図の変動表示のそれぞれに対応して、例えば 3 つといった複数の変動表示部となる飾り図柄表示エリアにて、各々を識別可能な複数種類の識別情報（装飾識別情報）である飾り図柄（演出図柄とも言う）が変動表示される。

【0165】

一例として、画像表示装置 107SG005 の表示領域には、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 107SG005L, 107SG005C, 107SG005R が

10

20

30

40

50

配置されている。そして、特図ゲームにおいて第1特別図柄表示装置4Aにおける第1特図の変動と第2特別図柄表示装置4Bにおける第2特図の変動のうち、いずれかが開始されることに伴って、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005Rにおいて飾り図柄の変動（例えば上下方向のスクロール表示）が開始される。その後、特図ゲームにおける変動表示結果として確定特別図柄が停止表示されるときに、画像表示装置107SG005における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005Rにて、飾り図柄の変動表示結果となる確定飾り図柄（最終停止図柄）が停止表示される。

【0166】

このように、画像表示装置107SG005の表示領域では、第1特別図柄表示装置4Aにおける第1特図を用いた変動表示、または、第2特別図柄表示装置4Bにおける第2特図を用いた変動表示と同期して、各々が識別可能な複数種類の飾り図柄の変動表示を行い、変動表示結果となる確定飾り図柄を導出表示（あるいは単に「導出」ともいう）する。尚、例えば特別図柄や飾り図柄といった、各種の表示図柄を導出表示するとは、飾り図柄等の識別情報を停止表示（完全停止表示や最終停止表示ともいう）して変動表示を終了させることである。これに対して、飾り図柄の変動表示を開始してから変動表示結果となる確定飾り図柄が導出表示されるまでの変動表示中には、飾り図柄の変動速度が「0」となって、飾り図柄が停留して表示され、例えば微少な揺れや伸縮などを生じさせる表示状態となることがある。このような表示状態は、仮停止表示ともいい、変動表示における表示結果が確定的に表示されていないものの、スクロール表示や更新表示による飾り図柄の変動が進行していないことを遊技者が認識可能となる。尚、仮停止表示には、微少な揺れや伸縮なども生じさせず、所定時間（例えば1秒間）よりも短い時間だけ、飾り図柄を完全停止表示することなどが含まれてもよい。

【0167】

「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005Rにて変動表示される飾り図柄には、例えば9種類の図柄（英数字「1」～「9」あるいは漢数字や、英文字、所定のモチーフに関連する9個のキャラクタ画像、数字や文字あるいは記号とキャラクタ画像との組合せなどであればよく、キャラクタ画像は、例えば人物や動物、これら以外の物体、もしくは、文字などの記号、あるいは、その他の任意の図形を示す飾り画像であればよい）で構成される。飾り図柄のそれぞれには、対応する図柄番号が付されている。例えば、「1」～「9」を示す英数字それぞれに対して、「1」～「9」の図柄番号が付されている。尚、飾り図柄は9種類に限定されず、大当たり組合せやハズレとなる組合せなど適当な数の組合せを構成可能であれば、何種類であってもよい（例えば8種類や10種類など）。

【0168】

飾り図柄の変動表示が開始された後、変動表示結果となる確定飾り図柄が導出表示されるまでには、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005Rにおいて、例えば図柄番号が小さいものから大きいものへと順次に上方から下方へと流れるようなスクロール表示が行われ、図柄番号が最大（例えば「9」）である飾り図柄が表示されると、続いて図柄番号が最小（例えば「1」）である飾り図柄が表示される。あるいは、飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005Rのうち少なくともいずれか1つ（例えば「左」の飾り図柄表示エリア5Lなど）において、図柄番号が大きいものから小さいものへとスクロール表示を行って、図柄番号が最小である飾り図柄が表示されると、続いて図柄番号が最大である飾り図柄が表示されるようにしてもよい。

【0169】

画像表示装置107SG005の表示領域の下部には、飾り図柄の変動表示中に可動体32の動作等によって遊技者からの視認性が損なわれない常時表示エリア107SG005Aとなっており、該常時表示エリア107SG005A内には、第1保留記憶表示エリ

ア 1 0 7 S G 0 0 5 D 及び第 2 保留記憶表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 U が配置されている。ここで、各特別図柄に対応した変動表示の保留は、入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口や、可変入賞球装置 6 B が形成する第 2 始動入賞口を、遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生する。すなわち、特別図柄や飾り図柄の変動表示を実行するための始動条件（「実行条件」ともいう）は成立したが、先に成立した開始条件に基づく変動表示が実行中であることやパチンコ遊技機 1 が大当り遊技状態に制御されていることなどにより、変動表示の開始を許容する開始条件が成立していないときに、成立した始動条件に対応する変動表示の保留が行われる。第 1 保留記憶表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 D における保留表示は、第 1 始動入賞口を遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生した保留表示であり、第 2 保留記憶表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 U における保留表示は、第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生した保留表示である。また、常時表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 A 内には、飾り図柄の変動表示と連動して変動する「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリアを含む小図柄表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 S も配置されている。

10

【0170】

つまり、本実施の形態の特徴部における第 1 保留記憶表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 D、第 2 保留記憶表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 U、小図柄表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 S は、飾り図柄の変動表示中に可動体 3 2 の動作等によって遮られることなく遊技者から視認可能な位置に配置されているが、本発明はこれに限定されるものではなく、これら第 1 保留記憶表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 D、第 2 保留記憶表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 U、小図柄表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 S の少なくとも一部は、飾り図柄の変動表示中に可動体 3 2 の動作等によって遮られる位置に配置されていてもよい。

20

【0171】

本実施の形態の特徴部では、第 1 始動入賞口を遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生した保留表示を丸型の白色表示（第 1 保留記憶表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 D に表示される保留記憶表示）とし、第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生した保留表示を丸型の白色表示（第 2 保留記憶表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 U に表示される保留記憶表示）とする。尚、第 1 始動入賞口を遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生した保留表示と、第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生した保留表示と、の表示態様は、異なる表示態様であってもよい。

30

【0172】

図 8-2 (A) は、本実施の形態の特徴部で用いられる演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。演出制御コマンドは、例えば 2 バイト構成であり、1 バイト目は M O D E（コマンドの分類）を示し、2 バイト目は E X T（コマンドの種類）を表す。M O D E データの先頭ビット（ビット 7）は必ず「1」とされ、E X T データの先頭ビットは「0」とされる。尚、図 8-2 (A) に示されたコマンド形態は一例であって、他のコマンド形態を用いてもよい。また、この例では、制御コマンドが 2 つの制御信号で構成されることになるが、制御コマンドを構成する制御信号数は、1 であってもよいし、3 以上の複数であってもよい。

40

【0173】

図 8-2 (A) に示す例において、コマンド 8 0 0 1 H は、第 1 特別図柄表示装置 4 A における第 1 特図を用いた特図ゲームにおける変動開始を指定する第 1 変動開始コマンドである。コマンド 8 0 0 2 H は、第 2 特別図柄表示装置 4 B における第 2 特図を用いた特図ゲームにおける変動開始を指定する第 2 変動開始コマンドである。コマンド 8 1 X X H は、特図ゲームにおける特別図柄の変動表示に対応して画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 L、1 0 7 S G 0 0 5 C、1 0 7 S G 0 0 5 R で変動表示される飾り図柄などの変動パターン（変動時間）を指定する変動パターン指定コマンドである。ここで、X X H は不特定の 1 6 進数であることを示し、演出制御コマンドによる指示内容に応じて任意に設定される値であればよ

50

い。尚、変動パターン指定コマンドでは、指定する変動パターンなどに応じて、異なる E X T データが設定される。

【0174】

コマンド 8 C X X H は、変動表示結果通知コマンドであり、特別図柄や飾り図柄などの変動表示結果を指定する演出制御コマンドである。変動表示結果通知コマンドでは、例えば図 8-2 (B) に示すように、変動表示結果が「ハズレ」であるか「大当たり」であるか「小当たり」であるかの決定結果（事前決定結果）や、変動表示結果が「大当たり」となる場合の大当たり種別を複数種類のいずれとするかの決定結果（大当たり種別決定結果）に応じて、異なる E X T データが設定される。

【0175】

変動表示結果通知コマンドでは、例えば図 8-2 (B) に示すように、コマンド 8 C 0 0 H は、変動表示結果が「ハズレ」となる旨の事前決定結果を示す第 1 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8 C 0 1 H は、変動表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たり A」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第 2 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8 C 0 2 H は、変動表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たり B」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第 3 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8 C 0 3 H は、変動表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たり C」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第 4 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8 C 0 4 H は、変動表示結果が「小当たり A」となる旨の事前決定結果を通知する第 5 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8 C 0 5 H は、

【0176】

コマンド 8 F 0 0 H は、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 L, 1 0 7 S G 0 0 5 C, 1 0 7 S G 0 0 5 R で飾り図柄の変動停止（確定）を指定する図柄確定コマンドである。コマンド 9 5 X X H は、パチンコ遊技機 1 における現在の遊技状態を指定する遊技状態指定コマンドである。遊技状態指定コマンドでは、例えばパチンコ遊技機 1 における現在の遊技状態に応じて、異なる E X T データが設定される。具体的な一例として、コマンド 9 5 0 0 H を時短制御が行われない遊技状態（低ベース状態、通常状態）に対応した第 1 遊技状態指定コマンドとし、コマンド 9 5 0 1 H を時短制御が行われる遊技状態（高ベース状態、時短状態）に対応した第 2 遊技状態指定コマンドとする。

【0177】

コマンド 9 6 X X H は、パチンコ遊技機 1 においてエラー（異常）の発生および発生したエラー（異常）の種別を指定するエラー（異常）指定コマンドである。エラー（異常）指定コマンドでは、例えば、各エラー（異常）に対応する E X T データが設定されることにより、演出制御基板 1 2 側において、いずれのエラー（異常）の発生が判定されたのかを特定することができ、特定したエラー（異常）の発生が、後述するエラー報知処理によって報知される。

【0178】

コマンド A 0 X X H は、大当たり遊技状態または小当たり遊技状態の開始を示す演出画像の表示を指定する当り開始指定コマンド（「ファンファーレコマンド」ともいう）である。コマンド A 1 X X H は、大当たり遊技状態または小当たり遊技状態において、大入賞口が開放状態となっている期間であることを通知する大入賞口開放中通知コマンドである。コマンド A 2 X X H は、大当たり遊技状態または小当たり遊技状態において、大入賞口が開放状態から閉鎖状態に変化した期間であることを通知する大入賞口開放後通知コマンドである。コマンド A 3 X X H は、大当たり遊技状態または小当たり遊技状態の終了時における演出画像の表示を指定する当り終了指定コマンドである。

【0179】

当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、例えば変動表示結果通知コマンド

10

20

30

40

50

と同様の E X T データが設定されることなどにより、事前決定結果や大当たり種別決定結果に応じて異なる E X T データが設定されてもよい。あるいは、当たり開始指定コマンドや当たり終了指定コマンドでは、事前決定結果及び大当たり種別決定結果と設定される E X T データとの対応関係を、変動表示結果通知コマンドにおける対応関係とは異ならせるようにしてもよい。大入賞口開放中通知コマンドや大入賞口開放後通知コマンドでは、大当たり遊技状態または小当たり遊技状態におけるラウンドの実行回数（例えば「1」～「15」）に対応して、異なる E X T データが設定される。

【0180】

コマンド B 1 0 0 H は、入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 1 始動口スイッチ 2 2 A により検出されて始動入賞（第 1 始動入賞）が発生したことに基つき、第 1 特別図柄表示装置 4 A における第 1 特図を用いた特図ゲームを実行するための第 1 始動条件が成立したことを通知する第 1 始動口入賞指定コマンドである。コマンド B 2 0 0 H は、可変入賞球装置 6 B が形成する第 2 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 2 始動口スイッチ 2 2 B により検出されて始動入賞（第 2 始動入賞）が発生したことに基つき、第 2 特別図柄表示装置 4 B における第 2 特図を用いた特図ゲームを実行するための第 2 始動条件が成立したことを通知する第 2 始動口入賞指定コマンドである。

【0181】

コマンド C 1 X X H は、第 1 保留記憶表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 D などにて特図保留記憶数を特定可能に表示するために、第 1 特図保留記憶数を通知する第 1 保留記憶数通知コマンドである。コマンド C 2 X X H は、第 2 保留記憶表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 U などにて特図保留記憶数を特定可能に表示するために、第 2 特図保留記憶数を通知する第 2 保留記憶数通知コマンドである。第 1 保留記憶数通知コマンドは、例えば第 1 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第 1 始動条件が成立したことに基づいて、第 1 始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信される。第 2 保留記憶数通知コマンドは、例えば第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第 2 始動条件が成立したことに基づいて、第 2 始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信される。また、第 1 保留記憶数通知コマンドや第 2 保留記憶数通知コマンドは、第 1 開始条件と第 2 開始条件のいずれかが成立したとき（保留記憶数が減少したとき）に、特図ゲームの実行が開始されることなどに対応して送信されるようにしてもよい。

【0182】

第 1 保留記憶数通知コマンドや第 2 保留記憶数通知コマンドに代えて、合計保留記憶数を通知する合計保留記憶数通知コマンドを送信するようにしてもよい。すなわち、合計保留記憶数の増加（または減少）を通知するための合計保留記憶数通知コマンドが用いられてもよい。

【0183】

コマンド C 4 X X H 及びコマンド C 6 X X H は、入賞時判定結果の内容を示す演出制御コマンド（入賞時判定結果指定コマンド）である。このうち、コマンド C 4 X X H は、入賞時判定結果として、変動表示結果が「大当たり」となるか否か及び大当たり種別（確変や非確変や突確）の判定結果を示す図柄指定コマンドである。また、コマンド C 6 X X H は、入賞時判定結果として、変動パターン判定用の乱数値 M R 3 が、「非リーチ」、「スーパリーチ」、「その他」のいずれの変動パターンとなるかの判定結果を示す変動カテゴリコマンドである。

【0184】

コマンド C 7 0 0 H は、パチンコ遊技機 1 が電断された状態から復旧したことを示す演出制御コマンド（電断復旧通知コマンド）である。

【0185】

主基板 1 1 に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、例えば 1 チップのマイクロコンピュータであり、遊技制御用のプログラムや固定データ等を記憶する R O M

10

20

30

40

50

(Read Only Memory) 101と、遊技制御用のワークエリアを提供するRAM (Random Access Memory) 102と、遊技制御用のプログラムを実行して制御動作を行うCPU (Central Processing Unit) 103と、CPU 103とは独立して乱数値を示す数値データの更新を行う乱数回路104と、I/O (Input/Output port) 105と、時刻情報を出し力可能なリアルタイムクロック (RTC) 106とを備えて構成される。

【0186】

一例として、遊技制御用マイクロコンピュータ100では、CPU 103がROM 101から読み出したプログラムを実行することにより、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するための処理が実行される。このときには、CPU 103がROM 101から固定データを読み出す固定データ読出動作や、CPU 103がRAM 102に各種の変動データを書き込んで一時記憶させる変動データ書込動作、CPU 103がRAM 102に一時記憶されている各種の変動データを読み出す変動データ読出動作、CPU 103がI/O 105を介して遊技制御用マイクロコンピュータ100の外部から各種信号の入力を受付ける受信動作、CPU 103がI/O 105を介して遊技制御用マイクロコンピュータ100の外部へと各種信号を出力する送信動作なども行われる。

【0187】

図8-3は、主基板11の側においてカウントされる乱数値を例示する説明図である。図8-3に示すように、この実施の形態では、主基板11の側において、特図表示結果判定用の乱数値MR1の他、大当たり種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3、普図表示結果判定用の乱数値MR4のそれぞれを示す数値データが、カウント可能に制御される。尚、遊技効果を高めるために、これら以外の乱数値が用いられてもよい。これらの乱数値MR1~MR4は、CPU 103にて、異なるランダムカウンタを用いて、ソフトウェアによる更新によってカウントするようにしてもよいし、乱数回路104によって更新されてもよい。乱数回路104は、遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されるものであってもよいし、遊技制御用マイクロコンピュータ100とは異なる乱数回路チップとして構成されるものであってもよい。こうした遊技の進行を制御するために用いられる乱数は、遊技用乱数ともいう。

【0188】

図8-4は、本実施の形態の特徴部における変動パターンを示している。本実施の形態では、変動表示結果が「ハズレ」となる場合のうち、飾り図柄の変動表示態様が「非リーチ」である場合と「リーチ」である場合のそれぞれに対応して、また、変動表示結果が「大当たり」となる場合などに対応して、複数の変動パターンが予め用意されている。また、変動表示結果が「小当たり」となる場合などに対応して、1の変動パターンが予め用意されている。尚、変動表示結果が「ハズレ」で飾り図柄の変動表示態様が「非リーチ」である場合に対応した変動パターンは、非リーチ変動パターン（「非リーチハズレ変動パターン」ともいう）と称され、変動表示結果が「ハズレ」で飾り図柄の変動表示態様が「リーチ」である場合に対応した変動パターンは、リーチ変動パターン（「リーチハズレ変動パターン」ともいう）と称される。また、非リーチ変動パターンとリーチ変動パターンは、変動表示結果が「ハズレ」となる場合に対応したハズレ変動パターンに含まれる。変動表示結果が「大当たり」である場合に対応した変動パターンは、大当たり変動パターンと称される。変動表示結果が「小当たり」または変動表示結果が「大当たり」であり大当たり種別が後述する「確変大当たりC」である場合に対応した変動パターンは、特殊当たり変動パターンと称される。

【0189】

大当たり変動パターンやリーチ変動パターンには、ノーマルリーチのリーチ演出が実行されるノーマルリーチ変動パターンと、スーパーリーチのリーチ演出が実行されるスーパーリーチ変動パターンとがある。尚、本実施の形態の特徴部では、ノーマルリーチ変動パターンとスーパーリーチ変動パターンとを1種類のみしか設けていないが、本発明はこれに限定されるものではなく、複数のノーマルリーチ変動パターンやスーパーリーチ変動パターンを設けてもよい。

【0190】

図8-4に示すように、本実施の形態の特徴部におけるノーマルリーチのリーチ演出が実行されるノーマルリーチ変動パターンの特図変動時間については、スーパーリーチ変動パターンよりも短く設定されている。

【0191】

尚、本実施の形態の特徴部では、前述したようにスーパーリーチ、ノーマルリーチの順に変動表示結果が「大当たり」となる大当たり期待度が高くなるように設定されているため、ノーマルリーチ変動パターン及びスーパーリーチ変動パターンにおいては変動時間が長いほど大当たり期待度が高くなっている。

【0192】

遊技制御用マイクロコンピュータ100が備えるROM101には、ゲーム制御用のプログラムの他にも、遊技の進行を制御するために用いられる各種のテーブルデータなどが記憶されている。例えば、ROM101には、CPU103が各種の判定や決定を行うために用意された、図8-5～図8-7などに示す複数の判定テーブルを構成するテーブルデータが記憶されている。また、ROM101には、CPU103が主基板11から各種の制御信号を出力させるために用いられる複数の制御パターンテーブルを構成するテーブルデータや、特別図柄や普通図柄などの変動表示における各図柄の変動態様となる変動パターンを複数種類格納する変動パターンテーブルなどが記憶されている。

【0193】

ROM101が記憶する判定テーブルには、例えば、通常大当たり変動パターン判定テーブル（図示略）、確変大当たり変動パターン判定テーブル（図示略）、小当たり変動パターン判定テーブル（図示略）、ハズレ変動パターン判定テーブル（図示略）、図8-6（A）に示す表示結果判定テーブル1、図8-6（B）に示す表示結果判定テーブル2、図8-7（A）に示す大当たり種別判定テーブル等が含まれている。

【0194】

図8-5に示すように、本実施の形態の特徴部においては、変動表示結果が大当たりであるか否かや、大当たり種別、変動表示結果が小当たりであるか否か、保留記憶数等に応じて選択する変動パターン判定テーブルが異なっている。

【0195】

具体的には、図8-5に示すように、変動表示結果が大当たりであり、大当たり種別が後述する非確変大当たりである場合は、大当たり用変動パターン判定テーブルAが選択され、変動表示を実行する変動パターンとして、50%の割合でノーマルリーチ大当たりの変動パターン（PB1-1）が選択され、50%の割合でスーパーリーチ大当たりの変動パターン（PB1-2）が選択される。また、変動表示結果が大当たりであり、大当たり種別が後述する確変大当たりAや確変大当たりBである場合は、大当たり用変動パターン判定テーブルBが選択され、変動表示を実行する変動パターンとして、25%の割合でノーマルリーチ大当たりの変動パターン（PB1-1）が選択され、75%の割合でスーパーリーチ大当たりの変動パターン（PB1-2）が選択される。

【0196】

また、変動表示結果が大当たりであり、大当たり種別が後述する確変大当たりCである場合、または、変動表示結果が小当たりである場合は、特殊当たり用変動パターン判定テーブルが選択され、変動表示を実行する変動パターンとして、100%の割合で特殊当たりの変動パターン（PC1-1）が選択される。

【0197】

また、変動表示結果がハズレであり、変動特図の保留記憶数が1または2個である場合は、ハズレ用変動パターン判定テーブルAが選択され、変動表示を実行する変動パターンとして、60%の割合で短縮無しの非リーチハズレの変動パターン（PA1-1）が選択され、30%の割合でノーマルリーチハズレの変動パターン（PA2-1）が選択され、10%の割合でスーパーリーチハズレの変動パターン（PA2-2）が選択される。

【0198】

10

20

30

40

50

また、変動表示結果がハズレであり、変動特図の保留記憶数が3個である場合は、ハズレ用変動パターン判定テーブルBが選択され、変動表示を実行する変動パターンとして、70%の割合で短縮無しの非リーチハズレの変動パターンよりも変動時間が短い短縮非リーチハズレの変動パターン(PA1-2)が選択され、20%の割合でノーマルリーチハズレの変動パターン(PA2-1)が選択され、10%の割合でスーパーリーチハズレの変動パターン(PA2-2)が選択される。

【0199】

また、変動表示結果がハズレであり、変動特図の保留記憶数が4個である場合は、ハズレ用変動パターン判定テーブルCが選択され、変動表示を実行する変動パターンとして、80%の割合で短縮非リーチハズレの変動パターン(PA1-2)よりも変動時間が短い短縮非リーチハズレの変動パターン(PA1-3)が選択され、10%の割合でノーマルリーチハズレの変動パターン(PA2-1)が選択され、10%の割合でスーパーリーチハズレの変動パターン(PA2-2)が選択される。

【0200】

また、時短状態(高ベース状態)において変動表示結果がハズレである場合は、ハズレ用変動パターン判定テーブルDが選択され、変動表示を実行する変動パターンとして、80%の割合で短縮非リーチハズレの変動パターン(PA1-3)よりも変動時間が短い短縮非リーチハズレの変動パターン(PA1-4)が選択され、10%の割合でノーマルリーチハズレの変動パターン(PA2-1)が選択され、10%の割合でスーパーリーチハズレの変動パターン(PA2-2)が選択される。

【0201】

このように、本実施の形態の特徴部では、スーパーリーチ、ノーマルリーチ、非リーチの順に変動表示結果が「大当たり」となる大当たり期待度が高くなるように設定されているため、ノーマルリーチ変動パターン及びスーパーリーチ変動パターンにおいては変動時間が長いほど大当たり期待度が高くなっている。更に、変動表示結果が大当たりとなる場合は、大当たり種別が「確変大当たりA」や「確変大当たりB」となる場合の方が大当たり種別が「非確変大当たり」となる場合よりも高い割合で変動表示がスーパーリーチの変動パターンにて実行されるので、変動表示がスーパーリーチの変動パターンにて実行されることによって、大当たり種別が「確変大当たりA」や「確変大当たりB」となるかに対して遊技者を注目させることができる。

【0202】

また、図8-4に示すように、短縮なしの非リーチハズレの変動パターン(PA1-1)よりも非リーチハズレの変動パターン(PA1-2)の方が変動時間は短く、更に、変動パターン(PA1-2)よりも非リーチハズレの変動パターン(PA1-3)の方が変動時間は短い。よって、保留記憶数が増加した場合には、変動時間が短い非リーチハズレの変動パターンが決定されることにより、保留記憶が消化されやすくなって、保留記憶数が上限数である4に達しているときに始動入賞することで、保留記憶がなされない無駄な始動入賞が発生し難くなるようになるとともに、保留記憶数が減少した場合には、変動時間が長い短縮なしの非リーチハズレの変動パターン(PA1-1)が決定されることにより、変動表示の時間が長くなることにより、変動表示が実行されないことによる遊技の興趣低下を防ぐことができるようになる。

【0203】

図8-6(A)は、第1特別図柄用の表示結果判定テーブル1を示す説明図であり、図8-6(B)は、第2特別図柄用の表示結果判定テーブル2を示す説明図である。これら表示結果判定テーブルとは、ROM101に記憶されているデータの集まりであって、MR1と比較される当り判定値が設定されているテーブルである。

【0204】

本実施の形態の特徴部における特図表示結果判定テーブルでは、パチンコ遊技機1における遊技状態が通常状態または時短状態(低確状態)であるか、確変状態(高確状態)であるかに応じて、特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される数値(判定値)が、「

大当り」や「小当り」、「ハズレ」の特図表示結果に割り当てられている。

【0205】

各特図表示結果判定テーブルにおいて、特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される判定値を示すテーブルデータは、特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御するか否かや、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御するか否かの決定結果に割り当てられる判定用データとなっている。本実施の形態の特徴部における各特図表示結果判定テーブルでは、遊技状態が確変状態（高確状態）であるときに、通常状態または時短状態（低確状態）であるときよりも多くの判定値が、「大当り」の特図表示結果に割り当てられている。これにより、パチンコ遊技機1において確変制御が行われる確変状態（高確状態）では、通常状態または時短状態（低確状態）であるときに特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定される確率（約1/300）に比べて、特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定される確率が高くなる（約1/30）。即ち、各特図表示結果判定テーブルでは、パチンコ遊技機1における遊技状態が確変状態（高確状態）であるときに、通常状態や時短状態であるときに比べて大当り遊技状態に制御すると決定される確率が高くなるように、判定用データが大当り遊技状態に制御するか否かの決定結果に割り当てられている。

10

【0206】

尚、図8-6（A）及び図8-6（B）に示すように、変動特図が第1特別図柄である場合は、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率（約1/100）が有るのに対して、変動特図が第2特別図柄である場合は、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定されることが無いように判定値が割り当てられている。

20

【0207】

図8-7（A）は、ROM101に記憶されている大当り種別判定テーブルを示す説明図である。

【0208】

大当り種別判定テーブルは、変動表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、当り種別判定用の乱数（MR2）に基づいて、大当りの種別を「非確変大当り」、「確変大当りA」～「確変大当りC」のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

30

【0209】

ここで、本実施の形態における大当り種別について、図8-7（B）を用いて説明すると、本実施の形態の特徴部では、大当り種別として、大当り遊技状態の終了後において高確制御と時短制御とが実行されて高確高ベース状態に移行する確変大当りAや確変大当りBと、大当り遊技状態の終了後において高確制御が実行されるが時短制御が実行されない高確低ベース状態に移行する確変大当りCと、大当り遊技状態の終了後において時短制御のみが実行されて低確高ベース状態に移行する非確変大当りとが設定されている。

【0210】

「確変大当りA」による大当り遊技状態は、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態に変化させるラウンドが16回（いわゆる16ラウンド）、繰返し実行される通常開放大当りである。一方、「確変大当りB」による大当り遊技状態は、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態に変化させるラウンドが5回（いわゆる5ラウンド）、繰返し実行される通常開放大当りである。また、「非確変大当り」による大当り遊技状態は、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態に変化させるラウンドが16回（いわゆる16ラウンド）、繰返し実行される通常開放大当りである。よって、「確変大当りA」を16ラウンド（16R）確変大当りと呼称し、「確変大当りB」を5ラウンド（5R）確変大当り、「非確変大当り」を16ラウンド（16R）非確変大当りと呼称する場合がある。更に、「確変大当りC」による大当り遊技は、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態に変化させるラウンドが2回（いわゆる2ラウンド）繰返し実行されるとともに、各ラウンドでの特別可変入賞球装置7の開放期間が

40

50

他の大当たり遊技よりも短い（例えば、0.1秒）高速開放大当たりである。尚、いずれの大当たり種別の大当たり遊技中においても、確変制御や時短制御は実行されないようになっている。

【0211】

また、特に図示はしないが、本実施の形態の特徴部における小当たり遊技状態は、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態に2回変化させるとともに、該開放時間が確変大当たりCと同じ開放期間（本実施の形態では0.1秒）となっている。尚、小当たり遊技の終了後は、該小当たり遊技直前の遊技状態が引き継がれる。

【0212】

つまり、本実施の形態の特徴部においては、変動表示結果が「確変大当たりC」となった場合と「小当たり」となった場合とでは、同じ変動パターンにて変動表示が実行されるとともに、特別可変入賞球装置7の開放パターンが同一となっているため、確変大当たりCの大当たり遊技や小当たり遊技の終了後、遊技者に対して確変制御が実行されていることに期待させつつ遊技を続行させることが可能となっている。

【0213】

確変大当たりAや確変大当たりBの大当たり遊技状態の終了後において実行される高確制御と時短制御は、該大当たり遊技状態の終了後において再度大当たりが発生するまで継続して実行される。よって、再度発生した大当たりが確変大当たりAや確変大当たりBである場合には、大当たり遊技状態の終了後に再度、高確制御と時短制御が実行されるので、大当たり遊技状態が通常状態を介することなく連続的に発生する、いわゆる連荘状態となる。

【0214】

一方、「非確変大当たり」による大当たり遊技状態の終了後において実行される時短制御は、所定回数（本実施の形態の特徴部では100回）の特図ゲームが実行されること、或いは該所定回数の特図ゲームが実行される前に大当たり遊技状態となることにより終了する。

【0215】

図8-7（A）に示す大当たり種別判定テーブルの設定例では、変動特図が第1特図であるか第2特図であるかに応じて、「確変大当たりA」、「確変大当たりB」、「確変大当たりC」、「非確変大当たり」の大当たり種別に対する判定値の割当てが異なっている。即ち、変動特図が第1特図である場合には、所定範囲の判定値（「81」～「100」の範囲の値）がラウンド数の少ない「確変大当たりB」や「確変大当たりC」の大当たり種別に割り当てられる一方で、変動特図が第2特図である場合には、「確変大当たりB」や「確変大当たりC」の大当たり種別に対して判定値が割り当てられていない。このような設定により、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図を用いた特図ゲームを開始するための第1開始条件が成立したことに基づいて大当たり種別を複数種類のいずれかに決定する場合と、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図を用いた特図ゲームを開始するための第2開始条件が成立したことに基づいて大当たり種別を複数種類のいずれかに決定する場合とで、大当たり種別をラウンド数の少ない「確変大当たりB」や「確変大当たりC」に決定する割合を、異ならせることができる。特に、第2特図を用いた特図ゲームでは大当たり種別を「確変大当たりB」や「確変大当たりC」としてラウンド数の少ない通常開放大当たり状態や高速開放大当たり状態に制御すると決定されることがないので、例えば時短制御に伴う高開放制御により、可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口に遊技球が進入しやすい高ベース状態において、得られる賞球が少ない大当たり状態の頻発を回避して遊技興趣が低下してしまうことを防止できるようになっている。

【0216】

尚、図8-7（A）に示す大当たり種別判定テーブルの設定例では、「非確変」の大当たり種別に対する判定値の割当ては、変動特図が第1特図であるか第2特図であるかに係わらず同一とされているので、非確変の大当たりとなる確率と確変の大当たりとなる確率は、変動特図が第1特図であるか第2特図であるかにかかわらず同一とされている。

【0217】

よって、前述したように、「確変大当たりB」や「確変大当たりC」に対する判定値の割り

当てが、変動特図が第1特図であるか第2特図であるかに応じて異なることに応じて、「確変大当たりA」に対する判定値の割り当ても変動特図が第1特図であるか第2特図であるかに応じて異なり、ラウンド数の多い「確変大当たりA」については、変動特図が第2特図である場合の方が第1特図である場合よりも決定され易くなるように設定されている。

【0218】

尚、変動特図が第2特図である場合にも、変動特図が第1特図である場合とは異なる所定範囲の判定値が、「確変大当たりB」や「確変大当たりC」の大当たり種別に割り当てられるようにしてもよい。例えば、変動特図が第2特図である場合には、変動特図が第1特図である場合に比べて少ない判定値が、「確変大当たりB」や「確変大当たりC」の大当たり種別に割り当てられてもよい。あるいは、変動特図が第1特図であるか第2特図であるかにかかわらず、共通のテーブルデータを参照して、大当たり種別の決定を行うようにしてもよい。

10

【0219】

本実施の形態の特徴部におけるRAM102には、パチンコ遊技機1における遊技の進行などを制御するために用いられる各種のデータを保持する領域として、例えば図8-8に示すような遊技制御用データ保持エリア107SG150が設けられている。図8-8に示す遊技制御用データ保持エリア107SG150は、第1特図保留記憶部107SG151Aと、第2特図保留記憶部107SG151Bと、普図保留記憶部107SG151Cと、遊技制御フラグ設定部107SG152と、遊技制御タイマ設定部107SG153と、遊技制御カウンタ設定部107SG154と、遊技制御バッファ設定部107SG155とを備えている。

20

【0220】

第1特図保留記憶部107SG151Aは、入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）して始動入賞（第1始動入賞）が発生したものの未だ開始されていない特図ゲーム（第1特別図柄表示装置4Aにおける第1特図を用いた特図ゲーム）の保留データを記憶する。一例として、第1特図保留記憶部107SG151Aは、第1始動入賞口への入賞順（遊技球の検出順）に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過（進入）における第1始動条件の成立に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された特図表示結果判定用の乱数値MR1や大当たり種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データなどを保留データとして、その記憶数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。こうして第1特図保留記憶部107SG151Aに記憶された保留データは、第1特図を用いた特図ゲームの実行が保留されていることを示し、この特図ゲームにおける変動表示結果（特図表示結果）に基づき大当たりとなるか否かなどを判定可能にする保留情報となる。

30

【0221】

第2特図保留記憶部107SG151Bは、可変入賞球装置107SG006Bが形成する第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）して始動入賞（第2始動入賞）が発生したものの未だ開始されていない特図ゲーム（第2特別図柄表示装置4Bにおける第2特図を用いた特図ゲーム）の保留データを記憶する。一例として、第2特図保留記憶部107SG151Bは、第2始動入賞口への入賞順（遊技球の検出順）に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過（進入）における第2始動条件の成立に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された特図表示結果判定用の乱数値MR1や大当たり種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データなどを保留データとして、その数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。こうして第2特図保留記憶部107SG151Bに記憶された保留データは、第2特図を用いた特図ゲームの実行が保留されていることを示し、この特図ゲームにおける変動表示結果（特図表示結果）に基づき大当たりとなるか否かなどを判定可能にする保留情報となる。

40

【0222】

尚、第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）したことによる第1始動条件の成立に基づく保留情報（第1保留情報）と、第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）したことによる第2始動入賞の成立に基づく保留情報（第2保留情報）とを、共通の保留記憶部にて保留

50

番号と対応付けて記憶するようにしてもよい。この場合には、第1始動入賞口と第2始動入賞口のいずれを遊技球が通過（進入）したかを示す始動口データを保留情報に含め、保留番号と対応付けて記憶させればよい。

【0223】

普図保留記憶部107SG151Cは、通過ゲート107SG041を通過した遊技球がゲートスイッチ21によって検出されたにもかかわらず、未だ普通図柄表示器20により開始されていない普図ゲームの保留情報を記憶する。例えば、普図保留記憶部107SG151Cは、遊技球が通過ゲート107SG041を通過（入賞）した順に保留番号と対応付けて、その遊技球の通過に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された普図表示結果判定用の乱数値MR4を示す数値データなどを保留データとして、その数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。

10

【0224】

遊技制御フラグ設定部107SG152には、パチンコ遊技機1における遊技の進行状況などに応じて状態を更新可能な複数種類のフラグが設けられている。例えば、遊技制御フラグ設定部107SG152には、複数種類のフラグそれぞれについて、フラグの値を示すデータや、オン状態あるいはオフ状態を示すデータが記憶される。

【0225】

遊技制御タイマ設定部107SG153には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられる各種のタイマが設けられている。例えば、遊技制御タイマ設定部107SG153には、複数種類のタイマそれぞれにおけるタイマ値を示すデータが記憶される。

20

【0226】

遊技制御カウンタ設定部107SG154には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられるカウント値を計数するための複数種類のカウンタが設けられている。例えば、遊技制御カウンタ設定部107SG154には、複数種類のカウンタそれぞれにおけるカウント値を示すデータが記憶される。ここで、遊技制御カウンタ設定部107SG154には、遊技用乱数の一部または全部をCPU103がソフトウェアにより更新可能にカウントするためのランダムカウンタが設けられてもよい。

【0227】

遊技制御カウンタ設定部107SG154のランダムカウンタには、乱数回路104で生成されない乱数値、例えば、乱数値MR2～MR4を示す数値データが、ランダムカウント値として記憶され、CPU103によるソフトウェアの実行に応じて、定期的あるいは不定期に、各乱数値を示す数値データが更新される。CPU103がランダムカウント値を更新するために実行するソフトウェアは、ランダムカウント値を乱数回路104における数値データの更新動作とは別個に更新するためのものであってもよいし、乱数回路104から抽出された数値データの全部または一部にスクランブル処理や演算処理といった所定の処理を施すことによりランダムカウント値を更新するためのものであってもよい。

30

【0228】

遊技制御バッファ設定部107SG155には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられるデータを一時的に記憶する各種のバッファが設けられている。例えば、遊技制御バッファ設定部107SG155には、複数種類のバッファそれぞれにおけるバッファ値を示すデータが記憶される。

40

【0229】

図8-1に示す演出制御基板12に搭載されたRAM122には、演出動作を制御するために用いられる各種データを保持する領域として、例えば図8-9(A)に示すような演出制御用データ保持エリア107SG190が設けられている。図9(A)に示す演出制御用データ保持エリア107SG190は、演出制御フラグ設定部107SG191と、演出制御タイマ設定部107SG192と、演出制御カウンタ設定部107SG193と、演出制御バッファ設定部107SG194とを備えている。

【0230】

50

演出制御フラグ設定部 107SG191 には、例えば画像表示装置 5 の画面上における演出画像の表示状態などといった演出動作状態や主基板 11 から送信された演出制御コマンド等に応じて状態を更新可能な複数種類のフラグが設けられている。例えば、演出制御フラグ設定部 107SG191 には、複数種類のフラグそれぞれについて、フラグの値を示すデータや、オン状態あるいはオフ状態を示すデータが記憶される。

【0231】

演出制御タイマ設定部 107SG192 には、例えば画像表示装置 5 の画面上における演出画像の表示動作などといった各種演出動作の進行を制御するために用いられる複数種類のタイマが設けられている。例えば、演出制御タイマ設定部 107SG192 には、複数種類のタイマそれぞれにおけるタイマ値を示すデータが記憶される。

10

【0232】

演出制御カウンタ設定部 107SG193 には、各種演出動作の進行を制御するために用いられる複数種類のカウンタが設けられている。例えば、演出制御カウンタ設定部 107SG193 には、複数種類のカウンタそれぞれにおけるカウント値を示すデータが記憶される。

【0233】

演出制御バッファ設定部 107SG194 には、各種演出動作の進行を制御するために用いられるデータを一時的に記憶する各種のバッファが設けられている。例えば、演出制御バッファ設定部 107SG194 には、複数種類のバッファそれぞれにおけるバッファ値を示すデータが記憶される。

20

【0234】

本実施の形態の特徴部では、図 8-9 (B) に示すような始動入賞時受信コマンドバッファ 107SG194A を構成するデータが、演出制御バッファ設定部 107SG194 の所定領域に記憶される。始動入賞時受信コマンドバッファ 107SG194A には、第 1 特図保留記憶の合計保留記憶数の最大値（例えば「4」）に対応した格納領域（バッファ番号「1-1」～「1-4」に対応した領域）と、変動表示中の第 1 特図に対応した格納領域（バッファ番号「1-0」に対応した領域）とが設けられている。また、始動入賞時受信コマンドバッファ 107SG194A には、第 2 特図保留記憶の合計保留記憶数の最大値（例えば「4」）に対応した格納領域（バッファ番号「2-1」～「2-4」に対応した領域）と、変動表示中の第 2 特図に対応した格納領域（バッファ番号「2-0」に対応した領域）とが設けられている。第 1 始動入賞口や第 2 始動入賞口への始動入賞があったときには、始動口入賞指定コマンド（第 1 始動口入賞指定コマンドまたは第 2 始動口入賞指定コマンド）、図柄指定コマンド、変動カテゴリ指定コマンド及び保留記憶数通知コマンド（第 1 保留記憶数通知コマンドまたは第 2 保留記憶数通知コマンド）という 4 つのコマンドが 1 セットとして、主基板 11 から演出制御基板 12 へと送信される。始動入賞時受信コマンドバッファ 107SG194A における第 1 特図保留記憶に対応した格納領域と第 2 特図保留記憶に対応した格納領域は、これらの始動口入賞指定コマンド、図柄指定コマンド、変動カテゴリ指定コマンド、保留記憶数通知コマンドを対応付けて、第 1 特図保留記憶と第 2 特図保留記憶とに分けて格納するための格納領域（エントリ）が確保されている。

30

40

【0235】

これら格納領域（エントリ）の記憶内容は、開始条件が成立して最上位の保留記憶（バッファ番号「1-1」またはバッファ番号「2-1」）の変動表示が開始されるときに、後述するように 1 つずつ上位にシフトされていくとともに、該開始条件が成立した保留記憶の内容を格納するバッファ番号「1-0」またはバッファ番号「2-0」の記憶内容は、当該変動表示を終了するときに実行される飾り図柄変動停止処理においてクリアされるようになっている。

【0236】

更に、本実施の形態における特徴部の始動入賞時受信コマンドバッファ 107SG194A には、先読予告設定処理（図 7）において、先読予告としての保留表示予告演出の実

50

行の有無の決定に伴う表示パターンの決定が未決定であるか否か、つまり、新たな始動入賞の発生によって、始動口入賞指定コマンド、図柄指定コマンド、変動カテゴリ指定コマンド、保留記憶数通知コマンドが新たに格納されたことにより表示パターンの決定が未決定である旨を示す表示未決定フラグと、保留記憶表示の表示パターン（表示態様）に応じたフラグ値がセットされる保留表示フラグと、を第1特図保留記憶及び第2特図保留記憶に対応する各バッファ番号に対応付けて格納できるように記憶領域が、各格納領域（エントリ）毎に確保されている。

【0237】

尚、保留表示フラグには、先読予告設定処理（図7）において、において、保留表示予告演出の実行が決定されなかった場合には、通常の保留記憶表示の表示パターンに対応する「0」が格納されることで、通常の表示態様（例えば、白抜き○）の保留記憶表示が第1保留記憶表示エリア5D、第2保留記憶表示エリア5Uに表示され、保留表示予告演出の実行が決定された場合には、通常の表示態様とは異なる特別態様（例えば、四角形（◇）や星（☆））の保留記憶表示の表示パターンに対応する「1」（四角形（◇））または「2」（星（☆））がセットされることで、通常の表示態様とは異なる特別態様の保留記憶表示が第1保留記憶表示エリア5D、第2保留記憶表示エリア5Uに表示されて、該保留記憶表示に対応する変動表示において、大当たりとなる可能性やスーパーリーチとなる可能性が高いことが予告されるようになっている。

【0238】

演出制御用CPU120は、第1始動入賞口への始動入賞時には、コマンドを始動入賞時受信コマンドバッファ107SG194Aの第1特図保留記憶に対応する空きエントリにおける先頭（バッファ番号の最も若いエントリ）から格納していき、第2始動入賞口への始動入賞時には、コマンドを始動入賞時受信コマンドバッファ107SG194Aの第2特図保留記憶に対応する空きエントリにおける先頭（バッファ番号の最も若いエントリ）から格納していく。始動入賞時には、始動口入賞指定コマンドから保留記憶数通知コマンドまでが順次送信される。従って、コマンド受信が行われれば、第1特図保留記憶または第2特図保留記憶に対応するバッファ番号の末尾「1」～「4」のそれぞれに対応する格納領域に、始動口入賞指定コマンド、図柄指定コマンド、変動カテゴリ指定コマンド、保留記憶数通知コマンドの順に格納されていくことになる。

【0239】

図8-9（B）に示す始動入賞時受信コマンドバッファ107SG194Aに格納されているコマンドは、飾り図柄の変動表示を開始するごとに、直前に終了した変動表示の保留記憶に対応したエントリ（バッファ番号「1-0」または「2-0」のエントリ）に格納されているものが削除されるとともに、該開始する変動表示の保留記憶に対応したエントリ（バッファ番号「1-1」または「2-1」に対応したエントリ）に格納されているものと、該開始する変動表示の保留記憶以降のエントリの記憶内容がシフトされる。例えば図8-9（B）に示す格納状態において第1特図保留記憶の飾り図柄の変動表示が終了した場合には、バッファ番号「0」に格納されている各コマンドが削除され、バッファ番号「1」に格納されている各コマンドがバッファ番号「0」にシフトされるとともに、バッファ番号「2」に対応した領域にて格納されている各コマンドがバッファ番号「1」に対応した領域にシフトされ、バッファ番号「3」、「4」のそれぞれに対応した領域にて格納されている各コマンドが、バッファ番号「2」、「3」に対応した領域にシフトされる。よって、バッファ番号「0」は、その時点において変動表示されている保留記憶に関する各コマンドを格納するための領域（エントリ）となる。

【0240】

次に、本実施の形態の特徴部における遊技制御用タイマ割込み処理について説明する。図8-10に示すように、CPU103は、遊技制御用タイマ割込み処理において先ず電源断検出処理（107SGS020）を実行した後、スイッチ処理（S21）～コマンド制御処理（S27）の処理を実行する。図8-11に示すように、電源断検出処理において、CPU103は、先ず、電源基板（図示略）からの電源電圧が所定値以下に低下した

ことを示す電源断信号の入力が有るか否かを判定する（107SGS051）。電源断信号の入力が無い場合は（107SGS051；N）、処理を終了し、電源断信号の入力が有る場合は（107SGS051；Y）、バックアップデータを特定し（107SGS053）、該特定したバックアップデータをRAM102に設けられたバックアップデータ記憶領域に格納する（107SGS053）。そして、バックアップデータを復旧させるときに用いるチェックデータを作成し、バックアップデータ記憶領域に格納した後（107SGS054）、パチンコ遊技機1が電断するまでいずれの処理も実行しないループ処理に移行する。

【0241】

次に、本実施の形態における特徴部のメイン側エラー処理（S22、図4参照）について説明する。8-12に示すように、メイン側エラー処理においてCPU103は、先ず、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23、磁気センサ107SG060、電波センサ107SG070、扉開放センサ107SG090、大入賞口扉センサ107SG091、満タンセンサ107SG093、球切れセンサ107SG094、コントローラセンサユニット35A等の検出状況を参照し、異常が発生しているか否かを判定する異常判定処理を実行し（107SG40）、異常が発生していると判定した場合には、該判定した異常を特定する（107SGS403）。

【0242】

例えば、図8-15に示すように、CPU103は、電波センサ107SG070が所定の電波を検出したことにもとづいて電波エラーの発生を特定し、磁気センサ107SG060が所定の強さ以上の磁気を検出したことにもとづいて磁気エラーの発生を特定し、特別可変入賞球装置7が大当り遊技中や小当り遊技中以外で開放している、つまり、大入賞口扉センサ107SG091が大当り遊技中や小当り遊技中以外で大入賞口扉の開放を検出したことにもとづいて遊技球誘導蓋作動エラーの発生を特定し、低ベース状態において第2始動入賞が発生したこと（低ベース状態において第2始動口スイッチ22Bが遊技球を検出したこと）にもとづいて始動口2異常入賞エラーが発生したことを特定し、コントローラセンサユニット35Aがスティックコントローラ31Aの操作を検出できないこと等の異常を検出したことにもとづいてコントローラ接続エラーの発生を特定し、扉開放センサ107SG090が遊技機用枠3の開放を検出したことにもとづいてドア開放エラーが発生したことを特定し、球切れセンサ107SG094が補給球が切れたことを検出したことにもとづいて球切れエラーが発生したことを特定する。

【0243】

これらエラーには優先順位が設定されており、複数のエラーが重複して発生した場合には、詳細は後述するが、原則的に該優先順位の最も高いエラーのみが報知されるようになっている。これらエラーのうち優先順位が上位3位以内のエラー（電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー）は、発生した時点で遊技が停止するエラー（遊技停止エラー）である。これら遊技停止エラーが発生した場合は、パチンコ遊技機1の電源を一旦OFFにした後、パチンコ遊技機1に再び電源を投入する（パチンコ遊技機1を再起動させる）ことによって遊技停止エラーが解除される。つまり、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラーの解除条件は、パチンコ遊技機1の電源をOFFとすることである。

【0244】

これら優先順位が上位3位以内のエラー（遊技停止エラー）が発生した場合は、ターミナル基板16からパチンコ遊技機1が設置されている遊技場に設けられている管理コンピュータや各台計数機等の管理装置に対して、ターミナル基板16からセキュリティ信号が出力される。尚、この場合のセキュリティ信号は、遊技停止エラーが発生してからパチンコ遊技機1の電源がOFFとなるまでと、パチンコ遊技機1に電源が再投入されてから4分間に亘って管理装置に対して出力される。

【0245】

尚、これらエラーのうち優先順位が4位以下のエラーについては、発生するエラー毎に解除条件とセキュリティ信号の出力態様が異なっている。具体的には、始動口2異常入賞

エラーが発生した場合は、発生から300秒の経過にもとづいて該始動口2異常入賞エラーが解除され、発生から4分間に亘ってセキュリティ信号の出力が行われる。不正入賞エラーが発生した場合は、発生から30秒の経過にもとづいて該不正入賞エラーが解除され、発生からパチンコ遊技機1の電源がOFFとなるまでと、パチンコ遊技機1に電源が再投入されてから4分間に亘ってセキュリティ信号の出力が行われる。コントローラ接続エラーが発生した場合は、発生から60秒の経過にもとづいて該コントローラ接続エラーが解除され、発生からパチンコ遊技機1の電源がOFFとなるまでと、パチンコ遊技機1に電源が再投入されてから4分間に亘ってセキュリティ信号の出力が行われる。ドア開放エラーが発生した場合は、ドア（遊技機用枠3）の閉鎖にもとづいて該ドア開放エラーが解除され、セキュリティ信号の出力は行われない。球切れエラーが発生した場合は、該球切れエラーの解除（補給球が供給されたこと）にもとづいて該球切れエラーが解除され、セキュリティ信号の出力は行われない。

10

【0246】

図8-12に戻り、CPU103は、判定した異常が遊技停止該当エラーであるか否か、つまり、判定したエラーが図8-15に示す電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラーのいずれかであるか否かを判定する（107SGS404）。判定した異常が遊技停止該当エラーでない場合（107SGS404；N）は107SGS407に進み、判定した異常が遊技停止該当エラーである場合（107SGS404；Y）は、既に遊技が停止されていることを示す遊技停止フラグがセットされているか否かを判定する（107SGS405）。遊技停止フラグがセットされている場合（107SGS405；Y）は107SGS407に進み、遊技停止フラグがセットされていない場合（107SGS405；N）は、遊技球の発射を禁止することによって遊技を停止し、遊技停止フラグをセットして107SGS407に進む（107SGS406）。

20

【0247】

107SGS407においてCPU103は、107SGS403において特定した異常に電波エラーが含まれているか否かを判定する。特定した異常に電波エラーが含まれていない場合（107SGS407；N）は107SGS410に進み、特定した異常に電波エラーが含まれている場合（107SGS407；Y）は、既に電波エラーが発生していることを示す電波エラーフラグがセットされているか否かを判定する（107SGS408）。電波エラーフラグがセットされている場合（107SGS408；Y）は107SGS410に進み、電波エラーフラグがセットされていない場合（107SGS408；N）は、電波エラーをエラー指定コマンドの出力対象エラーとして特定し、電波エラーフラグをセットして107SGS410に進む（107SGS409）。

30

【0248】

107SGS410においてCPU103は、107SGS403において特定した異常に磁石エラーが含まれているか否かを判定する。特定した異常に磁石エラーが含まれていない場合（107SGS410；N）は107SGS413に進み、特定した異常に磁石エラーが含まれている場合（107SGS410；Y）は、既に磁石エラーが発生していることを示す磁石エラーフラグがセットされているか否かを判定する（107SGS411）。磁石エラーフラグがセットされている場合（107SGS411；Y）は107SGS413に進み、磁石エラーフラグがセットされていない場合（107SGS411；N）は、磁石エラーをエラー指定コマンドの出力対象エラーとして特定し、磁石エラーフラグをセットして107SGS413に進む（107SGS412）。

40

【0249】

107SGS413においてCPU103は、107SGS403において特定した異常に遊技球誘導蓋作動エラーが含まれているか否かを判定する。特定した異常に遊技球誘導蓋作動エラーが含まれていない場合（107SGS413；N）は107SGS416に進み、特定した異常に遊技球誘導蓋作動エラーが含まれている場合（107SGS413；Y）は、既に遊技球誘導蓋作動エラーが発生していることを示す遊技球誘導蓋作動エラーフラグがセットされているか否かを判定する（107SGS414）。遊技球誘導蓋

50

作動エラーフラグがセットされている場合（107SGS414；Y）は107SGS416に進み、遊技球誘導蓋作動エラーフラグがセットされていない場合（107SGS414；N）は、遊技球誘導蓋作動エラーをエラー指定コマンドの出力対象エラーとして特定し、遊技球誘導蓋作動エラーフラグをセットして107SGS416に進む（107SGS415）。

【0250】

107SGS416においてCPU103は、始動口2入賞異常エラーの解除タイミングまでの期間を示す始動口2入賞異常エラー解除タイマの動作中であるか否かを判定する。始動口2入賞異常エラー解除タイマの動作中でない場合（107SGS416；N）は、更に107SGS403において特定した異常に始動口2入賞異常エラーが含まれているか否かを判定する（107SGS417）。始動口2入賞異常エラーが含まれていない場合（107SGS417；N）は107SGS422に進み、始動口2入賞異常エラーが含まれている場合（107SGS417；Y）は、始動口2入賞異常エラーをエラー指定コマンドの出力対象エラーとして特定し、始動口2入賞異常エラー解除タイマをセットして107SGS422に進む（107SGS418）。

【0251】

また、始動口2入賞異常エラー解除タイマの動作中である場合（107SGS416；Y）は、該始動口2入賞異常エラー解除タイマの値を-1し（107SGS419）、始動口2入賞異常エラー解除タイマがタイマアウトしたか否かを判定する（107SGS420）。始動口2入賞異常エラー解除タイマがタイマアウトしていない場合（107SGS420；N）は107SGS422に進み、始動口2入賞異常エラー解除タイマがタイマアウトした場合（107SGS420；Y）は、始動口入賞異常エラー解除タイマをクリアして107SGS422に進む（107SGS421）。

【0252】

107SGS422においてCPU103は、不正入賞エラーの解除タイミングまでの期間を示す不正入賞エラー解除タイマの動作中であるか否かを判定する。不正入賞エラー解除タイマの動作中でない場合（107SGS422；N）は、更に、107SGS403において特定した異常に不正入賞エラーが含まれているか否かを判定する（107SGS423）。不正入賞エラーが含まれていない場合（107SGS423；N）は107SGS428に進み、不正入賞エラーが含まれている場合（107SGS423；Y）は、不正入賞エラーをエラー指定コマンドの出力対象エラーとして特定し、不正入賞エラー解除タイマをセットして107SGS428に進む（107SGS424）。

【0253】

また、不正入賞エラー解除タイマが動作中である場合（107SGS422；Y）は、不正入賞エラー解除タイマの値を-1し（107SGS425）、不正入賞エラー解除タイマがタイマアウトしたか否かを判定する（107SGS426）。不正入賞エラー解除タイマがタイマアウトしていない場合（107SGS426；N）は107SGS428に進み、不正入賞エラー解除タイマがタイマアウトした場合（107SGS426；Y）は、不正入賞エラー解除タイマをクリアして107SGS428に進む。

【0254】

107SGS428においてCPU103は、コントローラ接続エラーの解除タイミングまでの期間を示すコントローラ接続エラー解除タイマが動作中であるか否かを判定する。コントローラ接続エラー解除タイマが動作中でない場合（107SGS428；N）は、107SGS403において特定した異常にコントローラ接続エラーが含まれているか否かを判定する（107SGS429）。コントローラ接続エラーが含まれていない場合（107SGS429；N）は107SGS434に進み、コントローラ接続エラーが含まれている場合（107SGS429；Y）は、コントローラ接続エラーをエラー指定コマンドの出力エラーとして特定し、コントローラ接続エラー解除タイマをセットして107SGS434に進む（107SGS430）。

【0255】

また、コントローラ接続エラー解除タイマが動作中である場合（107SGS428；Y）は、コントローラ接続エラー解除タイマの値を－1し（107SGS431）、コントローラ接続エラー解除タイマがタイマアウトしたか否かを判定する（107SGS432）。コントローラ接続エラー解除タイマがタイマアウトしていない場合（107SGS432；N）は107SGS434に進み、コントローラ接続エラー解除タイマがタイマアウトした場合（107SGS432；Y）は、コントローラ接続エラー解除タイマをクリアして107SGS434に進む（107SGS433）。

【0256】

107SGS434においてCPU103は、107SGS403において特定した異常にドア開放エラーが含まれているか否かを判定する。ドア開放エラーが含まれている場合（107SGS434；Y）は、既にドア開放エラーを検出していることを示すドア開放エラーフラグがセットされているか否かを判定する（107SGS435）。ドア開放エラーフラグがセットされている場合（107SGS435；Y）は107SGS439に進み、ドア開放エラーフラグがセットされていない場合（107SGS435；N）は、ドア開放エラーをエラー指定コマンドの出力対象エラーとして特定し、ドア開放エラーフラグをセットして107SGS439に進む（107SGS436）。

【0257】

また、判定した異常にドア開放エラーフラグがセットされていない場合（107SGS434；N）は、ドア開放エラーフラグがセットされているか否かを判定する（107SGS437）。ドア開放エラーフラグがセットされていない場合（107SGS437；N）は107SGS439に進み、ドア開放エラーフラグがセットされている場合（107SGS437；Y）は、ドア開放エラーフラグをクリアして107SGS439に進む（107SGS438）。

【0258】

107SGS439においてCPU103は、107SGS403において特定した異常に球切れエラーが含まれているか否かを判定する。球切れエラーが含まれている場合（107SGS439；Y）は、既に球切れエラーを検出していることを示す球切れエラーフラグがセットされているか否かを判定する（107SGS440）。球切れエラーフラグがセットされている場合（107SGS440；Y）は107SGS444に進み、球切れエラーフラグがセットされていない場合（107SGS440；N）は、球切れエラーをエラー指定コマンドの出力対象として特定し、球切れエラーフラグをセットして107SGS444に進む（107SGS441）。

【0259】

また、特定した異常に球切れエラーが含まれていない場合（107SGS439；N）は、球切れエラーフラグがセットされているか否かを判定する（107SGS442）。球切れエラーフラグがセットされていない場合（107SGS442；N）は107SGS444に進み、球切れエラーフラグがセットされている場合（107SGS442；Y）は、球切れエラーフラグをクリアして107SGS444に進む（107SGS443）。

【0260】

そして、107SGS444においてCPU103は、エラー指定コマンドの出力対象として特定したエラーが有るか否かを判定する。エラー指定コマンドの出力対象として特定したエラーが無い場合（107SGS444；N）は、メイン側エラー処理を終了し、エラー指定コマンドの出力対象として特定したエラーが有る場合（107SGS444；Y）は、エラー指定コマンドの出力対象として特定したエラーに応じたエラー指定コマンドの送信設定を行うとともに（107SGS445）、エラー指定コマンドの出力対象として特定したエラーに応じたセキュリティ信号の出力設定を行ってメイン側エラー処理を終了する（107SGS446）。尚、エラー指定コマンドは、CPU103がコマンド制御処理（図4参照）を実行することによって演出制御基板12に対して送信される。

【0261】

尚、本実施の形態の特徴部におけるエラー指定コマンドは、図8-14(A)に示すように、8ビットの2進数によって構成されている。このようなエラー指定コマンドでは、図8-14(A)に示すように、メイン側エラー処理において特定したエラーが1つのみである場合は、該エラーに対応する1つの桁のみが「1」にセットされる。つまり、メイン側エラー処理において特定したエラーが球切れエラーのみである場合は、エラー指定コマンドとして「00000001」が演出制御基板12に対して送信され、メイン側エラー処理において特定したエラーがコントローラ接続エラーのみである場合は、コントローラ接続として「00000010」が演出制御基板12に対して送信される。

【0262】

一方で、図8-14(B)に示すように、メイン側エラー処理において特定したエラーが複数である場合は、各エラーに対応する桁全てが「1」にセットされる。つまり、メイン側エラー処理において特定したエラーが球切れエラーとコントローラ接続エラーの2つである場合は、エラー指定コマンドとして「00000011」が演出制御基板12に対して送信され、メイン側エラー処理において特定したエラーが電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー、始動口2異常入賞エラー、不正入賞エラー、コントローラ接続エラー、ドア開放エラー、球切れエラー（全てのエラー）である場合は、エラー指定コマンドとして「11111111」が演出制御基板12に対して送信されるようになっている。

【0263】

尚、本実施の形態の特徴部におけるエラー指定コマンドは、実際には、該エラー指定コマンドの上位にエラーであることを示すヘッダ（例えば「11111111」を示すデータ）が付与された状態で演出制御基板12に対して送信されるようになっている。このため、本実施の形態の特徴部においては、1のエラー指定コマンドにおいて最大で8個までのエラーの発生を演出制御基板12に対して通知することが可能となっているが、エラー指定コマンドに付与されるヘッダを複数設けることで、エラー指定コマンドにおいて演出制御基板12に対して通知することが可能なエラー数を増加させてもよい。

【0264】

また、本実施の形態の特徴部では、異常判定処理において異常（エラー）が特定された場合、これら特定されたエラー内に既にエラー指定コマンドを用いて演出制御基板12に対して出力されたエラーが存在していても、該出力済のエラーを含めたエラー指定コマンドを演出制御基板12に対して改めて出力する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、異常判定処理において既にエラー指定コマンドによって演出制御基板12に対して出力されたエラーが存在する場合は、該出力済のエラーを除いたエラー指定コマンドを演出制御基板12に対して出力してもよい。

【0265】

図8-16は、特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。特別図柄プロセス処理においてCPU103は、先ず、遊技停止フラグがセットされているか否かを判定する（107SGS091）。遊技停止フラグがセットされている場合（107SGS091；Y）は、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにおいて特別図柄が点灯中であるか否かを判定する（107SGS092）。尚、特別図柄の点灯中とは、特別図柄の変動表示中や、特別図柄が「ハズレ」や「大当たり」、「小当たり」の組み合わせで導出表示されている状態を含んでいる。

【0266】

特別図柄の点灯中である場合（107SGS092；Y）は、これら特別図柄を消灯して107SGS094に進み（107SGS093）、特別図柄が既に消灯している場合（107SGS092；N）は、107SGS093を経由せずに107SGS094に進む。

【0267】

107SGS094においてCPU103は、大入賞口が開放中であるか否かを判定する。尚、大入賞口が開放中であるか否かは、ソレノイド82がONであるか否か、大入賞口扉センサ107SG091が大入賞口の開放を検出中であるか否か等によって判定すれ

ばよい。大入賞口が開放中である場合（107SGS094：Y）は、ソレノイド82をOFFとすることによって大入賞口を閉鎖して特別図柄プロセス処理を終了し（107SGS095）、大入賞口が閉鎖中、あるいは既に閉鎖した後（107SGS094；N）は、107SGS095を経由せずに特別図柄プロセス処理を終了する。尚、遊技停止フラグがセットされていない場合は、図5に示すS101の処理を実行した後、特図プロセスフラグの値に応じてS110～S120のいずれかの処理を実行する。

【0268】

以上のように本実施の形態の特徴部2においては、遊技停止フラグがセットされた場合、つまり、電波エラー、磁石エラー遊技球誘導蓋入賞エラー等の遊技停止エラーが発生した場合は、前述したように遊技球の発射が禁止されるとともに、特別図柄の消灯と大入賞口の閉鎖が行われる。更に、S110～S120の処理が実行されることがなくなることによって、特別図柄の変動表示や大当り遊技、小当り遊技等が中断される。

10

【0269】

図8-17は、特別図柄通常処理として、図5のS110にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図8-17に示す特別図柄通常処理において、CPU103は、まず、第2特図保留記憶数が「0」であるか否かを判定する（107SGS141）。第2特図保留記憶数は、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である。例えば、107SGS141の処理では、遊技制御カウンタ設定部107SG154に記憶されている第2保留記憶数カウント値を読み出し、その読出値が「0」であるか否かを判定すればよい。

20

【0270】

107SGS141にて第2特図保留記憶数が「0」以外であるときには（107SGS141；N）、第2特図保留記憶部107SG151Bにて保留番号「1」に対応して記憶されている保留データとして、特図表示結果判定用の乱数値MR1、大当り種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データをそれぞれ読み出す（107SGS142）。このとき読み出された数値データは、例えば変動用乱数バッファなどに格納されて、一時記憶されればよい。

【0271】

107SGS142の処理に続いて、第2特図保留記憶数カウント値や合計保留記憶数カウント値を1減算して更新することなどにより、第2特図保留記憶数と合計保留記憶数を1減算させるように更新するとともに、第2特図保留記憶部107SG151Bのデータを更新する。具体的には、第2特図保留記憶部107SG151Bにて保留番号「1」より下位のエントリ（例えば保留番号「2」～「4」に対応するエントリ）に記憶された乱数値MR1～MR3を示す保留データを、1エントリずつ上位にシフトする（107SGS143）。

30

【0272】

その後、変動特図指定バッファの格納値である変動特図指定バッファ値を「2」に更新した後（107SGS144）、107SGS149に移行する。

【0273】

一方、107SGS141にて第2特図保留記憶数が「0」であるときには（107SGS141；Y）、第1特図保留記憶数が「0」であるか否かを判定する（107SGS145）。第1特図保留記憶数は、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である。例えば、107SGS145の処理では、遊技制御カウンタ設定部154にて第1保留記憶数カウンタが記憶する第1保留記憶数カウント値を読み出し、その読出値が「0」であるか否かを判定すればよい。このように、107SGS145の処理は、107SGS141にて第2特図保留記憶数が「0」であると判定されたときに実行されて、第1特図保留記憶数が「0」であるか否かを判定する。これにより、第2特図を用いた特図ゲームは、第1特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行が開始されることになる。

40

【0274】

50

尚、第2特図を用いた特図ゲームが第1特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行されるものに限定されず、例えば第1始動入賞口や第2始動入賞口を遊技球が進入（通過）して始動入賞が発生した順に、特図ゲームの実行が開始されるようにしてもよい。この場合には、始動入賞が発生した順番を特定可能なデータを記憶するテーブルを設けて、その記憶データから第1特図と第2特図のいずれを用いた特図ゲームの実行を開始するかを決定できればよい。

【0275】

107SGS145にて第1特図保留記憶数が「0」以外であるときには（107SGS145；N）、第1特図保留記憶部107SG151Aにて保留番号「1」に対応して記憶されている保留データとして、特図表示結果判定用の乱数値MR1、大当り種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データをそれぞれ読み出す（107SGS146）。このとき読み出された数値データは、例えば変動用乱数バッファなどに格納されて、一時記憶されればよい。

10

【0276】

107SGS146の処理に続いて、第1特図保留記憶数カウント値や合計保留記憶数カウント値を1減算して更新することなどにより、第1特図保留記憶数と合計保留記憶数を1減算させるように更新するとともに、第1特図保留記憶部107SG151Aのデータを更新する。具体的には、第1特図保留記憶部107SG151Aにて保留番号「1」より下位のエントリ（例えば保留番号「2」～「4」に対応するエントリ）に記憶された乱数値MR1～MR3を示す保留データを、1エントリずつ上位にシフトする（107SGS147）。

20

【0277】

その後、変動特図指定バッファの格納値である変動特図指定バッファ値を「1」に更新した後（107SGS148）、107SGS149に移行する。

【0278】

107SGS149においては、特別図柄の変動表示結果である特図表示結果を「大当り」と「ハズレ」のいずれとするかを決定するための使用テーブルとして、変動特図指定バッファの値に応じて図8-6に示す表示結果判定テーブルのどちらかを選択してセットする。例えば、変動特図指定バッファの値が「1」である場合は、図8-6（A）に示す表示結果判定テーブル1を選択し、変動特図指定バッファの値が「2」である場合は、図8-6（B）に示す表示結果判定テーブル2を選択する。続いて、変動用乱数バッファに格納された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データを、選択した表示結果判定テーブルと比較し、変動用乱数バッファに格納された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データが大当りの範囲に該当するか否かを判定する（107SGS150a）。尚、この107SGS150aにおいては、その時点の遊技状態が、確変フラグがセットされている高確状態であれば、特図表示結果判定用の乱数値MR1が10000～12180の範囲に該当すれば「大当り」と判定する。また、確変フラグがセットされていない低確状態であれば、特図表示結果判定用の乱数値MR1が1～219の範囲に該当すれば「大当り」と判定し、該当しなければ「ハズレ」と判定する。

30

【0279】

このように、107SGS150で選択される特図表示結果判定テーブルにおいては、その時点の遊技状態（高確、低確）に対応して異なる判定値が「大当り」に割り当てられていることから、107SGS150aの処理では、特図ゲームなどの変動表示が開始されときの遊技状態が高確状態であるか否かに応じて、異なる判定用データ（判定値）を用いて特図表示結果を「大当り」とするか否かが決定されることで、遊技状態が高確状態である場合には、低確状態である場合よりも高確率で「大当り」と判定される。

40

【0280】

変動用乱数バッファに格納された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データが大当りの範囲に該当する場合（107SGS150a；Y）は、遊技制御フラグ設定部107SG152に設けられた大当りフラグをオン状態にセットする（107SGS15

50

2)。このときには、大当り種別を複数種類のいずれかに決定するための使用テーブルとして、図8-7(A)に示す大当り種別判定テーブルを選択してセットする(107SGS153)。こうしてセットされた大当り種別判定テーブルを参照することにより、変動用乱数バッファに格納された大当り種別判定用の乱数値MR2を示す数値データと、大当り種別判定テーブルにおいて「非確変」、「確変A」、「確変B」、「確変C」の各大当り種別に割り当てられた判定値のいずれと合致するかに応じて、大当り種別を複数種類のいずれとするかを決定する(107SGS154)。

【0281】

107SGS154の処理にて大当り種別を決定することにより、大当り遊技状態の終了後における遊技状態を、時短状態と、時短状態よりも遊技者にとって有利度が高い確変状態とのうち、いずれの遊技状態に制御するかが、変動表示結果としての確定特別図柄が導出される以前に決定されることになる。こうして決定された大当り種別に対応して、例えば遊技制御バッファ設定部107SG155に設けられた大当り種別バッファの格納値である大当り種別バッファ値を設定することなどにより(107SGS155)、決定された大当り種別を記憶する。一例として、大当り種別が非確変大当りに対応する「非確変」であれば大当り種別バッファ値を「0」とし、確変大当りAに対応する「確変A」であれば「1」とし、確変大当りBに対応する「確変B」であれば「2」とし、確変大当りCに対応する「確変C」であれば「3」とすればよい。そして、107SGS156に進む。

【0282】

一方、107SGS150aにて変動用乱数バッファに格納された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データが大当りの範囲に該当しない場合(107SGS150a;N)は、変動用乱数バッファに格納された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データが小当りの範囲に該当するか否かを判定する(107SGS150c)。尚、この107SGS150cにおいては、その時点の遊技状態が、通常状態、時短状態、確変状態のいずれであるかにかかわらず、表示結果判定テーブル1が選択されている場合は、特図表示結果判定用の乱数値MR1が54000~54651の範囲に該当すれば「小当り」と判定し、該当しなければ「ハズレ」と判定する。尚、表示結果判定テーブル2が選択されている場合は、該表示結果判定テーブル2において小当りに判定値が割り当てられていないので、「ハズレ」と判定する。

【0283】

変動用乱数バッファに格納された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データが小当りの範囲に該当する場合(107SGS150c;Y)は、小当りフラグをセットして107SGS156に進む(107SGS151)。また、変動用乱数バッファに格納された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データが小当りの範囲に該当しない場合(107SGS150c;N)、つまり、「ハズレ」と判定した場合は、107SGS151を経由せずに107SGS156に進む。

【0284】

1907SGS156においては、大当り遊技状態に制御するか否か(大当りフラグがセットされているか否か)や小当り遊技状態に制御するか否か(小当りフラグがセットされているか否か)の事前決定結果、更には、大当り遊技状態とする場合における大当り種別の決定結果に対応して、確定特別図柄を設定する。一例として、特図表示結果を「ハズレ」とする旨の事前決定結果に対応して、ハズレ図柄となる「一」の記号を示す特別図柄を、確定特別図柄に設定する。また、107SGSS150aにて特図表示結果が「大当り」とであると判定された場合には、107SGSS154における大当り種別の決定結果に応じて、大当り図柄となる「1」、「3」、「5」、「7」の数字を示す特別図柄のいずれかを、確定特別図柄に設定する。即ち、大当り種別を「非確変」とする決定結果に応じて「1」の数字を示す特別図柄を、確定特別図柄に設定する。また、大当り種別を「確変A」とする決定結果に応じて「7」の数字を示す特別図柄を確定特別図柄に設定し、大当り種別を「確変B」とする決定結果に応じて「5」の数字を示す特別図柄を確定特別図

柄に設定し、大当り種別を「確変C」とする決定結果に応じて「3」の数字を示す特別図柄を確定特別図柄に設定する。また、107SGS150cにて特図表示結果が「小当り」と判定された場合には、小当り図柄となる「2」の数字を住めす特別図柄を、確定特別図柄に設定する。

【0285】

107SGS156にて確定特別図柄を設定した後は、特図プロセスフラグの値を変動パターン設定処理に対応した値である“1”に更新してから(107SGS157)、特別図柄通常処理を終了する。

【0286】

尚、107SGS145にて第1特図を用いた特図ゲームの保留記憶数が「0」である場合には(107SGS145;Y)、所定のデモ表示設定を行ってから(107SGS158)、特別図柄通常処理を終了する。このデモ表示設定では、例えば画像表示装置5において所定の演出画像を表示することなどによるデモンストレーション表示(デモ画面表示)を指定する演出制御コマンド(客待ちデモ指定コマンド)が、主基板11から演出制御基板12に対して送信済みであるか否かを判定する。このとき、既に、客待ちデモ指定コマンドを送信済みであれば、そのままデモ表示設定を終了する。これに対して、未送信であれば、客待ちデモ指定コマンドを送信するための設定を行ってから、デモ表示設定を終了する。

【0287】

図8-18は、特別図柄停止処理として、図5のS113にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。特別図柄停止処理において、CPU103は、S112の特別図柄変動処理で参照される終了フラグをセットして特別図柄の変動を終了させ、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bに停止図柄を導出表示する制御を行う(107SGS181)。尚、変動特図指定バッファ値が第1特図を示す「1」である場合には、第1特別図柄表示装置4Aでの第1特別図柄の変動を終了させ、変動特図指定バッファ値が第2特図を示す「2」である場合には、第2特別図柄表示装置4Bでの第2特別図柄の変動を終了させる。また、演出制御基板12に図柄確定コマンドを送信する制御を行う(107SGS182)。そして、大当りフラグがセットされているか否かを判定し(107SGS183)、大当りフラグがセットされていない場合(107SGS183;N)には、107SGS183に移行する。

【0288】

一方、大当りフラグがセットされている場合(107SGS183;Y)には、CPU103は、確変フラグや時短フラグがセットされていれば、確変フラグ及び時短フラグをクリアし(107SGS184)、演出制御基板12に、記憶されている大当りの種別に応じて当り開始1指定コマンド(確変A)、当り開始2指定コマンド(確変B)、当り開始指定コマンド(確変C)、当り開始4指定コマンド(非確変)を送信するための設定を行う(107SGS185)。

【0289】

更にCPU103は、演出制御基板12に通常状態を示す遊技状態指定コマンドを送信するための設定を行う(107SGS186)。

【0290】

そして、大当り表示時間タイマに大当り表示時間(大当りが発生したことを、例えば、画像表示装置5において報知する時間)に相当する値を設定する(107SGS187)。また、大入賞口開放回数カウンタに開放回数(例えば、非確変大当りや確変大当りAの場合には16回、確変大当りBの場合には5回、確変大当りCの場合には2回)をセットする(107SGS188)。そして、特別図柄プロセスフラグの値を大当り開放前処理(S114)に対応した値である“4”に更新する(107SGS189)。

【0291】

一方、107SGS183においてCPU103は、小当りフラグがセットされているか否かを判定する。小当りフラグがセットされている場合(107SGS183;Y)は

10

20

30

40

50

、演出制御基板 12 に、当り開始 5 指定コマンド（小当り）を送信するための設定を行う（107SGS190a）。

【0292】

そして、小当り表示時間タイマに大当り表示時間（小当りが発生したことを、例えば、画像表示装置 5 において報知する時間）に相当する値を設定する（107SGS190b）。また、大入賞口開放回数カウンタに開放回数（例えば、2 回）をセットする（107SGS190c）。そして、特別図柄プロセスフラグの値を小当り開放前処理（S118）に対応した値である“4”に更新する（107SGS189）。

【0293】

一方、107SGS190 において CPU103 は、時短回数カウンタの値が「0」であるか否かを判定する。時短回数カウンタの値が「0」である場合（107SGS190；Y）には、107SGS196 に進む。

【0294】

一方、時短回数カウンタの値が「0」でない場合（107SGS190；N）、つまり、時短回数が残存している高ベース状態である場合には、該時短回数カウンタの値を-1 する（107SGS191）。そして、減算後の時短回数カウンタの値が「0」であるか否かを判定し（107SGS193）、「0」でない場合（107SGS193；N）には 107SGS196 に進み、時短回数カウンタの値が「0」である場合（107SGS193；Y）には、時短制御を終了させるために、時短フラグをクリアした後（107SG107SGS194）、確変フラグまたは時短フラグのセット状態に対応した遊技状態（具体的には低確低ベース）に対応した遊技状態指定コマンドの送信設定を行った後（107SGS195）、107SGS196 に進む。

【0295】

107SGS196 では、特図プロセスフラグの値を特別図柄通常処理に対応した値である“0”に更新してから、当該特別図柄停止処理を終了する。

【0296】

図 8-19 は、大当り終了処理として、図 5 の S117 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。

【0297】

大当り終了処理において、CPU103 は、大当り終了表示タイマが動作中、つまりタイマカウント中であるか否かを判定する（107SGS201）。大当り終了表示タイマが動作中でない場合（107SGS201；N）には、大当り終了表示タイマに、画像表示装置 5 において大当り終了表示を行う時間（大当り終了表示時間）に対応する表示時間に相当する値を設定し（107SGS202）、大当り終了処理を終了する。

【0298】

一方、大当り終了表示タイマが動作中である場合（107SGS201；Y）には、大当り終了表示タイマの値を 1 減算する（107SGS203）。そして、CPU103 は、大当り終了表示タイマの値が 0 になっているか否か、即ち、大当り終了表示時間が経過したか否か確認する（107SGS204）。経過していなければ処理を終了する。

【0299】

大当り終了表示時間が経過していない場合（107SGS204；N）は、大当り終了処理を終了し、大当り終了表示時間を経過していれば（107SGS204；Y）、CPU103 は、記憶されている大当り種別が非確変大当りであるかを判定する（107SGS205）。

【0300】

大当り種別が非確変大当りでない場合（107SGS205；N）には、更に大当り種別が確変大当り C であるか否かを判定する（107SGS206）。大当り種別が確変大当り A または確変大当り B である場合（107SGS206；N）は、確変フラグと時短フラグをセットするとともに（107SGS207、107SGS208）、時短回数カウンタに「0」をセットして 107SGS213 に進む（107SGS209）。また、

10

20

30

40

50

大当たり種別が確変大当たりCである場合（107SGS206；Y）は、確変フラグのみをセットして107SGS213に進む（107SGS210）。

【0301】

一方、大当たり種別が非確変大当たりである場合（107SGS205；Y）は、時短フラグをセットするとともに（107SGS211）、時短回数カウンタに「100」をセットして107SGS213に進む（107SGS212）。

【0302】

107SGS213では、大当たりフラグをクリアし、大当たり種別に応じた大当たり終了指定コマンドの送信設定を行う（107SGS214）。そして、セットされた確変フラグや時短フラグに基づく遊技状態を演出制御基板12に通知するための遊技状態指定コマンドの送信設定を行った後（107SGS215）、特図プロセスフラグの値を特別図柄通常処理に対応した値である“0”に更新して大当たり終了処理を終了する（107SGS216）。

10

【0303】

次に、演出制御基板12の動作を説明する。図8-20は、演出制御基板12に搭載されている演出制御用CPU120が実行する演出制御メイン処理を示すフローチャートである。演出制御用CPU120は、電源が投入されると、図6に示す演出制御メイン処理と同一の処理（S71～S77）を実行するとともに、演出用乱数更新処理（S77）の実行後に、パチンコ遊技機1においてエラーが発生したことを報知するエラー報知処理（107SGS78）と、パチンコ遊技機1が電断状態から復旧した際に該電断状態から復旧したことを示す電断復旧画像を画像表示装置5に表示するための電断復旧画像表示処理（107SGS79）を実行し、S73に移行する

20

【0304】

図8-21は、図7に示された演出制御プロセス処理における可変表示開始設定処理（S171）を示すフローチャートである。可変表示開始設定処理において、演出制御用CPU120は、まず、107SGS271において第1変動開始コマンド受信フラグがセットされているか否かを判定する（107SGS271）。第1変動開始コマンド受信フラグがセットされている場合は（107SGS271；Y）、始動入賞時受信コマンドバッファ107SG194Aにおける第1特図保留記憶のバッファ番号「1-0」～「1-4」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグを、バッファ番号1個分ずつ上位にシフトする（107SGS272）。尚、バッファ番号「1-0」の内容については、シフトする先が存在しないためにシフトすることはできないので消去される。

30

【0305】

また、107SGS271において第1変動開始コマンド受信フラグがセットされていない場合は（107SGS271；N）、第2変動開始コマンド受信フラグがセットされているか否かを判定する（107SGS273）。第2変動開始コマンド受信フラグがセットされていない場合は（107SGS273；N）、可変表示開始設定処理を終了し、第2変動開始コマンド受信フラグがセットされている場合は（107SGS273；Y）、始動入賞時受信コマンドバッファ107SG194Aにおける第2特図保留記憶のバッファ番号「2-0」～「2-4」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグを、バッファ番号1個分ずつ上位にシフトする（107SGS274）。尚、バッファ番号「2-0」の内容については、シフトする先が存在しないためにシフトすることはできないので消去される。

40

【0306】

107SGS272または107SGS274の実行後、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンド格納領域から変動パターン指定コマンドを読み出す（107SGS275）。

【0307】

次いで、表示結果指定コマンド格納領域に格納されているデータ（即ち、受信した表示結果指定コマンド）に応じて飾り図柄及び小図柄の表示結果（停止図柄）を決定する（1

50

07SGS276)。この場合、演出制御用CPU120は、表示結果指定コマンドで指定される表示結果に応じた飾り図柄及び小図柄の停止図柄を決定し、決定した飾り図柄及び小図柄の停止図柄を示すデータを飾り図柄表示結果格納領域に格納する。

【0308】

尚、本実施の形態の特徴部2では、受信した変動表示結果指定コマンドが確変大当りAに該当する第2変動表示結果指定コマンドである場合において、演出制御用CPU120は、例えば、停止図柄として3図柄が「7」で揃った飾り図柄の組合せ（大当り図柄）を決定する。また、受信した変動表示結果指定コマンドが確変大当りBに該当する第3変動表示結果指定コマンドである場合においては、停止図柄として、「7」以外の奇数図柄の複数の組合せ（例えば「111」、「333」、「555」、「999」などの飾り図柄の組合せ）の中から決定する。また、受信した変動表示結果指定コマンドが非確変大当りに該当する第5変動表示結果指定コマンドである場合において、演出制御用CPU120は、例えば、停止図柄として3図柄が偶数図柄で揃った飾り図柄の組合せ（大当り図柄）を決定する。また、受信した変動表示結果指定コマンドが確変大当りCに該当する第4変動表示結果指定コマンドや、小当りに該当する第6変動表示結果指定コマンドである場合は、例えば、低図柄として3図柄が「123」や「456」等の他の大当りやハズレの場合とは異なる特定の組み合わせ（特殊当り図柄）を決定する。また、受信した変動表示結果指定コマンドが、ハズレに該当する第1変動表示結果指定コマンドである場合には、停止図柄として3図柄が不揃いとなる飾り図柄の組合せ（ハズレ図柄）を決定する。

【0309】

これら停止図柄の決定においては、演出制御用CPU120は、例えば、停止図柄を決定するための乱数を抽出し、飾り図柄の組合せを示すデータと数値とが対応付けられている停止図柄判定テーブルを用いて、飾り図柄の停止図柄を決定すれば良い。即ち、抽出した乱数に一致する数値に対応する飾り図柄の組合せを示すデータを選択することによって停止図柄を決定すれば良い。

【0310】

次いで、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンドに応じた演出制御パターン（プロセステーブル）を選択する（107SGS281）。そして、選択したプロセステーブルのプロセスデータ1におけるプロセスタイマをスタートさせる（107SGS282）。

【0311】

尚、プロセステーブルには、画像表示装置5の表示を制御するための表示制御実行データ、各LEDの点灯を制御するためのランプ制御実行データ、スピーカ8L、8Rから出力する音の制御するための音制御実行データや、プッシュボタン31Bやスティックコントローラ31Aの操作を制御するための操作部制御実行データ等が、各プロセスデータn（1～N番まで）に対応付けて時系列に順番配列されている。

【0312】

次いで、演出制御用CPU120は、プロセスデータ1の内容（表示制御実行データ1、ランプ制御実行データ1、音制御実行データ1、操作部制御実行データ1）に従って演出装置（演出用部品としての画像表示装置5、演出用部品としての各種ランプ及び演出用部品としてのスピーカ8L、8R、操作部（プッシュボタン31B、スティックコントローラ31A等））の制御を実行する（107SGS283）。例えば、画像表示装置5において変動パターンに応じた画像を表示させるために、VDP107SG500に指令を出力する。また、各種ランプを点灯／消灯制御を行わせるために、ランプ制御基板14に対して制御信号（ランプ制御実行データ）を出力する。また、スピーカ8L、8Rからの音声出力を行わせるために、音声制御基板13に対して制御信号（音番号データ）を出力する。

【0313】

尚、本実施の形態の特徴部2では、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンドに1対1に対応する変動パターンによる飾り図柄の変動表示が行われるように制御す

るが、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンドに対応する複数種類の変動パターンから、使用する変動パターンを選択するようにしてもよい。

【0314】

そして、変動時間タイマに、変動パターン指定コマンドで特定される変動時間に相当する値を設定する(107SGS284)。また、変動制御タイマに所定時間を設定する(107SGS285)。尚、所定時間は例えば30msであり、演出制御用CPU120は、所定時間が経過する毎に左中右の飾り図柄の表示状態を示す画像データをVRAMに書き込み、VDP107SGS500がVRAMに書き込まれた画像データに応じた信号を画像表示装置5に出力し、画像表示装置5が信号に応じた画像を表示することによって飾り図柄の変動が実現される。次いで、演出制御プロセスフラグの値を可変表示中演出処理(S172)に対応した値にする(107SGS286)。

10

【0315】

以降、演出制御用CPU120が可変表示中演出処理(S172)や特図当り待ち処理(S173)を実行することにより、飾り図柄と小図柄とは同一のタイミングから変動表示を開始するとともに、同一のタイミングで変動表示を停止する。つまり、本実施の形態の特徴部における飾り図柄の変動表示と小図柄の変動表示とは、同期して実行されるようになっている。尚、前述したように、飾り図柄の変動表示は、特別図柄の変動表示と同期して実行されるため、小図柄の変動表示も、特別図柄の変動表示を同期して実行される。

【0316】

図8-22及び図8-23は、図8-20に示された演出制御メイン処理におけるエラー報知処理(107SGS78)を示すフローチャートである。エラー報知処理において、演出制御用CPU120は、まず、後述するエラー報知再実行タイマが動作中であるか否かを判定する(107SGS501)。エラー報知再実行タイマが動作中でない場合(107SGS501;N)は、更に、始動口2異常入賞エラーの報知期間中であることを示す始動口2異常入賞エラー報知期間タイマがセットされているか否かを判定する(107SGS502)。始動口2異常入賞エラー報知期間タイマがセットされていない場合(107SGS502;N)は、コントローラ接続エラーの報知期間中であることを示すコントローラ接続エラー報知期間タイマがセットされているか否かを判定する(107SGS503)。コントローラ接続エラー報知期間タイマがセットされていない場合(107SGS503;N)は、更に不正入賞エラーの報知期間中であることを示す不正入賞エラー報知期間タイマがセットされているか否かを判定する(107SGS504)。

20

30

【0317】

不正入賞エラー報知期間タイマがセットされていない場合(107SGS504;N)は、演出制御用CPU120は、エラー指定コマンド受信フラグがセットされているか否かを判定する(107SGS505)。エラー指定コマンド受信フラグがセットされていない場合(107SGS505;N)は、107SGS516に進み、エラー指定コマンド受信フラグがセットされている場合(107SGS505;Y)は、エラー指定コマンド格納領域に格納されているエラー指定コマンドからエラー種別を特定する(107SGS506)。そして、既にエラー報知中であることを示すエラー報知中フラグがセットされているか否かを判定する(107SGS507)。エラー報知中フラグがセットされていない場合(107SGS507;N)は、107SGS516に進み、エラー報知中フラグがセットされている場合(107SGS507;Y)は、更に、既に電波エラー、磁石エラー遊技球誘導蓋作動エラーのいずれかの報知中であるか否か、つまり、既に遊技停止エラーの報知中であるか否かを判定する(107SGS508)。

40

【0318】

既に電波エラー、磁石エラー遊技球誘導蓋作動エラーのいずれかの報知中である場合(107SGS508;Y)は、107SGS516に進み、既に電波エラー、磁石エラー遊技球誘導蓋作動エラーのいずれの報知中でもない場合(107SGS508;N)は、特定したエラー種別のうち最も優先順位が高いエラー種別が報知中のエラー種別よりも優先順位の高いエラー種別であるか否かを判定する(107SGS509)。特定したエラ

50

一種別のうち最も優先順位が高いエラー種別が報知中のエラー種別よりも優先順位の低いエラー種別である場合（107SGS509；N）は、107SGS516に進み、特定したエラー種別のうち最も優先順位が高いエラー種別が報知中のエラー種別よりも優先順位の高いエラー種別である場合（107SGS509；Y）は、特定したエラー種別内に始動口2異常入賞エラーが有るか否かを判定する（107SGS510）、

【0319】

特定したエラー種別内に始動口2異常入賞エラーが有る場合（107SGS510；Y）は、始動口2異常入賞エラー報知期間タイマに始動口2異常入賞エラー報知期間である300秒に応じた値をセットして107SGS512に進み（107SGS511）、特定したエラー種別内に始動口2異常入賞エラーが無い場合は、始動口2異常入賞エラー報知期間タイマをセットせずに107SGS512に進む。

10

【0320】

107SGS512において演出制御用CPU120は、特定したエラー種別内に不正入賞エラーが有るか否かを判定する。特定したエラー種別内に不正入賞エラーが有る場合（107SGS512；Y）は、不正入賞エラー報知期間タイマに不正入賞エラー報知期間である30秒に応じた値をセットして107SGS514に進み（107SGS513）、特定したエラー種別内に不正入賞エラーが無い場合（107SGS512；N）は、不正入賞エラー報知期間タイマせずに107SGS514に進む。

【0321】

107SGS514において演出制御用CPU120は、特定したエラー種別内にコントローラ接続エラーが有るか否かを判定する。特定したエラー種別内にコントローラ接続エラーが有る場合（107SGS514；Y）は、コントローラ接続エラー報知期間タイマにコントローラ接続エラー報知期間である60秒に応じた値をセットして107SGS516に進み、特定したエラー種別内にコントローラ接続エラーが無い場合（107SGS514；N）は、コントローラ接続エラー報知期間タイマをセットせずに107SGS516に進む。

20

【0322】

107SGS516において演出制御用CPU120は、特定したエラーのうち最も優先順位の高いエラーに対して設定されている報知態様を特定する。そして、該特定した報知態様におけるエラー報知画像の表示を含むエラー報知に応じたエラー表示開始指定コマンドをVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対して出力する。このように演出制御用CPU120がVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対してエラー表示開始指定コマンドを出力することで、画像表示装置107SG005におけるエラー報知画像の表示、スピーカ8L、8Rからの音出力、遊技効果ランプ9の発光等によって発生したエラーに応じた報知を実行可能となっている。

30

【0323】

更に、演出制御用CPU120は、エラー報知中フラグをセットするとともに、エラー表示開始指定コマンドを再出力するためのタイマであるエラー報知再実行タイマに、該エラー表示開始指定コマンドを再出力するための期間である5秒に応じた値をセットし、エラー報知処理を終了する（107SGS518）。

40

【0324】

尚、107SGS501においてエラー報知再実行タイマが動作中である場合（107SGS501；Y）、演出制御用CPU120は、エラー報知再実行タイマの値を-1し（107SGS519）、該エラー報知再実行タイマがタイマアウトしたか否かを判定する（107SGS520）。エラー報知再実行タイマがタイマアウトしていない場合（107SGS520；N）は、107SGS502に進み、エラー報知再実行タイマがタイマアウトした場合（107SGS520；Y）は、報知中のエラー種別を特定するとともに、該特定したエラー種別に応じたエラー報知画像の表示を含むエラー報知に応じたエラー表示開始指定コマンドをVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板

50

14等に対して出力する。このように演出制御用CPU120がVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対してエラー表示開始指定コマンドを出力することで、画像表示装置107SG005におけるエラー報知画像の表示、スピーカ8L、8Rからの音出力、遊技効果ランプ9の発光等によって発生したエラーに応じた報知を5秒毎に繰り返し実行可能となっている。

【0325】

また、107SGS502において、始動口2異常入賞エラー報知期間タイマがセットされている場合(107SGS502; Y)、演出制御用CPU120は、始動口2入賞エラー報知期間タイマの値を-1し(107SGS523)、該始動口2入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしたか否かを判定する(107SGS524)。始動口2入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトした場合(107SGS524; Y)は、始動口2異常入賞エラー報知期間タイマをクリアするとともに(107SGS525)、始動口2異常入賞エラーに応じたエラー表示終了指定コマンドをVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対して出力することで始動口2異常入賞エラー報知を終了し、107SGS503に進む(107SGS526)。尚、始動口2異常入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしていない場合(107SGS524; N)は、107SGS525及び107SGS526の処理を実行せずに107SGS503に進む。

【0326】

また、107SGS503においてコントローラ接続エラー報知期間タイマがセットされている場合(107SGS503; Y)、演出制御用CPU120は、コントローラ接続エラー報知期間タイマの値を-1し(107SGS527)、該コントローラ接続エラー報知期間タイマがタイマアウトしたか否かを判定する(107SGS528)。コントローラ接続エラー報知期間タイマがタイマアウトした場合(107SGS528; Y)は、コントローラ接続エラー報知期間タイマをクリアするとともに(107SGS529)、コントローラ接続エラーに応じたエラー表示終了指定コマンドをVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対して出力することでコントローラ接続エラー報知を終了し、107SGS504に進む(107SGS530)。

【0327】

尚、コントローラ接続エラー報知期間タイマがタイマアウトしていない場合(107SGS528; N)、演出制御用CPU120は、不正入賞エラー報知期間タイマがセットされているか否かを判定する(107SGS531)。不正入賞エラー報知期間タイマがセットされていない場合(107SGS531; N)は、107SGS505に進み、不正入賞エラー報知期間タイマがセットされている場合(107SGS531; Y)は、不正入賞エラー報知期間タイマの値を-1し(107SGS532)、不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしたか否かを判定する(107SGS533)。不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしていない場合(107SGS533; N)は、107SGS505に進み、不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしている場合(107SGS533; Y)は、不正入賞エラー報知期間タイマをクリアする(107SGS534)。そして、コントローラ接続エラーに対して設定されている報知態様を特定し(107SGS535)、該特定した報知態様におけるエラー報知画像の表示を含むエラー報知に応じたエラー表示開始指定コマンドをVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対して出力することでコントローラ接続エラーに応じたエラー報知を開始する(107SGS536)。また、エラー報知再実行タイマをセットして107SGS505に進む。

【0328】

また、107SGS504において不正入賞エラー報知期間タイマがセットされている場合(107SGS504; Y)、演出制御用CPU120は、不正入賞エラー報知期間タイマの値を-1し(107SGS538)、該不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしたか否かを判定する(107SGS539)。不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしていない場合(107SGS539; N)は、107SGS505に進み

、不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしている場合（107SGS539；Y）は、不正入賞エラー報知期間タイマをクリアするとともに（107SGS540）、不正入賞エラーに応じたエラー表示終了指定コマンドをVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対して出力することで不正入賞エラー報知を終了し、107SGS505に進む。

【0329】

以上のようにメイン側エラー処理（図8-12参照）やエラー報知処理が実行されることによって、主基板11（CPU103）においてエラーが1つのみ検出された場合は、図8-24（A）に示すように、演出制御基板12（演出制御用CPU120）に対して1のエラーの発生のみを指定するエラー指定コマンドが出力される。そして、演出制御基板12は、該エラー指定コマンドが入力されたことにもとづいて、VDP107SG500に対して該エラー指定コマンドから特定したエラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力する。更に、VDP107SG500は、演出制御基板12からのエラー表示開始指定コマンドの入力にもとづいて画像表示装置107SG005を制御し、検出されたエラーに応じたエラー報知画像の表示を画像表示装置107SG005において実行するようになっている。

10

【0330】

尚、このように発生したエラーが1つのみである場合は、該発生したエラーに応じた報知期間タイマの値に応じた期間に亘ってエラー報知（画像表示装置107SG005におけるエラー報知画像の表示や、スピーカ8L，8Rからの音出力、遊技効果ランプ9の発光等）が実行され、該報知期間タイマがタイマアウトしたことに応じてエラー報知が終了する。

20

【0331】

例えば、不正入賞エラーのみが発生した場合は、演出制御用CPU120によってエラー指定コマンドから不正入賞エラーが特定されたことにもとづいて不正入賞エラー報知期間タイマに30秒に応じた値がセットされ、該不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトするまで（30秒が経過するまで）に亘って不正入賞エラーのエラー報知が実行される。また、コントローラ接続エラーのみが発生した場合は、演出制御用CPU120によってエラー指定コマンドからコントローラ接続エラーが特定されたことにもとづいてコントローラ接続エラー報知期間タイマに60秒に応じた値がセットされ、該コントローラ接続エラー報知期間タイマがタイマアウトするまで（60秒が経過するまで）に亘ってコントローラ接続エラーのエラー報知が実行される。

30

【0332】

一方で、主基板11（CPU103）においてエラーが複数検出された場合は、図8-24（B）に示すように、演出制御基板12（演出制御用CPU120）に対して複数のエラーの発生を指定するエラー指定コマンドが出力される。また、演出制御基板12は、該エラー指定コマンドが入力されたことにもとづいて、該エラー指定コマンドから発生したエラーを特定する。そして、演出制御基板12は、VDP107SG500に対して、特定したエラーのうちから最も優先順位が高いエラーに応じたエラー表示指定コマンドを出力する。このため、VDP107SG500は、演出制御基板12からのエラー表示開始指定コマンドの入力にもとづいて画像表示装置107SG005を制御し、検出されたエラーのうち最も優先順位の高いエラーに応じたエラー報知画像の表示を画像表示装置107SG005において実行するようになっている。

40

【0333】

尚、演出制御用CPU120は、既に遊技停止エラーの報知中である場合は、主基板11から新たなエラー指定コマンドの入力があっても、VDP107SG500に対して新たなエラー表示開始指定コマンドを出力しないようになっている。このため、遊技停止エラーが発生した場合は、画像表示装置107SG005に表示されているエラー報知画像が他のエラー報知画像に切り替わることが無いので、遊技者やパチンコ遊技機1が設置されている遊技場の店員等は、エラー報知画像を視認することによって遊技停止の契

50

機となったエラーを容易に特定することができるようになっている。

【0334】

また、図8-25(A)に示すように、何らエラー報知が実行されていない状態で遊技を停止しないエラー（例えば不正入賞エラー）が発生した場合は、該発生したエラーに応じたエラー報知（不正入賞エラー）が開始されるが、該エラー報知中により優先順位の高いエラー（例えば始動口2入賞エラー）が発生した場合は、実行中のエラー報知がより優先順位の高いエラーのエラー報知に切り替わり、エラー報知の期間がリセットされる。

【0335】

更に、より優先順位の高いエラーとして遊技停止エラーが発生した場合には、再び実行中のエラー報知が遊技停止エラーのエラー報知に切り替わり、遊技が停止される。尚、このように、遊技停止エラーの報知中に更により優先順位の高いエラーとして遊技停止エラーが発生した場合は、実行中のエラー報知が継続されるようになっているので、上述したように、画像表示装置107SG005に表示されているエラー報知画像が他のエラー報知画像に切り替わることが無く、遊技者やパチンコ遊技機1が設置されている遊技場の店員等は、エラー報知画像を視認することによって遊技停止の契機となったエラーを容易に特定することができるようになっている。尚、セキュリティ信号は、始動口2異常入賞エラー等の出力対象のエラーが発生した時点から出力が開始され、より優先順位の高いエラーが発生しても変わりなく出力される。

【0336】

また、図8-25(B)に示すように、コントローラ接続エラーと不正入賞エラーとが同時に発生した場合（演出制御用CPU120がエラー指定コマンドからコントローラ接続エラーと不正入賞エラーとを特定した場合は、これらコントローラ接続エラーと不正入賞エラーとが検出された時点からそれぞれ不正入賞エラー報知期間タイマとコントローラ接続エラー報知期間タイマとがセット（不正入賞エラー報知期間タイマには30秒に応じた値、コントローラ接続エラー報知期間タイマには60秒に応じた値がセット）され、これらタイマのカウントが開始される。また、セキュリティ信号の出力も開始される。

【0337】

不正入賞エラーとコントローラ接続エラーとでは、不正入賞エラーの方が優先順位が高いので、最初の30秒間（不正入賞エラー報知期間タイマのカウント中）においては不正入賞エラーの報知が実行される。次に、不正入賞エラー報知期間タイマのタイマがタイマアウトして不正入賞エラー報知が終了すると、該不正入賞エラー報知の終了タイミングからコントローラ接続エラー報知期間タイマの残り30秒間に亘ってコントローラ接続エラー報知が実行される。

【0338】

また、図8-12に示すメイン側エラー処理や図8-22及び図8-23に示すエラー報知処理が実行されることで、遊技停止エラー（例えば、電波エラー）が発生すると、前述したように、遊技球の発射が停止されることによって遊技が停止する。更に、図8-26に示すように、遊技停止エラーが検出されたタイミングから特別図柄が消灯されることによって、特別図柄の変動表示が一旦停止（非実行）となる。このとき、画像表示装置5では、遊技停止エラーが検出されたタイミングから該遊技停止エラーに応じたエラー報知画像が小図柄や飾り図柄に重複して表示される。このため、遊技停止エラーの発生後は、飾り図柄や小図柄の変動表示は継続して実行されるが、これら飾り図柄や小図柄に対してエラー報知画像が重複表示されることにより、飾り図柄と小図柄とが不可視化される。つまり、本実施の形態の特徴部における遊技停止状態とは、遊技球の発射が停止されることと、特別図柄の変動表示が停止すること、始動口や一般入賞口への入賞を無効とすることを含んでいる。

【0339】

図8-27は、図8-20に示された演出制御メイン処理における電断復旧画像表示処理（107SGS79）を示すフローチャートである。電断復旧画像表示処理において、演出制御用CPU120は、まず、電断復旧通知コマンド受信フラグがセットされている

か否かを判定する（107SGS551）。電断復旧通知コマンド受信フラグがセットされている場合（107SGS551；Y）は、VDP107SG500に対して所定のコマンドを送信することによって、画像表示装置107SG005に電断復旧画像の表示を開始させて電断復旧画像表示処理を終了する（107SG552）。

【0340】

また、電断復旧通知コマンド受信フラグがセットされていない場合（107SGS551；N）は、更に、変動開始指定コマンド、当り開始指定コマンド、当り終了指定コマンドのいずれかの受信フラグがセットされているか否かを判定する（107SGS553）。変動開始指定コマンド、当り開始指定コマンド、当り終了指定コマンドのいずれかの受信フラグがセットされている場合（107SGS553；Y）は、VDP107SG500に対して所定のコマンドを送信することによって、画像表示装置107SG005に電断復旧画像の表示を終了させて電断復旧画像表示処理を終了する（107SGS554）。尚、変動開始指定コマンド、当り開始指定コマンド、当り終了指定コマンドのいずれの受信フラグもセットされていない場合（107SGS554；N）は、107SGS554の処理を経由せずに電断復旧画像表示処理を終了する。

【0341】

以上のように電断復旧画像表示処理を実行することで、図8-28に示すように、特別図柄の変動表示中に電断が発生した場合は、該電断が発生したタイミングにおいて特別図柄の変動表示、飾り図柄の変動表示、小図柄の変動表示が停止し、電断復旧タイミングから特別図柄の変動表示のみが再開される。また、電断復旧タイミングから、画像表示装置107SG005において電断復旧画像の表示が開始される。

【0342】

尚、本実施の形態の特徴部では、図8-27の107SGS553に示すように、変動開始指定コマンド、当り開始指定コマンド、当り終了指定コマンドのいずれかの受信フラグがセットされていることにもとづいて電断復旧画像の表示を終了する形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、これらコマンドに応じた受信フラグに加えて、図柄確定指定コマンド受信フラグがセットされていることにもとづいて電断復旧画像の表示を終了するようにしてもよい。

【0343】

そして、特別図柄の変動表示が終了した後、新たな特別図柄の変動表示が開始されると、演出制御基板12（演出制御用CPU120）が変動開始指定コマンドを受信したことにもとづいて、画像表示装置107SG005における飾り図柄と小図柄の表示が再開され、新たな飾り図柄の変動表示と小図柄の変動表示が開始される。つまり、特別図柄の変動表示中に電断が発生した場合、画像表示装置107SG005における飾り図柄と小図柄は、パチンコ遊技機1が電断から復旧して次の特別図柄の変動表示が開始されるタイミングまで表示されないようになっている。

【0344】

また、特に図示はしないが、変動表示結果が大当たりとなる特別図柄の変動表示中に電断が発生した場合、画像表示装置107SG005における飾り図柄と小図柄は、パチンコ遊技機1が電断から復旧して大当たり遊技が開始されるタイミングまで表示されないようになっている。更に、大当たり遊技中に電断が発生した場合、画像表示装置107SG005における飾り図柄と小図柄は、パチンコ遊技機1が電断から復旧して大当たり遊技が終了されるタイミングまで表示されないようになっている。

【0345】

つまり、本実施の形態の特徴部においては、飾り図柄や小図柄を大当たり遊技中も表示する形態となっているが、本発明はこれに限定されるものではなく、これら飾り図柄と小図柄との少なくとも一方は、大当たり遊技中においては非表示としてもよい。

【0346】

次に、特別図柄の変動表示中にエラーが発生した場合の画像表示装置107SG005の表示態様について説明する。先ず、図8-30（A）に示すように、変動表示中にドラ

開放エラー等の遊技を停止しないエラーが発生した場合、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 の画面中央には、発生したエラーに応じたエラー報知画像が演出図柄の一部に重複した状態で表示される。このとき、演出図柄や小図柄の変動表示自体は遊技者から視認可能に継続される。

【0347】

そして、該エラー報知画像の表示中に電波エラー等の遊技停止エラーが発生した場合は、図 8-30 (B) に示すように、小図柄が表示されている常時表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 A や演出図柄を含む画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 の画面全体に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を重複表示し、遊技者から演出図柄や小図柄を視認不能な状態とする。

10

【0348】

次に、パチンコ遊技機 1 が電断から復旧する際の画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 の表示状態について説明する。先ず、図 8-31 (A) に示すように、パチンコ遊技機 1 に電源が投入されることによって主基板 1 1 側が起動すると、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 の画面全体に、「復旧中」等のメッセージを含む電断復旧画像が表示される。尚、電断が発生した際に特別図柄の変動表示中であつた場合は、パチンコ遊技機 1 に電源が投入されたこと（主基板 1 1 が起動したこと）にもとづいて、特別図柄の変動表示が再開される。

【0349】

そして、新たな特別図柄の変動表示が開始されるか、大当たり遊技の開始、大当たり遊技の終了のいずれかにもとづいて画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 における電断復旧画像の表示が終了し、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 における演出図柄と小図柄の表示が再開される。尚、新たな特別図柄の変動表示が介される場合は、演出図柄と小図柄の表示の再開に加えて、これら演出図柄と小図柄の変動表示が開始される。

20

【0350】

以上、本実施の形態の特徴部におけるパチンコ遊技機 1 にあっては、演出制御用 C P U 1 2 0 は、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生したことにもとづいてパチンコ遊技機 1 における遊技が停止されたときに、図 8-30 (B) に示すように、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 に遊技停止エラーが発生したことを示すエラー報知画像をさせることによって遊技者に対して遊技が停止されたことを報知可能であり、該エラー報知画像は、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 に表示されている飾り図柄や小図柄に重複して表示される、つまり、飾り図柄や小図柄は、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 に遊技停止エラーが発生したことを示すエラー報知画像が表示されることによって画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 に表示されなくなるので、遊技が停止されている間において飾り図柄や小図柄が特別図柄の変動表示と同期しなくなるといった意図しない表示動作（例えば、変動表示）をしてしまうことを防止できる。

30

【0351】

また、演出制御用 C P U 1 2 0 は、図 8-2 に示す変動パターン指定コマンドを受信したことに基づいて演出図柄及び小図柄の変動表示を開始し、図柄確定コマンドを受信したことに基づいて演出図柄及び小図柄の変動表示を停止するようになっているので、これら演出図柄及び小図柄の変動表示中に C P U 1 0 3 が遊技停止状態となった場合（遊技停止エラーが発生した場合）は、演出図柄及び小図柄の変動表示は停止されことなく継続してしまい、特別図柄の変動表示と演出図柄及び小図柄の変動表示との整合性がとれなくなってしまう。そこで本実施の形態の特徴部においては、演出制御用 C P U 1 2 0 は、C P U 1 0 3 が遊技停止状態となった場合に V D P 1 0 7 S G 5 0 0 を制御することで、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 に飾り図柄及び小図柄に重複する形でエラー報知画像を表示することによって飾り図柄及び小図柄を遊技者から隠蔽し、特別図柄の変動表示と演出図柄及び小図柄の変動表示との整合性がとれなくなってしまうことを防止している。

40

【0352】

また、演出制御用 C P U 1 2 0 は、パチンコ遊技機 1 が電断から復旧した際に、電断から復旧したことを示す電断復旧画像を画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 に表示させることに

50

よって、遊技者に対してパチンコ遊技機 1 が電断から復旧したことを報知可能であり、該電断復旧画像の表示中は、図 8-31 (A) に示すように、画像表示装置 107SG005 に飾り図柄や小図柄が表示されることがないので、電断復旧画像の表示中において飾り図柄や小図柄が意図しない表示動作（例えば、変動表示）をしてしまうことを防止できる。

【0353】

また、CPU103 は、図 8-12 に示すメイン側エラー処理において始動口 2 異常入賞エラー、不正入賞エラー、コントローラ接続エラー、ドア開放エラー、球切エラー等の遊技を停止しないエラーが発生したと判定した場合は、第 1 特別図柄表示装置 4A や第 2 特別図柄表示装置 4B における特別図柄の変動表示を継続して実行する一方で、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生したと判定した場合（遊技停止フラグをセットした場合）、図 8-16 に示すように、第 1 特別図柄表示装置 4A や第 2 特別図柄表示装置 4B における特別図柄を消灯するので、遊技低エラーが発生した場合は、特別図柄が消灯されることによって、本来であれば該特別図柄の変動表示と同期する小図柄の変動表示が不適切となってしまうことを防ぐことができる。

【0354】

また、演出制御用 CPU120 は、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合には、図 8-30 (B) に示すように、画像表示装置 107SG005 において該遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させることで、画像表示装置 107SG005 に演出図柄や小図柄が表示されないようする一方で、始動口 2 異常入賞エラー、不正入賞エラー、コントローラ接続エラー、ドア開放エラー、球切エラー等の遊技を停止しないエラーが発生した場合は、図 8-30 (A) に示すように、画像表示装置 107SG005 において該遊技を停止しないエラーに応じたエラー報知画像を表示させるとともに、演出図柄や小図柄を継続して表示させるので、遊技者は、画像表示装置 107SG005 において遊技を停止しないエラー報知画像が表示され場合は、画像表示装置 107SG005 において小図柄や飾り図柄が表示されていることを視認することで、変動表示の実行中であるか否かを把握することができる。

【0355】

尚、本実施の形態の特徴部においては、パチンコ遊技機 1 において遊技を停止しないエラーが発生した場合、画像表示装置 107SG005 に該遊技を停止しないエラーが発生したことを示すエラー報知画像を表示させる一方で、画像表示装置 107SG005 における飾り図柄や小図柄の表示を継続する形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、画像表示装置 107SG005 において遊技を停止しないエラーが発生したことを示すエラー報知画像を表示させる場合は、飾り図柄と小図柄とのいずれか一方を表示させないようにしてもよい。

【0356】

また、図 8-28 に示すように、演出制御用 CPU120 は、特別図柄の変動表示中及び該特別図柄の変動表示に連動する飾り図柄や小図柄の変動表示中に電断が発生した場合、パチンコ遊技機 1 が該電断から復旧して特別図柄の変動表示が再開されたとしても、新たな特別図柄の変動表示が開始される迄は画像表示装置 107SG005 に飾り図柄や小図柄を表示させないので、小図柄と特別図柄の可変表示の同期が不適切となってしまうことを防ぐことができる。

【0357】

また、本実施の形態の特徴部では、CPU103 は、図 8-12 に示すメイン側エラー処理を実行することで、発生している複数の異常（エラー）を 1 のエラー指定コマンドを用いて演出制御基板 12（演出制御用 CPU120）に対して出力可能であり、演出制御用 CPU120 は、図 8-22 に示すエラー報知処理を実行することで、CPU103 から受信したエラー指定コマンドから特定した 1 のエラーについては、画像表示装置 107SG005 に該エラーに応じたエラー報知画像を表示させるためのコマンド（エラー表示開始指定コマンド）を VDP107SG500 に対して出力するが、PU103 から受信

したエラー指定コマンドから特定した他のエラーについては、エラー報知画像を表示させるためのコマンドをDP107SG500に対して出力しないので、画像表示装置107SG005にエラー報知画像を表示させる際のVDP107SG500の処理負荷を低減することができる。

【0358】

また、CPU103が図8-12に示すメイン側エラー処理において発生していることを判定可能なエラーには優先順位が設定されており（図8-15参照）、演出制御用CPU120は、図8-22に示すように、CPU103から受信したエラー指定コマンドから特定したエラーのうち、最も優先順位の高いエラーに応じたエラー報知画像を画像表示装置107SG005に表示させるためのコマンドをVDP107SG500に対して出力するので、パチンコ遊技機1のセキュリティ性を確保しつつ、画像表示装置107SG005にエラー報知画像を表示させる際のVDP107SG500の処理負荷を低減することができる。

10

【0359】

また、演出制御用CPU120は、画像表示装置107SG005にエラーに応じたエラー報知画像を表示させるためのコマンド（エラー表示開始指定コマンド）をVDP107SG500に対して出力した後、5秒間隔で繰り返し画像表示装置107SG005に該エラーに応じたエラー報知画像を表示させるためのコマンドをVDP107SG500に対して出力するようになっているので、例えば、画像表示装置107SG005に不具合が生じてエラー報知画像の表示が中断されてしまったり、前述したエラー表示開始指定コマンドにノイズが混じる等して画像表示装置107SG005に誤表示が表示される等の不具合が発生した場合であっても、該誤表示が継続されて正しいエラー報知画像が表示されなくなってしまうことを防ぐことができる。

20

【0360】

また、本実施の形態の特徴部では、演出制御用CPU120は、画像表示装置107SG005にエラーに応じたエラー報知画像を表示させるためのコマンド（エラー表示開始指定コマンド）をVDP107SG500に対して5秒間隔で繰り返し出力する形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、演出制御用CPU120は、5秒未満または5秒よりも長い間隔で前記コマンドをVDP107SG500に対して出力するようにしてもよい。

30

【0361】

また、本実施の形態の特徴部では、演出制御用CPU120は、画像表示装置107SG005にエラーに応じたエラー報知画像を表示させるためのコマンド（エラー表示開始指定コマンド）をVDP107SG500に対して出力を5秒間隔で繰り返し出力する形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、演出制御用CPU120は、スピーカ8L、8Rにエラーが発生していることを報知する音声出力させるためのコマンドを音声制御基板13に対して5秒間隔で繰り返し出力してもよい。更に、演出制御用CPU120は、遊技効果ランプ9にエラーが発生していることを報知するよう発光させるためのコマンドをランプ制御基板14に対して5秒間隔で繰り返し出力してもよい。

【0362】

40

また、図8-23（B）及び図8-25（B）に示すように、遊技を停止しないエラーとして、例えば、不正入賞エラーと該不正入賞エラーよりも優先順位が低いエラー報知画像が画像表示装置107SG005に表示される期間が長いコントローラ接続エラーとが同時に発生した場合は、不正入賞エラーの報知期間を計測するための不正入賞エラー報知期間タイマと、コントローラ接続エラーの報知期間を計測するためのコントローラ接続エラー報知期間タイマとが同時に作動する。

【0363】

そして、画像表示装置107SG005には、まず、優先順位が高い不正入賞エラーに応じたエラー報知画像表示がされる。次に、不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトする（不正入賞エラー報知画像の表示期間が終了する）と、画像表示装置107SG0

50

05には、残りのコントローラ接続エラー報知期間タイマに応じた期間（本実施の形態の特徴部においては30秒）に亘ってコントローラ接続エラー報知画像が表示されるので、これらエラーの種類に応じたエラー報知画像をエラーの種類に応じた期間に亘って画像表示装置107SG005に表示することができるとともに、CPU103によって不正入賞エラーとコントローラ接続エラーとの発生が判定されてからコントローラ接続エラー報知画像の表示が終了するまでの期間を一定とすることができる。

【0364】

尚、本実施の形態では、不正入賞エラーとコントローラ接続エラーとの発生が同時に判定された場合、画像表示装置107SG005において、不正入賞エラー報知画像の表示終了後、残りのコントローラ接続エラー報知期間タイマに応じた期間（本実施の形態の特徴部においては30秒）に亘ってコントローラ接続エラー報知画像が表示される形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、不正入賞エラーとコントローラ接続エラーとの発生が同時に判定された場合は、画像表示装置107SG005において、不正入賞エラー報知画像の表示終了後に、コントローラ接続エラー報知画像を本来の表示期間（例えば、図8-15に示す60秒）に亘って表示してもよい。

【0365】

また、図8-23（B）及び図8-25（B）に示すように、遊技を停止しないエラーとして、例えば、不正入賞エラーと該不正入賞エラーよりも優先順位が低いエラー報知画像が画像表示装置107SG005に表示される期間が長いコントローラ接続エラーとが同時に発生した場合、演出制御用CPU120は、VDP107SG500に対して画像表示装置107SG005に不正入賞エラー報知画像を表示させるためのコマンド（エラー表示開始指定コマンド）を出力し、画像表示装置107SG005において不正入賞エラー報知画像の表示が終了してコントローラ接続エラー報知画像の表示が開始される場合は、VDP107SG500に対して画像表示装置107SG005における不正入賞エラー報知画像の表示を終了させるためのコマンド（エラー表示終了指定コマンド）を送信せず、コントローラ接続エラー報知画像を表示させるためのコマンドを出力するので、画像表示装置107SG005にて表示される画像を不正入賞エラー報知画像からコントローラ接続エラー報知画像に切り替える際に、VDP107SG500にかかる負荷を低減できる。

【0366】

以上、本発明の実施の形態を図面により説明してきたが、具体的な構成はこれら実施の形態に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加があっても本発明に含まれる。

【0367】

例えば、前記実施の形態の特徴部においては、パチンコ遊技機1に発生したエラーに応じて異なるエラー報知を実行する形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、これらエラー報知に加え、特定の操作手段の操作に応じてパチンコ遊技機1から出力される音量を変化させる他、消費電力を抑えたり、プッシュボタン31Bやスティックコントローラ31Aの状態を確認できるようにしてもよい。

【0368】

具体的には、変形例1として図32～図34に示すように、演出制御基板12上に操作手段としての回動式の設定切替スイッチ107SG400を設け、遊技機用枠3を開放した状態において、演出制御基板12が収納されている基板収納ケース107SG270に形成された切欠部107SG270aを介して該設定切替スイッチ107SG400を操作可能とすればよい。

【0369】

尚、設定切替スイッチ107SG400は、図8-34に示すように、「0」～「F」までの計16個のチャンネルを備えており、これらチャンネルを、ツマミ107SG401を回動操作することで切り替えるスイッチになっている。本変形例1では、例えば、チャンネルを「0」～「9」のいずれかに切り替えることによって、スピーカ8L、8Rが

10

20

30

40

50

ら出力される音量を変更可能とする。また、例えば、チャンネルを「A」～「F」のいずれかに切り替えること、または、チャンネルを切り替えた後に更に特定操作を行うことによって、パチンコ遊技機1の消費電力を抑えたり（節電モードへの移行）、可動体32やプッシュボタン31B、スティックコントローラ31A等の状態を確認可能とする。

【0370】

具体的には、図8-35（A）及び図8-35（B）に示すように、遊技場の店員等が設定切替スイッチ107SG400を操作するために遊技機用枠3を開放すると、先ず、画像表示装置107SG005において、ドア開放エラーに応じたエラー報知画像が表示される。この状態において遊技場の店員等が設定切替スイッチ107SG400のチャンネルを「F」にセットすることで、画像表示装置107SG005において、エラー報知画像に替えてパチンコ遊技機1の消費電力を抑える節電モードへ移行するか否かの確認画像が表示される。このとき、例えばプッシュボタン31Bやスティックコントローラ31Aを用いて節電モードへの移行に応じた操作（図8-35（B）の例であればスティックコントローラ31Aの操作によって「はい」の選択肢にカーソルを合わせてプッシュボタン31Bを押下する等）を行い、パチンコ遊技機1を節電モードに移行させればよい。

10

【0371】

また、図8-36（A）及び図8-36（B）に示すように、遊技場の店員等が設定切替スイッチ107SG400を操作するために遊技機用枠3を開放すると、先ず、画像表示装置107SG005において、ドア開放エラーに応じたエラー報知画像が表示される。この状態において遊技場の店員等が設定切替スイッチ107SG400のチャンネルを「C」にセットした後、更にプッシュボタン31Bを所定回数（例えば、5回）押下操作することによって、演出制御用CPU120が可動体32、プッシュボタン31B、スティックコントローラ31A等の動作チェック（実際に可動体32を所定の位置まで動作させたり、プッシュボタン31Bやスティックコントローラ31Aの操作をプッシュセンサ35Bやコントローラセンサユニット35Aで正確に検出できるか否かの確認等）を実行し、該動作チェック結果の画像（図8-36（B）に示す役物チェックリストの画像）をドア開放エラーの報知画像、飾り図柄、小図柄に重複して表示すればよい。

20

【0372】

特に、本変形例1においては、設定切替スイッチ107SG400を操作する（図8-34に示す状態から時計回りあるいは反時計回りに回動させる）際にチャンネル「C」を通過する（一瞬のみチャンネルが「C」に設定される）ことによって、前述した動作チェックとして可動体32等が一瞬のみ動作してしまうこと等を防ぐために、設定切替スイッチ107SG400がチャンネル「C」に設定された際には、特定操作としてプッシュボタン31Bが所定回数押下操作されなければ動作チェックが実行されないようになっている。

30

【0373】

このように、本変形例1においては、動作チェック結果の画像が、エラー報知画像や飾り図柄、小図柄、ドア開放エラー報知画像等に重複して画像表示装置107SG005に表示させることによって、該動作チェック結果の画像が遊技場の店員等から優先して視認されるようになるので、エラー報知画像の表示中であっても可動体32やプッシュボタン31B、スティックコントローラ31A等の動作チェック結果を確認することができる。

40

【0374】

また、本実施の形態における特徴部での特定表示とは、可動体32を所定の位置まで動作させる等の動作検証結果（動作チェック結果）を確認するための表示であるので、エラー報知画像の表示中であっても可動体32の動作チェック結果を確認することができる。

【0375】

また、前記実施の形態の特徴部においては、パチンコ遊技機1の遊技性として、主に大当たり遊技中に大入賞口に遊技球が入賞することによって持ち玉を増加させていく形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、例えば、第2特別図柄の変動表示において小当たりが頻出するようにするとともに、大当たり種別に応じて小当たり遊技におけ

50

る大入賞口への遊技球の入賞し易さを異ならせる（例えば、大当たり種別が「確変B」や「非確変」である場合は、該大当たり遊技終了後に小当たり遊技における大入賞口への遊技球が入賞し難い第1 K T状態に制御する一方で、大当たり種別が「確変A」である場合は、該大当たり遊技終了後に小当たり遊技における大入賞口への遊技球が入賞し易い第2 K T状態に制御する等）ようにし、大当たり遊技中に加えて、第2 K T状態に大入賞口に遊技球が入賞することによっても持ち玉を増加させていくことができるようにしてもよい。

【0376】

尚、このように、パチンコ遊技機1を第2 K T状態においても持ち玉を増加させていく遊技性とする場合は、変形例2として図8-37～図8-39に示すように、大当たり遊技中、第1 K T状態、第2 K T状態において画像表示装置107 S G 005に賞球数表示107 S G 300、107 S G 303、107 S G 305を表示してもよい。

10

【0377】

更に、大当たり遊技中においては、図8-37(A)～図8-37(C)に示すように、画像表示装置107 S G 005に、賞球数表示107 S G 300とともにキャラクタ1078 S G 301や「大当たり中！」等の文字表示107 S G 302を表示し、大入賞口に遊技球が入賞した場合には、賞球数表示107 S G 300の表示を第1速度にて更新（例えば、賞球数表示107 S G 300の表示を0.1秒に亘って更新）してもよい。

【0378】

また、第1 K T状態においては、図8-38(A)～図8-38(C)に示すように、画像表示装置107 S G 005に、賞球数表示107 S G 303を表示するとともに、小当たりが発生した場合には、「小当たり発生！」等の文字表示107 S G 304を表示し、該第1 K T状態における小当たり遊技中において大入賞口に遊技球が入賞した場合は、賞球数表示107 S G 303の表示を大当たり遊技中と同じく第1速度にて更新してもよい。

20

【0379】

そして、第2 K T状態においては、図8-39(A)～図8-39(C)に示すように、画像表示装置107 S G 005に、賞球数表示107 S G 305を表示するとともに、小当たりが発生した場合には、「小当たり発生！」等の文字表示107 S G 306を表示してもよい。更に、該第2 K T状態における小当たり遊技中において大入賞口に遊技球が入賞した場合は、入賞演出として、画像表示装置107 S G 005にキャラクタ107 S G 308や賞球増加表示としての「+15」などの文字表示107 S G 309、及び賞球数表示107 S G 305の周囲にエフェクト画像107 S G 307を表示してもよい。そして、賞球数表示107 S G 305の表示を第1速度よりも低速である第2速度にて更新（例えば、賞球数表示107 S G 305の表示を0.5秒に亘って更新）する、つまり、大当たり遊技中、第1 K T状態、第2 K T状態のいずれで遊技球が大入賞口に入賞したかに応じて賞球数表示107 S G 300、107 S G 303、107 S G 305の更新速度を異ならせることで遊技者をこれら賞球数表示107 S G 300、107 S G 303、107 S G 305の更新速度に注目させ、遊技興趣を向上させてもよい。

30

【0380】

このように、本変形例2においては、賞球数表示107 S G 300、107 S G 303、107 S G 305を更新表示するパターンとして2つのパターン（賞球数表示107 S G 300、107 S G 303を第1速度で更新表示するパターンと、賞球数表示107 S G 305を第2速度で更新表示するパターン）を備えることで、賞球数の更新表示を行う場合に遊技に対する興趣を向上できる。特に、本変形例2において、第2 K T状態における小当たり確率を所定確率（例えば、50%等）とした場合、該第2 K T状態中は大当たり遊技中よりも大入賞口への遊技球の入賞頻度が低くなる。このため、第1速度よりも低速である第2速度において賞球数表示107 S G 305の表示を更新することによって、大入賞口への入賞頻度が小当たり遊技中より低くとも遊技球が大入賞口に途切れなく入賞しているかのように遊技者を錯覚させることができるので、小当たり間の間を持たせることができ、遊技興趣を向上できる。

40

【0381】

50

尚、本変形例 2 においては、大当り遊技中と小当り遊技中とで共通の大入賞口を開放してもよいが、パチンコ遊技機 1 に複数の大入賞口を設け、大当り遊技中に開放する大入賞口と小当り遊技中に開放する大入賞口とを異ならせてもよい。

【0382】

本発明は、以上に説明したものに限られるものではない。また、その具体的な構成は、上述の実施形態や後述の他の形態例に加えて、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加があってもこの発明に含まれる。

【0383】

また、上述した実施の形態及び各変形例に示した構成、後述の形態例及び各変形例に示した構成のうち、全部又は一部の構成を任意に組み合わせることとしてもよい。

10

【0384】

なお、今回開示された上述の実施形態及び後述の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。この発明の範囲は上述の説明及び後述の説明ではなく特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等な意味および範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

【0385】

本発明の遊技機としては、他にも、遊技が可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機 1）であって、画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報（例えば、小図柄）の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置 107SG005）と、異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示（例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像）を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段（例えば、演出制御用 CPU 120 が図 8-22、図 8-23 に示すエラー報知処理を実行する部分）と、を備え、前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり（例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、VDP に対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置 107SG005 に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる部分）、前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示せず（例えば、図 8-30（B）に示すように、画像表示装置 107SG005 の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分）、さらに、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態）に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用 CPU 120）と、前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用 CPU 120）と、を備え、前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図 10（D）、（F））遊技機が挙げられる。

20

30

40

【0386】

このような構成によれば、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止でき、また、演出効果を高めることができる。

【0387】

また、本発明の遊技機としては、他にも、遊技が可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機 1）であって、画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記

50

演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置 107SG005）と、電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段（例えば、演出制御用 CPU 120 が図 8-27 に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置 107SG005 に電断復旧画像を表示させる部分）と、を備え、前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示せず（例えば、図 8-28 及び図 8-31 に示すように、画像表示装置 107SG005 において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用 CPU 120 が CPU 103 から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部分）、さらに、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態）に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用 CPU 120）と、前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用 CPU 120）と、を備え、前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図 10（D）、（F））遊技機が挙げられる。

10

【0388】

このような構成によれば、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。また、演出効果を高めることができる。

【0389】

20

さらに、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止でき、また、演出効果を高めることができる遊技機の形態の一例として、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機 1）であって、前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用 CPU 120）と、前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用 CPU 120）と、を備え、前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図 10（D）、（F））遊技機が挙げられる。以下に、この遊技機の形態例の一例を他の形態例として説明する。

【0390】

30

（他の形態例）

以下、他の形態例の特徴部 31AK について説明する。図 9 は、この実施の形態のパチンコ遊技機 1 における変動パターンやリーチの種類を説明するための図である。図 9（A）に示すように、この実施の形態では、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様とならずに表示結果が「ハズレ」となる非リーチハズレの変動パターン PA1-1、PA1-2、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様となって表示結果が「ハズレ」となるリーチハズレの変動パターン PA2-1～PA2-6、PA3-1～PA3-4 等、表示結果が「大当り」となる変動パターン PB2-1～PB2-6、PB3-1～PB3-4 等が用意されている。

【0391】

40

また、図 9（B）に示すように、この実施の形態では、ノーマルリーチ、スーパーリーチ A～E といったリーチ演出が実行されるようになっている。この実施の形態では、リーチ演出は、大当り状態に制御されることを示唆する示唆演出とも称される。各リーチが実行されたときの信頼度（大当り信頼度）は、図 9（B）の黒色の星の数で表すように、ノーマルリーチ<スーパーリーチ E<スーパーリーチ D<スーパーリーチ C<スーパーリーチ B<スーパーリーチ A の順番に高くなっている。なお、大当りとなることが確定するリーチを設けてもよい。

【0392】

この実施の形態では、スーパーリーチはノーマルリーチを経由して実行されるようになっている。また、スーパーリーチのリーチ演出中に、より信頼度の高いリーチに発展（昇

50

格)する発展演出が実行される場合がある。図9(A)に示す変動パターンPA3-1~PA3-4等、変動パターンPB3-1~PB3-4等が、発展演出が実行されることに
対応した変動パターンとなっている。なお、図9(A)では、信頼度が一段階上のスー
パーリーチに発展する変動パターンが示されているが、信頼度が二段階以上発展する変動パ
ターンも設けられる。また、発展演出が複数回実行される変動パターンを設けてもよい。

【0393】

この実施の形態では、信頼度が最も低いノーマルリーチ以外では、リーチ成立後の所定
タイミングにおいて、そのリーチのタイトルが報知されるようになっている。図9(B)
に示すように、リーチの種類によってタイトルの報知態様が異なっている。具体的には、
スーパーリーチの中で最も信頼度の低いスーパーリーチEは、表示のみでリーチのタイト
ルが報知され、それ以外のスーパーリーチは、表示及び音声によりタイトルが報知される
。このように、信頼度の高いリーチの方が信頼度の低いリーチより多くの演出装置により
タイトルの報知が実行されるようになっている。これにより、遊技者の期待感を効果的に
煽ることができ演出効果が向上する。なお、タイトルの報知態様は、信頼度によってまた
は信頼度によらず任意に変更してもよい。また、同じリーチ演出においても、実際の表示
結果等に応じて報知態様を異ならせてもよい。また、リーチの種類によってタイトル文字
のフォント(ゴシック体、明朝体等)や書体(行書、楷書等)を異ならせてもよい。

【0394】

リーチのタイトルの報知(タイトル報知)とは、リーチの名称といったタイトルそのも
のを示すものに限定されず、リーチ演出で登場するキャラクタの名称、リーチ演出の演出
内容等を示すものであってもよい。

【0395】

(特徴部31AKの演出動作例)

続いて、この実施の形態における演出動作例について説明する。以下の演出動作は、主
基板11から送信される演出制御コマンドに基づいて、演出制御用CPU120が演出制
御プロセス処理を実行することで実行される。図10、図11は、この実施の形態におけ
るスーパーリーチの演出動作例を示す図である。図10(A)は、画像表示装置5の「左
」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて飾り図柄の可変表
示が実行されていることを示している。その後、例えば、図10(B)に示すように、「
左」及び「右」に7の数字を示す飾り図柄が停止してリーチ態様となる。その後はリーチ
の種類に応じて演出が分岐する。

【0396】

(スーパーリーチA)

スーパーリーチAとなる場合には、図10(C)に示すように、画像表示装置5に味方
キャラであるキャラクタ31AK001が表示されてリーチ演出が開始される。ここでは
、例えばキャラクタ31AK001を使用したアニメーション等が表示される。スーパー
リーチのリーチ演出(スーパーリーチ演出ともいう)の導入部分が終了する等、スーパー
リーチ演出が開始されてから所定期間経過すると、図10(D)に示すように、画像表示
装置5の画面全体にスーパーリーチAのタイトル31AK002(ここでは「SPリーチ
A」の文字)が表示されるとともに、スピーカ8からリーチのタイトル名に対応する音声
(ここでは「スーパーリーチA」)が出力されることで、スーパーリーチAのタイトルが
報知される。その後、スーパーリーチAのタイトル31AK002が消去され、図10(E)
に示すように、敵キャラであるキャラクタ31AK003が表示され、キャラクタ3
1AK001のセリフ31AK004が表示されたり、キャラクタ31AK001とキャ
ラクタ31AK003とが対決するスーパーリーチAのリーチ演出の後続部分が実行され
る。キャラクタ同士が対決する演出をバトル演出ともいい、バトル演出において味方キャ
ラが勝利すると大当たりとなり、味方キャラが敗北するとハズレとなる。

【0397】

なお、スーパーリーチ演出中に画像表示装置5にセリフを表示するときに、スピーカ8
からセリフに対応する音声出力されるようにしてもよい。また、セリフは図10(E)

10

20

30

40

50

に示すように吹き出しに表示することに限定されず、画像表示装置5の下部等に字幕で表示するようにしてもよい。

【0398】

(スーパーリーチB)

スーパーリーチBとなる場合には、図10(C)に示すように、画像表示装置5にキャラクタ31AK001が表示されてリーチ演出が開始される。ここでは、例えばキャラクタ31AK001を使用したアニメーション等が表示される。スーパーリーチ演出の導入部分が終了する等、スーパーリーチ演出が開始されてから所定期間経過すると、図10(F)に示すように、画像表示装置5の画面全体にスーパーリーチBのタイトル31AK005(ここでは「SPリーチB」の文字)が表示されるとともに、スピーカ8からリーチのタイトル名に対応する音声(ここでは「スーパーリーチB」)が出力されることで、スーパーリーチBのタイトルが報知される。その後、スーパーリーチBのタイトル31AK005が消去され、図10(G)に示すように、敵キャラであるキャラクタ31AK006が表示され、キャラクタ31AK001のセリフ31AK004が表示されたり、キャラクタ31AK001とキャラクタ31AK006とが対決するスーパーリーチBのリーチ演出の後続部分が実行される。

10

【0399】

このように、スーパーリーチAとスーパーリーチBとでは、スーパーリーチ演出が開始されてから所定期間経過したときにリーチのタイトルが報知されるようになっている。このようにすることで、スーパーリーチ演出の導入部分等を遊技者に見せた後にタイトルを報知できるので、タイトル報知の演出効果を高めることができる。

20

【0400】

また、スーパーリーチA(図10(C)→(D)→(E)・・・)とスーパーリーチB(図10(C)→(F)→(G)・・・)とでは、タイトルが報知されるまでの導入部分においては、共通の演出態様でスーパーリーチ演出が実行されるようになっている(図10(C))。このようにすることで、スーパーリーチ演出が開始されてからいずれのスーパーリーチとなるか、いずれのタイトルが報知されるかに遊技者を注目させることができる。スーパーリーチAとスーパーリーチBとにおいて、タイトルが報知されるまでの演出態様を完全に共通にすることに限定されず、演出を注視すればいずれのスーパーリーチとなるかを判別できる等、少なくとも一部を共通の演出態様にするようにしてもよい。例えば、スーパーリーチAとスーパーリーチBとの導入部分において、その後に報知されるタイトルに関連する態様でスーパーリーチ演出(例えば敵キャラを表示したり敵キャラを示唆するような演出)を実行するようにしてもよい。このようにすることで、演出効果が向上し、遊技者が演出に注目するようになる。このように、いずれのスーパーリーチとなるかを特定可能にしてからタイトル報知を実行するようにしてもよい。

30

【0401】

(スーパーリーチD)

スーパーリーチDとなる場合には、図10(H)に示すように、画像表示装置5の中央の一部にスーパーリーチDのタイトル31AK007(ここでは「SPリーチD」の文字)が表示されるとともに、スピーカ8からリーチのタイトル名に対応する音声(ここでは「敵を倒せ」)が出力されることで、スーパーリーチDのタイトルが報知される。このように、スーパーリーチDでは、スーパーリーチ演出の開始時にタイトルが報知されるようになっている。また、タイトル31AK007の下には、当該リーチの期待度を示唆する期待度示唆表示31AK008が表示される。期待度は、図10(H)に示すように、黒い星の数で表される。ここで、期待度とは大当たりとなる期待度であるが、リーチの大当たり信頼度と完全に一致していなくてもよい。

40

【0402】

なお、スーパーリーチDの音声による報知は、タイトル名をそのまま報知するのではなく、リーチの内容を報知するようになっている。このように、この実施の形態では、リーチの種類によって音声によるタイトル報知の報知態様を異ならせている。これにより、タ

50

イトル報知の報知態様が多彩になり、興味が向上する。

【0403】

スーパーリーチDにおいてタイトルが報知された後には、図10(I)に示すように、画像表示装置5にキャラクタ31AK001が表示される。このとき、タイトル31AK007及び期待度示唆表示31AK008は、画像表示装置5の右上部分等に縮小して表示され続ける。このようにすることで、リーチ演出中にも遊技者がリーチの期待度を把握することができる。なお、図10(I)では、図10(C)(スーパーリーチA、スーパーリーチB)と共通の演出内容が示されているが、スーパーリーチD専用のスーパーリーチ演出が実行されてもよい。

【0404】

その後、図10(J)に示すように、敵キャラであるキャラクタ31AK009が表示され、キャラクタ31AK001のセリフ31AK004が表示されたり、キャラクタ31AK001とキャラクタ31AK009とが対決するスーパーリーチDのリーチ演出が実行される。

【0405】

(スーパーリーチE)

スーパーリーチEとなる場合には、図11(A)に示すように、画像表示装置5の左上の一部にスーパーリーチEのタイトル31AK010(ここでは「SPリーチE」の文字)が表示されることで、スーパーリーチEのタイトルが報知される。なお、スーパーリーチEでは、音声によるタイトルの報知が行われない。また、タイトル31AK010の表示と合わせて、キャラクタ31AK001と敵キャラであるキャラクタ31AK011とが表示され、キャラクタ31AK001のセリフ31AK004が表示されたり、キャラクタ31AK001とキャラクタ31AK011とが対決するスーパーリーチEのリーチ演出が実行される。このように、スーパーリーチEでは、リーチ演出の進行と合わせてタイトルが報知されるようになっている。スーパーリーチEでは、リーチ演出中にタイトル31AK010が表示され続ける。

【0406】

大当たり信頼度の低いスーパーリーチEのリーチ演出では、リーチ演出の進行を止めずにタイトル報知を行うことで、遊技者に過度な期待感を与えることを防止できる。これに対して、スーパーリーチA、スーパーリーチB、スーパーリーチDのリーチ演出では、リーチ演出の進行を停止してタイトル報知を行うようになっている(図10(D)、(F)、(H))。このようにすることで、スーパーリーチ演出に応じたタイトル報知を実行でき演出効果が向上する。なお、スーパーリーチA、スーパーリーチB、スーパーリーチDといったスーパーリーチ演出においてもリーチの進行を停止せずにタイトル報知を行うようにしてもよい。また、この実施の形態とは逆に、大当たり信頼度の高いスーパーリーチのリーチ演出では、リーチ演出の進行を止めずにタイトル報知を行うようにしてもよい。大当たり信頼度の低いスーパーリーチのリーチ演出では、リーチ演出の進行を停止してタイトル報知を行うようにしてもよい。

【0407】

(タイトルの報知タイミング)

以上のように、この実施の形態では、スーパーリーチA及びスーパーリーチBにおいては、スーパーリーチ演出開始後所定期間経過してからタイトルが報知され、スーパーリーチD及びスーパーリーチEにおいては、スーパーリーチ演出開始時にタイトルが報知されるようになっている。このようにすることで、リーチ演出に応じたタイトル報知を実行でき演出効果が向上する。なお、この実施の形態では、大当たり信頼度の高いスーパーリーチA及びスーパーリーチBにおいては、スーパーリーチ演出開始後所定期間経過してからタイトルが報知され、大当たり信頼度の低いスーパーリーチD及びスーパーリーチEにおいては、スーパーリーチ演出開始時にタイトルが報知されるようになっていたが、大当たり信頼度の高いリーチの場合にスーパーリーチ演出開始時にタイトルが報知され、大当たり信頼度の低いリーチの場合にスーパーリーチ演出後所定期間経過してからタイトルが報知される

10

20

30

40

50

ようにしてもよい。

【0408】

(タイトルの表示領域)

また、この実施の形態では、スーパーリーチA及びスーパーリーチBにおいては、画像表示装置5の画面全体(第1領域)においてタイトルが報知され、スーパーリーチD及びスーパーリーチEにおいては、画像表示装置5の画面の一部(第2領域)においてタイトルが報知される。このようにすることで、リーチ演出に応じたタイトル報知を実行でき演出効果が向上する。特に、大当たり信頼度の高いリーチである場合には、信頼度の低いリーチである場合よりも広い表示領域でタイトル報知が実行されるので効果的なタイトル報知が可能になる。なお、画像表示装置5の画面全体におけるタイトル報知とは、画面いっばいに収まるサイズでタイトルが表示されるものであってもよいし、背景全体をタイトル報知用の背景としてそこにタイトルが表示されるもの(画面全体を使用したタイトル報知)等であってもよい。また、スーパーリーチAとスーパーリーチBとでタイトル報知を行う表示領域を異ならせてもよいし、スーパーリーチDとスーパーリーチEとでタイトル報知を行う表示領域を異ならせてもよい。

10

【0409】

リーチ演出に応じてタイトル報知を行う表示領域を異ならせる方法は、この実施の形態の例に限定されず、リーチ演出に応じてタイトル報知を行う表示領域を任意に異ならせてもよい。例えば、大当たり信頼度の高いリーチである場合には、信頼度の低いリーチである場合よりも狭い表示領域でタイトル報知が実行されてもよい。また、リーチ演出に応じてタイトル報知を行う表示領域を異ならせる場合において、この実施の形態のように表示面積を異ならせてもよいし、表示させる場所を異ならせてもよい。

20

【0410】

(期待度示唆表示)

この実施の形態では、大当たり信頼度の高いスーパーリーチA及びスーパーリーチBにおけるタイトル報知では、期待度示唆表示を表示せずに、スーパーリーチA及びスーパーリーチBよりも大当たり信頼度の低いスーパーリーチDにおけるタイトル報知では、期待度示唆表示を表示するようにしていた。このようにすることで、演出がくどくなることを防止できる。また、スーパーリーチDよりも大当たり信頼度の低いスーパーリーチEにおけるタイトル報知では、期待度示唆表示を表示しないようになっていた。このようにすることで、信頼度の低いリーチにおいて信頼度が低いことを示す期待度示唆表示が表示されることで遊技者が期待感を失うことを防止できる。なお、スーパーリーチA、スーパーリーチB、スーパーリーチEの少なくとも一部において期待度示唆表示を表示するようにしてもよい。

30

【0411】

なお期待度示唆表示は、図10(H)等に応示するように、黒い星の数によって示すものに限定されず、メーターやゲージにより期待度を示唆するようにしてもよいし、期待度に対応した数値を表示するようにしてもよい。また、図10(H)等に応示するように、黒い星の数によって示す場合において、半個相当(半分)の黒い星を表示可能ようにして、期待度の段階数を増やしてもよい。

40

【0412】

(タイトルの表示終了タイミング)

また、この実施の形態では、スーパーリーチA及びスーパーリーチBにおいては、タイトルが表示された後、タイトルが消去されてスーパーリーチ演出が実行される。これにより、スーパーリーチA及びスーパーリーチBにおいては、リーチ演出に注目させることができる。また、スーパーリーチD及びスーパーリーチEにおいては、タイトルが表示された後、後述の決め演出が実行されるまでタイトルが表示され続ける。これにより、スーパーリーチD及びスーパーリーチEにおいては、スーパーリーチ演出中もリーチの種類を把握することができる。また、以上のようにすることで、リーチ演出に応じたタイトル報知を実行でき演出効果が向上する。なお、タイトルの表示終了タイミングは、いずれであっ

50

ても演出効果の向上を図れるため、任意に変更してもよい。

【0413】

なお、ここではスーパーリーチCのリーチ演出の演出動作については省略するが、例えば大当り信頼度に応じたタイトル報知や期待度示唆表示が実行されればよい。

【0414】

(決め演出)

各リーチ演出が実行されてから、表示結果を導出するタイミング(可変表示の終盤)になると、表示結果が「大当り」となるか否かを報知するための決め演出が実行される。決め演出には、表示結果が「大当り」となることを示す決め演出と、表示結果が「ハズレ」となることを示す決め演出と、が含まれる。この実施の形態では、図11(B)に示すように、画像表示装置5に画像31AK012が表示される決め演出が実行される。その後、表示結果が「大当り」であれば、図11(C)に示すように、味方キャラが勝利したことを示す画像31AK013が表示され、図11(D)に示すように、大当り組合せとなる確定飾り図柄が導出される。なお、表示結果が「ハズレ」であれば、味方キャラが敗北したことを示す画像が表示され、リーチハズレ組合せとなる確定飾り図柄が導出される。

10

【0415】

この実施の形態では、リーチ演出中も継続してタイトルを報知する場合でも、決め演出が実行される前にタイトルの報知を終了するようになっている。これにより、決め演出に注目させることができ、また、メリハリのあるタイトル報知を実行できる。

【0416】

20

図10、図11に示した演出動作例では、スーパーリーチのリーチ演出中は画像表示装置5の右下部分で飾り図柄を縮小して可変表示を実行するようになっていたが、リーチ演出中の飾り図柄の表示のさせ方は任意でよい。例えば、リーチ演出中は飾り図柄が表示されなくてもよいし、リーチ演出の種類によって表示態様(大きさ、位置、濃淡、数等)を異ならせてもよい。

【0417】

なお、画像表示装置5に保留表示、アクティブ表示、可変表示中に常駐表示されるキャラクタ、携帯連動関連の表示を表示する場合、スーパーリーチのリーチ演出中はリーチ演出に注目させるために適宜非表示としてもよい。その際に、スーパーリーチEといった低信頼度のリーチ演出中には、これらの表示を表示したままにするようにしてもよい。このようにすることで、低信頼度のリーチ演出により遊技者を過度に期待させてしまうことを防止できるとともに、高信頼度のリーチ演出ではリーチ演出に注目させることができる。

30

【0418】

(発展演出)

続いて、発展演出が実行される場合の演出動作例について説明する。図12(A)に示すように、スーパーリーチDのリーチ演出が実行されている(スーパーリーチDのタイトル報知が実行されている)ときに発展演出が実行される場合、図12(B)に示すように、リーチ演出が中断して画面が裂けるような演出が実行される。その後、スーパーリーチAに発展する場合には、図12(C)に示すように、スーパーリーチAのタイトルが報知され、スーパーリーチAのリーチ演出が実行される。スーパーリーチBに発展する場合には、図12(D)に示すように、スーパーリーチBのタイトルが報知され、スーパーリーチのリーチ演出が実行される。このように、発展演出が実行された場合には、発展元のリーチのタイトル報知から発展先のリーチのタイトル報知に切り替えられるで、いずれのリーチに発展したかがわかりやすくなる。図12に示すように、発展先のリーチが表示及び音声によりタイトル報知を行うリーチである場合には、表示及び音声によるタイトル報知が改めて実行される。

40

【0419】

なお、発展演出は図12(B)に示すような例に限定されず、画面に徐々にヒビが入って割れるような演出であってもよいし、砂嵐(故障したような表示)を表示するようにしてもよい。このような演出とすることで、意外性のある演出を実行できる。なお、画面に

50

徐々にヒビが入るがリーチが発展しない演出といった、ガセの発展演出があってもよい。

【0420】

(期待度示唆演出)

図10(H)に示す演出動作例では、期待度示唆表示31AK008が期待度を示す黒い星が最初から表示されるようになっていたが、最初に5つの白い星を表示し、段階的に黒い星となることで期待度示唆する期待度示唆演出を実行するようにしてもよい。

【0421】

例えば、図13(A)に示すように、スーパーリーチDのタイトルを報知する際に、最初に5つの白い星の期待度示唆表示31AK021が表示される。そして、図13(B)に示すように、期待度示唆表示31AK021の星より大きな黒い星31AK022が表示され、図13(C)に示すように、黒い星31AK022が移動して期待度示唆表示31AK021の白い星の一つに収まるような演出が実行される。このとき、スピーカ8から期待度を示す黒い星が増加したことを示す「ピン」という音声が出力される。図13(D)、(E)に示すように、リーチの期待度に対応した回数同じ演出が繰り返される。このときに、繰り返される毎(星の数毎)にスピーカ8から出力される音声(音量、音階、音質等)を段階的に変化させるようにしてもよい。期待度示唆表示31AK021に期待度に対応した数の黒い星が収まった段階で、図13(F)に示すように、その黒い星が光るといったように強調表示される。このようにすることで、期待度示唆演出が終了したことがわかりやすくなる。

【0422】

図13(A)～(F)に示す例では、黒い星が1つずつ表示されて期待度示唆表示により示される期待度が1段階ずつ上がるようになっていたが、黒い星が2つ以上表示されて期待度が2段階以上上がるようにしてもよい。また、半分の黒い星が表示されて期待度が半段階上がるようにしてもよい。この場合において、表示される星の数(上昇する期待度の段階数)に応じて、異なる音声を出力するようにしてもよいし、同じ音声を出力するようにしてもよい。例えば、半分の黒い星が表示されるときと1つの黒い星が表示されるときとで同じ音声を出力するようにしてもよい。2つ半の黒い星が表示されるときと3つの黒い星が表示されるときとで同じ音声を出力するようにしてもよい。また、音声を出力しない場合があってもよい。このようにすることで、期待度示唆演出が多彩になり、演出効果が向上する。なお、一度に増加する期待度の段階数によらず、同じ黒い星の画像が表示されて、期待度示唆表示の白い星に収まって、増加する期待度の段階数に応じた黒い星が増加するような演出を実行するようにしてもよい。

【0423】

(演出モード)

画像表示装置5、スピーカ8、遊技効果ランプ9といった演出装置における演出モードが複数あってもよい。異なる演出モードでは、主基板11から同じコマンド(例えば変動パターンを指定するコマンド)が送信された場合でも、当該コマンドに基づく演出が異なる演出態様で実行される。各演出モードでは、画像表示装置5に表示される背景、キャラクタ、モチーフ、スピーカ8から出力される音声等が異なっていればよい。演出モードは、可変表示の回数や遊技状態に応じて自動的に変更されるようにしてもよいし、遊技者の操作により変更可能にしてもよい。

【0424】

図13(G)～(L)は、演出モードとして通常モード及び特別モードが設けられる場合において、特別モードとなっている場合のタイトル報知及び期待度示唆演出の演出動作例である。通常モードでは、図13(A)～(F)に示すようタイトル報知及び期待度示唆演出が実行される。特別モードでは、スーパーリーチDの変動パターンに基づくリーチ演出は、スーパーリーチDのリーチ演出とは演出態様の異なるスーパーリーチD2のリーチ演出となる。従って、スーパーリーチDの変動パターンが指定された場合、図13(G)に示すように、スーパーリーチD2のタイトル31AK023が表示される。このとき、スピーカ8からリーチのタイトル名に対応する音声が出力されるが、通常モードとは異

なる音声（例えば声色が異なる音声）が出力される。また、スーパーリーチD2における期待度示唆表示31AK024は、星型ではなく菱形となっている。

【0425】

その後、図13（H）に示すように、期待度示唆表示31AK024の星より大きな黒い菱形31AK025が表示され、図13（I）に示すように、黒い菱形31AK025が移動して期待度示唆表示31AK024の白い菱形の一つに収まるような演出が実行される。このとき、スピーカ8から期待度を示す黒い菱形が増加したことを示す「ボン」という音声出力される。図13（J）、（K）に示すように、リーチの期待度に対応した回数同じ演出が繰り返される。期待度示唆表示31AK024に期待度に対応した数の黒菱形が収まった段階で、図13（L）に示すように、その黒い菱形が光るといったように強調表示される。このように、遊技者の選択や遊技状態等に応じて決定される演出モード（リーチ演出が実行されるときの状態）によって、タイトルの報知態様を異ならせることで演出が多彩になり演出効果が向上する。

10

【0426】

図13では、スーパーリーチDの変動パターンが指定された場合の演出動作例を示したが、演出モード（リーチ演出が実行されるときの状態）によって他のリーチ演出（タイトル報知、期待度示唆演出を含む）の演出態様を異ならせるようにしてもよい。演出モード（リーチ演出が実行されるときの状態）によって、リーチのタイトルを報知するか否かやタイトル報知の実行割合を異ならせてもよい。例えば、所定の演出モードが選択された場合には、リーチのタイトルが報知されないようにしてもよい。このようにすることで、遊技者の好みに応じた演出を実行でき演出効果が向上する。

20

【0427】

なお、この実施の形態では、期待度示唆表示における黒い星の数によって期待度を示唆し、黒い星の数を段階的に増加させる期待度示唆演出を実行するようになっていたが、期待度を示唆する表示の数を段階的に減少させる期待度示唆演出を実行するようになっていてもよい。そのような期待度示唆演出をこの実施の形態の期待度示唆演出に加えて実行するようになっていてもよいし、代えて実行するようになっていてもよい。

【0428】

（発展演出の他の例）

期待度示唆表示の期待度を示す表示を段階的に増加させる期待度示唆演出を実行する場合において、期待度を示す表示を増加させた後に発展演出を実行するようになっていてもよい。この場合において、発展演出後に期待度を示す表示を増加させる場合、増加させる表示については段階的ではなく一度に表示するようにしてもよい。例えば図14（A）に示すように、スーパーリーチDのタイトルが報知され、黒い星を段階的に増加させる演出が完了した後に、図14（B）に示すように、画像表示装置5にボタン画像31AK031が表示される発展演出が実行される。ここで、プッシュボタン31Bへの操作が検出されると、図14（C）に示すように、スーパーリーチCのタイトル31AK032（ここでは「SPリーチC」の文字）が表示されることで、スーパーリーチCのタイトルが報知される。このように、発展演出が実行された場合には、発展元のリーチのタイトル報知から発展先のリーチのタイトル報知に切り替えられるで、いずれのリーチに発展したかがわかりやすくなる。また、タイトル31AK032の下には、黒い星の数が3個である期待度示唆表示31AK033が強調表示される。なお、黒い星の数が2個以上増加する場合でも一度に表示される。なお、可動体32が動作した後に、タイトルや期待度示唆表示が変化する発展演出を実行するようになっていてもよい。

30

40

【0429】

（予告演出）

この実施の形態では、予告演出として、タイトルの報知態様（例えばタイトルの表示色等）によって、大当り信頼度を予告するタイトル予告を実行するようになっていてる。例えば図15（A）に示すように、スーパーリーチAのタイトル31AK036が黒色で表示されるとともに、スピーカ8からリーチのタイトル名に対応する音声出力されることで

50

、スーパーリーチAのタイトルが報知された後、図15(B)に示すようにタイトル31AK036の表示色が赤色に変化するタイトル予告を実行するようになっている。このように、タイトル予告が実行されない場合はタイトルが黒色で表示され、タイトル予告が実行される場合はタイトルが黒色以外の色で表示される。図15に示すタイトル予告では、音声によりリーチのタイトルが報知された後に、タイトルの表示態様(表示色)が変化する可能性がある。このようにすることで、予告演出の演出効果を高めることができる。なお、タイトルが黒色以外で表示されるタイミングはこれに限定されず、タイトルの表示開始時から黒色以外で表示されるようにしてもよい。

【0430】

また、タイトルの表示態様(表示色)が変化するタイトル予告が実行された場合には、タイトルの表示態様(表示色)が変化した後に、変化後の表示態様に応じた音声を出力するようにしてもよい。このようにすることで、予告演出の演出効果を高めることができる。また、音声によるタイトル報知は、タイトルの表示態様(表示色)が変化した後に実行されるようにしてもよい。この場合、変化後のタイトルの表示態様(表示色)に応じた音声が出力するようにしてもよい。

【0431】

(タイトル報知の実行タイミング)

リーチ中のタイトルの報知は、予告演出や発展演出といった、大当たり有利状態に制御される期待度が向上する演出(特定演出)の実行タイミング以外で実行することが好ましい。このようにすることで、一旦タイトルが報知された場合、期待度が向上する演出が実行され得るので、遊技者の期待感を維持することができる。

【0432】

図16は、予告演出の実行の有無や演出態様を決定するための予告演出決定処理の一例を示すフローチャートである。予告演出決定処理は、演出制御用CPU120が図7のステップS171の可変表示開始設定処理内で実行する。予告演出決定処理では、演出制御用CPU120は、先ず、主基板11から送信されるコマンドから特定される変動パターンがスーパーリーチの変動パターンであるか否かを判定する(ステップ31AKS001)。

【0433】

スーパーリーチの変動パターンである場合には(ステップ31AKS001; Yes)、スーパーリーチのタイトルの表示色(タイトル予告の実行の有無)を決定する(ステップ31AKS002)。

【0434】

ステップ31AKS002では、表示結果が「大当たり」となるか「ハズレ」となるかに応じて、例えば図17(A)に示す決定割合で、スーパーリーチのタイトルの表示色を決定する。スーパーリーチのタイトルの表示色は、図17(A)に示すように、「黒」、「赤」、「黒」から「赤」に変化するもの、「黒」から「フルーツ柄」に変化するもの、「赤」から「フルーツ柄」に変化するものが設けられており、この順番(昇順)で大当たり信頼度が高くなっている。即ち、タイトルの表示色の変化タイミングに応じて大当たり信頼度が異なっている。このようにすることで、遊技者がタイトルの表示色の変化タイミングに注目するようになり、演出効果が向上する。

【0435】

なお、「フルーツ柄」は、タイトルの文字が太字で表示され文字そのものが「フルーツ柄」であってもよいし、タイトルの表示領域の背景部分が「フルーツ柄」となるものであってもよい。最初から「フルーツ柄」で表示されるパターンがあってもよい。表示色が変わるものについては、図15に示したように、タイトル報知が実行された後に表示色が変わればよい。表示色が変わるものについて、表示色が変わるタイミングが複数あってもよい。そして、表示色が変わるタイミングに応じて大当たり信頼度を異ならせてもよい。また、スーパーリーチの種類によって、タイトルの表示期間が異なるため、スーパーリーチの種類によって表示色が変わるタイミングが異なるようにしてもよい。タイト

ルの表示期間が長いスーパーリーチ（例えばスーパーリーチDやスーパーリーチE）の場合には、変化するタイミングを複数設けて、変化タイミングをいずれかに決定するようにしてもよい。そして、タイトルの表示期間が短いスーパーリーチ（例えばスーパーリーチAやスーパーリーチB）の場合には、変化するタイミングの数を1つ又はタイトルの表示期間が長いスーパーリーチよりも少数にしてもよい。

【0436】

演出モードとして、通常モードと特別モードとがある場合、通常モードでは図17（A）に示す決定割合でタイトルの表示色を決定し、特別モードでは図17（B）に示すような通常モードと異なる割合でタイトルの表示色を決定する。なお、特別モードでは、表示色のパターンや信頼度の順位が通常モードと異なるようにしてもよい。このように、演出

10

【0437】

この実施の形態では、予告演出として、スーパーリーチのリーチ演出におけるキャラクタのセリフの表示態様（例えばセリフの表示色等）によって、大当たり信頼度を予告するセリフ予告を実行するようになっている。

【0438】

スーパーリーチのタイトルの表示色を決定した後は、スーパーリーチのリーチ演出におけるキャラクタのセリフの表示色（セリフ予告の実行の有無）を決定する（ステップ31AKS003）。

20

【0439】

ステップ31AKS003では、表示結果が「大当たり」となるか「ハズレ」となるかに応じて、例えば図17（C）に示す決定割合で、リーチ演出におけるセリフの表示色を決定する。リーチ演出におけるセリフの表示色は、図17（C）に示すように、「白」、「赤」、「白」から「赤」に変化するものが設けられており、この順番（昇順）で大当たり信頼度が高くなっている。即ち、セリフの表示色の変化タイミングに応じて大当たり信頼度が異なっている。このようにすることで、遊技者がセリフの表示色の変化タイミングに注目するようになり、演出効果が向上する。なお、表示色が変化するものについては、セリフが表示された後に表示色に変化すればよい。表示色が変化するものについて、表示色に変化するタイミングが複数あってもよい。そして、表示色が変化するタイミングに応じて大

30

【0440】

また、タイトル予告とセリフ予告との演出態様の組み合わせで、大当たり信頼度が異なるようにしてもよい。例えば、タイトル予告とセリフ予告とで同じ演出態様（表示色）が含まれる場合、同じ演出態様となった場合には大当たり信頼度が高くなるようにしてもよい。また、タイトル予告とセリフ予告との演出態様の変化タイミングの組み合わせで、大当たり信頼度が異なるようにしてもよい。例えば、変化タイミングが同じ場合に変化タイミングが異なる場合より大当たり信頼度が高くなるようにしたり、いずれの変化が先かで大当たり信頼度を異ならせてもよい。このようにすることで、タイトル予告とセリフ予告とのそれぞれの変化タイミングに注目させることができる。

40

【0441】

演出モードとして、通常モードと特別モードとがある場合、特別モードでは通常モードと異なる割合でセリフの表示色を決定するようにしてもよい。なお、特別モードでは、表示色のパターンや信頼度の順位が通常モードと異なるようにしてもよい。

【0442】

なお、セリフ予告に代えてリーチ演出の演出態様の変化によって大当たり信頼度を予告する予告演出を実行するようにしてもよい。その場合、その予告演出において、演出態様の変化タイミングを複数設けて、変化タイミングに応じて大当たり信頼度が異なるようにすればよい。

【0443】

50

リーチ演出におけるセリフの表示色を決定した後や、スーパーリーチの変動パターンでないと判定された場合（ステップA K 3 1 S 0 0 1；No）、その他の予告演出に実行有無や演出態様を決定する（ステップA K 3 1 S 0 0 4）。その後、3 1 A K S 0 0 2～3 1 A K S 0 0 4における決定結果をR A M 1 2 2の所定領域に保存し（ステップA K 3 1 S 0 0 5）、予告演出決定処理を終了する。

【0 4 4 4】

なお、この実施の形態では、スーパーリーチである場合に、タイトル予告及びセリフ予告を実行可能となっているが、特定のスーパーリーチ（例えば信頼度の低いスーパーリーチ以外）である場合に、タイトル予告及びセリフ予告のうち少なくとも一方を実行可能にしてもよい。また、タイトル予告及びセリフ予告については、図17に示す決定割合で決定されるものとして説明したが、決定割合は任意であり、例えばスーパーリーチの種類に応じて決定割合を異ならせてもよい。このようにすることで、リーチの種類に応じた予告演出を実行でき、演出効果が向上する。

10

【0 4 4 5】

この実施の形態では、タイトル予告とセリフ予告とでは、実行可能な演出態様の数（表示可能な表示色の数）が異なっている。このようにすることで、演出が多彩になり演出効果が高まる。タイトル予告とセリフ予告とにおいて、実行可能な演出態様の数は任意に変更してもよく、実行可能な演出態様の数や種類が同じであってもよい。このようにすることで、統一感ある予告演出が実行でき、遊技者は大当り信頼度を把握しやすくなる。

【0 4 4 6】

（作用演出）

このタイトル予告とセリフ予告との演出態様が変化するとき、演出態様を変化することを示す演出を実行するようにしてもよい。例えば、画像表示装置5に作用演出画像を表示し、その画像がタイトル及びセリフのうち少なくとも1つに作用する作用演出を実行するようにしてもよい。そして、作用演出が実行された後に、タイトルやセリフの演出態様（表示色）が変化するようにしてもよい。作用演出の演出態様（作用演出画像等）はタイトル及びセリフにいずれに作用する場合でも共通としてもよい。なお、作用演出が実行されたにも関わらず、タイトルやセリフの演出態様が変わらない場合であってもよい。作用演出を実行する場合には、タイトル予告とセリフ予告に係る決定結果に基づいて、作用演出の実行の有無や実行タイミング、演出態様を決定するようにすればよい。そのような決定はステップA K 3 1 S 0 0 4の処理で実行されればよい。例えば、作用演出の演出態様に応じて、タイトル予告とセリフ予告との少なくとも一方の演出態様が変わる割合（作用演出により演出態様が変わる割合）が異なるようにしてもよいし、タイトル予告とセリフ予告といずれの演出態様が変わるかの割合（いずれに作用するかの割合）が異なるようにしてもよいし、何色に（何段階）変化するかの割合が異なるようにしてもよい。このような作用演出を実行することで、遊技者はいずれ作用演出画像が表示されたときに、タイトルとセリフのいずれに作用するかに注目するようになり演出効果が向上する。なお、複数の演出モードがある場合、演出モードに応じて異なる割合で作用演出の実行有無や演出態様を決定するようにしてもよい。このようにすることで、演出モードに応じた作用演出を実行でき、演出効果が向上する。

30

40

【0 4 4 7】

このような作用演出の他の例として、リーチ演出の演出内容（例えばキャラクタの動作やバトル演出における演出内容等）に応じて、タイトル及びセリフのいずれかのうち少なくとも1つの演出態様（表示色）が変化するようにしてもよい。このようにすることで、遊技者はリーチ演出の演出内容に注目するようになる。

【0 4 4 8】

この発明は、上記特徴部3 1 A Kで説明したパチンコ遊技機1に限定されず、この発明の趣旨を逸脱しない範囲で、様々な変形及び応用が可能である。例えば、上記実施の形態で説明した特徴部分は、全てが必須構成ではなく、適宜省略可能である。

【0 4 4 9】

50

(サブ液晶)

画像表示装置 5 とは異なるサブ表示装置として、遊技盤 2 または遊技機用枠 3 にサブ液晶が設けられていてもよい。ここではサブ液晶と表現するが、サブ表示装置は、有機 E L やドットマトリクス of L E D により構成されてもよい。サブ液晶装置は、例えば画像表示装置 5 の近傍等に固定されるものであってもよいし、可動式または収納式であってもよい。サブ液晶においては、予告演出や保留表示の表示といった各種演出を実行する。例えば、サブ液晶においてタイトル報知を実行するようにしてもよい。上記実施の形態のスーパーリーチ D 及びスーパーリーチ E のように、タイトル報知後にも継続してタイトルを表示する場合に、サブ液晶においてタイトルや期待度示唆表示を表示するようにしてもよい。この場合、画像表示装置 5 においてタイトルを報知した後に、サブ液晶においてタイトルや期待度示唆表示を表示するようにしてもよい。このようにすることで、画像表示装置 5 におけるスーパーリーチ演出を阻害することなくタイトルや期待度示唆表示を表示することができる、タイトルや期待度示唆表示もわかりやすくなる。

【0450】

上記実施の形態では、示唆演出としてのリーチ演出のタイトルの報知について、この発明を適用した例を説明したが、他の演出に関するタイトル報知（主に文字を表示する報知）にこの発明を適用してもよい。例えば、予告演出（例えば先読み予告演出）として、画像表示装置 5 における背景画像や演出態様がそれぞれ異なる複数のゾーン（ステージ、演出モード等）に移行させる先読みゾーン演出を実行する場合において、移行したゾーンのタイトル報知にこの発明を適用してもよい。ミッション（「7 でリーチをかけろ」、「スティックコントローラを使って敵を全滅させろ」等）を提示し、当該ミッションを達成したときに遊技者に有利な状態となるミッション演出を実行する場合に、ミッションのタイトル報知にこの発明を適用してもよい。

【0451】

(特徴部 31AK の変形例 1)

上記実施の形態では、表示結果を導出するタイミングになると、表示結果が「大当たり」となるか否かを報知するための決め演出が実行され、その後、表示結果が示されるようになっていた（図 11 (B) ~ (D)）。このような決め演出に代えて、表示結果を導出する前の所定タイミングになると、スティックコントローラ 31A やプッシュボタン 31B の操作を促す操作演出が実行され、操作有効期間に所定の操作が検出されるとバトル演出の勝敗が表示されたり、表示結果が仮停止される等により、表示結果が示されるようにしてもよい。このようにすることで、遊技者の操作に応じて表示結果が示されるため、遊技者の遊技参加意欲を高めることができ、興味が向上する。

【0452】

図 18、図 19 は、操作演出が実行され、その操作に応じて表示結果が示される変形例におけるスーパーリーチの演出動作例を示す図である。図 18 (A) に示すように、画像表示装置 5 においてリーチ態様となった後、例えば図 18 (B) に示すように、味方キャラであるのキャラクタ 31AK041 と敵キャラであるキャラクタ 31AK042 とが表示され、図 18 (C) ~ (F)、図 19 (G) ~ (I) に示すように、キャラクタ 31AK041 とキャラクタ 31AK042 とが対決するリーチ演出が実行される。

【0453】

リーチ演出に伴い、図 18 (C) に示すように、画像表示装置 5 の右下に小ボタン画像 31AK043 と小ボタン画像 31AK043 に重畳する規制線 31AK044 とが表示される。これにより、プッシュボタン 31B を使用する操作演出が実行されるが、現状は操作の受付が規制されていることが示唆される。

【0454】

この変形例では、操作演出が実行されることを示す操作演出画像が複数種類用意されている。そして、いずれの操作演出画像が表示されて操作演出が実行されるかによって大当たり信頼度が異なるようになっている。また、リーチ演出中に操作演出が実行されることを示す画像がより信頼度の高い態様に変化する場合があるようになっている。

【0455】

例えば、図18(D)に示すように、祈るキャラクタ31AK045が表示され、図18(E)に示すように、祈るキャラクタ31AK045が喜ぶキャラクタ31AK046に変化するとともに、小ボタン画像31AK043が大ボタン画像31AK047に変化する。

【0456】

その後、図19(H)に示すように、大砲31AK048が表示され、図19(I)に示すように、大砲31AK048から弾が発射されるエフェクト31AK049が表示され、大ボタン画像31AK047に弾が命中するエフェクト31AK050が表示される。そして、大ボタン画像31AK047がスティック画像31AK051に変化する。

10

【0457】

このように、この変形例では、操作演出画像が変化する場合には操作演出画像が変化することを示す作用演出が実行される。なお、作用演出を伴わずに操作演出画像が変化する場合があってもよい。また、作用演出が実行されたにも関わらず操作演出画像が変化しない場合があってもよい。作用演出の種類によって、操作演出画像が変化する割合が異なっている。

【0458】

その後、表示結果が導出される所定時間前に、図19(J)に示すように、規制線31AK044が消去され、図19(K)に示すように、スティック画像31AK051が中央部に拡大表示され、スティックコントローラ31Aを引く操作を促す表示がされる。また、このときスティックコントローラ31Aへの操作が有効な操作有効期間となる。

20

【0459】

ここで、スティックコントローラ31Aを引く操作が検出されると、図19(L)に示すように、味方キャラが勝利したことを示す画像31AK052が表示される。その後、変動時間の終了するタイミングで、図19(M)に示すように、大当たり組合せとなる確定飾り図柄が導出される。なお、予め定められた操作有効期間内に操作が検出されなかった場合には、自動的に図19(L)に示す画像が表示される。

【0460】

この変形例では、操作演出画像として、小ボタン画像、大ボタン画像、スティック画像とがあり、小ボタン画像<大ボタン画像<スティック画像の順でこれらの画像を用いた操作演出が実行された場合の大当たり信頼度が高くなっている。信頼度の低い操作演出画像が表示された場合であっても、リーチ演出中に信頼度の高い操作演出画像に変化する場合があるので、演出効果が向上し、また、遊技者の期待感を維持することができる。

30

【0461】

なお、図18、図19に示した演出動作例では、リーチのタイトル報知や、期待度示唆表示は省略しているが、図18、図19に示したリーチ演出や操作演出と並行して適宜実行されるようにしてもよい。操作演出や操作演出画像に係る決定(操作演出の有無、表示する操作演出画像、作用演出の有無等)は、図16のステップ31AKS004にて実行されればよい。

【0462】

(特徴部31AKの変形例2)

大当たり遊技状態等の有利状態への制御の期待度を示唆する示唆表示を行なうようにしてもよい。例えば、第1示唆表示を行うシャッター演出と、第2示唆表示を行うリーチタイトル演出と、実行するようにしてもよい。シャッター演出では、可変表示開始後に画面上をシャッター表示で覆う演出が実行される。また、リーチタイトル演出では、リーチ後にリーチ演出の発展先を示すリーチタイトル表示をする演出が実行される。シャッター表示およびリーチタイトル表示のいずれを表示するときにも特定画像が含まれて表示される場合がある。リーチタイトル演出は、上記実施の形態のタイトル予告と同じであってもよいし、別の処理で決定される別の演出であってもよい。

40

【0463】

50

特定画像とは、画像内に複数種類の要素を含んで表示される大当たり信頼度の高い画像のことである。複数種類の要素としては、要素E1のバナナ画像、要素E2のメロン画像、要素E3のリンゴ画像、要素E4のスイカ画像、要素E5のイチゴ画像が含まれる。これら要素E1～E5を含んで構成されたフルーツ柄画像が特定画像である。シャッター表示およびリーチタイトル表示のいずれにおいても、要素E1～E5の全てが視認可能となるように表示される。また、特定画像を構成する要素E1～E5の表示サイズは、シャッター表示とリーチタイトル表示との表示サイズの違いに応じて変更して表示される。また、要素E1～E5のすべてがシャッター表示およびリーチタイトル表示のそれぞれに収まるように表示される。

【0464】

可変表示開始後にシャッター演出が実行された場合に、フルーツ柄画像が表示されるときには、フルーツ柄画像が表示されないときよりも大当たり信頼度が高い。また、リーチ演出実行中に、リーチタイトル表示をする際に、フルーツ柄画像で表示がされるときには、フルーツ柄画像で表示がされないときよりも大当たり信頼度が高い。フルーツ柄が表示されないときには、たとえば、各要素E1～E5を含まない無地の画像が表示される。なお、シャッター演出およびリーチタイトル演出が実行されたときの大当たり信頼度を示す画像として、フルーツ柄画像以外の画像のパターンが用意されていてもよい。たとえば、大当たり信頼度の順に白画像<青画像<赤画像<フルーツ柄画像が用意されていてもよい（たとえば、赤色のシャッターや赤文字のリーチタイトル等）。そして、可変表示の表示結果が大当たりとなるか否かにより、所定の乱数抽選でいずれか1つの画像パターンが選択されるようにしてもよい。

【0465】

シャッター表示およびリーチタイトル表示を行なう際に、フルーツ柄が表示される際においても、スピーカ8による共通音（メロディ）を出力する報知を行なうとともに遊技効果ランプ9の発光による報知を行なう。共通音および遊技効果ランプ9の発光制御により、フルーツ柄が特別な画像であることが遊技者に示される。このような、シャッター表示およびリーチタイトル表示を行なう際には、フルーツ柄に対する共通報知が実行される。また、リーチタイトル表示では、共通報知の後に、特定音（ボイス）がさらに出力される。なお、共通音と特定音とは、出力期間が一部重なるようにしてもよい。

【0466】

図20は、シャッター演出およびリーチタイトル演出が実行されるときに表示画面図である。図20(a)に示すように、シャッター演出が実行される場合、画像表示装置5において可変表示の開始時にシャッター画像31AK061が表示される。シャッター画像31AK061には、要素E1～E5全てを含むフルーツ柄の画像が表示される。また、シャッター演出実行時には、スピーカ8による共通音（メロディ）を出力する報知が実行されるとともに遊技効果ランプ9の発光による報知が実行される。閉じていたシャッターが開くと、図20(b)に示すように、飾り図柄の可変表示が開始される。下向きの矢印が左、中、右図柄の可変表示を示している。左図柄および右図柄の可変表示が仮停止すると、図20(c)に示すように、リーチ状態となる。

【0467】

次いで、図20(d)に示すように、スーパーリーチ演出が開始される。可変表示は例えば画面右上に小さく表示され、画面左側にキャラクタが表示される。画面右下には、リーチタイトル画像31AK062が表示され、これから実行されるスーパーリーチの内容がリーチタイトル表示として示される。リーチタイトル画像31AK062には、要素E1～E5全てを含むフルーツ柄の画像が表示される。また、リーチタイトル画像31AK062には、バトル演出を伴うリーチ演出が実行されることを示す「バトルリーチ」の文字が表示される。

【0468】

また、リーチタイトル演出実行時には、スピーカ8による共通音（メロディ）を出力する報知が実行されるとともに遊技効果ランプ9の発光による報知が実行される。さらに、

共通音を出力後に、キャラクタが「アツイアツイ」のような大当り信頼度が高いことを示す特定音（ボイス）を発する演出が実行される。ここで、リーチタイトル演出ではシャッター演出に比べ表示する示唆表示のサイズが小さい。しかし、このように、リーチタイトル演出においては、特定音を出力することで、フルーツ柄画像が表示されたことを遊技者により認識させやすくすることができる。なお、共通音と特定音とは、出力期間が完全に分かれている場合を説明したが、出力期間が一部重なるようにしてもよい。

【0469】

その後、図20（e）に示すような、バトルリーチ演出が実行される。画面左には敵キャラクタが表示され、画面右には味方キャラクタが表示される。味方キャラクタが敵キャラクタとのバトルに勝利すると、画面左上には「バトル勝利！」の文字が表示される。バトルに勝利したことで大当りが確定したことが報知される。バトル演出が終了すると元の数字図柄による可変表示画面に戻る。図20（f）に示すように、全ての図柄が停止し、「777」の大当り図柄が表示される。

10

【0470】

図20（a）、（d）に示すように、シャッター画像31AK061およびリーチタイトル画像31AK062のいずれにもフルーツ柄画像を構成する全ての要素E1～E5を含んで表示される。このようにすれば、表示サイズの異なるシャッター画像31AK061とリーチタイトル画像31AK062とのいずれにおいても、フルーツ柄画像を好適に表示することができる。これにより、大当り信頼度の高いフルーツ柄画像が表示されたことを正確に伝えることができる。

20

【0471】

また、図20（a）に示すシャッター画像31AK061の表示サイズは、図20（d）に示すリーチタイトル画像31AK062の表示サイズよりも大きく表示される。よって、シャッター画像31AK061の表示サイズとリーチタイトル画像31AK062の表示サイズとの違いに注目させることができる。

【0472】

また、図20（a）に示すシャッター画像31AK061と図20（d）に示すリーチタイトル画像31AK062とは異なるタイミングで表示される。このようにすれば、実行タイミングが重なることにより特定画像であるフルーツ柄画像が見えづらくなってしまうことを防止することができる。

30

【0473】

シャッター演出に係る決定（シャッター演出の有無や演出態様）は、図16のステップ31AKS004にて実行されればよい。その際には、図16のステップ31AKS002におけるタイトルの表示色の決定結果に基づいてシャッター演出に係る決定を行うようにしてもよい。例えば、タイトルの表示色がフルーツ柄になるものが決定されている場合は、フルーツ柄のシャッター演出が実行されやすくしてもよい。また、リーチタイトル演出に係る決定もシャッター演出に係る決定と合わせて図16のステップ31AKS004にて実行されるようにしてもよい。

【0474】

（他の特徴部に関する構成の説明）

40

次にこの発明の形態における他の特徴部について説明する。この特徴部は、設定値にもとづいて遊技者にとって有利な大当り遊技状態などの有利状態の制御を実行可能とし、所定の設定変更操作にもとづいて設定値を変更可能にするための構成や、設定されている設定値を表示により確認可能にするための構成を備えている。そして、遊技球などの遊技媒体が所定領域に進入することにもとづいて付与される賞球などの遊技価値に関する情報を表示可能な構成により、設定されている設定値を表示可能にする。

【0475】

図21-1は、この特徴部に係るパチンコ遊技機1に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。上記実施の形態と共通する構成には、同一の符号が付されている。例えば出力回路111は、ソレノイド回路111と同様の構成を有するものであればよい。

50

第1特別図柄表示器4Aや第2特別図柄表示器4Bは、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bと同様の構成を有するものであればよい。演出表示装置5は、画像表示装置5と同様の構成を有するものであればよい。表示結果が「はずれ」（ひらがな）となる場合は、表示結果が「ハズレ」（カタカナ）となる場合と同様である。第1一般入賞口スイッチ26A、第2一般入賞口スイッチ26B、第3一般入賞口スイッチ26C、第4一般入賞口スイッチ26Dは、複数の一般入賞口10のいずれかを通過（進入）した遊技球を検出し、検出に基づいて所定個数（例えば10個）の遊技球が賞球として払い出される。

【0476】

演出制御基板12には、可動役物（可動演出装置）となる可動部材を駆動する動作用モータAK011～AK014と、その可動部材の原点位置を検知する原点センサAK021～AK024とが接続されている。動作用モータAK011～AK014は、モータあるいは電磁ソレノイドなどを用いたものであればよい。原点センサAK021～AK024は、マイクロスイッチなどの接触型のセンサやフォトセンサもしくは静電容量式センサなどの非接触型センサを用いて構成されていけばよい。演出制御基板12には、時刻情報を出力可能なリアルタイムクロック（RTC）126が設けられている。

【0477】

この実施例では、小当り遊技状態に制御された場合に、特別可変入賞球装置7により形成される大入賞口である第1大入賞口とは別個に設けられた第2大入賞口が、所定の開放状態様で開放状態となる。例えば、小当り遊技状態において、所定の上限時間（例えば3秒間）が経過するまでの期間あるいは所定個数（例えば10個）の入賞球が発生するまでの期間にて、第2大入賞口を開放状態とする。この実施例では、小当り遊技状態において所定の上限時間（例えば3秒間）が経過するまで第2大入賞口が1回開放するように設定されているが、この発明はこれに限定されるものではなく、小当り遊技状態において複数回開放するようにしてもよい。第2大入賞口は、第2大入賞口扉用のソレノイド83がオン状態であるときに、第2大入賞口扉により開放状態となり、遊技球が第2大入賞口を通過（進入）しやすくなる。その一方で、第2大入賞口扉用のソレノイド83がオフ状態であるときに、第2大入賞口扉により第2大入賞口を閉鎖状態として、遊技球が第2大入賞口を通過（進入）できなくする。このように第2大入賞口は、遊技球が通過（進入）しやすく遊技者にとって有利な開放状態と、遊技球が通過（進入）できず遊技者にとって不利な閉鎖状態とに変化する。なお、遊技球が第2大入賞口を通過（進入）できない閉鎖状態に代えて、あるいは閉鎖状態の他に、遊技球が第2大入賞口を通過（進入）しにくい一部開放状態を設けてもよい。

【0478】

カウントスイッチ23は、第1大入賞口を通過（進入）した遊技球を検出する第1カウントスイッチとなる。第2大入賞口を通過（進入）する遊技球は、第2大入賞口内に設置された第2カウントスイッチを通過することで、第2カウントスイッチによって検出される。第2カウントスイッチによって遊技球が検出されたことに基づき、所定個数（例えば15個）の遊技球が賞球として払い出される。こうして、て開放状態となった第2大入賞口を遊技球が通過（進入）したときには、例えば第1始動入賞口や第2始動入賞口といった、他の普通入賞口を遊技球が通過（進入）したときよりも多くの賞球が払い出される。したがって、第2大入賞口が開放状態となれば、第2大入賞口に遊技球が進入可能となり、遊技者にとって有利な第1状態となる。その一方で、第2大入賞口が閉鎖状態となれば、第2大入賞口に遊技球を通過（進入）させて賞球を得ることが不可能または困難になり、遊技者にとって不利な第2状態となる。

【0479】

第2大入賞口の内部には、遊技球が通過可能な第3カウントスイッチと第4カウントスイッチとが設置されている。第2大入賞口を通過（進入）した遊技球は、第3カウントスイッチまたは第4カウントスイッチのいずれかを通過して、遊技盤2の背面側に誘導される。遊技球は、第3カウントスイッチを通過することで、第3カウントスイッチによって

検出される。遊技球は、第4カウントスイッチを通過することで、第4カウントスイッチによって検出される。

【0480】

この実施例では、小当り遊技中に第3カウントスイッチによって遊技球が検出されたことに基づき、小当り遊技終了後の遊技状態を大当り遊技状態に制御するようになっている。よって、小当り遊技中に第2大入賞口扉が開放している期間において、振動等を付加することによって遊技球の進路が変更されて第3カウントスイッチによって遊技球が検出されてしまうと、遊技者にとって有利な大当り遊技状態に制御されてしまう不正が可能となってしまうので、この実施例のパチンコ遊技機1では、このような場合に遊技を中止するようになっている。

10

【0481】

第2大入賞口の内部には、遊技球の第3カウントスイッチへ向けての流下を規制及び許容する規制部材が設けられている。規制部材は、遊技球の第3カウントスイッチへ向けての流下を規制する規制状態と、遊技球の第3カウントスイッチへ向けての流下を許容する許容状態と、に変化可能となるように設けられている。

【0482】

小当り遊技状態において、第2大入賞口に入賞した遊技球が第3カウントスイッチを通過すると、遊技球の第3カウントスイッチの通過に基づく「大当り」となる（V入賞大当り）。つまり、CPU103は、第3カウントスイッチにより遊技球の通過を検出したことに基づき、遊技状態を大当り遊技状態に制御する。一方、小当り遊技状態において第2大入賞口に入賞した遊技球が第4カウントスイッチを通過した場合は、「大当り」とはならない。つまり、CPU103は、第4カウントスイッチにより遊技球の通過を検出したことに基づき、遊技状態を大当り遊技状態には制御しない。

20

【0483】

そして、遊技球の第3カウントスイッチの通過に基づいて大当り遊技状態に制御されると、第2大入賞口扉が、所定の上限時間（例えば29秒間）が経過するまでの期間あるいは所定個数（例えば10個）の入賞球が発生するまでの期間にて、第2大入賞口を開放状態とする。これにより、第2大入賞口を遊技者にとって有利な第1状態（開放状態）とするラウンド遊技が実行される。なお、この実施例では、第3カウントスイッチの通過に基づいて大当り遊技状態に制御されると、第2大入賞口が第1状態に制御されるようになっているが、この発明はこれに限定されるものではなく、第1大入賞口が第1状態に制御されるようにしてもよい。

30

【0484】

第2大入賞口の開放サイクルであるラウンド遊技は、その実行回数が所定の上限回数（例えば「15」や「5」など）に達するまで、繰り返し実行可能となっている。なお、ラウンド遊技の実行回数が上限回数に達する前であっても、所定条件の成立（例えば第2大入賞口に遊技球が入賞しなかったことなど）によりラウンド遊技が終了するようにしてもよい。

【0485】

図21-2は、パチンコ遊技機1に搭載された主基板11、演出制御基板12、電源基板17などを示す背面図である。主基板11は、基板ケース201に収納された状態でパチンコ遊技機1の背面に搭載される。主基板11には、パチンコ遊技機1の背面側から視認可能な表示モニタ29が設けられており、表示モニタ29に、入賞に関する各種の入賞情報を表示する機能も備えている。なお、表示モニタ29の左側方には表示切替スイッチ30が設けられており、表示切替スイッチ30の操作によって表示モニタ29に表示されている情報を切り替えることが可能となっている。

40

【0486】

主基板11には、遊技盤2の前面を開閉可能に覆うガラス扉枠の開放を検知する扉開放センサ90、第1大入賞口や第2大入賞口の開放を検知するための大入賞口扉センサ91、等の各種のセンサが接続されており、これらのセンサから出力される検知信号に基づい

50

て、各種の異常（エラー）の発生を判定する機能も備えている。主基板 1 1 のスイッチ回路 1 1 0 には、電源基板 1 7 からのリセット信号、電源断信号、クリア信号が取り込まれ、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に伝送される。

【0487】

主基板 1 1 は、透過性を有する合成樹脂材からなる基板ケース 2 0 1 に封入されており、主基板 1 1 の中央には表示モニタ 2 9（例えば、7 セグメント）が配置され、表示モニタ 2 9 の右側には表示切替スイッチ 3 0 が配置されている。表示モニタ 2 9 及び表示切替スイッチ 3 0 は、主基板 1 1 を視認する際の正面に配置されている。主基板 1 1 は、遊技機用枠 3 を開放していない状態では視認できないので、主基板 1 1 を視認する際の正面とは、遊技機用枠 3 を開放した状態における遊技盤 2 の裏面側を視認する際の正面であり、パチンコ遊技機 1 の正面とは異なる。ただし、主基板 1 1 を視認する際の正面とパチンコ遊技機 1 の正面とが共通するようにしてもよい。

10

【0488】

主基板 1 1（遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）は、各入賞口（第 1 大入賞口、第 2 大入賞口、第 2 始動入賞口、第 1 始動入賞口、一般入賞口、以下、「進入領域」ともいう）への遊技球の進入数の集計を行い、集計による連比、役比などの各種の入賞情報が表示モニタ 2 9 に表示されるようになっており、これら入賞情報が表示されることで、遊技場に設置後における連比、役比などの各種の入賞情報を確認できる。パチンコ遊技機 1 のメーカ側においては、予め定められた頻度で一般入賞口に遊技球が進入するように（試験を通過するように）遊技盤面を設計することが通常である。また、試験を行う際には、予め定められた頻度で一般入賞口に遊技球が進入しているかが確認（検証）される。さらに、パチンコ遊技機 1 を設置した後においても、調整が行われたか否か、どのような調整が行われているか、その調整の結果、設計どおりの頻度で一般入賞口に遊技球が進入しているかなどが確認（検証）される。そこで、この実施例のパチンコ遊技機 1 においては、設置後における調整の有無や内容を認識できるようになっている。

20

【0489】

電源基板 1 7 は、外部電源（商用電源）である交流電源（AC 100V）からの電力を、主基板 1 1 や演出制御基板 1 2 などの各種制御基板を含めた電気部品に供給可能となるように構成されている。電源基板 1 7 は、透過性を有する合成樹脂材からなる基板ケース 2 0 2 に封入されており、電源基板 1 7 の背面右側上部には、設定変更状態または設定確認状態に切り替えるための錠スイッチ 5 1 と、設定変更状態において大当りの当選確率（出玉率）等の設定値を変更するための設定スイッチとして機能する設定切替スイッチ 5 2 が設けられている。また、電源基板 1 7 には、クリアスイッチ AK001、電源スイッチ AK002 が設けられている。

30

【0490】

錠スイッチ 5 1 および設定切替スイッチ 5 2 は、パチンコ遊技機 1 の背面側に設けられており、所定のキー操作により開放可能な遊技機用枠 3 を開放しない限り操作不可能であり、所定のキーを所持する係員のみが操作可能となる。また、錠スイッチ 5 1 はキー操作を要することから、遊技場の係員のなかでも、錠スイッチ 5 1 の操作を行うキーを所持する係員のみ操作が可能とされている。錠スイッチ 5 1 は、所定のキーによって ON と OFF の切替操作を実行可能なスイッチであるとともに、切替操作とは異なる操作（例えば、押込み操作）を実行可能なスイッチでもある。

40

【0491】

電源スイッチ AK002 を用いた電源投入の操作が行われるときには、錠スイッチ 5 1 におけるオンとオフの切替操作や、クリアスイッチ AK001 の押下操作といった、錠スイッチ 5 1 またはクリアスイッチ AK001 を用いた所定の動作が行われる場合がある。錠スイッチ 5 1 とクリアスイッチ AK001 は、電源スイッチ AK002 を用いた電源投入の動作に伴い、これらのスイッチを同時に用いた所定の動作が行われる場合もある。そこで、少なくとも、錠スイッチ 5 1 と、クリアスイッチ AK001 と、電源スイッチ AK002 は、遊技場の係員などにより同時操作が可能な位置に配置されていけばよい。この

50

ように、錠スイッチ 5 1、および、クリアスイッチ A K 0 0 1 は、電源スイッチ A K 0 0 2 を用いた電源投入の動作に伴い、遊技場の係員などによるオンとオフの切替操作や押下操作となる各種動作を検出可能に構成されている。

【0492】

パチンコ遊技機 1 の背面側の下部には、各入賞口に入賞した遊技球やアウト口に進入した遊技球をパチンコ遊技機 1 外に排出するためのノズル（排出口）が設けられ、ノズル内には、パチンコ遊技機 1 内から排出される遊技球を検出する（発射された遊技球を検出する）ための排出口スイッチ 7 0 が設けられている。排出口スイッチ 7 0 からの信号は、主基板 1 1 のスイッチ回路 1 1 0 に取り込まれる。

【0493】

図 2 1 - 3 は、この実施例で用いられる演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。演出制御コマンドは、例えば 2 バイト構成であり、1 バイト目は M O D E（コマンドの分類）を示し、2 バイト目は E X T（コマンドの種類）を表す。M O D E データの先頭ビット（ビット 7）は必ず「1」とされ、E X T データの先頭ビットは「0」とされる。なお、このコマンド形態は一例であって、他のコマンド形態を用いてもよい。また、この例では、制御コマンドが 2 つの制御信号で構成されることになるが、制御コマンドを構成する制御信号数は、1 であってもよいし、3 以上の複数であってもよい。

【0494】

コマンド 8 0 0 1 H は、第 1 特別図柄表示器 4 A における第 1 特図を用いた特図ゲームにおける変動開始を指定する第 1 変動開始コマンドである。コマンド 8 0 0 2 H は、第 2 特別図柄表示器 4 B における第 2 特図を用いた特図ゲームにおける変動開始を指定する第 2 変動開始コマンドである。コマンド 8 1 X X H は、特図ゲームにおける特別図柄の変動表示に対応して演出表示装置 5 における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R で変動表示される飾り図柄などの変動パターン（変動時間）を指定する変動パターン指定コマンドである。ここで、X X H は不特定の 1 6 進数であることを示し、演出制御コマンドによる指示内容に応じて任意に設定される値であればよい。変動パターン指定コマンドでは、指定する変動パターンなどに応じて、異なる E X T データが設定される。

【0495】

コマンド 8 C X X H は、特別図柄や演出図柄などの変動表示結果を指定する変動表示結果通知コマンドである。変動表示結果通知コマンドでは、変動表示結果が「はずれ」であるか「大当たり」であるか「小当たり」であるかの決定結果（事前決定結果）や、変動表示結果が「大当たり」となる場合の大当たり種別を複数種類のいずれとするかの決定結果（大当たり種別決定結果）に応じて、異なる E X T データが設定される。

【0496】

変動表示結果通知コマンドは、例えばコマンド 8 C 0 0 H ~ 8 C 0 5 H を含んでいる。コマンド 8 C 0 0 H は、変動表示結果が「はずれ」となる旨の事前決定結果を示す第 1 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8 C 0 1 H は、変動表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たり A」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第 2 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8 C 0 2 H は、変動表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たり B」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第 3 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8 C 0 3 H は、変動表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たり C」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第 4 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8 C 0 4 H は、変動表示結果が「小当たり A」となる旨の事前決定結果を通知する第 5 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8 C 0 5 H は、変動表示結果が「小当たり B」となる旨の事前決定結果を通知する第 6 変動表示結果指定コマンドである。

【0497】

コマンド 8 F 0 0 H は、演出表示装置 5 における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R で飾り図柄の変動停止（確定）を指定する図柄確定コマンド

10

20

30

40

50

である。コマンド9000Hは、パチンコ遊技機1における電源投入による電力供給が開始されたときに、遊技制御用マイクロコンピュータ100での初期化に伴い、RAM102の記憶内容がクリアされたことを通知するRAMクリア通知コマンドである。コマンド9100Hは、パチンコ遊技機1における電源投入による電力供給が開始されたときに、設定値を変更可能にする設定変更状態の開始を指定する設定変更開始コマンドである。コマンド9200Hは、停電復旧時に対応する停電復旧処理の実行を指定する停電復旧指定コマンドである。コマンド93XXHは、設定変更状態の終了を指定する設定変更終了コマンドである。

【0498】

設定変更終了コマンドでは、例えば変更により新たに設定された設定値に対応するEXTデータが設定されてもよい。この場合には、設定変更状態における変更により新たに設定された設定値または変更されずに継続して設定される設定値に応じて、異なるEXTデータが設定される。設定値が1～3の3段階からなる場合に、コマンド9300Hは設定値が「1」に設定されていることを指定し、コマンド9301Hは設定値が「2」に設定されていることを指定し、コマンド9302Hは設定値が「3」に設定されていることを指定すればよい。あるいは、設定変更終了コマンドは、EXTデータが00Hであるコマンド9300Hのみが用意され、変更により新たに設定された設定値にかかわらず、コマンド9300Hにより、設定変更状態の終了を指定してもよい。あるいは、設定変更終了コマンドとは異なる演出制御コマンドとして、パチンコ遊技機1にて設定されている設定値を指定する設定値指定コマンドが用意されてもよい。設定値指定コマンドは、設定変更終了コマンドの送信に伴い送信される場合の他にも、例えば第1変動開始コマンドや第2変動開始コマンドの送信に伴い、特図ゲームの各回における変動開始と対応して送信されてもよい。また、例えば特図ゲームにおける10回の変動開始ごとのように、所定回数の変動表示が実行されることに伴い、設定値指定コマンドが送信されてもよい。これらに代えて、あるいは、これらに加えて、当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドの送信に伴い、設定値指定コマンドが送信されてもよい。客待ちデモ指定コマンドの送信に伴い、設定値指定コマンドが送信されてもよい。

【0499】

コマンド9400Hは、パチンコ遊技機1における電源投入による電力供給が開始されたときに、設定値を確認可能にする設定確認状態の開始を指定する設定確認開始コマンドである。コマンド9401Hは、設定確認状態の終了を指定する設定確認終了コマンドである。コマンド95XXHは、パチンコ遊技機1における現在の遊技状態を指定する遊技状態指定コマンドである。遊技状態指定コマンドでは、例えばパチンコ遊技機1における現在の遊技状態に応じて、異なるEXTデータが設定される。具体的な一例として、コマンド9500Hを時短制御が行われない遊技状態（低ベース状態、通常状態）に対応した第1遊技状態指定コマンドとし、コマンド9501Hを時短制御が行われる遊技状態（高ベース状態、時短状態）に対応した第2遊技状態指定コマンドとする。

【0500】

コマンド96XXHは、パチンコ遊技機1においてエラー（異常）の発生および発生したエラー（異常）の種別を指定するエラー（異常）指定コマンドである。エラー（異常）指定コマンドでは、例えば、各エラー（異常）に対応するEXTデータが設定されることにより、演出制御基板12側において、いずれのエラー（異常）の発生が判定されたのかを特定することができ、特定したエラー（異常）の発生が、エラー報知処理によって報知される。コマンド9F00Hは、客待ち状態における遊技の進行停止に対応した演出画像の表示などによる客待ちデモンストレーション画面の表示（デモ画面表示）を指定する客待ちデモ指定コマンドである。

【0501】

コマンドA0XXHは、大当り遊技状態または小当り遊技状態の開始を示す演出画像の表示を指定する当り開始指定コマンド（「ファンファーレコマンド」ともいう）である。コマンドA1XXHは、大当り遊技状態または小当り遊技状態において、大入賞口が開放

状態となっている期間であることを指定する大入賞口開放中指定コマンドである。コマンド A 2 X X H は、大当り遊技状態または小当り遊技状態において、大入賞口が開放状態から閉鎖状態に変化した期間であることを指定する大入賞口開放後指定コマンドである。コマンド A 3 X X H は、大当り遊技状態または小当り遊技状態の終了時における演出画像の表示を指定する当り終了指定コマンドである。

【0502】

当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、例えば変動表示結果通知コマンドと同様の E X T データが設定されることなどにより、事前決定結果や大当り種別決定結果に応じて異なる E X T データが設定されてもよい。あるいは、当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、事前決定結果及び大当り種別決定結果と設定される E X T データとの対応関係を、変動表示結果通知コマンドにおける対応関係とは異ならせるようにしてもよい。大入賞口開放中通知コマンドや大入賞口開放後通知コマンドでは、大当り遊技状態または小当り遊技状態におけるラウンドの実行回数（例えば「1」～「15」）に対応して、異なる E X T データが設定される。

10

【0503】

コマンド B 1 0 0 H は、普通入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 1 始動口スイッチ 2 2 A により検出されて始動入賞（第 1 始動入賞）が発生したことに基つき、第 1 特別図柄表示器 4 A における第 1 特図を用いた特図ゲームを実行するための第 1 始動条件が成立したことを通知する第 1 始動口入賞指定コマンドである。コマンド B 2 0 0 H は、普通可変入賞球装置 6 B が形成する第 2 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 2 始動口スイッチ 2 2 B により検出されて始動入賞（第 2 始動入賞）が発生したことに基つき、第 2 特別図柄表示器 4 B における第 2 特図を用いた特図ゲームを実行するための第 2 始動条件が成立したことを通知する第 2 始動口入賞指定コマンドである。

20

【0504】

コマンド C 1 X X H は、第 1 特図保留記憶数を通知する第 1 保留記憶数通知コマンドである。コマンド C 2 X X H は、第 2 特図保留記憶数を通知する第 2 保留記憶数通知コマンドである。第 1 保留記憶数通知コマンドは、例えば第 1 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第 1 始動条件が成立したことに基ついて、第 1 始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信される。第 2 保留記憶数通知コマンドは、例えば第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第 2 始動条件が成立したことに基ついて、第 2 始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信される。また、第 1 保留記憶数通知コマンドや第 2 保留記憶数通知コマンドは、第 1 開始条件と第 2 開始条件のいずれかが成立したとき（保留記憶数が減少したとき）に、特図ゲームの実行が開始されることなどに対応して送信されるようにしてもよい。

30

【0505】

第 1 保留記憶数通知コマンドや第 2 保留記憶数通知コマンドに代えて、合計保留記憶数を通知する合計保留記憶数通知コマンドを送信するようにしてもよい。すなわち、合計保留記憶数の増加（または減少）を通知するための合計保留記憶数通知コマンドが用いられるようにしてもよい。

40

【0506】

コマンド D 1 0 0 H は、遊技球が第 3 カウントスイッチを通過したことで第 3 カウントスイッチがオンとなったこと、すなわち、V 入賞したことを通知する V 入賞通知指定コマンドである。演出制御基板 1 2 では、例えば演出制御用 C P U 1 2 0 により、V 入賞通知指定コマンドを受信したことに基ついて、V 入賞したことを報知する V 入賞報知演出を実行する制御が行われてもよい。V 入賞報知演出では、パチンコ遊技機 1 において設定されている設定値に応じて、異なる演出パターンに決定可能としたり、複数の演出パターンの決定割合を異ならせてもよい。このように、V 入賞報知演出の演出態様により設定値を示唆可能にしてもよい。例えば V 入賞報知演出の演出態様として、「V」を示す演出画像が

50

回転表示される場合に、その回転方向を右回りとする演出態様と、回転方向を左回りとする演出態様とが含まれていてもよい。あるいは、「V」を示す演出画像の表示色を異ならせた複数の演出態様が含まれていてもよい。そして、V入賞通知指定コマンドの送信に伴い、設定値指定コマンドが送信されてもよい。これにより、V入賞報知演出が実行される場合に、設定値に応じた演出態様を適切に決定することができる。

【0507】

図21-4は、主基板11の側においてカウントされる遊技用乱数となる乱数値を例示する説明図である。この実施例では、主基板11の側において、特図表示結果判定用の乱数値MR1の他、大当たり種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3、普図表示結果判定用の乱数値MR4、MR4の初期値決定用の乱数値MR5のそれぞれを示す数値データが、カウント可能に制御される。なお、遊技効果を高めるために、これら以外の乱数値が用いられてもよい。これらの乱数値MR1～MR5は、CPU103にて、異なるランダムカウンタを用いて、ソフトウェアによる更新によってカウントするようにしてもよいし、乱数回路104によって更新されてもよい。乱数回路104は、遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されるものであってもよいし、遊技制御用マイクロコンピュータ100とは異なる乱数回路チップとして構成されるものであってもよい。

10

【0508】

この実施例では各乱数値MR1～MR5をそれぞれ図5に示す範囲の値として用いる形態を例示しているが、この発明はこれに限定されるものではなく、これら各乱数値MR1～MR5の範囲は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて異ならせてもよい。

20

【0509】

図21-5は、この実施例における変動パターンを示している。以下では、非リーチハズレの変動パターンを非リーチ変動パターンとも称し、リーチハズレの変動パターンをリーチ変動パターンとも称する。また、表示結果が「大当たり」となる変動パターンを大当たり変動パターンとも称し、表示結果が「小当たり」となる変動パターンを小当たり変動パターンとも称する。

【0510】

大当たり変動パターンやリーチ変動パターンには、ノーマルリーチのリーチ演出が実行されるノーマルリーチ変動パターンと、スーパーリーチα、スーパーリーチβといったスーパーリーチのリーチ演出が実行されるスーパーリーチ変動パターンとがある。この実施例では、ノーマルリーチ変動パターンを1種類のみしか設けていないが、この発明はこれに限定されるものではなく、スーパーリーチと同様に、ノーマルリーチα、ノーマルリーチβ、…のように、複数のノーマルリーチ変動パターンを設けてもよい。また、スーパーリーチ変動パターンでも、スーパーリーチαやスーパーリーチβに加えてスーパーリーチγ…といった3以上のスーパーリーチ変動パターンを設けてもよい。

30

【0511】

ROM101には、例えば表示結果判定テーブル（設定値1）、表示結果判定テーブル（設定値2）、表示結果判定テーブル（設定値3）、大当たり種別判定テーブル（第1特別図柄用）、大当たり種別判定テーブル（第2特別図柄用）、小当たり種別判定テーブルなどが記憶される。

40

【0512】

この実施例のパチンコ遊技機1は、設定値に応じて大当たり及び小当たりの当選確率（出玉率）が変わる構成とされている。例えば特別図柄プロセス処理の特別図柄通常処理において、設定値に応じた表示結果判定テーブル（当選確率）を用いることにより、大当たり及び小当たりの当選確率（出玉率）が変わるようになっている。設定値は1～3の3段階からなり、1が最も出玉率が高く、1、2、3の順に値が大きくなるほど出玉率が低くなる。すなわち、設定値として1が設定されている場合には遊技者にとって最も有利度が高く、2、3の順に値が大きくなるほど有利度が段階的に低くなる。

50

【0513】

図21-6は、表示結果判定テーブルを示す説明図である。表示結果判定テーブルには、MR1と比較される当り判定値が設定されている。表示結果判定テーブルでは、変動特図指定バッファが1（第1）である、つまり、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と、変動特図指定バッファが2（第2）である、つまり、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合のそれぞれについて、大当たりとする判定値と、小当たりとする判定値が設定されている。

【0514】

図21-6（A）は、設定値1に対応する表示結果判定テーブルを示している。設定値1に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合、つまり、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合には、設定値が「2」、「3」である場合よりも高い確率（ $1/99$ ）で大当たりを選出するとともに、これら判定値のうちの一部が小当たりに対応する判定値として設定されていることで、設定値が「2」、「3」である場合よりも高い確率（ $1/50$ ）で小当たりを選出している。設定値1に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/99$ ）で大当たりを選出するとともに、これら判定値のうちの半数が小当たりに対応する判定値として設定されていることで、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合よりも高い確率（ $100/200$ ）で小当たりを選出している。

【0515】

図21-6（B）は、設定値2に対応する表示結果判定テーブルを示している。設定値2に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」である場合よりも低い確率（ $1/150$ ）で大当たりを選出するとともに、これら判定値のうちの一部が小当たりに対応する判定値として設定されていることで、設定値が「1」である場合よりも低い確率（ $1/99$ ）で小当たりを選出している。設定値2に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/150$ ）で大当たりを選出するとともに、これら判定値のうちの半数が小当たりに対応する判定値として設定されていることで、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合よりも高い確率であり、かつ、設定値が「1」である場合と同じ確率（ $100/200$ ）で小当たりを選出している。

【0516】

図21-6（C）は、設定値3に対応する表示結果判定テーブルを示している。設定値3に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、大当たりに対応する判定値が設定されているが、小当たりに対応する判定値は設定されておらず、よって、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合には、設定値が「1」、「2」である場合よりも低い確率（ $1/200$ ）で大当たりを選出するが、小当たりは当選しない（当選確率：0）。設定値3に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/200$ ）で大当たりを選出するとともに、これら判定値のうちの半数が小当たりに対応する判定値として設定されていることで、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合よりも高い確率であり、かつ、設定値が「1」、「2」である場合と同じ確率（ $100/200$ ）で小当たりを選出している。

【0517】

CPU103は、その時点で設定されている設定値に対応する表示結果判定テーブルを参照して、MR1の値が大当りに対応するいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して大当り（大当りA～大当りC）とすることを決定する。また、MR1が小当りに対応するいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して小当りとすることを決定する。すなわち、設定値に応じた確率で大当り及び小当りの当選を決定する。なお、「確率」は、大当りになる確率（割合）並びに小当りになる確率（割合）を示す。大当りにするか否か決定するということは、大当り遊技状態に制御するか否か決定するということであるが、第1特別図柄表示器4Aまたは第2特別図柄表示器4Bにおける停止図柄を大当り図柄にするか否か決定するということでもある。また、小当りにするか否か決定するということは、小当り遊技状態に制御するか否か決定するということであるが、第1特別図柄表示器4Aまたは第2特別図柄表示器4Bにおける停止図柄を小当り図柄にするか否か決定するということでもある。このように、設定値に応じて、大当り遊技状態や小当り遊技状態に制御される確率が異なるので、設定値を変更すれば、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定において、1の設定が他の設定に変更されることになる。

10

【0518】

なお、この実施例では、各表示結果判定テーブルにおいて、変動特図指定バッファが第2である場合における小当りの当選確率は全て同じとしているが、設定値1、2、3の順に小当りの当選確率が低くなるようにしてもよい。一方、変動特図指定バッファが第1である場合、設定値1、2、3の順に小当りの当選確率が低くなるようにしているが、変動特図指定バッファが第2である場合と同様に、全ての設定値で同じ当選確率としてもよい。

20

【0519】

この実施例では、CPU103は、表示結果判定テーブルを用いて大当りまたは小当りとするか否かを判定するようになっているが、大当り判定テーブルと小当り判定テーブルとを別個に設け、大当りの判定は、変動特図指定バッファによらず第1特別図柄の変動表示である場合と第2特別図柄の変動表示である場合とで共通のテーブルを用いて行うようにし、小当りの判定は、変動特図指定バッファが第1である場合と第2である場合とで別個のテーブルを用いて行うようにしてもよい。

【0520】

この実施例では、設定値3に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに変動特図指定バッファが第1である場合、大当りに対応する判定値以外の判定値が小当りに対応する判定値として設定されていない、つまり、小当りが当選しないようになっていたが、大当りに対応する判定値以外の判定値の一部を小当りに対応する判定値として設定し、小当りが当選するようにしてもよい。つまり、設定されている設定値に応じて小当り確率の割合が異なることには、小当り確率が0%であることも含まれている。

30

【0521】

なお、この実施例では、パチンコ遊技機1に設定可能な設定値として1～3の計3個の設定値を設けているが、この発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機1に設定可能な設定値は、2個または4個以上（例えば6個）であってもよい。また、設定値に応じた遊技者の有利度は、設定値が小さいほど遊技者にとって有利度が高くなるものに限定されず、設定値が大きいほど遊技者にとっての有利度も高くなるようにしてもよい。例えば設定値が1～6の6段階からなる場合に、1が最も出玉率が低く、1、2、3、4、5、6の順に値が大きくなるほど出玉率が高くなり、6が最も出玉率が高くなるものであってもよい。このように、設定値として1が設定されている場合には遊技者にとって最も有利度が低く、6が設定されている場合には遊技者にとって最も有利度が高くなるように、値が大きくなるほど有利度が段階的に高くなるものでもよい。

40

【0522】

図21-7は、大当り種別判定テーブルと小当り種別判定テーブルを示す説明図である。大当り種別判定テーブルは、変動表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、当り種別判定用の乱数（MR2）に基づいて、大当りの種別を大当りA～大当りCの

50

うちのいずれかに決定するために参照される。小当り種別判定テーブルは、変動表示結果を小当り図柄にする旨の判定がなされたときに、当り種別判定用の乱数（MR2）に基づいて、小当りの種別を小当りAまたは小当りBに決定するために参照される。この実施例では、小当りAの小当り遊技中に遊技球が第3カウントスイッチを通過した場合、すなわちV入賞大当りが発生した場合は、大当り種別が大当りDの大当り遊技が実行されるようになっている。また、小当りBの小当り遊技中に遊技球が第3カウントスイッチを通過した場合、すなわちV入賞大当りが発生した場合は、大当り種別が大当りEの大当り遊技が実行されるようになっている。これら大当りD及び大当りEは、始動入賞時に抽出される当り種別判定用の乱数値MR2によって決定される大当り種別ではなく、小当りAと小当りBのいずれの小当り遊技中に遊技球が第3カウントスイッチを通過したか否かによって決定される大当り種別である。

10

【0523】

図21-7（A）は、大当り種別判定テーブル（第1特別図柄用）を示している。大当り種別判定テーブル（第1特別図柄用）は、遊技球が第1始動入賞口に入賞したことに基づく保留記憶を用いて（すなわち、第1特別図柄の変動表示が行われるとき）大当り種別を決定する場合に参照される。

【0524】

図21-7（B）は、大当り種別判定テーブル（第2特別図柄用）を示している。大当り種別判定テーブル（第2特別図柄用）は、遊技球が第2始動入賞口に入賞したことに基づく保留記憶を用いて（すなわち、第2特別図柄の変動表示が行われるとき）大当り種別

20

【0525】

図21-7（C）は、小当り種別判定テーブルを示している。小当り種別判定テーブルは、遊技球が第1始動入賞口と第2始動入賞口のうちのいずれに入賞したことに基づく保留記憶であるかにかかわらず、小当り種別を決定する場合に参照される。

【0526】

図21-8は、この実施例における大当り種別を示す説明図である。この実施例では、大当り種別として、大当り遊技状態の終了後において時短制御が実行されない大当りA及び大当りDと、大当り遊技状態の終了後において時短制御が実行される大当りB、大当りC及び大当りEが設定されている。これら大当りA～大当りEのうち、大当りCと大当りEは遊技者にとって最も有利な大当りとされ、大当りAと大当りDは遊技者にとって最も不利な大当りとされている。また、大当りEは大当りDよりも有利な大当りであるため、小当りBは小当りAよりも有利な小当りとされている。

30

【0527】

これら大当りA～大当りEのうち、大当りAは、第1大入賞口を遊技者にとって有利な第2状態に変化させるラウンドが5回（いわゆる5ラウンド）、繰返し実行される大当りである。また、大当りAの大当り遊技状態の終了後は時短制御が実行されない。大当りBは、第1大入賞口を遊技者にとって有利な第2状態に変化させるラウンドが10回（いわゆる10ラウンド）、繰返し実行される大当りである。また、大当りBの大当り遊技状態の終了後は20回の特図ゲームが実行されるまで、または20回の特図ゲームが実行されるまでに再度大当りが発生するまで時短制御が実行される。大当りCは、第1大入賞口を遊技者にとって有利な第2状態に変化させるラウンドが15回（いわゆる15ラウンド）、繰返し実行される大当りである。また、大当りCの大当り遊技状態の終了後は100回の特図ゲームが実行されるまで、または100回の特図ゲームが実行されるまでに再度大当りが発生するまで時短制御が実行される。大当りDは、第2大入賞口を遊技者にとって有利な第2状態に変化させるラウンドが4回（いわゆる4ラウンド）、繰返し実行される大当りである。また、大当りDの大当り遊技状態の終了後は時短制御が実行されない。大当りEは、第2大入賞口を遊技者にとって有利な第2状態に変化させるラウンドが14回（いわゆる14ラウンド）、繰返し実行される大当りである。また、大当りEの大当り遊技状態の終了後は100回の特図ゲームが実行されるまで、または100回の特図ゲーム

40

50

が実行されるまでに再度大当たりが発生するまで時短制御が実行される。

【0528】

なお、大当たりDと大当たりEは、開放対象の大入賞口を第2大入賞口としているが、この発明はこれに限定されるものではなく、大当たりDと大当たりEの開放対象の大入賞口は、第1大入賞口であってもよい。つまり、小当たり遊技については第2大入賞口を開放し、小当たり遊技中にV入賞が発生したことに基づく大当たりDと大当たりEについては、大当たり遊技として第2大入賞口に代えて第1大入賞口を開放すればよい。

【0529】

時短状態においては、「普図当り」となる確率が上昇することで通常状態よりも小当たりが発生しやすくなる。このため、時短状態では、第2特別図柄の変動表示結果として大当たりが発生する場合と、遊技球が小当たり遊技中にV入賞することにより大当たりが発生する場合があるので、大当たり遊技状態が通常状態を介すること無く連続的に発生しやすくなり、いわゆる連チャン状態となる。

10

【0530】

大当たりBの大当たり遊技終了後の時短状態では、時短制御が実行される特図ゲーム数が20回に設定されているため、20回の特図ゲーム中に小当たりが発生し、遊技球が第3カウントスイッチを通過する割合（20回の特図ゲーム中に遊技球がV入賞して大当たりが発生する割合）は約50%に設定されている。一方、大当たりC及び大当たりEの大当たり遊技終了後の時短状態では、時短制御が実行される特図ゲーム数が100回に設定されているため、100回の特図ゲーム中に小当たりが発生し、遊技球が第3カウントスイッチを通過する割合（100回の特図ゲーム中に遊技球がV入賞して大当たりが発生する割合）はほぼ100%に設定されている。

20

【0531】

この実施例では大当たり種別として大当たりA～大当たりEの5種類が設けられているが、この発明はこれに限定されるものではなく、大当たり種別は6種類以上設けられていてもよく、また、4種類以下が設けられていてもよい。

【0532】

大当たり種別判定テーブル（第1特別図柄用）においては、設定値が「1」である場合、MR2の判定値の範囲0～299のうち、0～49までが大当たりAに割り当てられており、50～149までが大当たりBに割り当てられており、150～299までが大当たりCに割り当てられている。また、設定値が「2」である場合、MR2の判定値の範囲0～299のうち、0～99までが大当たりAに割り当てられており、100～249までが大当たりBに割り当てられており、250～299までが大当たりCに割り当てられている。また、設定値が「3」である場合、MR2の判定値の範囲0～299のうち、0～149までが大当たりAに割り当てられており、150～249までが大当たりBに割り当てられており、250～299までが大当たりCに割り当てられている。このように、第1特別図柄の特図ゲームにおいて大当たりが発生した場合に、大当たり遊技終了に時短制御が実行される大当たりBまたは大当たりCを決定する割合が設定値1、2、3の順に低くなるようにしている。

30

【0533】

大当たり種別判定テーブル（第2特別図柄用）においては、設定値が「1」である場合、MR2の判定値の範囲0～299のうち、0～29までが大当たりAに割り当てられており、30～99までが大当たりBに割り当てられており、100～299までが大当たりCに割り当てられている。また、設定値が「2」である場合、MR2の判定値の範囲0～299のうち、0～69までが大当たりAに割り当てられており、70～269までが大当たりBに割り当てられており、270～299までが大当たりCに割り当てられている。また、設定値が「3」である場合、MR2の判定値の範囲0～299のうち、0～199までが大当たりAに割り当てられており、200～269までが大当たりBに割り当てられており、270～299までが大当たりCに割り当てられている。このように、第2特別図柄の特図ゲームにおいて大当たりが発生した場合に、大当たり遊技終了に時短制御が実行される大当たりB、Cを決定する割合が、第1特別図柄の特図ゲームにおいて大当たりが発生した場合よりも高

40

50

く、かつ、設定値 1、2、3 の順に低くなるようになっている。

【0534】

この実施例においては、設定されている設定値が 1 である場合は、大当たり種別を大当たり C に決定する割合が最も高く、次いで、大当たり B に決定する割合が高く、大当たり A に決定する割合が最も低い（設定値 1 における大当たり種別決定割合：大当たり C > 大当たり B > 大当たり A）。また、設定されている設定値が 2 である場合は、大当たり種別を大当たり B に決定割合が最も高く、次いで、大当たり A に決定する割合が高く、大当たり C に決定する割合が最も低い（設定値 2 における大当たり種別決定割合：大当たり B > 大当たり A > 大当たり C）。さらに、設定されている設定値が 3 である場合は、大当たり種別を大当たり A に決定する割合が最も高く、次いで、大当たり B に決定する割合が高く、大当たり C に決定する割合が最も低くなっている（設定値 3 における大当たり種別決定割合：大当たり A > 大当たり B > 大当たり C）。

10

【0535】

なお、設定されている設定値によっては、大当たり A、大当たり B、大当たり C のうち、決定されていない大当たり種別が 1 つまたは複数あってもよい。つまり、設定されている設定値に応じて大当たり種別の決定割合が異なることには、いずれかの大当たり種別を決定しないこと（決定割合が 0 % である）や、特定の大当たり種別を 100 % の割合で決定すること含まれている。

【0536】

小当たり種別判定テーブルにおいては、設定値が「1」である場合、MR 2 の判定値の範囲 0 ~ 299 のうち、0 ~ 99 までは小当たり A に割り当てられており、100 ~ 299 までは小当たり B に割り当てられている。また、設定値が「2」である場合、MR 2 の判定値の範囲 0 ~ 299 のうち、0 ~ 149 までは小当たり A に割り当てられており、150 ~ 299 までは小当たり B に割り当てられている。また、設定値が「3」である場合、MR 2 の判定値の範囲 0 ~ 299 のうち、0 ~ 199 までは小当たり A に割り当てられており、200 ~ 299 までは小当たり B に割り当てられている。このように、小当たり遊技中に V 入賞大当たりが発生した場合は、大当たり遊技終了後に時短制御が実行される特図ゲームの回数が 100 回である大当たり E を決定する割合が、20 回である大当たり D を決定する割合よりも高く、かつ、設定値 1、2、3 の順に低くなるようになっている。

20

【0537】

この実施例においては、設定されている設定値が 1 である場合は、小当たり種別として小当たり B が小当たり A よりも高い割合で決定されることにより、小当たり遊技中に V 入賞が発生することに基づいて大当たり種別が大当たり E に決定される割合が大当たり D に決定される割合よりも高くなっている（設定値 1 における V 入賞による大当たり種別決定割合：大当たり E > 大当たり D）。また、設定されている設定値が 2 である場合は、小当たり種別として小当たり A と小当たり B とが同一の割合にて決定されることにより、小当たり遊技中に V 入賞が発生することに基づいて大当たり種別が大当たり D に決定される割合と大当たり E に決定される割合が等しくなっている（設定値 2 における V 入賞による大当たり種別決定割合：大当たり E = 大当たり D）。さらに、設定されている設定値が 3 である場合は、小当たり種別として小当たり A が小当たり B よりも高い割合で決定されることにより、小当たり遊技中に V 入賞が発生することに基づいて大当たり種別が大当たり D に決定される割合が大当たり E に決定される割合よりも高くなっている（設定値 1 における V 入賞による大当たり種別決定割合：大当たり D > 大当たり E）。

30

40

【0538】

このように、この実施例では、設定されている設定値に応じて変動表示結果が大当たりとなった場合の大当たり種別の決定割合や、V 入賞が発生した場合の大当たり種別の決定割合が異なっている、つまり、設定されている設定値に応じて制御される小当たり遊技状態の種類が変化するとともに、V 入賞が発生した場合に制御される大当たり遊技状態の種類が変化することがあるので、遊技興趣を向上できるようになっている。

【0539】

なお、設定されている設定値によっては、小当たり A、小当たり B のうち、決定されない小

50

当り種別があってもよい。つまり、設定されている設定値に応じて小当り種別の決定割合が異なることには、いずれかの一方小当り種別を決定しないこと（決定割合が0%である）、すなわち、他方の小当り種別を100%の割合で決定することも含まれている。また、小当り種別の決定割合は、変動特図が第1特図であるか第2特図であるかに応じて異なってもよい。小当り種別を変動特図に応じて異なる割合で決定する場合は、変動特図によっては、小当りA、小当りBのうち、決定されない小当り種別があってもよい。つまり、小当り種別を変動特図に応じて異なる割合で決定することには、いずれか一方の小当り種別を決定しないこと（決定割合が0%である）、すなわち、他方の小当り種別を100%の割合で決定することも含まれている。大当り種別と小当り種別の少なくともどちらか一方は、特図表示結果判定用の乱数値であるMR1と用いて決定してもよい。パチンコ遊技機1に設定される設定値が大きいほど遊技者にとって有利となるようにしてもよい。設定されている設定値に応じて大当り種別や小当り種別の決定割合が異なるものに限定されず、全ての設定値で同じ決定割合により、大当り種別や小当り種別が決定されてもよい。

【0540】

パチンコ遊技機1に設定される設定値にかかわらず遊技性自体は変化しないものに限定されず、パチンコ遊技機1に設定される設定値に応じて遊技性が変化するようにしてもよい。例えば、パチンコ遊技機1に設定される設定値が1である場合は、通常状態での大当り確率が1/320、確変状態が65%の割合でループする遊技性（いわゆる確変ループタイプ）とし、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が2である場合は、通常状態での大当り確率が1/200、大当り遊技中に遊技球が第3カウントスイッチを通過することに基づいて大当り遊技終了後の遊技状態を確変状態に制御する一方で、変動特図に応じて大当り遊技中に遊技球が第3カウントスイッチを通過する割合が異なる遊技性（いわゆるV確変タイプ）とし、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が3である場合は、大当り確率が1/320かつ小当り確率が1/50であり、高ベース中（時短制御中）に遊技球が第3カウントスイッチを通過することに基づいて大当り遊技状態に制御する遊技性（いわゆる1種2種混合タイプ）としてもよい。さらに、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1～3と遊技性が同一であるが、これら設定値が1～3のいずれかである場合よりも大当り確率や小当り確率が高い一方で大当り遊技中に獲得可能な賞球数が少ない設定（例えば、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4である場合）を設けてもよい。設定値に応じて遊技性を変化させる場合は、共通のスイッチを異なる用途に使用してもよい。具体的には、設定値が1や4の場合は、第3カウントスイッチを演出用スイッチ（遊技球が第3カウントスイッチを通過する毎に所定の演出を実行するためのスイッチ）として使用し、設定値が2や3の場合は、第3カウントスイッチを遊技用スイッチ（遊技球が第3カウントスイッチを通過したことに基づいて遊技状態を確変状態や大当り遊技状態に制御するためのスイッチ）として使用してもよい。

【0541】

ROM101には、変動パターン判定用の乱数値MR3に基づいて変動パターンを決定するための変動パターン判定テーブルが記憶されている。変動パターン判定テーブルは、事前決定結果に応じて複数種類のうちのいずれかの変動パターンに決定するために用いられる。変動パターン判定テーブルとしては、変動表示結果を「大当り」にすることが事前決定されたときに使用される大当り用変動パターン判定テーブルと、変動表示結果を「小当り」にすることが事前決定されたときに使用される大当り用変動パターン判定テーブルと、変動表示結果を「はずれ」にすることが事前決定されたときに使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルとが予め用意されている。

【0542】

図21-9は、大当り用変動パターン判定テーブルと小当り用変動パターン判定テーブルを示す説明図である。大当り用変動パターン判定テーブルは、変動表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、変動パターン判定用の乱数値MR3に基づいて変動パターンを決定するために参照される。小当り用変動パターン判定テーブルは、変動表示

結果を小当り図柄にする旨の判定がなされたときに、変動パターン判定用の乱数値MR 3に基づいて変動パターンを決定するために参照される。

【0543】

図21-9(A)は、大当り用変動パターン判定テーブル(大当りA用)を示している。大当り用変動パターン判定テーブル(大当りA用)は、大当り種別が大当りAである場合に参照される。大当り用変動パターン判定テーブル(大当りA用)においては、設定値が「1」である場合、MR 3の判定値の範囲0~997のうち、0~300までがノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1)に割り当てられており、301~800までがスーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)に割り当てられており、801~997までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)に割り当てられている。また、設定値が「2」である場合、MR 3の判定値の範囲0~997のうち、0~350までがノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1)に割り当てられており、351~825までがスーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)に割り当てられており、826~997までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)に割り当てられている。また、設定値が「3」である場合、MR 3の判定値の範囲0~997のうち、0~400までがノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1)に割り当てられており、401~850までがスーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)に割り当てられており、851~997までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)に割り当てられている。

【0544】

図21-9(B)は、大当り用変動パターン判定テーブル(大当りB、大当りC用)を示している。大当り用変動パターン判定テーブル(大当りB、大当りC用)は、大当り種別が大当りBまたは大当りCの場合に参照される。大当り用変動パターン判定テーブル(大当りB、大当りC用)においては、設定値が「1」である場合、MR 3の判定値の範囲0~997のうち、0~100までがノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1)に割り当てられており、101~350までがスーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)に割り当てられており、351~997までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)に割り当てられている。また、設定値が「2」である場合、MR 3の判定値の範囲0~997のうち、0~150までがノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1)に割り当てられており、151~450までがスーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)に割り当てられており、451~997までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)に割り当てられている。また、設定値が「3」である場合、MR 3の判定値の範囲0~997のうち、0~200までがノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1)に割り当てられており、201~550までがスーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)に割り当てられており、551~997までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)に割り当てられている。

【0545】

大当り用変動パターン判定テーブル(大当りA用)と大当り用変動パターン判定テーブル(大当りB、大当りC用)には、ノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1)、スーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)、スーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)の各変動パターンに対して、変動パターン判定用の乱数値MR 3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。特図ゲームにおいて大当りAが当選した場合に、スーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)を決定する割合が、スーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)を決定する割合よりも高く、かつ、設定値1, 2, 3の順に低くなるようになっている。また、特図ゲームにおいて大当りBまたは大当りCが当選した場合に、スーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)を決定する割合が、スーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)を決定する割合よりも高く、かつ、設定値1, 2, 3の順に低くなるようになっている。この実施例では、大当りの種別が「大当りB」または「大当りC」である場

合にはスーパーリーチ β が決定され易く、大当りの種別が「大当りA」である場合には、スーパーリーチ α が決定され易いように、判定値が割り当てられていることで、スーパーリーチ β の変動パターンが実行されたときには、「大当りB」または「大当りC」となるのではないかという遊技者の期待感を高めることできる。

【0546】

図21-9(C)は、小当り用変動パターン判定テーブルを示している。小当り用変動パターン判定テーブルにおいては、設定値が「1」、「2」、「3」のいずれである場合でも、MR3の判定値の範囲0~997のうち、0~997までが小当りの変動パターン(PC1-1)に割り当てられている。小当り用変動パターン判定テーブルにおいては、小当りの変動パターン(PC1-1)の変動パターンに対して、変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。なお、この実施における小当りの変動パターンとしてはPC1-1のみが設けられているが、この発明はこれに限定されるものではなく、小当りの変動パターンとしては2以上の変動パターンを設け、設定値「1」、「2」、「3」で小当りの変動パターンを複数の変動パターンから異なる割合で決定してもよい。

【0547】

図21-10は、はずれ用変動パターン判定テーブルを示す説明図である。はずれ用変動パターン判定テーブルは、変動表示図柄をはずれ図柄にする旨の判定がなされたときに、変動パターン判定用の乱数値MR3に基づいて変動パターンを決定するために参照される。

【0548】

図21-10(A)は、はずれ用変動パターン判定テーブルAを示している。はずれ用変動パターン判定テーブルAは、遊技状態が時短制御の実施されていない低ベース状態において保留記憶数が1個以下である場合に参照される。はずれ用変動パターン判定テーブルAにおいては、短縮なしの非リーチはずれの変動パターン(PA1-1)、ノーマルリーチはずれの変動パターン(PA2-1)、スーパーリーチ α はずれの変動パターン(PA2-2)、スーパーリーチ β はずれの変動パターン(PA2-3)に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【0549】

図21-10(B)は、はずれ用変動パターン判定テーブルBを示している。はずれ用変動パターン判定テーブルBは、低ベース状態において合計保留記憶数が2~4個である場合に参照される。はずれ用変動パターン判定テーブルBにおいては、合計保留記憶数が2~4個に対応する短縮の非リーチはずれの変動パターン(PA1-2)、ノーマルリーチはずれの変動パターン(PA2-1)、スーパーリーチ α はずれの変動パターン(PA2-2)、スーパーリーチ β はずれの変動パターン(PA2-3)に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【0550】

図21-10(C)は、はずれ用変動パターン判定テーブルCを示している。はずれ用変動パターン判定テーブルCは、低ベース状態において合計保留記憶数が5~8個である場合に参照される。はずれ用変動パターン判定テーブルCにおいては、合計保留記憶数が5~8個に対応する短縮の非リーチはずれの変動パターン(PA1-3)、ノーマルリーチはずれの変動パターン(PA2-1)、スーパーリーチ α はずれの変動パターン(PA2-2)、スーパーリーチ β はずれの変動パターン(PA2-3)に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【0551】

図21-10(D)は、はずれ用変動パターン判定テーブルDを示している。はずれ用変動パターン判定テーブルDは、遊技状態が時短制御の実施されている高ベース状態であ

る場合に参照される。はずれ用変動パターン判定テーブルDにおいては、時短制御中に対応する短縮の非リーチははずれの変動パターン（PA1-4）、ノーマルリーチははずれの変動パターン（PA2-1）、スーパーリーチαははずれの変動パターン（PA2-2）、スーパーリーチβははずれの変動パターン（PA2-3）に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【0552】

はずれ用変動パターン判定テーブルA～Dを用いる場合、非リーチ変動パターンまたはノーマルリーチ変動パターンを決定する割合が、スーパーリーチ変動パターンを決定するよりも高く、かつ、設定値1、2、3の順に低くなるようになっている。また、はずれ用変動パターン判定テーブルA～Dを用いる場合は、変動パターン判定テーブルにかかわらず判定値のうち701～900までがスーパーリーチαははずれの変動パターン、901～997までがスーパーリーチβははずれの変動パターンにそれぞれ割り当てられている、つまり、変動表示結果がはずれである場合は、設定されている設定値にかかわらずスーパーリーチの変動パターンを共通の決定割合で決定するので、スーパーリーチの変動パターンによる変動表示が実行されないことにより演出効果が低下してしまうことを防ぐことができる。

【0553】

なお、「共通の決定割合」とは、異なる設定値にて決定割合が完全に同一であるもの（この実施例）の他、異なる設定値にて決定割合が同一であるもの（例えば、設定値1～設定値3間において、スーパーリーチの変動パターンの決定割合が1%程度異なるもの）を含んでいる。変動表示結果がはずれである場合は、設定されている設定値にかかわらずスーパーリーチの変動パターンの決定割合が同一である形態に限定されるものではなく、変動表示結果がはずれである場合は、設定されている設定値にかかわらず非リーチ、ノーマルリーチ、スーパーリーチの全ての変動パターンの決定割合が同一であってもよいし、また、非リーチ、ノーマルリーチのいずれかの変動パターンの決定割合のみが同一であってもよい。変動表示結果がはずれである場合は、設定されている設定値にかかわらずスーパーリーチαははずれの変動パターンの決定割合とスーパーリーチβははずれの変動パターンの決定割合の両方が設定されている設定値にかかわらず同一である形態に限定されるものではなく、変動表示結果がはずれである場合は、スーパーリーチαははずれの変動パターンの決定割合とスーパーリーチβははずれの変動パターンの決定割合のどちらか一方のみの決定割合が設定されている設定値にかかわらず同一であってもよい。変動表示結果がはずれである場合は、設定されている設定値にかかわらずスーパーリーチαははずれの変動パターンの決定割合とスーパーリーチβははずれの変動パターンの決定割合の両方が設定されている設定値にかかわらず同一である形態に限定されるものではなく、変動表示結果が大当たりである場合においても、設定されている設定値にかかわらずスーパーリーチ大当たりの変動パターンの決定割合が設定されている設定値にかかわらず同一であってもよい。変動表示結果がはずれである場合は、設定されている設定値に応じて非リーチやノーマルリーチの変動パターンの決定割合が異なる形態に限定されるものではなく、設定されている設定値によっては、非リーチの変動パターンとノーマルリーチの変動パターンのうち、決定されない変動パターンが1つまたは複数であってもよい。設定されている設定値に応じて変動パターンの決定割合が異なることには、いずれかの変動パターンを決定しないこと（決定割合が0%であること）や、特定の変動パターンを100%の割合で決定することも含まれている。合算保留記憶数に応じて異なるはずれ用変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定する形態に限定されるものではなく、変動対象の特別図柄における保留記憶数（例えば、第1特別図柄の変動表示を実行する場合は第1特別図柄の保留記憶数、第2特別図柄の変動表示を実行する場合は第2特別図柄の保留記憶数）に応じて異なるはずれ用変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定してもよい。

【0554】

各はずれ用変動パターン判定テーブルにおいては、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1～3のいずれの数値であっても、スーパーリーチははずれの変動パターン（PA

10

20

30

40

50

2-2及びPA2-3)に割り当てられている乱数値の範囲が同一となっている。しかしながら、大当たり確率及びはずれ確率は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて異なっているので、実際に変動表示がスーパーリーチはずれの変動パターンにて実行される割合(スーパーリーチはずれの変動パターンの出現率)は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて異なっている。なお、パチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて変動表示がスーパーリーチはずれの変動パターンにて実行される割合が異なる形態に限定されるものではなく、各設定値毎の大当たり確率及びはずれ確率を考慮し、パチンコ遊技機1に設定されている設定値にかかわらず同一の割合で変動表示がスーパーリーチはずれの変動パターンにて実行されるようにしてもよい。

【0555】

図21-11は、遊技制御用データ保持エリア150を示している。遊技制御用データ保持エリア150は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が備えるRAM102に設けられ、パチンコ遊技機1における遊技の進行などを制御するために用いられる各種のデータを保持する領域となる。遊技制御用データ保持エリア150は、第1特図保留記憶部151Aと、第2特図保留記憶部151Bと、普図保留記憶部151Cと、遊技制御フラグ設定部152と、遊技制御タイマ設定部153と、遊技制御カウンタ設定部154と、遊技制御バッファ設定部155とを備えている。

【0556】

第1特図保留記憶部151Aは、第1特別図柄表示器4Aにおける第1特図の可変表示に関する保留データを記憶する。一例として、第1特図保留記憶部151Aは、第1始動入賞口への入賞順(遊技球の検出順)に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過(進入)による第1始動条件の成立に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された変動表示結果判定用の乱数値MR1や大当たり種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データなどを保留データとして、その記憶数が所定の上限値(例えば「4」)に達するまで記憶する。第1始動条件は、入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口を遊技球が通過(進入)して始動入賞が発生することにより成立する。第1特図保留記憶部151Aに記憶された保留データは、第1特図を用いた特図ゲームの実行が未だ開始されずに保留されていることを示し、この特図ゲームにおける変動表示結果(特図表示結果)に基づき大当たりとなるか否かなどを判定可能にする保留情報となる。

【0557】

第2特図保留記憶部151Bは、第2特別図柄表示器4Bにおける第2特図の可変表示に関する保留データを記憶する。一例として、第2特図保留記憶部151Bは、第2始動入賞口への入賞順(遊技球の検出順)に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過(進入)による第2始動条件の成立に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された変動表示結果判定用の乱数値MR1や大当たり種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データなどを保留データとして、その記憶数が所定の上限値(例えば「4」)に達するまで記憶する。第2始動条件は、可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口を遊技球が通過(進入)して始動入賞が発生することにより成立する。第2特図保留記憶部151Bに記憶された保留データは、第2特図を用いた特図ゲームの実行が未だ開始されずに保留されていることを示し、この特図ゲームにおける変動表示結果(特図表示結果)に基づき大当たりとなるか否かなどを判定可能にする保留情報となる。

【0558】

なお、第1始動入賞口を遊技球が通過(進入)したことによる第1始動条件の成立に基づく保留情報(第1保留情報)と、第2始動入賞口を遊技球が通過(進入)したことによる第2始動入賞の成立に基づく保留情報(第2保留情報)とを、共通の保留記憶部にて保留番号と対応付けて記憶するようにしてもよい。この場合には、第1始動入賞口と第2始動入賞口のいずれを遊技球が通過(進入)したかを示す始動口データを保留情報に含め、保留番号と対応付けて記憶させればよい。

10

20

30

40

50

【0559】

普図保留記憶部151Cは、通過ゲート41を通過した遊技球がゲートスイッチ21によって検出されたにもかかわらず、未だ普通図柄表示器20により開始されていない普図ゲームの保留情報を記憶する。例えば、普図保留記憶部151Cは、遊技球が通過ゲート41を通過した順に保留番号と対応付けて、その遊技球の通過に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された普図表示結果判定用の乱数値MR4を示す数値データなどを保留データとして、その数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。

【0560】

遊技制御フラグ設定部152には、パチンコ遊技機1における遊技の進行状況などに応じて状態を更新可能な複数種類のフラグが設けられている。例えば、遊技制御フラグ設定部152には、複数種類のフラグそれぞれについて、フラグの値を示すデータや、オン状態あるいはオフ状態を示すデータが記憶される。遊技制御タイマ設定部153には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられる各種のタイマが設けられている。例えば、遊技制御タイマ設定部153には、複数種類のタイマそれぞれにおけるタイマ値を示すデータが記憶される。遊技制御カウンタ設定部154には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられるカウンタ値を計数するための複数種類のカウンタが設けられている。例えば、遊技制御カウンタ設定部154には、複数種類のカウンタそれぞれにおけるカウンタ値を示すデータが記憶される。ここで、遊技制御カウンタ設定部154には、遊技用乱数の一部または全部をCPU103がソフトウェアにより更新可能にカウンタするためのランダムカウンタが設けられてもよい。遊技制御バッファ設定部155には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられるデータを一時的に記憶する各種のバッファが設けられている。例えば、遊技制御バッファ設定部155には、複数種類のバッファそれぞれにおけるバッファ値を示すデータが記憶される。

【0561】

遊技制御カウンタ設定部154のランダムカウンタには、乱数回路104で生成されない乱数値、例えば、乱数値MR1～MR4を示す数値データが、ランダムカウンタ値として記憶され、CPU103によるソフトウェアの実行に応じて、定期的あるいは不定期に、各乱数値を示す数値データが更新される。CPU103がランダムカウンタ値を更新するために実行するソフトウェアは、ランダムカウンタ値を乱数回路104における数値データの更新動作とは別個に更新するためのものであってもよいし、乱数回路104から抽出された数値データの全部又は一部にスクランブル処理や演算処理といった所定の処理を施すことによりランダムカウンタ値を更新するためのものであってもよい。

【0562】

この実施例の主基板11における遊技球の集計および役物比率等の表示について説明する。主基板11には、遊技の入賞に関する情報、例えば、第1始動入賞口（ヘソ）への入賞による賞球数、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数、第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数、賞球合計数が入力、発射球数が集計され、表示モニタ29は、賞球合計数のうち第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数が占める割合である連比（％）、賞球合計数のうち第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数が占める割合である役比（％）、打ち出した遊技球数に対する賞球合計数が占める割合であるベース（％）を表示するようになっている。連比とは、賞球合計数のうち第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数（下記の連続役物獲得球数）が占める割合である。役比とは、賞球合計数のうち第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数（下記の役物獲得球数）が占める割合である。ベースとは、賞球合計数に対する打ち出した遊技球数が占める割合である。賞球合計数（下記の総獲得球数）は、第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数と、第2始

動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と、第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）及び第2始動入賞口（電チュー）以外の入賞口（第1始動入賞口、一般入賞口）への入賞による賞球数と、の総和である。なお、第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）及び第2始動入賞口（電チュー）は、可変役物であり、遊技球の通過可能幅が変動することで、遊技球の入賞想定割合が変動する役物である。また、第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）及び第2始動入賞口（電チュー）以外の入賞口（第1始動入賞口、一般入賞口）は、固定役物であり、遊技球の通過可能幅が固定されており、遊技球の入賞想定割合は一定の役物である。

【0563】

遊技の入賞に関する情報の集計、計算方法としては、連比と役比については、6000個の賞球数における第1始動入賞口（ヘソ）及び一般入賞口（ソデ）への入賞による賞球数（一般賞球数）、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数である普通電役賞球数（電チュー賞球数）、第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数である特別電役賞球数（アタッカー賞球数）を集計する。その集計を1セットとし、10セット分、すなわち60000個分の連比（%）、役比（%）を算出する。なお、集計する第1始動入賞口（ヘソ）及び一般入賞口（ソデ）への入賞による賞球数（一般賞球数）、普通電役賞球数（電チュー賞球数）、特別電役賞球数（アタッカー賞球数）は、設定値毎に設けられたリングバッファに記録されるようになっており、少なくとも11セット分の記録容量があり、1セット毎に更新するようになっている。つまり、6000個の11セット分の記憶を相当数量（例えば、数バイト分）記憶しており、それらの累計の連比（%）、役比（%）を算出することができる。また、ベースについては、60000個の賞球数に対する打ち出した遊技球数を集計する。その集計を1セットとし、打ち出した遊技球数に対する60000個の賞球の占める割合（ベース（%））を算出する。

【0564】

表示モニタ29は、6000個分の連比（%）、役比（%）、及び累計の連比（%）、役比（%）及び前回の賞球60000個に基づいて算出されたベース（ベース1（%））、直前の賞球60000個に基づいて算出されたベース（ベース2（%））を所定時間（例えば、5秒）毎に切り替えて表示することができる。すなわち、一つの表示手段で6つの表示を切り替えて表示するようになっている。この場合、全て表示を行うのに30秒要するが、遊技が進行することで集計される第1始動入賞口（ヘソ）への入賞による賞球数、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数、第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数が変化することになる。とすると、例えば、6000個分の連比（%）を表示した後に入賞した賞球数を、その後に表示される60000個分の役比（%）に反映してしまうと、6000個分の連比（%）と60000個分の役比（%）とで食い違いが生じてしまうおそれがある。そこで、第1始動入賞口（ヘソ）への入賞による賞球数、第2始動入賞口（電チュー）の入賞による賞球数、第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数、賞球合計数が入力、集計は、切替表示における所定のタイミング（例えば、6000個分の連比（%）の表示タイミングなど）で行うようにすれば、このような食い違いを防ぐことができる。

【0565】

なお、この実施例における遊技の入賞に関する情報が記憶される記憶領域は、設定値毎に設けられており、一般入賞賞球や第1始動口賞球、普通電役賞球、特別電役賞球、賞球合計、打込合計は、設定されている設定値に応じた記憶領域（リングバッファ）に記憶されるようになっている。このため、この実施例の連比、役比、ベースは、設定値ごとに個別に算出可能となっている。

【0566】

以下に計算方法の一例として、賞球合計数が60000個であり、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数との合計である役物獲得球数が42000個である場合の役物比率（役比（%））の計算方法を説明する。なお、以下の説明において、総獲得球数とは、パチンコ

遊技機 1 から払い出された遊技媒体（賞球）の総累計数をいう。また、役物獲得球数とは、アタッカー及び電チューに遊技媒体が入賞することによって払い出された遊技媒体の累計数をいう。また、連続役物獲得球数とは、アタッカーに遊技媒体が入賞することによって払い出された遊技媒体の累計数をいう。打込合計とは、賞球数が 6 0 0 0 0 個に達するまでにパチンコ遊技機 1 に打ち込まれた遊技媒体の累計数をいう。このため、連比は、下記（１）式で求めることができる。また、役比は、下記（２）式で求めることができる。また、ベースは下記（３）式で求めることができる。

【０５６７】

連比＝〔連続役物獲得球数／総獲得数〕×１００・・・（１）

【０５６８】

役比＝〔（連続役物獲得球数＋役物獲得球数）／総獲得数〕×１００・・・（２）

【０５６９】

ベース＝〔６００００（賞球合計数）／打込合計〕×１００・・・（３）

【０５７０】

賞球合計数が 6 0 0 0 0 個であり、役物獲得球数が 4 2 0 0 0 個である場合の役物比率は、4 2 0 0 0 を 6 0 0 0 0 で除算することにより 0. 7 0（小数点以下 3 桁切り捨て）として求められる。しかしながら、パチンコ遊技機 1 に用いられるマイクロコンピュータは小数点以下の演算を行うことができないため、以下の手法での演算が必要となる。

【０５７１】

まず、第 1 の演算方法を説明する。第 1 の演算方法において、まず、役物獲得球数を 1 0 0 倍して 4 2 0 0 0 0 0 とする。そしてこの 4 2 0 0 0 0 0 を 6 0 0 0 0 で除算する。これにより商として 7 0 が求められる。ここで求められた 7 0 より役物比率が 7 0 % として求められる。つまり、被除数を 1 0 0 倍することにより、小数点以下 2 桁までの演算結果を求められるようにしている。ここで、小数点以下 3 桁までの演算結果を求める場合 1 0 0 0 倍すればよい。

【０５７２】

次に、第 2 の演算方法を説明する。第 2 の演算方法において、まず、賞球合計数を 1 0 0 で除算して 6 0 0 とする。そしてこの 6 0 0 で 4 2 0 0 0 を除算する。これにより商として 7 0 が求められる。ここで求められた 7 0 より役物比率が 7 0 % として求められる。つまり、除数を 1 0 0 で除算することにより、小数点以下 2 桁までの演算結果を求められるようにしている。ここで、小数点以下 3 桁までの演算結果を求める場合 1 0 0 0 で除算すればよい。

【０５７３】

上記した例で賞球合計数は 6 0 0 0 0 個であるが、長い期間の役物比率を算出するために、賞球合計数を格納するための領域として 3 バイトの領域が設けられている。つまり本例では 3 バイトの格納領域に 0 0 E A 6 0 h として格納される。また、同様に役物獲得球数も 3 バイトの格納領域に 0 0 A 4 1 0 h が格納される。パチンコ遊技機 1 に用いられるマイクロコンピュータは最大 2 バイトの値同士の演算しか行うことができない。したがって、演算を容易にするために、下位 1 バイトについて切り捨てを行ってもよい。

【０５７４】

上記第 2 の演算方法を簡略化して行う第 3 の演算方法を説明する。第 3 の演算方法ではパチンコ遊技機 1 に用いられるマイクロコンピュータでの演算が容易になるように、賞球合計数の 0 0 E A 6 0 h に対し、下位 1 バイトの 6 0 h を切り捨て、賞球合計数を 0 0 E A h、つまり 1 0 進数表記で 2 3 4 を算出する。同じく、役物獲得球数の 0 0 A 4 1 0 h に対し、下位 1 バイトの 1 0 h を切り捨て、役物獲得球数を 0 0 A 4 h、つまり 1 0 進数表記で 1 6 4 を算出する。そして、上記第 2 の演算方法と同様に、賞球合計数を 1 0 0 で除算（2 7 3 / 1 0 0）して 2 を算出する。そして、この 2 で 1 5 6 を除算して、商として 7 8 が求められる。ここで求められた 7 8 より役物比率が 7 8 % として求められる。第 3 の演算方法ではパチンコ遊技機 1 で用いられるマイクロコンピュータでの演算が容易になる一方、+ 1 2 % の誤差が生じる。ただし、賞球合計数および役物獲得球数がともに 1

10

20

30

40

50

0倍の場合の誤差は+1%となる。つまり、役物比率を算出するための期間が長くなることにより誤差は縮小され、本来の数値に近似する。

【0575】

役比(%)の計算は、例として総獲得球数を34321個、役物獲得球数を19876個とすると、19876個に対して34321個を除数として除算し、割合を計算する。 $19876 / 34321 = 0.57912 \dots$ となり約57.9%の役比(%)であることが算出される。遊技制御用マイクロコンピュータ100において演算を行う場合には小数点での計算を避けなければならないため、以下のような計算式に置き換える。 $19876 / 34321$ の除算において分母の34321を100で除算し、小数点を切り捨て、 $19876 / 343 = 57.9475 \dots$ となる。小数点以下は切り捨てられるため57%の役比(%)であることが算出され、表示モニタ29に表示されることとなり、この例の場合には正確な計算によって算出した値とは表示上では誤差がないものとなる。

10

【0576】

16ビットにおける最小値は32768(最上位ビットの値以外が0)で誤差が最大となる値は総獲得球数および役物獲得球数がそれぞれ32799であるときである。これを上記の方法で計算すると、 $32799 / 32799 = 100\%$ 、遊技制御用マイクロコンピュータ100での計算に置き換えると $32799 / 327 = 100.3\%$ で+0.3%の誤差となる。小数点を切り捨てて計算を行った場合に、例えば、正確な値が69.9%、遊技制御用マイクロコンピュータの計算による値が70.1%となった場合に69%→70%で表示上1%の誤差が表示されることが考えられるが、1%の誤差という表示上においても非常に小さい誤差で役比(%) (又は連比(%))が表示できる。

20

【0577】

また、上記の計算方法を用いる場合に、総獲得球数を100で除算するため、総獲得球数が100未満の場合には計算を行うことができない。さらに、32768未満である場合にも徐々に誤差が大きくなる。10000未満である場合には誤差が1%を超え、さらに大きな誤差となる場合がある。つまり、総獲得球数が少ないほど誤差が大きくなってしまふ。このため特定の数以上の総獲得球数(例えば16ビットの最小値である32768)をカウンタによって集計するまでは、表示モニタに役比(%)、連比(%)の表示を行わなかったり、表示を行ったとしても誤差が大きい可能性があることを専用のLEDの発光や、報知音を出力したり、表示された値を点滅表示させるなどして報知してもよい。

30

【0578】

遊技の入賞に関する情報が記憶される記憶領域は、クリアスイッチAK001などが操作された場合に初期化は行われず、継続して記憶されてもよい。この記憶領域は、リングバッファを含み、最大2バイトのカウンタを10個備えるリングバッファに記憶された遊技の入賞に関する情報を合計した10セット合計バッファや賞球合計数バッファなどを構成してもよい。なお、記憶された値のチェックサムを算出し、異常が検出された場合に初期化を行ったり、記憶された賞球合計数の値よりも役物獲得球数の値が大きかったり、役物獲得球数の値よりも連続役物獲得球数の値が大きかったりした場合など、状況として起こりえない事象が検知された場合などには遊技の入賞に関する情報が記憶される記憶領域の初期化処理を行ってもよい。また、初期化処理を行うことなく、エラー表示や警告表示などを行ってもよいし、エラー表示や警告表示を行うとともに、あるいは行った後に初期化処理を行ってもよい。

40

【0579】

なお、連比や役比の算出などに障害が生じた場合といった、連比や役比の算出をやり直さざるを得ない状態に陥った時に、クリアスイッチAK001とは異なる表示モニタクリア用スイッチを操作することにより、RAM102あるいはフラッシュメモリといった不揮発性の記憶装置に記憶された連比や役比に用いるデータがクリアされてもよい。表示モニタクリア用スイッチは、遊技盤2の裏側面において、例えば電源基板17の所定位置といった、遊技場の係員等が容易に操作できない位置に配置されていればよい。表示モニタクリア用スイッチを操作すると、クリア信号とは異なる表示モニタクリア信号が主基板1

50

1 に送信される。

【0580】

基板ケース201は、透光性を有する材質で形成されており、主基板11、及び表示モニタ29が視認可能になっている。基板ケース201には主基板11に接続される配線コネクタが挿通する図示しない孔部と、主基板11の電気部品の熱を放出するための放熱孔とが形成されている。主基板11に設けられた表示モニタ29は、放熱孔が真正面にはない位置に配置されている。このため放熱孔によって表示モニタ29の視認性が遮られないようにされている。なお、ここでの「真正面」とは、主基板11を視点としての真正面を意味し、主基板11を視認しようとする遊技場の係員等と主基板11との間を意味する。

【0581】

表示モニタ29は役比(%)と、連比(%)と、ベース(%)を7セグメント上に表示するものであり、それぞれの値を所定期間毎(例えば5秒毎)に切り替えて表示する。この場合に、例えば役比(%)を5秒間表示している間に、電チューやアタッカーへ新たに遊技媒体が入賞するという事象が発生し、それに従い計算した値を5秒後に連比(%)の値として表示してしまうと、役比(%)と連役(%)との値が乖離してしまう虞がある。このため、役比(%)と連比(%)は同一割込み内で計算し算出された値を順次表示していくことが好ましい。7セグメントに表示可能な数値を2ケタとした場合(例えば7セグメントが2つ設けられている場合)に100%を100として表示ができなくなる。この場合には100の代わりに99を表示するようにしてもよい。表示モニタ29では、下位2桁に数値を表示可能としているが、この場合でも、上位2桁を使用することなく、数値を表示してもよい。あるいは、特定の条件の下で、上位2桁の一部に数値を表示してもよい。なお、アタッカーと電チューのそれぞれに設けられたセンサによって遊技媒体が入賞したことを検出し、その検出結果に基づいてそれぞれの賞球数を個別に集計する形態に限定されるものではなく、アタッカーに入賞した遊技媒体と電チューに入賞した遊技媒体とが排出される排出通路が合流した後に設けられたセンサとを使い、その検出結果に基づいて役物獲得球数、連続役物獲得球数を集計するようにしてもよい。

【0582】

主基板11は、遊技盤2の裏面側に設けられている。遊技盤2の裏面側には、主基板11以外の他、演出制御基板12などの各周辺基板も設けられている。主基板11におけるRAM102には、ゲート通過数カウンタ、第1始動入賞数カウンタ、第2始動入賞数カウンタ、第1一般入賞数カウンタ、第2一般入賞数カウンタ、第3一般入賞数カウンタ、第4一般入賞数カウンタ、大入賞数カウンタが設けられている。なお、第1大入賞口および第2大入賞口(アタッカー)の入賞数を大入賞数カウンタにて集計する形態に限定されるものではなく、これら第1大入賞口への入賞数を集計する第1大入賞数カウンタと、第2大入賞口への入賞数を集計する第2大入賞数カウンタとを個別に設けて、第1大入賞口への入賞数と第2大入賞口への入賞数とを個別に集計し、これらの各入賞数を合計してアタッカーへの入賞数とするようにしてもよい。

【0583】

ゲート通過数カウンタは、ゲートスイッチ21が遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第1始動入賞数カウンタは、第1始動口スイッチ22Aが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第2始動入賞数カウンタは、第2始動口スイッチ22Bが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第1一般入賞数カウンタは、第1一般入賞口スイッチ26Aが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第2一般入賞数カウンタは、第2一般入賞口スイッチ26Bが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第3一般入賞数カウンタは、第3一般入賞口スイッチ26Cが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第4一般入賞数カウンタは、第4一般入賞口スイッチ26Dが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。大入賞数カウンタが、第1カウントスイッチ23と第2カウントスイッチ24Aとが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。

【0584】

図21-12は、表示モニタ29の配置と表示内容を示している。主基板11は、基板ケース201に収容されている。基板ケース201には、かしめピン11Bが取り付けられている。このかしめピン11Bが設けられていることにより、主基板11が基板ケース201に完全に封入された状態となり、主基板11に対する不正行為を防止するようになっている。基板ケース201は、かしめられた基板ケース（以下「かしめ基板ケース」ともいう）である。表示モニタ29は、主基板11上に設けられている。また、基板ケース201には、主基板11が封入されたことを証明するための封印シール11Sが貼られている。封印シール11Sは例えば基板ケース201における取り外し部分をまたいで貼られている。封印シール11Sは、主基板11からは離れた位置に配置されており、表示モニタ29の真正面など、表示モニタ29の視認性が遮られる位置とは異なる位置に配置されている。このように、表示モニタ29は、封印シール11Sによって隠されない位置に配置されている。

10

【0585】

図21-12(A)に示すように、表示モニタ29は、第1表示部29A、第2表示部29B、第3表示部29C、第4表示部29D及び第5表示部29Eを備えている。第1表示部29A～第5表示部29Eは、いずれも「8」の字を描く7つのセグメントによって構成される7セグメントと、7セグメントの右側方下部に配置されたドットによって構成されている。これらの第1表示部29A～第5表示部29Eは、それぞれ種々の色、例えば赤色、青色、緑色、黄色、白色等で点灯、点滅可能とされている。また、これらの色を極短周期で変化させながら異なる色やいわゆるレインボーで表示させることもできる。

20

【0586】

図21-12(B)に示すように、表示モニタ29には表示No1～6の各項目が表示される。1桁目の第1表示部29Aには集計させた設定値(1～3)が表示され、2桁目の第2表示部29Bと3桁目の第3表示部29Cには集計期間が表示され、4桁目の第4表示部29Dと5桁目の第5表示部29Eには数値が百分率で表示される。表示No1では、短期の連比が表示され、表示No2では、短期の役比が表示される。表示No3では、総累計の連比が表示され、表示No4では、総累計の役比が表示される。また、表示No5では、前回の賞球60000個に基づいて算出されたベース(ベース1)が表示され、表示No6では、直前の賞球60000個に基づいて算出されたベース(ベース2)が表示される。ここでの短期とは、払い出された賞球数(獲得球数)が6000個であった期間を意味する。総累計を求める期間は、連比、役比の算出を開始してからの通算、又は連比、役比の計算を一旦リセットしてからの通算の期間を意味する。なお、上記の例では、連比や役比、ベースは、遊技状態によらずに算出するが、遊技状態を考慮して算出してもよい。例えば、連比は、賞球合計数のうち、大当り遊技状態中の大入賞口への入賞による賞球数が占める割合としてもよい。また、役比は、賞球合計数のうち、高ベース状態中の第2始動入賞口への入賞による賞球数と大当り遊技状態中の大入賞口への入賞による賞球数が占める割合としてもよい。また、ベースは、低ベース状態と高ベース状態とで個別に算出してもよい。

30

【0587】

表示No1の短期連比が表示される場合には、第2表示部29B及び第3表示部29Cに「y6.」が表示され、表示No2の短期役比が表示される場合には、第2表示部29B及び第3表示部29Cに「y7.」が表示される。表示No1の短期連比が表示される場合には、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、短期連比が百分率表示(%表示)され、表示No2の短期役比が表示される場合には、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、短期役比が百分率表示(%表示)される。表示No3の総累計連比が表示される場合には、第2表示部29B及び第3表示部29Cに「A6.」が表示され、表示No4の総累計役比が表示される場合には、第2表示部29B及び第3表示部29Cに「A7.」が表示される。表示No3の総累計連比が表示される場合には、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、総累計連比が百分率表示(%表示)され、表示No4の総累計役比が表示される場合には、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、総累計役比

40

50

が百分率表示（％表示）される。表示N o 5のベース1が表示される場合には、第2表示部29B及び第3表示部29Cに「b L.」が表示され、表示N o 4のベース2が表示される場合には、第2表示部29B及び第3表示部29Cに「B 6.」が表示される。表示N o 5のベース1が表示される場合には、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、総累計連比が百分率表示（％表示）され、表示N o 6のベース2が表示される場合には、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、総累計役比が百分率表示（％表示）される。

【0588】

主基板11は、連比、役比及びベースを算出するにあたり、第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）、第1始動入賞口、第2始動入賞口、及び第1一般入賞口から第4一般入賞口に進入した遊技球の進入数と、排出口から排出された遊技球数の集計を行っている。CPU103は、メイン処理において、ゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A及び第2始動口スイッチ22B、第1カウントスイッチ23、第2カウントスイッチ24A、並びに、第1一般入賞口スイッチ26A～第4一般入賞口スイッチ26D、排出口スイッチ70の各スイッチの状態（検出信号の有無）を確認するスイッチ処理を行っている。スイッチ処理において、各スイッチから出力される検出信号に基づいて、いずれの進入領域に遊技球が進入したのかを特定する。そして、ゲートスイッチ21から検出信号が出力された場合には、ゲート通過数カウンタの値を加算し、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22Bから検出信号が出力された場合には、第1始動入賞数カウンタ、第2始動入賞数カウンタの値を加算し、カウントスイッチ23から検出信号が出力された場合には、大入賞数カウンタの値を加算し、第1一般入賞口スイッチ26A、第2一般入賞口スイッチ26B、第3一般入賞口スイッチ26C、第4一般入賞口スイッチ26Dから検出信号が出力された場合には、第1一般入賞数カウンタ、第2一般入賞数カウンタ、第3一般入賞数カウンタ、第4一般入賞数カウンタの値を加算し、排出口スイッチ70から検出信号が出力された場合には、打込数カウンタの値を加算することで、各進入領域への遊技球の進入数（各入賞口への遊技球の入賞数）を集計する。なお、各カウンタの値はRAM102に記憶されている。このように、各進入領域への遊技球の進入数を集計するためのステップを、各進入領域に対応したスイッチの状態を確認する一連の処理において併せて実行する（スイッチの状態確認処理であるスイッチ処理に含める）ことにより、別途の集計プログラムを実行させることなく、すなわち、実行プログラムが増加することによる容量不足という問題を生じさせることなく、各進入領域への遊技球の進入数を集計可能となっている。

【0589】

図21-13は、各入賞口への賞球数を記憶する記憶領域を示している。主基板11のCPU103は、集計した各入賞口への遊技球の入賞数に基づいて、各入賞口への入賞による賞球数を算出し、算出した賞球数を入賞口ごとにRAM102に記憶させる。遊技球の入賞による賞球数は、入賞口に対する1回の入賞で払い出される遊技球数と、当該入賞口への入賞回数を乗じた数で算出される。遊技球の入賞による賞球数は、入賞口毎にあらかじめ定められている。区分される入賞口ごとの賞球数は、一般入賞口賞球（第1一般入賞口～第4一般入賞口（ソデ）への入賞による賞球）、第1始動入賞口賞球（第1始動入賞口（ヘソ）への入賞による賞球）、普通電役賞球（電チューへの入賞による賞球）、特別電役賞球（アタッカーへの入賞による賞球）の賞球数である。また、RAM102は、総賞球数や打ち込まれた遊技球数も記憶している。なお、CPU103では、一般入賞口への遊技球の入賞数及び第1始動入賞口への遊技球入賞数を個別に集計しているが、一般入賞口への遊技球の入賞数と第1始動入賞口への遊技球入賞数をまとめて集計してもよい。また、一般入賞口賞球の賞球数と、第1始動入賞口賞球の賞球数とを個別に算出しているが、一般入賞口賞球の賞球数と、第1始動入賞口賞球の賞球数とをまとめて算出してもよい。

【0590】

RAM102は、これらの賞球数や打込数を記憶するためのリングバッファとアクティ

ブバッファを備えている。リングバッファは、6000個の賞球数ごとの各入賞口への入賞による賞球数を記憶する最大2バイトのカウンタからなる10個の第1記憶領域～第10記憶領域を備えている。このように、リングバッファでは、所定単位（最大2バイト）の記憶領域を備えている。また、アクティブバッファは、6000個の賞球数ごとの各入賞口への入賞による賞球数を記憶する最大2バイトのカウンタからなる第0記憶領域を備えている。第0記憶領域には、遊技の進行によって増加する入賞口毎の賞球数が加算される。第0記憶領域～第10記憶領域の11個の記憶領域は、 $256 \times 256 = 65536$ のデータを記憶可能であり、6000個までのデータは余裕をもって記憶できる。また、RAM102には、入賞口毎に、第1記憶領域～第10記憶領域に記憶された賞球数（10セット分）や打込数の総和と、総累計との記憶領域が設けられている。10セット分の総和及び総累計の記憶領域は、最大3バイトのカウンタで構成されている、このため、 $256 \times 256 \times 256 = 16777216$ のデータを記憶可能であり、60000個までのデータは余裕をもって記憶できる。

【0591】

RAM102には、10セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域と、10セット分のベース（ベース2）と前回の10セット分のベース（ベース1）を記憶するベース記憶領域とが設けられている。主基板11のCPU103では、10セット分及び総累計の各入賞口への遊技球の入賞数に基づく賞球数によって、10セット分及び総累計の役比及び連比を算出し、10セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域に記憶させる。10セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域は、いずれも最大1バイトのカウンタで構成されている。10セット分及び総累計の役比及び連比は、例えば整数で記憶させる場合には、最大1バイトのカウンタで余裕をもって記憶できる。主基板11のCPU103では、10セット分の各入賞口への遊技球の入賞数に対する打込数によって、10セット分のベースを算出し、算出された10セット分のベース（ベース2）と前回の10セット分の各入賞口への遊技球の入賞数に対する打込数によって算出したベース（ベース1）とをベース記憶領域に記憶させる。ベース1とベース2は、例えば整数で記憶させる場合には、最大1バイトのカウンタで余裕をもって記憶できる。

【0592】

図21-14は、主基板11におけるCPU103のメモリマップを示している。CPU103は、内蔵レジスタ、ROM101、RAM102などにアクセスするためのメモリ空間を有している。ROM101のアドレス／データ信号線は、メモリ空間のROM領域（この実施形態では、0000H～2FFFFHのうち、0000H～2FBFH。2FC0H～2FFFFHはプログラム管理エリア）である内蔵ROMエリアに割り当てられ、CPU103は、このROM領域を指定してROM101からのデータの読み出しを行う。また、この実施例では、ROM領域を第一領域～第八領域の8つの領域に分けて管理を行っており、第一領域は0000Hから始まる領域としている。内蔵レジスタのアドレス／データ信号線は、メモリ空間の内蔵レジスタエリア（この実施形態では、FE00H～FEBFH）に割り当てられ、CPU103は、この内蔵レジスタエリアを介して内蔵レジスタからのデータの読み出しやレジスタへのデータの書き込みを行う。RAM102のアドレス／データ信号線は、メモリ空間のRWM領域（この実施形態では、F000H～F3FFH）である内蔵RAMエリアに割り当てられ、CPU103は、このRWM領域を指定してRAM102からのデータの読み出しやRAM102へのデータの書き込みを行う。なお、メモリ空間の他の領域（この実施形態では、3000H～EFFFFH、F400H～FDDFH、FEC0H～FFFFH）は非使用領域とされている。

【0593】

図21-15は、内蔵RAMエリアとなるRWM領域を示している。RAM102の記憶領域に対応する内蔵RAMエリアは、RAM制御領域、非使用領域、RAMデータ領域及びその他領域で構成されている。RAM制御領域に対応するRAM102の記憶領域には、CPU103が実行する複数種類の命令それぞれに対応する命令データ（オペコード

）、CPU103がそれぞれの命令を実行するために必要な補足データ（オペランド）によって構成される制御プログラム用のデータ（単に、制御プログラムデータと称する場合がある）が、一時的に記憶されている。RAMデータ領域に対応するRAM102の記憶領域には、制御プログラムによって参照される参照データ（例えば、各種抽選データ）が一時的に記憶される。

【0594】

連比や役比の表示に用いるデータは、非使用領域に対応するRAM102の記憶領域、あるいは、その他領域に対応するRAM102の記憶領域に、一時的に記憶される。例えば、非使用領域に対応するRAM102の記憶領域には、入賞口毎の賞球数の総累計を記憶する記憶領域及び総累計の連比役比記憶領域が設けられている。その他領域に対応するRAM102の記憶領域には、入賞口毎の第0記憶領域を備えるアクティブバッファ、第1記憶領域～第10記憶領域を備えるリングバッファ、入賞口毎の賞球数（10セット分）の総和の記憶領域、及び10セット分の連比役比記憶領域が設けられている。なお、非使用領域に対応するRAM102の記憶領域と、その他領域に対応するRAM102の記憶領域とには、サブルーチンの先頭アドレスが互いに異なるデータがそれぞれ記憶されている。内蔵RAMエリアにおける各々のアドレスに対応するRAM102の記憶領域には、1バイト（8ビット）のデータが記憶可能であり、各データ（命令データ、補足データ、参照データ、管理データ）が1バイトを超えるバイト数（例えば、2バイト）のデータである場合には、RAM制御領域の連続する複数のアドレスに対応するRAM102の記憶領域に、それらのデータを1バイト毎に分割して記憶している。

【0595】

図21-16は、表示モニタ29における表示の制御例を示している。主基板11は、表示モニタ29に対して、連比、役比、ベースを表示する制御を行う。表示モニタ29では、複数の項目が順次表示される。

【0596】

図21-16（A）は、表示モニタ29における表示変化の態様を示すタイムチャートである。表示モニタ29に対する表示を開始すると、まず表示No1の短期連比が表示される。表示No1の短期連比の表示は、緑字で表示される。表示No1の表示が5秒間継続すると、表示No2の短期役比が表示される。表示No2の短期連比の表示は、赤字で表示される。表示No2の表示が5秒間継続すると、表示No3の総累計連比が表示される。表示No3の総累計連比の表示は、赤字で表示される。表示No3の表示が5秒間継続すると、表示No4の総累計役比が表示される。表示No4の総累計役比の表示は、赤字で表示される。表示No4の表示が5秒間継続すると、表示No5のベース1が表示される。表示No5のベース1の表示は、赤字で表示される。表示No5の表示が5秒間継続すると、表示No6のベース2が表示される。表示No6のベース2の表示は、赤字で表示される。そして、表示No6の表示が5秒間継続すると、表示No1の短期連比が表示される。以後、表示No1の短期連比から表示No6のベース2まで、各表示が5秒毎に順次変化して表示される。その表示の色は、表示No1の短期連比のみが緑色とされ、表示No2の短期役比～表示No5のベース2は赤色とされる。このように、表示モニタ29は、短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2を5秒ごとに切り替えて表示する。

【0597】

図21-16（B1）には、表示No1の短期連比を表示する場合が示されている。この場合には、第1表示部29Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部29Bに「y」の文字が表示され、第3表示部29Cに「6.」の文字が表示される。また、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、短期連比が表示される。例えば、短期連比が41%の場合、第4表示部29Dに「4.」の文字が表示され、第5表示部29Eに「1.」の文字が表示される。

【0598】

図21-16（B2）には、表示No2の短期役比を表示する場合が示されている。こ

の場合には、第1表示部29Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部29Bに「y」の文字が表示され、第3表示部29Cに「7.」の文字が表示される。また、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、短期役比が表示される。例えば、短期役比が63%の場合、第4表示部29Dに「4.」の文字が表示され、第5表示部29Eに「3.」の文字が表示される。

【0599】

図21-16(B3)には、表示No3の総累計連比を表示する場合が示されている。この場合には、第1表示部29Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部29Bに「A」の文字が表示され、第3表示部29Cに「6.」の文字が表示される。また、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、総累計連比が表示される。例えば、総累計連比が58%の場合、第4表示部29Dに「5.」の文字が表示され、第5表示部29Eに「8.」の文字が表示される。

10

【0600】

図21-16(B4)には、表示No4の総累計役比を表示する場合が示されている。この場合には、第1表示部29Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部29Bに「A」の文字が表示され、第3表示部29Cに「7.」の文字が表示される。また、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、総累計役比が表示される。例えば、総累計役比が68%の場合、第4表示部29Dに「6.」の文字が表示され、第5表示部29Eに「8.」の文字が表示される。

【0601】

20

図21-16(B5)には、表示No5のベース1を表示する場合が示されている。この場合には、第1表示部29Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部29Bに「b」の文字が表示され、第3表示部29Cに「L.」の文字が表示される。また、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、前回の賞球60000個に基づいて算出したベース1が表示される。例えば、ベース1が40%の場合、第4表示部29Dに「4.」の文字が表示され、第5表示部29Eに「0.」の文字が表示される。

【0602】

図21-16(B6)には、表示No6のベース2を表示する場合が示されている。この場合には、第1表示部29Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部29Bに「b」の文字が表示され、第3表示部29Cに「6.」の文字が表示される。また、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、直前の賞球60000個に基づいて算出したベース2が表示される。例えば、ベース2が42%の場合、第4表示部29Dに「4.」の文字が表示され、第5表示部29Eに「2」の文字が表示される。

30

【0603】

短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示は、表示切替スイッチ30の操作に基づいて、設定値ごとに順次変更することが可能となっている。例えば、設定値が「1」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示が行われているときに、表示切替スイッチ30の操作により、第1表示部29Aに表示される数値が「2」に更新されるとともに、第4表示部29D及び第5表示部29Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示が、設定値が「2」の場合に対応した表示に変更される。設定値が「2」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示が行われているときに、表示切替スイッチ30の操作により、第1表示部29Aに表示される数値が「3」に更新されるとともに、第4表示部29D及び第5表示部29Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示が、設定値が「3」の場合に対応した表示に変更される。設定値が「3」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示が行われているときに、表示切替スイッチ30の操作により、第1表示部29Aに表示される数値が「1」に更新されるとともに、第4表示部29D及び第5表示部29Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示が、設定値が「1」の場合に対応した表

40

50

示に変更される。

【0604】

なお、表示モニタ29においては、各設定値における連比、役比、ベースを表示可能な形態に限定されるものではなく、これら連比、役比、ベースのうち、1の数値のみ、あるいは、いずれか2の数値のみ表示可能であってもよい。付与された賞球数に基づく情報である連比、役比、ベースを算出し、これら連比、役比、ベースを表示モニタ29にて表示する形態に限定されるものではなく、連比、役比、ベースを算出せずに、表示モニタ29には、付与された賞球数の履歴を表示するようにしてもよい。表示モニタ29において、短期連比のみ赤色で表示し、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2については緑色にて表示するものに限定されず、短期連比と短期役比、総累計連比及び総累計役比を同色にて表示し、ベース1とベース2とについては短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比とは異なる同一の色にて表示してもよい。

10

【0605】

図21-17は、アクティブバッファおよびリングバッファにおける更新の実行例を示している。主基板11では、アクティブバッファにおける第0記憶領域の賞球合計が所定の容量である6000個に到達すると、リングバッファにおける第0記憶領域～第10記憶領域の記憶を更新する。さらには、10セット分の総和及び総累計の記憶領域、10セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域の記憶をそれぞれ更新する。このときには、アクティブバッファの第0記憶領域に記憶されている数値をリングバッファの第1記憶領域に移動させ、リングバッファの第1記憶領域～第9記憶領域に記憶されている数値をそれぞれ第2記憶領域～第10記憶領域に移動させる。例えば、第0記憶領域～第9記憶領域における一般入賞口賞球の賞球数がそれぞれ「27」「81」「120」「36」「225」「87」「66」「117」「45」「21」である。このとき、アクティブバッファの第0記憶領域における賞球合計が6000個に到達すると、第1記憶領域～第10記憶領域における一般入賞口賞球の賞球数をそれぞれ「27」「81」「120」「36」「225」「87」「66」「117」「45」「21」に更新する。これに伴い、第0記憶領域の賞球数を「0」とし、第10記憶領域の賞球数を消去する。第0記憶領域～第10記憶領域に記憶される賞球数を更新する際には、記憶している賞球数を一旦消去してから新たな賞球数を記憶させてもよい。あるいは、記憶されている賞球数に上書きする形で新たな賞球数を記憶させてもよい。

20

30

【0606】

(他の特徴部に関する遊技制御の説明)

図21-18は、この実施例において、遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103が実行するメイン処理の一例を示すフローチャートである。このメイン処理は、遊技制御メイン処理に代えて実行できればよい。メイン処理において、CPU103は、まず、割込禁止に設定する(ステップSa1)。次に、割込モードを割込モード2に設定し(ステップSa2)、スタックポインタにスタックポインタ指定アドレスを設定する(ステップSa3)。そして、内蔵デバイスの初期化(内蔵デバイス(内蔵周辺回路)であるCTC(カウンタ/タイマ)およびPIO(パラレル入出力ポート)の初期化など)を行った後(ステップSa4)、RAM102をアクセス可能状態に設定する(ステップSa5)。なお、割込モード2は、CPU103が内蔵する特定レジスタ(Iレジスタ)の値(1バイト)と内蔵デバイスが出力する割込ベクタ(1バイト:最下位ビット0)とから合成されるアドレスが、割込番地を示すモードである。

40

【0607】

続いて、クリアスイッチAK001の出力信号であるクリア信号に基づき、クリアスイッチAK001がオンであるか否かを判定する(ステップSa6)。クリアスイッチAK001がオフであれば、電源断検出処理を実行したか否かを判定する(ステップSa7)。電源断検出処理を実行した場合には、パリティチェックの実行結果が正常であるか否かを判定する(ステップSa8)。チェック結果が正常であれば、バックアップ時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し(ステップSa41)、その内容に基づき作業領

50

域に初期値を設定する（ステップS a 4 2）。これにより、パチンコ遊技機1における遊技の進行に関する停電時の記憶内容が復旧される。

【0608】

ステップS a 4 2にて停電復旧が行われたときには、錠スイッチ51の出力信号である錠スイッチ信号に基づき、錠スイッチ51がオンであるか否かを判定する（ステップAKS001）。ステップAKS001にて錠スイッチ51がオンである場合には、設定確認処理を実行することにより（ステップAKS002）、設定値を確認可能な状態となる。設定確認処理においては、パチンコ遊技機1にて設定されている設定値を表示モニタ29の表示により確認することが可能となっている。ステップAKS001にて錠スイッチAK002がオフである場合や、ステップAKS002にて設定確認処理を実行した後は、ステップS a 1 4に進む。なお、ステップAKS001にて錠スイッチAK002がオフである場合には、主基板11から演出制御基板182に対して、停電復旧指定コマンドとなるコマンド9200Hが送信されるようにすればよい。

10

【0609】

ステップAKS002にて設定確認処理の実行が開始されるときには、パチンコ遊技機1において設定されている設定値を確認可能な設定確認状態となり、主基板11から演出制御基板12に対して、設定確認開始コマンドとなるコマンド9400Hが送信される。パチンコ遊技機1が設定確認状態であるときには、パチンコ遊技機1における遊技の進行を停止させる遊技停止状態としてもよい。遊技停止状態であるときには、打球操作ハンドル30の操作による遊技球の発射、各種スイッチによる遊技球の検出などが停止され、また、第1特別図柄表示器4Aや第2特別図柄表示器4B、普通図柄表示器20において、はずれ図柄などを停止表示したり、はずれ図柄とは異なる遊技停止状態に対応した表示が行われたりするように制御すればよい。ステップAKS001における設定確認処理の実行が終了するときには、設定確認状態と、これに伴う遊技停止状態が終了し、主基板11から演出制御基板12に対して、設定確認終了コマンドとなるコマンド9401Hが送信される。

20

【0610】

ステップS a 6にてクリアスイッチAK001がオンである場合、ステップS a 7にて電源断検出処理を実行していなかった場合、あるいは、ステップS a 8にてチェック結果が正常ではなかった場合には、所定のRAMクリア処理を実行し、RAM102のバックアップ格納領域に格納されている設定値以外のデータをクリアする（ステップS a 9）。遊技の入賞に関する情報が記憶される記憶領域は、ステップS a 9にてクリアされないようにしてもよい。ステップS a 9に続いて、初期化時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し（ステップS a 1 0）、その内容に基づき作業領域に初期値を設定する（ステップS a 1 1）。これにより、パチンコ遊技機1における遊技の進行に関する記憶内容が初期化される。ステップS a 6にてクリアスイッチAK001がオンである場合には、ステップS a 9、S a 1 0によりRAM102の記憶内容が初期化（クリア）されるので、クリアスイッチAK001は、オンに押下操作する動作を検出することにより、パチンコ遊技機1の初期化に関する動作を検出することができる。

30

【0611】

ステップS a 1 1にて記憶内容が初期化されたときには、錠スイッチ信号に基づき、錠スイッチ51がオンであるか否かを判定する（ステップS a 1 2）。ステップS a 1 2にて錠スイッチ51がオンである場合には、設定変更処理を実行することにより（ステップS a 1 3）、設定値を変更可能な状態となる。設定変更処理では、パチンコ遊技機1における設定値の変更状況を表示モニタ29の表示により確認することが可能となっている。ステップS a 1 2にて錠スイッチ51がオフである場合や、ステップS a 1 3にて設定変更処理を実行した後は、ステップS a 1 4に進む。

40

【0612】

ステップS a 1 2にて錠スイッチ51がオフである場合には、主基板11から演出制御基板12に対して、RAMクリア通知コマンドとなるコマンド9000Hが送信されるよ

50

うにすればよい。なお、錠スイッチ51がオンであることを条件に設定変更処理を実行する形態に限定されるものではなく、さらに遊技機用枠3が開放されていることを条件として設定変更処理を実行し、パチンコ遊技機1に設定されている設定値を変更可能としてもよい。

【0613】

ステップS a 1 3にて設定変更処理の実行が開始されるときには、パチンコ遊技機1において設定されている設定値を変更可能な変更許可状態としての設定変更状態となり、主基板11から演出制御基板12に対して、設定変更開始コマンドとなるコマンド9100Hが送信される。パチンコ遊技機1が設定変更状態であるときには、設定確認状態であるときと同様に、パチンコ遊技機1を遊技停止状態としてもよい。ステップS a 1 3における設定変更処理の実行が終了するときには、設定変更状態と、これに伴う遊技停止状態が終了し、主基板11から演出制御基板12に対して、設定変更終了コマンドとなるコマンド93XXHが送信される。なお、クリアスイッチAK001がオンである場合の他に、電源断検査処理を実行していなかった場合、あるいは、パリティチェックの実行結果が正常ではなかった場合に、錠スイッチ51がオンであれば設定変更処理を実行する形態に限定されるものではなく、クリアスイッチAK001がオンである場合にRAM102をクリアした場合のみ錠スイッチ51がオンであれば設定変更処理を実行してもよい。

【0614】

その後、RAM102のバックアップ領域に格納されている設定値を読み出し（ステップS a 1 4）、その値をパチンコ遊技機1における設定値として使用する。このときには、乱数回路設定処理により、乱数回路104を初期設定する（ステップS a 1 5）。また、所定時間（例えば2ms）ごとに定期的なタイマ割込を発生させる設定を行う（ステップS a 1 6）。そして、割込禁止の設定（ステップS a 1 7）、表示用乱数更新処理（ステップS a 1 8）、初期値用乱数更新処理（ステップS a 1 9）、割込許可の設定（ステップS a 2 0）を繰り返し実行する。

【0615】

CPU103は、特別図柄プロセス処理において特別図柄通常処理を実行するとき、設定されている設定値に応じた表示結果判定テーブルと、変動表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データに基づいて、特別図柄や演出図柄の変動表示結果を「大当り」や「小当り」とするか否かを、その変動表示結果が導出表示される前に決定（事前決定）する。また、変動パターン設定処理を実行するとき、設定されている設定値に応じた変動パターン判定テーブルと、変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データを用いて、変動パターンを複数種類のいずれかに決定すればよい。このように、設定されている設定値に応じて異なる割合により、変動表示結果を決定することなどにより、遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行させることができる。

【0616】

なお、この実施例では、メイン処理のステップS a 6にてクリアスイッチAK001がオンである場合に、ステップS a 9～S a 1 1にてRAM102の記憶内容を初期化（クリア）してから、ステップS a 1 2、S a 1 3にて設定値を変更可能な状態になるが、この発明はこれに限定されるものではなく、設定値を変更可能な状態が終了してから、RAM102の記憶内容が初期化（クリア）されてもよい。すなわち、ステップS a 6にてクリアスイッチAK001がオンである場合には、ステップS a 1 2にて錠スイッチ51がオンであるか否かを判定し、オフであればステップS a 9～S a 1 1に進むことで、RAM102の記憶内容が初期化（クリア）され、これに対し、ステップS a 1 2にて錠スイッチ51がオンである場合には、ステップS a 1 3にて設定変更処理を実行し、その処理が終了してからステップS a 9～S a 1 1に進むようにしてもよい。例えばRAM102の記憶内容が初期化（クリア）されたことに対応してRAMクリア通知コマンドが送信される場合には、演出制御基板12において、RAMクリア通知コマンドの受信に伴い初期化報知が開始されることがある。そのため、ステップS a 1 3よりも先にステップS a 9～S a 1 1が実行されてしまうと、ステップS a 1 3にて設定変更処理が実行されて設定

値を変更可能な状態になる場合に、初期化報知が実行されて設定値の変更作業に支障が生じるおそれがある。これに対し、ステップS a 1 3の設定変更処理が終了してからステップS a 9～S a 1 1によりRAM 1 0 2の記憶内容が初期化（クリア）されることにより、設定値の変更が完了した後に初期化報知などを開始させることができるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0617】

図21-19は、ステップS a 1 3の設定変更処理における表示モニタ29の表示態様を示している。図21-19（A）に示すように、表示モニタ29において連比や役比、ベース等が表示されているときに遊技場の係員などによって電源スイッチAK 0 0 2が操作され、電源遮断により電力供給が停止されると、図21-19（B）に示すように、表示モニタ29での表示が終了する。その後、遊技場の係員などがクリアスイッチAK 0 0 1を押下操作するとともに、錠スイッチ51をオンに切替操作しながら、電源スイッチAK 0 0 2を操作することにより、電源投入により電力供給が開始されると、図21-19（C）に示すように、表示モニタ29では、第1表示部29AにおいてRAM 1 0 2のバックアップ領域に格納されている設定値が表示される。この設定値が表示されている状態において、遊技場の係員などにより設定切替スイッチ52が押下操作されると、その操作が検出されるごとに第1表示部29Aに表示している数値を順次更新して表示する。例えば設定切替スイッチ52の押下操作が検出されたときに、第1表示部29Aに「1」が表示されていれば「2」に更新し、「2」が表示されていれば「3」に更新し、「3」が表示されていれば「1」に更新することにより、第1表示部29Aの表示を「1」～「3」の間で循環的に順次更新できればよい。その後、遊技場の係員などにより錠スイッチ51が押込操作されると、その操作が検出されたことにより、第1表示部29Aに表示されている設定値をRAM 1 0 2のバックアップ領域に格納（更新記憶）する。このときには、第1表示部29Aを点滅表示させることによって、新たな設定値が格納されたことを遊技場の係員などが認識可能に報知する。

【0618】

ステップS a 1 3にて設定変更処理が実行されるときには、ステップS a 9によりRAM 1 0 2の記憶内容が初期化されている。したがって、設定値の変更が行われるときには、第1特図保留記憶部151Aや第2特図保留記憶部151Bにおける保留データなどに基づく保留記憶が消去される。遊技場の係員などにより錠スイッチ51をオフとする切替操作がなされると、その操作が検出されたことにより、設定変更処理を終了する。CPU 103は、メイン処理におけるステップS a 1 4以降の処理を実行することによって遊技が可能な状態となる。これにより、例えば変動表示結果や大当たり種別、変動パターンの決定抽選や、賞球の払出などが実行可能な状態となる。なお、設定変更処理では、表示モニタ29に表示する初期表示として、RAM 1 0 2のバックアップ領域に格納されている格納値を表示する形態に限定されるものではなく、例えば遊技者にとって最も有利な設定値の「1」、あるいは、遊技者にとって最も不利な設定値の「3」など、予め定められた設定値を表示するようにしてもよい。

【0619】

設定変更処理において、表示モニタ29の第1表示部29Aに表示している数値を順次更新して表示する制御は、設定切替スイッチ52の押下操作が検出されるごとに更新する形態に限定されるものではなく、例えばクリアスイッチAK 0 0 1の押下操作が検出されるごとに順次更新して表示するようにしてもよい。例えば、表示モニタ29では、第1表示部29AにおいてRAM 1 0 2のバックアップ領域に格納されている設定値が表示されている状態において、クリアスイッチAK 0 0 1が押下操作されると、第1表示部29Aに「1」が表示されていれば「2」に更新し、「2」が表示されていれば「3」に更新し、「3」が表示されていれば「1」に更新することにより、第1表示部29Aの表示を「1」～「3」の間で循環的に順次更新できればよい。この場合には、RAM 1 0 2の記憶内容を初期化するために用いられるクリアスイッチAK 0 0 1を、パチンコ遊技機1における設定値の変更にも共通して使用することができる。これにより、パチンコ遊技機1に

おける装置構成の増大による製造コストの増大を、防止することができる。

【0620】

図21-20は、ステップAKS002の設定確認処理における表示モニタ29の表示態様を示している。図21-20(A)に示すように、表示モニタ29において連比や役比、ベース等が表示されているときに遊技場の係員などによって電源スイッチAK002が操作され、電源遮断により電力供給が停止されると、図21-20(B)に示すように、表示モニタ29での表示が終了する。その後、遊技場の係員などがクリアスイッチAK001を押下操作することなく、錠スイッチ51をオンに切替操作しながら、電源スイッチAK002を操作することにより、電源投入により電力供給が開始されると、図21-20(C)に示すように、表示モニタ29では、第1表示部29AにおいてRAM102のバックアップ領域に格納されている設定値が表示される。この設定値が表示されている状態では、遊技場の係員などにより設定切替スイッチ52が押下操作されても、第1表示部29Aに表示している数値を更新表示することはできない。その後、遊技場の係員などにより錠スイッチ51をオフとする切替操作がなされると、その操作が検出されたことにより、設定確認処理を終了する。CPU103は、メイン処理におけるステップSa14以降の処理を実行することによって遊技が可能な状態となる。これにより、例えば変動表示結果や大当たり種別、変動パターンの決定抽選や、賞球の払出などが実行可能な状態となる。

10

【0621】

このように、パチンコ遊技機1が備える表示モニタ29には、パチンコ遊技機1の設置後における賞球数の調整などが確認可能となる遊技価値に関する情報を表示可能である。この表示モニタ29には、パチンコ遊技機1において大当たり遊技状態に制御される確率の変更などにより、遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行させる設定値の情報を表示可能である。したがって、遊技価値に関する情報を表示する表示装置とは別個に、設定値を表示する表示装置を設ける必要がないので、パチンコ遊技機1における装置構成の増大による製造コストの増大を、防止することができる。

20

【0622】

なお、この実施例では、表示モニタ29を用いて、RAM102のバックアップ領域に格納されている設定値の表示や、連比、役比、ベース等の表示を行うものとしているが、この発明はこれに限定されるものではなく、表示モニタ29を用いて連比や役比、ベース等の表示を行う一方で、表示モニタ29とは異なる設定表示部を用いて設定値の表示を行うようにしてもよい。これにより、表示モニタ29を用いて連比や役比、ベース等の表示を行う制御と、設定表示部を用いて設定値の表示を行う制御とを、明確に分離することができるので、例えば制御プログラムなどによる処理を分散させて簡素化し、制御負担を軽減することができる。このように、表示モニタ29とは異なる設定表示部を用いる場合には、表示モニタ29が配置される基板とは異なる基板に設定表示部が配置されてもよいし、表示モニタ29が配置される基板と共通の基板に設定表示部が配置されてもよい。

30

【0623】

(他の特徴部における構成や遊技制御に関する変形例の説明)

図21-21は、遊技中に設定変更処理を実行可能な変形例における表示モニタ29の表示態様を示している。パチンコ遊技機1における設定値は、電源投入時に変更可能な形態に限定されるものではなく、設定値の変更は遊技中に実行可能であってもよい。この場合には、CPU103がメイン処理にてステップSa16より後の処理を開始した後、遊技場の係員などにより遊技機用枠3が開放され、錠スイッチ51をオンとする切替操作とともにクリアスイッチAK001をオンとする押下操作が行われると、それらの操作が検出されたことにより、表示モニタ29では、第1表示部29Aにおいて現在のパチンコ遊技機1に設定されている設定値を表示させる。この設定値が表示されている状態において、遊技場の係員などにより設定切替スイッチ52あるいはクリアスイッチAK001が押下操作されると、その操作が検出されるごとに第1表示部29Aに表示している数値を順次更新して表示する。そして、遊技場の係員などにより錠スイッチ51が押込操作される

40

50

と、その操作が検出されたことにより、第1表示部29Aに表示されている設定値をパチンコ遊技機1の新たな設定値として、RAM102のバックアップ領域に格納（更新記憶）する。

【0624】

パチンコ遊技機1における設定値は、錠スイッチ51をオンに切替操作する動作の検出と、クリアスイッチAK001をオンに押下操作する動作の検出とに基づいて、電源投入時に変更可能な形態に限定されるものではなく、少なくとも錠スイッチ51をオンに切替操作する動作の検出に基づいて、電源投入時に変更可能であってもよい。例えば電源投入時にクリアスイッチAK001をオンに押下操作する動作の検出がない場合でも、錠スイッチ51をオンに切替操作する動作の検出に基づいて、RAM102の記憶内容を初期化（クリア）することなく停電時の記憶内容を復旧させ、その後にクリアスイッチAK001をオンに押下操作する動作の検出などに基づいて、パチンコ遊技機1において設定されている設定値を変更可能にしてもよい。このように、電源投入による電力供給の開始に伴い、RAM102の記憶内容を初期化（クリア）することによるパチンコ遊技機1の初期化が行われない場合でも、電源投入時のパチンコ遊技機1において設定されている設定値を変更する制御が行われてもよい。

【0625】

新たな設定値が格納されるときには、遊技制御用データ保持エリア150をクリアすることによって、特図保留記憶、普図保留記憶や遊技制御フラグ設定部152、遊技制御タイマ設定部153、遊技制御カウンタ設定部154、遊技制御バッファ設定部155などに記憶されている各種フラグやデータを消去してもよい。このように、遊技制御用データ保持エリア150をクリアすることによって、設定値の変更に伴い変動表示結果が大当たりとなる保留記憶が新たに発生してしまうことや、新たに普通可変入賞球装置6Bが開放されること（普図当たりが発生してしまうこと）、実行中の変動表示結果が不当に大当たりとなってしまうことを防止することができる。さらに、遊技制御用データ保持エリア150をクリアすることによって、大当たり遊技中であれば大入賞口を閉鎖させたり、普通可変入賞球装置6Bが開放中であれば普通可変入賞球装置6Bを閉鎖させることで遊技者が不適切な利益を得ることを防止することができる。さらに、新たな設定値が設定されずに設定変更処理が中断された場合に、新たな設定値が設定されていないにもかかわらず、保留記憶が消去されてしまうことを防ぐことができる。なお、パチンコ遊技機1に新たな設定値が設定されたことに基づいて保留記憶をクリアする形態に限定されるものではなく、元からパチンコ遊技機1に設定されていた設定値を再設定した場合においても保留記憶をクリアしてもよい。表示モニタ29にパチンコ遊技機1に設定されている設定値が表示されたタイミング、つまり、CPU103によって設定変更処理が実行されるときに保留記憶をクリアしてもよい。これにより、パチンコ遊技機1に設定値の変更が的確に反映されなくなってしまうことを確実に防ぐことができる。

【0626】

パチンコ遊技機1に新たな設定値が設定されたことに基づいて第1大入賞口や第2大入賞口が閉鎖される形態に限定されるものではなく、表示モニタ29にパチンコ遊技機1に設定されている設定値が表示されたタイミング、つまり、CPU103によって設定変更処理が実行されるときに第1大入賞口や第2大入賞口を閉鎖してもよい。これにより、パチンコ遊技機1に設定値の変更が的確に反映されなくなってしまうことを確実に防ぐことができる。

【0627】

図21-22は、表示モニタ29において設定値を表示可能な第1表示部29Aが設けられない変形例における表示態様を示している。表示モニタ29は、第1表示部29A～第5表示部29Eまでの5つの表示部が設けられ、第2表示部29B～第5表示部29Eにて表示中の連比、役比、ベースの設定値を第1表示部29Aにおいて表示する形態に限定されるものではなく、表示中の連比、役比、ベースの設定値を表示する表示部を設けなくともよい。図21-22（A）では、表示モニタ29の第2表示部29B～第5表示部

29Eに対応する表示部にて連比、役比、ベースの表示を行い、第1表示部29Aに対応する表示部による設定値の表示が行われな

【0628】

図21-22(B)は、設定値の表示を行う表示部が設けられない場合における連比、役比、ベースの表示制御例を示している。この場合には、設定値1での連比、役比、ベースを赤色、設定値2での連比、役比、ベースを緑色、設定値3での連比、役比、ベースを青色にて表示する。設定値に応じて異なる表示色により、連比、役比、ベースを表示することにより、いずれの設定値での数値であるかを把握しやすくなることができる。この表示制御例でも、上記実施例と同様に、設定値1における連比、役比、ベースを5秒間隔ごとに切替表示が可能であり、表示切替スイッチ30の操作ごとに、設定値1における連比、役比、ベースの5秒間隔での切替表示を、設定値2における連比、役比、ベースの5秒間隔での切替表示へ、さらには、設定値3における連比、役比、ベースの5秒間隔での切替表示へと、循環的に変化させることができればよい。あるいは、設定値1における連比、設定値2における連比、設定値3における連比の5秒間隔での切替表示と、設定値1における役比、設定値2における役比、設定値3における役比の5秒間隔での切替表示と、設定値1におけるベース、設定値2におけるベース、設定値3におけるベースの5秒間隔での切替表示と、を表示切替スイッチ30の操作ごとに循環的な変化が可能であってもよい。

10

【0629】

表示モニタ29は、設定値ごとの連比、役比、ベースを表示可能な形態に限定されるものではなく、設定値1～設定値3のいずれか1の設定値に応じた連比、役比、ベースのみを表示可能としてもよい。例えば、設定値1～設定値3の各々で連比、役比、ベースを算出し、これら算出した連比、役比、ベースのうち、最も高いまたは低い値や、最も計測時間の長いまたは短い値などのみを表示モニタ29において表示可能とすればよい。さらに、これら算出した連比、役比、ベースのうち、最も高いまたは低い値や、最も計測時間の長いまたは短い値を表示モニタ29における初期表示とし、表示切替スイッチ30の操作によって初期表示から他の値に表示モニタ29の表示を切替可能としてもよい。

20

【0630】

表示モニタ29は、設定値1における連比、役比、ベースと、設定値2における連比、役比、ベースと、設定値3における連比、役比、ベースと、のうち、2以上の設定値における連比、役比、ベースを算出可能とし、各設定値毎の連比、役比、ベースに加えて、あるいは代えて、これら2以上の設定値における連比、役比、ベースを表示モニタ29にて表示可能としてもよい。このように、2以上の設定値における連比、役比、ベースを表示モニタ29において表示可能とすることで、パチンコ遊技機1の状態をより詳細に把握することが可能となる。なお、複合情報として、2以上の設定値において合算した連比、役比、ベースを算出して表示モニタ29に表示可能とする形態に限定されるものではなく、2以上の設定値における連比、役比、ベースの平均値を算出して表示モニタ29に表示可能としてもよい。

30

【0631】

表示モニタ29においては、設定されている設定値に応じた連比、役比、ベースのみを表示可能としてもよい。さらに、表示モニタ29においては、設定されている設定値に応じた連比、役比、ベースを初期表示として表示するとともに、表示切替スイッチ30の操作に応じて、初期表示から他の設定値における連比、役比、ベースの表示に切り替えてもよい。表示モニタ29においては、設定値に応じた所定情報として、所定時間（例えば、1時間）あたりの賞球数等、連比、役比、ベース以外の数値を表示可能としてもよい。

40

【0632】

例えば、大当り遊技終了直後や時短状態中等の特定条件下においては、通常時の変動パターン判定テーブルとは異なる特殊変動パターン判定テーブルを用いることによって、通常時よりも特定の変動パターンでの変動表示（例えば短縮非リーチの変動パターン（PA1-4））が実行されやすいようにしてもよい。特殊変動パターン判定テーブルを用いて

50

変動パターンを決定可能とする場合は、設定されている設定値に応じて、特殊変動パターン判定テーブルを用いた変動パターンの決定を終了して通常時の決定に切り替えるタイミングを異ならせてもよい。具体的には、設定されている設定値が1である場合は、大当たり遊技終了後の15回目の変動表示までを特殊変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定し、大当たり遊技終了後の16回目以降は、通常時の変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定し、設定されている設定値が2である場合は、大当たり遊技終了後の10回目の変動表示までを特殊変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定し、大当たり遊技終了後の11回目以降は、通常時の変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定し、設定されている設定値が3である場合は、大当たり遊技終了後の5回目の変動表示までを特殊変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定し、大当たり遊技終了後の6回目以降は、通常時の変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定すればよい。

10

【0633】

メイン処理におけるステップS a 9でRAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、最初の10変動目において特殊な変動パターンにて変動表示が実行されると、遊技者にとって有利な設定値（例えば、設定値1）が設定されていることを示唆し、RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、30変動目において特殊な変動パターンにて変動表示が実行されると、遊技者にとって有利な設定値（例えば、設定値1）が設定されていることが確定するなど、特定のタイミングや特定回数の変動表示において特殊な変動パターンにて変動表示が実行されるか否かに注目させるゲーム性としてもよい。なお、パチンコ遊技機1をこのようなゲーム性とする場合は、設定されている設定値が1のときに、RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、最初の10変動目において特殊な変動パターンにて変動が実行される割合が最も高く、設定されている設定値が3のときに、RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、最初の10変動目において特殊な変動パターンにて変動が実行される割合が最も低くなるようにするとともに、設定されている設定値が1の場合にのみ、RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、最初の30変動目において特殊な変動パターンにて変動が実行されるようにすればよい。

20

30

【0634】

変動パターンを決定するための変動パターン判定テーブルを特殊変動パターン判定テーブルから通常時の変動パターン判定テーブルに切り替える切替条件（テーブルを切り替えるまでの変動回数）は、設定されている設定値に応じて異なる割合にて決定してもよい。設定されている設定値に応じて変動パターンを決定するための変動パターン判定テーブルを切り替える切替条件が異なることによって、特定の変動パターン（例えば、短縮非リーチ（PA1-4））の決定割合が低下したタイミングに遊技者を注目させることができるので、変動パターンによる演出効果を高めることができる。

【0635】

RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、所定時間（例えば、1時間）が経過するまで、または、所定回数（例えば、100回）の変動表示が実行されるまでの間は、特定の変動パターンの変動表示（例えば、スーパーリーチの変動パターンの変動表示）の決定割合が通常時の各変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定する場合よりも増加あるいは低下するようにしてもよい。この場合には、設定されている設定値が1である場合と2である場合、3である場合とで、それぞれ異なる決定割合にてスーパーリーチの変動パターンの変動表示の実行を決定してもよい。これにより、RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、所定時間（例えば、1時間）が経過するまで、または、所定回数（例えば、100回）

40

50

の変動表示が実行されるまでの間においてスーパーリーチの変動パターンの変動表示回数に遊技者を注目させることができるので、スーパーリーチの変動パターンの変動表示による演出効果を高めることができる。さらに、RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、所定時間が経過するまで、または、所定回数の変動表示が実行されるまでの間においてのみ決定可能な変動パターンを設定値ごとに設け、これら設定値に応じた変動パターンによる変動表示の実行によってパチンコ遊技機1に設定されている設定値を遊技者に対して報知可能としてもよい。

【0636】

RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、所定時間（例えば、1時間）が経過するまで、または、所定回数（例えば、100回）の変動表示が実行されるまでの間は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて非リーチやノーマルリーチ等のスーパーリーチ以外の変動パターンの決定割合が異なってもよいし、パチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて非リーチやノーマルリーチ、スーパーリーチ等の通常の変動パターンとは異なる変動パターン（例えば、変動時間が0.1等の極端に短い変動パターンや、変動時間が10分等の極端に長い変動パターン）の決定割合が異なるようにしてもよい。

【0637】

RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、所定時間（例えば、1時間）が経過するまで、または、所定回数（例えば、100回）の変動表示が実行されるまでの特定期間は、特定の演出が実行される割合でパチンコ遊技機1に設定されている設定値を示唆するようにしてもよい。例えば、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が遊技者にとって有利な設定値であることを示唆する高設定示唆演出を実行可能とし、特定期間は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1（最も遊技者にとって有利な設定値）である場合に高設定値示唆演出が最も実行されやすく、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が3（最も遊技者にとって不利な設定値）である場合に高設定値示唆演出が最も実行されにくくすればよい。特定期間では、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が前回パチンコ遊技機1への電源供給が停止したときから変更されたか否かに応じて非リーチ、ノーマルリーチ、スーパーリーチの少なくともいずれかの変動パターンの決定割合が異なるようにしてもよい。

【0638】

パチンコ遊技機1は、大当たり遊技終了後に遊技状態を確変状態に制御可能なパチンコ遊技機として構成され、大当たり遊技中に第3カウントスイッチを遊技球が通過したことに基づいて大当たり遊技終了後の遊技状態を確変状態に制御可能としてもよい。この場合は、大当たり種別として、大当たり遊技中に第2大入賞口を開放する大当たり種別、つまり、遊技球が大当たり遊技中に第3カウントスイッチを通過可能な大当たり種別（以下、大当たりX）と、大当たり遊技中に第2大入賞口を開放しない、つまり、遊技球が大当たり遊技中に第3カウントスイッチを通過不能な大当たり種別（以下、大当たりY）を設け、これら大当たりXと大当たりYの決定割合を設定値に応じて異ならせてもよい。このようにすることで、設定されている設定値に応じて大当たり遊技終了後に遊技状態が確変状態に制御される割合を異ならせることができるので、遊技興趣を向上できる。

【0639】

変動表示結果が大当たりとなる割合や、大当たり種別の決定割合が異なることに加えて、あるいは代えて、遊技球が各入賞口に入賞した際の賞球数や、大当たり遊技中における各ラウンドにおける大入賞口への遊技球の上限入賞数を、設定されている設定値に応じて異ならせるようにしてもよい。さらに、大当たり遊技中における第1大入賞口と第2大入賞口の開放パターンを、設定されている設定値に応じて異ならせるようにしてもよい。これにより、大当たり遊技状態において付与される賞球数を、設定値に応じて異ならせることができるので、遊技興趣を向上できる。

10

20

30

40

50

【0640】

パチンコ遊技機1に可動体を設け、この可動体を変動表示中や大当たり遊技中といった遊技中に動作させる可動体演出を実行可能としてもよい。このような可動体を設ける場合は、第2大入賞口の内部における規制部材の進退動作確認などの可変入賞初期化制御を実行可能にするとともに、可動体の動作確認や可動体を初期位置に移動させる可動体初期化制御を演出制御用CPU120により実行可能とし、パチンコ遊技機1に新たな設定値が設定されるとき（例えば、パチンコ遊技機1に電源が投入されたときや、パチンコ遊技機1に新たな設定値が設定されたとき）に、可変入賞初期化制御と可動体初期化制御を実行するようにしてもよい。これにより、規制部材や可動体の動作に、新たな設定値を的確に反映させることができる。可変入賞初期化制御や可動体初期化制御は、メイン処理におけるステップS a 1 3またはステップS a 1 4の実行後に実行すればよい。例えば1回目のタイマ割込が発生したタイミングで、可変入賞初期化制御や可動体初期化制御を実行してもよい。可変入賞初期化制御と可動体初期化制御を実行可能である場合は、可変入賞初期化制御を可動体初期化制御よりも前のタイミングにて開始してもよい。あるいは、可変入賞初期化制御と可動体初期化制御を同時に開始するとともに、可変入賞初期化制御を可動体初期化制御よりも先に終了してもよい。これにより、遊技球の入賞にかかわる初期化制御を適切に行うことができる。

10

【0641】

設定されている設定値に応じてスーパーリーチ変動パターンの決定割合が異なってもよい。特定可変表示パターンは、スーパーリーチの変動パターンとは異なる変動パターンであってもよい。いずれの変動パターンを特定可変表示パターンとするかの設定は、パチンコ遊技機1の仕様に応じて任意に変更可能である。

20

【0642】

図21-23および図21-24は、錠スイッチ51と設定切替スイッチ52の設置箇所を主基板11の側方とした変形例を示している。錠スイッチ51と設定切替スイッチ52をパチンコ遊技機1の背面側に設けることによって、遊技場の係員などが遊技機用枠3を開放しなければこれら錠スイッチ51と設定切替スイッチ52を操作不能である。これに加えて、遊技機用枠3の閉鎖時に錠スイッチ51と設定切替スイッチ52をパチンコ遊技機1の背面側から被覆するセキュリティカバー500Aを設けることで、遊技機用枠3の閉鎖時におけるパチンコ遊技機1の不正な設定値の変更を防止できるようにしてもよい。

30

【0643】

セキュリティカバー500Aは、外枠1aの右側辺下部に取り付けられている。これにより、遊技機用枠3の閉鎖時には、セキュリティカバー500Aがパチンコ遊技機1の背面側から錠スイッチ51と設定切替スイッチ52に近接することによって、錠スイッチ51と設定切替スイッチ52とを操作不能とすることができる。その一方で、遊技機用枠3の開放時には、セキュリティカバー500Aが錠スイッチ51と設定切替スイッチ52とから離間することによって、錠スイッチ51と設定切替スイッチ52とを操作可能とすることができる。錠スイッチ51と設定切替スイッチ52とをパチンコ遊技機1の背面側からカバー体によって被覆するとともに、さらに遊技機用枠3の閉鎖時にパチンコ遊技機1の背面側からカバー体をセキュリティカバー500Aによってパチンコ遊技機1の背面側から被覆する（セキュリティカバー500Aによってカバー体を前方に向けて押圧する）ことにより、遊技機用枠3の閉鎖時におけるパチンコ遊技機1の不正な設定値の変更をより強力に防止できるようにしてもよい。設定切替スイッチ52がクリアスイッチAK001で代用される場合には、設定切替スイッチ52に代えて、クリアスイッチAK001をカバー体やセキュリティカバー500Aによって被覆すればよい。

40

【0644】

図21-25は、セキュリティカバーを遊技機用枠3に設けた変形例を示している。具体的には、セキュリティカバー500Bを遊技機用枠3に対して左右方向にスライド可能に設けてもよい。遊技機用枠3の閉鎖時には、セキュリティカバー500Bの右端

50

部を外枠 1 a の右側辺と遊技機用枠 3 との間で挟持し、セキュリティーカバー 5 0 0 B を錠スイッチ 5 1 と設定切替スイッチ 5 2 とを背面側から被覆している状態から移動不能とすればよい。そして、遊技機用枠 3 の開放時には、セキュリティーカバー 5 0 0 B をスライド移動させることによって錠スイッチ 5 1 と設定切替スイッチ 5 2 とを操作可能とすればよい。設定切替スイッチ 5 2 がクリアスイッチ A K 0 0 1 で代用される場合には、設定切替スイッチ 5 2 に代えて、クリアスイッチ A K 0 0 1 をセキュリティーカバー 5 0 0 B によって被覆すればよい。

【0645】

図 2 1 - 2 6 は、セキュリティーカバーを回動可能に設けた変形例を示している。具体的には、セキュリティーカバー 5 0 0 C の左端部を遊技機用枠 3 の背面側に設けられた上下方向を向く枢軸に対して回動可能に枢支してもよい。このような場合は、遊技機用枠 3 の閉鎖時に、セキュリティーカバー 5 0 0 C の右端部を外枠 1 a の右側辺と遊技機用枠 3 との間で挟持し、セキュリティーカバー 5 0 0 C を錠スイッチ 5 1 と設定切替スイッチ 5 2 とを背面側から被覆している状態から移動不能とすればよい。そして、遊技機用枠 3 の開放時には、セキュリティーカバー 5 0 0 C を図示しない枢軸周りに回動させることによって錠スイッチ 5 1 と設定切替スイッチ 5 2 とを操作可能とすればよい。設定切替スイッチ 5 2 がクリアスイッチ A K 0 0 1 で代用される場合には、設定切替スイッチ 5 2 に代えて、クリアスイッチ A K 0 0 1 をセキュリティーカバー 5 0 0 C によって被覆すればよい。

【0646】

これらのセキュリティーカバーを主基板 1 1 に重複するように設ける場合には、セキュリティーカバーを透過性を有する樹脂材等によって構成し、主基板 1 1 の実装面や封印シールの視認性を妨げないようにしてもよい。

【0647】

パチンコ遊技機 1 は、確変ループタイプや V 確変タイプなど、異なる遊技性であってもよい。確変ループタイプや V 確変タイプとする場合には、特定の大当り遊技終了後に第 1 大入賞口を開放対象とする小当りにより持ち玉を増加させることが可能な機能（いわゆる小当りタイム）を有するようにしてもよい。小当りタイムの機能を有する遊技機とする場合は、設定値に応じて大当り確率を異ならせる（例えば、設定値 1 の場合は通常状態の大当り確率を $1/200$ とするとともに確変状態の大当り確率を $1/20$ とし、設定値 2 の場合は通常状態の大当り確率を $1/300$ とするとともに確変状態の大当り確率を $1/30$ とする）ことによって、一方の設定値が設定されている場合は、初当り確率が他の設定値が設定されている場合よりも高いことにより小当りタイムに突入しやすくなるが、確変制御中に大当りとなる確率も他の設定値が設定されている場合よりも高いので、小当りタイムが終了しやすくなる。つまり、確変制御を実行可能なパチンコ遊技機に小当りタイムの機能を搭載する場合は、通常状態における大当り確率が高い設定値が設定されているほど小当りタイムに突入する確率が高い一方で小当りタイムが継続しにくく、通常状態における大当り確率が低い設定値が設定されているほど小当りタイムに突入する確率が低い一方で小当りタイムが継続しやすくなる。このため、確変ループタイプや V 確変タイプのパチンコ遊技機 1 にあっては、小当りタイムの機能を搭載することによって遊技の幅を広げることができるばかりか、大当り確率の低い設定値が設定されているパチンコ遊技機 1 であっても遊技者に対して遊技を行う意志を惹起させることができる。

【0648】

V 確変タイプのパチンコ遊技機 1 にあっては、確変制御決定用ラウンドにおける確変制御決定用大入賞口の開放パターンを長期開放パターン（遊技球が確変制御決定用大入賞口に入賞しやすい開放パターン）と短期開放パターン（遊技球が確変制御決定用大入賞口に入賞しにくい開放パターン）とから決定する場合、これら長期開放パターンと短期開放パターンをパチンコ遊技機 1 に設定されている設定値に応じて異なる割合にて決定することによって、実質的な確変突入確率（確変大当りの割合）を異ならせるようにしてもよい。

【0649】

遊技領域の所定位置（例えば、第 2 大入賞口の上方位置）に大当り種別決定用ゲートを

設けるとともに、特別図柄が大当りを示す組み合わせで導出表示された後に遊技球が大当り種別決定用ゲートを通過したタイミングにて大当り種別判定用の乱数値MR 2を抽出し、抽出したMR 2の値に基づいて決定した大当り種別に応じた大当り遊技を開始するようにしてもよい。このように大当り種別決定用ゲートを設ける場合は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて異なる割合で大当り種別を決定する（例えば、大当り種別として16ラウンド大当りと4ラウンド大当りが設けられている場合、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1である場合に、16ラウンド大当りの大当り遊技状態に制御される割合が最も高く、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が3である場合に、16ラウンド大当りの大当り遊技状態に制御される割合が最も低い）ようにしてもよい。

【0650】

錠スイッチ51や設定切替スイッチ52あるいはクリアスイッチAK001は、遊技機用枠3の前方側に設けてもよい。このように錠スイッチ51や設定切替スイッチ52あるいはクリアスイッチAK001を遊技機用枠3の前方側に設ける場合は、錠スイッチ51や設定切替スイッチ52あるいはクリアスイッチAK001を打球操作ハンドルや打球発射装置の近傍に設けることで、ガラス扉枠3aを開放しなければ操作不能なようにすればよい。

【0651】

設定されている設定値に応じて異なる割合で決定されるのは、少なくとも大当り遊技状態といった、遊技者にとって有利な有利状態に制御するか否かを決定される場合であればよく、大当り種別や変動パターンについては、設定されている設定値にかかわらず共通の割合で決定されるものであってもよい。設定されている設定値に応じて異なる割合で変動表示結果を「大当り」や「小当り」とするか否かを決定する一方で、設定されている設定値にかかわらず共通の割合で大当り種別や変動パターンを決定する場合には、設定値が変更されても変動パターンの決定割合は変更されないで、遊技者などに設定値を示唆しない、または示唆しにくくなる。設定されている設定値に応じて異なる割合で変動表示結果だけでなく変動パターンなども決定する場合には、設定値が変更されると変動パターンの決定割合も変更されるので、遊技者などに設定値を示唆できる、または示唆しやすくなる。

【0652】

以上のように、主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100では、電源投入による電力供給の開始に伴い、CPU103がメイン処理を実行することにより、錠スイッチ51やクリアスイッチAK001による動作の検出結果に応じて、設定変更状態、設定確認状態、初期化状態、停電復旧状態のいずれかに制御可能となる。設定変更状態は、設定切替スイッチ52あるいはクリアスイッチAK001の操作による設定値の変更を許可する変更許可状態である。設定確認状態は、表示モニタ29にて、設定されている設定値を確認可能な状態である。初期化状態は、設定変更状態や設定確認状態とは異なり、RAM102の記憶内容が初期化（クリア）された状態である。停電復旧状態は、RAM102の記憶内容が停電時の内容に復旧された状態である。

【0653】

図21-27は、電源投入時のスイッチ検出に応じた状態制御例を示している。電源スイッチAK002の操作に基づく電源投入により電力供給が開始されたときに、錠スイッチ51がオンであるとともに、クリアスイッチAK001がオンである場合には、メイン処理のステップSa13にて設定変更処理が実行されることで、設定変更状態の制御を行う。この場合には、メイン処理のステップSa9にてRAM102の記憶内容が初期化される。これに対し、電力供給が開始されたときに、錠スイッチ51がオンであり、クリアスイッチAK001がオフである場合には、メイン処理のステップAKS002にて設定確認処理が実行されることで、設定確認状態の制御を行う。この場合には、メイン処理のステップSa9が実行されず、ステップSa41、Sa42により、RAM102の記憶内容が停電時の内容に復旧される。電力供給が開始されたときに、錠スイッチ51がオフであり、クリアスイッチAK001がオンである場合には、メイン処理のステップSa9

にてRAM102の記憶内容が初期化されることで、初期化状態の制御を行う。この場合には、メイン処理のステップS a 1 2にて錠スイッチ51がオフであると判定されるので、ステップS a 1 3の設定変更処理が実行されない。電力供給が開始されたときに、錠スイッチ51がオフであるとともに、クリアスイッチAK001がオフである場合には、メイン処理のステップS a 4 1、S a 4 2により、RAM102の記憶内容が停電時の内容に復旧されることで、停電復旧状態の制御を行う。この場合には、メイン処理のステップAKS001にて錠スイッチ51がオフであると判定されるので、ステップAKS002の設定確認処理が実行されない。このように、電源スイッチAK002を用いた電源投入の動作に伴い、錠スイッチ51、および、クリアスイッチAK001により、遊技場の係員などによるオンとオフの切替操作や押下操作となる各種動作を検出し、それらの検出結果に応じた状態の制御を行うことができる。

10

【0654】

(上記特徴部に係る手段の説明)

上記実施例には、以下のような特徴部が含まれている。つまり、従来、設定値を設定可能なパチンコ遊技機として、例えば、特開2010-200902号公報に記載されているものがある。しかしながら、特開2010-200902号公報に記載の遊技機にあっては、設定されている設定値を表示するための専用の設定値表示手段が設けられており、遊技機のコスト増を防ぐことができないという問題があった。そこで、この問題を解決する特徴部に係る手段1の遊技機として、

遊技媒体(例えば、遊技球)を用いた遊技が可能であり、遊技者にとって有利な有利状態(例えば、大当たり遊技状態)に制御可能な遊技機(例えば、パチンコ遊技機1)であって、

20

複数の設定値のうちのいずれかの設定値(例えば、設定値1～設定値3のいずれか)に設定可能な設定手段(例えば、CPU103がS a 1 3の設定変更処理を実行する部分)と、

設定された設定値にもとづいて前記有利状態の制御を実行可能な遊技制御手段(例えば、CPU103が特別図柄プロセス処理を実行する部分)と、

遊技媒体が所定領域(例えば、一般入賞口、第1始動入賞口、第2始動入賞口、第1大入賞口、第2大入賞口など)に進入することにもとづいて遊技価値を付与する遊技価値付与手段(例えば、CPU103が大当たり開放中処理を実行する部分など)と、

30

前記遊技価値付与手段によって付与される遊技価値に関する情報を表示可能な情報表示手段(例えば、表示モニタ29など)と、

を備え、

前記情報表示手段は、前記設定手段にて設定されている設定値を表示可能である(例えば、表示モニタ29の第1表示部29Aによる表示など)

ことを特徴とする遊技機が記載されており、この手段1によれば、設定されている設定値を表示するための表示装置を個別に設ける必要がないので、遊技機のコスト増を防ぐことができる。

【0655】

上記特徴部の手段2の遊技機として、

40

前記情報表示手段は、設定値に応じた所定情報を表示可能である(例えば、表示モニタ29において連比、役比、ベースを表示可能な部分など)

ことを特徴とする手段1に記載の遊技機が記載されており、この手段2においては、遊技機の状態を把握しやすくなる。

【0656】

上記特徴部の手段3の遊技機として、

前記情報表示手段は、各設定値の所定情報を順次表示可能である(例えば、表示モニタ29は、短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2を5秒間隔で順次表示する部分など)

ことを特徴とする手段2に記載の遊技機が記載されており、この手段3においては、各

50

設定値の所定情報を把握しやすくなる。

【0657】

上記特徴部の手段4の遊技機として、

前記情報表示手段は、各設定値の所定情報を異なる表示態様により表示可能である（例えば、設定値1では、連比、役比、ベースを赤色で表示し、設定値2では、連比、役比、ベースを緑色で表示し、設定値3では、連比、役比、ベースを青色で表示する部分など）

ことを特徴とする手段2または手段3に記載の遊技機が記載されており、この手段4においては、各設定値の所定情報を把握しやすくなる。

【0658】

上記特徴部の手段5の遊技機として、

操作手段（例えば、表示切替スイッチ30など）を備え、

前記情報表示手段は、各設定値の所定情報を、前記操作手段の操作に応じて切替表示可能である（例えば、表示切替スイッチ30の操作によって、設定値1の連比、役比、ベースの表示を、設定値2の連比、役比、ベースの表示に切り替える部分や、設定値2の連比、役比、ベースの表示を、設定値3の連比、役比、ベースの表示に切り替える部分など）

ことを特徴とする手段2～手段4のいずれかに記載の遊技機が記載されており、この手段5においては、各設定値の所定情報を把握しやすくなる。

【0659】

上記特徴部の手段6の遊技機として、

前記情報表示手段は、前記設定手段によって設定されている設定値に応じた所定情報を表示する（例えば、設定されている設定値に応じた連比、役比、ベースのみを表示可能とする部分など）

ことを特徴とする手段2～手段5のいずれかに記載の遊技機が記載されており、この手段6においては、設定手段にて設定されている設定値の所定情報の確認作業を容易に行うことができる。

【0660】

上記特徴部の手段7の遊技機として、

前記遊技価値付与手段によって付与される遊技価値に関する情報を算出可能な算出手段（例えば、CPU103が6000個分の連比（%）、役比（%）、及び累計の連比（%）、役比（%）及び前回の賞球60000個に基づいて算出されたベース（ベース1（%））、直前の賞球60000個に基づいて算出されたベース（ベース2（%））を算出する部分など）を備え、

前記算出手段は、前記情報を各設定値毎に個別に算出可能であり（例えば、一般入賞賞球や第1始動口賞球、普通電役賞球、特別電役賞球、賞球合計、打込合計は、設定されている設定値に応じた記憶領域（リングバッファ）に記憶されることにより設定値ごとに個別に算出可能な部分など）、

前記情報表示手段は、設定値のうちのいずれか1の特定設定値に応じた前記情報のみを表示する（例えば、設定値1～設定値3のいずれか1の設定値に応じた連比、役比、ベースのみを表示可能とする部分など）

ことを特徴とする手段1～手段6のいずれかに記載の遊技機が記載されており、この手段7においては、情報の確認作業を容易に行うことができる。

【0661】

上記特徴部の手段8の遊技機として、

前記遊技価値付与手段によって付与される遊技価値に関する情報を算出可能な算出手段（例えば、CPU103が6000個分の連比（%）、役比（%）、及び累計の連比（%）、役比（%）及び前回の賞球60000個に基づいて算出されたベース（ベース1（%））、直前の賞球60000個に基づいて算出されたベース（ベース2（%））を算出する部分など）を備え、

前記算出手段は、各設定値に応じた前記情報である個別情報を個別に算出可能であるとともに、2以上の異なる設定値に応じた前記情報である複合情報を算出可能であって（例

10

20

30

40

50

えば、2以上の設定値において合算した連比、役比、ベースを算出する部分など）、前記情報表示手段は、前記情報と前記複合情報とを表示可能である（例えば、2以上の設定値における連比、役比、ベースを算出して表示モニタ29に表示可能とする部分など）

ことを特徴とする手段1～手段7のいずれかに記載の遊技機が記載されており、この手段8によれば、遊技機の状態を、より詳細に把握することができる。

【0662】

（他の特徴部に関する演出制御の説明）

図21-28は、上記特徴部を備える実施例において、演出制御用CPU120が実行する演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。この演出制御メイン処理は、上記実施の形態における演出制御メイン処理に代えて実行できればよい。この実施例の演出制御メイン処理において、演出制御用CPU120は、上記実施の形態と同様の初期化処理（ステップAKS011）を実行した後、上記実施の形態とは異なり、電源投入時コマンド処理（ステップAKS012）を実行する。電源投入時コマンド処理を実行した後は、上記実施の形態と同様に、タイマ割込フラグがオンとなっているか否かを判定し（ステップAKS013）、オフであれば（ステップAKS013；No）、ステップAKS013の処理を繰り返し実行して待機する。これに対し、タイマ割込フラグがオンである場合には（ステップAKS013；Yes）、タイマ割込フラグをクリアしてオフ状態とし（ステップAKS014）、コマンド解析処理（ステップAKS015）、演出制御プロセス処理（ステップAKS016）、演出用乱数更新処理（ステップAKS017）を順に実行する。

【0663】

図21-29は、電源投入時コマンド処理として、ステップAKS012にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。例えば、演出制御用CPU120は、電力供給の開始に伴い主基板11から送信された演出制御コマンドを、受信コマンドとして取得し、その内容を判定する。具体的には、受信コマンドがRAMクリア通知コマンドとなるコマンド9000Hであるか否かを判定する（ステップAKS021）。RAMクリア通知コマンドではない場合には（ステップAKS021；No）、受信コマンドが停電復旧指定コマンドとなるコマンド9200Hであるか否かを判定する（ステップAKS022）。停電復旧停止コマンドではない場合には（ステップAKS022；No）、受信コマンドが設定変更開始コマンドとなるコマンド9100Hであるか否かを判定する（ステップAKS023）。設定変更開始コマンドではない場合には（ステップAKS023；No）、受信コマンドが設定確認開始コマンドとなるコマンド9400Hであるか否かを判定する（ステップAKS024）。設定確認開始コマンドではない場合には（ステップAKS024；No）、ステップAKS021に戻り、受信コマンドを取得するまでステップAKS021～AKS024を繰り返し実行して待機する。なお、受信コマンドを取得できずに予め定められたエラー判定時間が経過した場合には、受信コマンドのエラーが発生したことを報知してもよい。

【0664】

ステップAKS023にて受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定された場合には（ステップAKS023；Yes）、遊技停止状態開始時処理を実行する（ステップAKS025）。遊技停止状態開始時処理では、パチンコ遊技機1における遊技の進行を停止させる遊技停止状態となることに対応して、遊技の進行に伴う演出制御の進行を停止させる。ステップAKS025にて実行される遊技停止状態開始時処理では、例えば、主基板11から送信される演出制御コマンドのうち、設定変更終了コマンド以外のコマンドについては、受信を無効とする設定を行うようにすればよい。これにより、例えば演出図柄の可変表示や大当り中の演出表示といった、遊技の進行に伴う各種の演出が実行されないように規制すればよい。設定変更開始コマンドを受信した場合には、設定変更状態となることに対応した遊技停止状態であるときに、遊技停止状態ではないときに実行可能な遊技の進行に伴う各種の演出が、実行されないという範囲あるいは限界としての制限が設けられる。

【0665】

ステップAKS025にて遊技停止状態開始時処理を実行した後は、設定変更報知を開始する制御を行う（ステップAKS026）。例えば、演出制御用CPU120は、設定変更報知に対応して予め用意された制御データに基づき、演出表示装置5に設定変更報知画面を表示させ、スピーカ8L、8Rから設定変更報知音声を出力させるように、制御を行えばよい。こうして設定変更報知の制御が開始された後は、設定変更を終了するかどうかを判定する（ステップAKS027）。ステップAKS027では、主基板11からの受信コマンドが設定変更終了コマンドとなるコマンド93XXHである場合に、設定変更を終了すると判定すればよい。設定変更終了コマンドの受信がなく、設定変更を終了しない場合には（ステップAKS027；No）、ステップAKS027を繰り返し実行して待機する。

10

【0666】

ステップAKS027にて設定変更を終了すると判定した場合には（ステップAKS027；Yes）、設定変更報知を終了する制御を行う（ステップAKS028）。例えば、演出制御用CPU120は、演出表示装置5における設定変更報知画面の表示を終了させ、スピーカ8L、8Rによる設定変更報知音声の出力を終了させるように、制御を行えばよい。こうして設定変更報知の制御が終了した後は、遊技停止状態終了時処理を実行する（ステップAKS029）。遊技停止状態終了時処理では、無効とされていた主基板11からのコマンド受信を有効とする設定を行うようにすればよい。これにより、例えば演出図柄の可変表示や大当り中の演出表示といった、遊技の進行に伴う各種の演出が実行可能となるように規制を解除すればよい。

20

【0667】

その後、初期化報知を実行する制御を行う（ステップAKS030）。例えば、演出制御用CPU120は、初期化報知に対応して予め用意された制御データに基づき、予め定められた初期化報知時間が経過するまでの初期化報知期間において、演出表示装置5に初期化報知画面を表示させ、スピーカ8L、8Rから初期化報知音声を出力させるように、制御を行えばよい。ステップAKS021にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定した場合にも（ステップAKS021；Yes）、ステップAKS030に進むことで、初期化報知を実行できるようにすればよい。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴いクリアスイッチAK001の押下操作となる動作が検出された場合に対応して、RAM102の記憶内容が初期化（クリア）されたことを報知できる。

30

【0668】

ステップAKS024にて受信コマンドが設定確認開始コマンドであると判定された場合には（ステップAKS024；Yes）、遊技停止状態開始時処理を実行する（ステップAKS031）。ステップAKS031にて実行される遊技停止状態開始時処理では、例えば、主基板11から送信される演出制御コマンドのうち、設定確認終了コマンド以外のコマンドについては、受信を無効とする設定を行うようにすればよい。これにより、例えば演出図柄の可変表示や大当り中の演出表示といった、遊技の進行に伴う各種の演出が実行されないように規制すればよい。設定確認開始コマンドを受信した場合には、設定確認状態となることに対応した遊技停止状態であるときに、遊技停止状態ではないときに実行可能な遊技の進行に伴う各種の演出が、実行されないという範囲あるいは限界としての制限が設けられる。

40

【0669】

ステップAKS031にて遊技停止状態開始時処理を実行した後は、設定確認報知を開始する制御を行う（ステップAKS032）。例えば、演出制御用CPU120は、設定確認報知に対応して予め用意された制御データに基づき、演出表示装置5に設定確認報知画面を表示させ、スピーカ8L、8Rから設定確認報知音声を出力させるように、制御を行えばよい。こうして設定確認報知の制御が開始された後は、設定確認を終了するかどうかを判定する（ステップAKS033）。ステップAKS033では、主基板11からの受信コマンドが設定確認終了コマンドとなるコマンド9401Hである場合に、設定確

50

認を終了すると判定すればよい。設定確認終了コマンドの受信がなく、設定確認を終了しない場合には（ステップA K S 0 3 3 ; N o）、ステップA K S 0 3 3を繰り返し実行して待機する。

【0670】

ステップA K S 0 3 3にて設定確認を終了すると判定した場合には（ステップA K S 0 3 3 ; Y e s）、設定確認報知を終了する制御を行う（ステップA K S 0 3 4）。例えば、演出制御用C P U 1 2 0は、演出表示装置5における設定確認報知画面の表示を終了させ、スピーカ8 L、8 Rによる設定確認報知音声の出力を終了させるように、制御を行えばよい。こうして、設定確認報知の制御が終了した後は、遊技停止状態終了時処理を実行する（ステップA K S 0 3 5）。これにより、例えば演出図柄の可変表示や大当り中の演出表示といった、遊技の進行に伴う各種の演出が実行可能となるように規制を解除すればよい。

10

【0671】

その後、停電復旧報知を実行する制御を行ってもよい。例えば、演出制御用C P U 1 2 0は、停電復旧報知に対応して予め用意された制御データに基づき、演出表示装置5に停電復旧報知画面を表示させ、スピーカ8 L、8 Rから停電復旧報知音声を出力させるように、制御を行ってもよい。ステップA K S 0 2 2にて受信コマンドが停電復旧指定コマンドであると判定した場合にも（ステップA K S 0 2 2 ; Y e s）、停電復旧報知を実行できるようにしてもよい。これらの場合には、電源投入による電力供給の開始に伴いクリアスイッチA K 0 0 1の押下操作となる動作が検出されない場合に対応して、R A M 1 0 2の記憶内容が停電時の内容に復旧されたことを報知できればよい。

20

【0672】

図21-30は、この実施例において、演出制御による報知や画面表示などに関し、制御の優先度を示している。パチンコ遊技機1では、電源投入による電力供給の開始に伴い、設定変更状態や設定確認状態に制御された場合に、パチンコ遊技機1における遊技の進行を停止させる遊技停止状態となる。これに対応して、演出制御用C P U 1 2 0は、電源投入時コマンド処理のステップA K S 0 2 5やステップA K S 0 3 1にて、遊技停止状態開始時処理を実行する。遊技停止状態開始時処理が実行された後は、設定変更終了コマンドや設定確認終了コマンドとは異なるコマンドの受信が無効となり、通常の演出に関する制御が実行されないように規制される。そのため、設定変更報知や設定確認報知の優先度A K P 0 1は、演出制御に関する優先度のうちで、最も高い優先度となる。例えば節電機能等設定画面などの優先度A K P 0 2は、設定変更報知や設定確認報知の優先度A K P 0 1よりも低い優先度となる。節電機能等設定画面は、パチンコ遊技機1（遊技機用枠3）の背面側に設けられた出力量切替スイッチのスイッチ位置を、特定位置として予め定められた位置とした場合に、節電機能の有無や種類、R T Cによる現在日時の設定などを可能にするために、演出表示装置5にて表示可能な画面である。磁石エラー報知などの優先度A K P 0 3は、節電機能等設定画面などの優先度A K P 0 2よりも低い優先度となるので、設定変更報知や設定確認報知の優先度A K P 0 1よりも低い優先度となる。通常時における遊技の進行に対応した通常遊技画面の優先度A K P 0 Zは、演出制御に関する優先度のうちで、最も低い優先度となるので、設定変更報知や設定確認報知の優先度A K P 0 1よりも低い優先度となる。

30

40

【0673】

このように、設定変更報知や設定確認報知の優先度A K P 0 1は、節電機能等設定画面などの優先度A K P 0 2よりも高いので、電源投入時コマンド処理のステップA K S 0 2 6により設定変更報知を開始する制御が行われた場合や、ステップA K S 0 3 2により設定確認報知を開始する制御が行われた場合には、設定変更や設定確認の終了となる前に、仮に、出力量切替スイッチのスイッチ位置が特定位置に切り替えられたとしても、出力量切替スイッチを切り替えたことによる節電機能等設定画面の表示は開始されない。こうして、設定変更報知画面や設定確認報知画面といった、パチンコ遊技機1における設定値に関する表示を、節電機能等設定画面といった、演出の出力量あるいは出力制御に関する表

50

示よりも優先して表示する。これにより、設定値に関する表示が適切に行われるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0674】

(他の特徴部における演出制御に関する変形例の説明)

図21-31は、遊技中に設定確認処理を実行可能な変形例において実行される演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。パチンコ遊技機1における設定値は、電源投入時に確認可能な形態に限定されるものではなく、設定値の確認は遊技中に実行可能であってもよい。この場合には、CPU103がメイン処理にてステップS a 16より後の処理を開始した後、遊技場の係員などにより遊技機用枠3が開放され、錠スイッチ51をオンとする切替操作が行われると、その操作が検出されたことにより、表示モニタ29では、第1表示部29Aにおいて現在のパチンコ遊技機1に設定されている設定値を表示させる。この表示は、遊技場の係員などにより設定切替スイッチ52あるいはクリアスイッチAK001が押下操作されても変更されず、現在のパチンコ遊技機1で設定されている設定値を確認するための表示となっている。遊技中に設定確認処理の実行が開始されるときには、パチンコ遊技機1において設定されている設定値を確認可能な設定確認状態となり、主基板11から演出制御基板12に対して、設定確認開始コマンドとなるコマンド9400Hが送信される。設定確認処理の実行が終了するときには、設定確認状態が終了し、主基板11から演出制御基板12に対して、設定確認終了コマンドとなるコマンド9401Hが送信される。変形例における演出制御メイン処理では、ステップAKS017にて演出用乱数更新処理を実行した後に、進行中設定確認処理(ステップAKS01A)を実行してから、ステップAKS013に戻る。

【0675】

図21-32は、進行中設定確認処理として、ステップAKS01Aにて実行される処理の一例を示すフローチャートである。例えば、演出制御用CPU120は、表示モニタ29にて、設定されている設定値を確認可能に表示している設定確認中であるか否かを判定する(ステップAKS051)。ステップAKS051では、例えばステップAKS058における制御が行われた後、ステップAKS060における制御が行われるまでの期間において、設定確認中であると判定すればよい。設定確認中ではない場合には(ステップAKS051; No)、主基板11から送信された設定確認開始コマンドの受信があったか否かを判定する(ステップAKS052)。このとき、設定確認開始コマンドを受信した場合には(ステップAKS052; Yes)、パチンコ遊技機1における遊技の進行中であるか否かを判定する(ステップAKS053)。ステップAKS053では、主基板11から送信された客待ちデモ指定コマンドを受信した後、第1変動開始コマンドや第2変動開始コマンドを受信するまでの期間において、遊技の進行中ではないと判定し、それ以外の期間では、遊技の進行中であると判定すればよい。

【0676】

ステップAKS053にて遊技の進行中であると判定した場合には(ステップAKS053; Yes)、進行中設定確認フラグをオン状態にセットする(ステップAKS054)。進行中設定確認フラグは、遊技の進行中に設定確認開始コマンドを受信したことを示すフラグである。ステップAKS052にて設定確認開始コマンドを受信していないと判定した場合や(ステップAKS052; No)、ステップAKS054にて進行中設定確認フラグをオンとした後には、主基板11から送信された客待ちデモ指定コマンドの受信があったか否かを判定する(ステップAKS055)。このとき、客待ちデモ指定コマンドの受信がなければ(ステップAKS055; No)、進行中設定確認処理を終了する。

【0677】

ステップAKS055にて客待ちデモ指定コマンドを受信したと判定された場合には(ステップAKS055; Yes)、進行中設定確認フラグがオンであるか否かを判定する(ステップAKS056)。このとき、進行中設定確認フラグがオフであれば(ステップAKS056; No)、進行中設定確認処理を終了する。これに対し、進行中設定確認フラグがオンである場合には(ステップAKS056; Yes)、進行中設定確認フラグを

クリアしてオフ状態としてから（ステップA K S 0 5 7）、設定確認報知を開始する制御を行う（ステップA K S 0 5 8）。ステップA K S 0 5 3にて遊技の進行中ではないと判定された場合にも（ステップA K S 0 5 3；N o）、ステップA K S 0 5 8に進み、設定確認報知を開始する制御を行う。これにより、遊技の進行中に設定確認開始コマンドを受信した場合には、客待ちデモ指定コマンドを受信してから、設定確認報知を開始することができる。

【0678】

ステップA K S 0 5 1にて設定確認中であると判定された場合には（ステップA K S 0 5 1；Y e s）、設定確認終了コマンドを受信したか否かを判定する（ステップA K S 0 5 9）。このとき、設定確認終了コマンドを受信していなければ（ステップA K S 0 5 9；N o）、進行中設定確認処理を終了する。これに対し、設定確認終了コマンドを受信したと判定された場合には（ステップA K S 0 5 9；Y e s）、設定確認報知を終了する制御を行う（ステップA K S 0 6 0）。

10

【0679】

このような進行中設定確認処理が実行されることにより、遊技中に設定確認処理が実行されて設定されている設定値が表示モニタ29に表示される場合に、演出制御基板12の側では、主基板11から送信された客待ちデモ表示コマンドを受信してから、設定確認報知画面の表示や設定確認報知音声の出力を開始することができる。これにより、遊技の進行に伴う演出の実行中に設定値が確認可能となった場合に、実行中の演出が中止されないようにして、設定値の確認による不都合を防止できる。

20

【0680】

なお、主基板11の側において、遊技中に設定確認処理を実行する場合には、客待ちデモ指定コマンドを送信可能になってから、設定確認状態の制御を行うようにしてもよい。この場合には、例えば、客待ちデモ指定コマンドとともに設定確認開始コマンドを、演出制御基板12に対して送信してもよい。あるいは、客待ちデモ指定コマンドとともに設定確認開始コマンドを送信するものに代えて、遊技中の設定確認に対応する専用のコマンドを送信して、遊技の進行が終了した後に、設定されている設定値を確認可能な状態の制御を行うようにしてもよい。

【0681】

あるいは、設定されている設定値は、パチンコ遊技機1の背面側に設けられた表示モニタ29にて表示され、演出表示装置5では設定値に対応する表示を行う必要がない。そこで、遊技中に設定確認処理を実行する場合には、主基板11から演出制御基板12に対して設定確認開始コマンドなどを送信せずに、表示モニタ29にて設定値を確認可能な表示を開始する制御を行うようにしてもよい。この場合には、演出制御基板12において、遊技の進行に伴う演出の実行が継続するように、演出制御用C P U 1 2 0などによる制御を行うようにしてもよい。

30

【0682】

設定変更報知や設定確認報知に加えて、設定変更終了報知や設定確認終了報知を実行可能にしてもよい。例えば、電源投入時コマンド処理では、ステップA K S 0 2 8での制御により、設定変更報知が終了するとともに、設定変更終了報知期間の開始に伴い設定変更終了報知が開始され、設定変更終了報知期間の終了に伴い設定変更終了報知を終了させてもよい。また、電源投入時コマンド処理では、ステップA K S 0 3 4での制御により、設定確認報知が終了するとともに、設定確認終了報知期間の開始に伴い設定確認終了報知が開始され、設定確認終了報知期間の終了に伴い設定確認終了報知を終了させてもよい。

40

【0683】

設定変更報知では、演出表示装置5に設定変更報知画面を表示することなく、スピーカ8 L、8 Rから設定変更報知音声を出力させるように、制御が行われてもよい。設定確認報知では、演出表示装置5に設定確認報知画面を表示することなく、スピーカ8 L、8 Rから設定確認報知音声を出力させるように、制御が行われてもよい。あるいは、設定変更報知では、設定変更報知画面の表示や設定変更報知音声の出力に加え、または一部もしくは

50

は全部に代えて、遊技効果ランプ 9 の一部もしくは全部の発光部材、または遊技効果ランプ 9 とは別個に設けられた報知ランプといった任意の発光部材を、予め定められた設定変更報知態様で発光させる制御が行われてもよい。設定確認報知では、設定確認報知画面の表示や設定確認報知音声の出力に加え、または一部もしくは全部に代えて、遊技効果ランプ 9 の一部もしくは全部に代えて、遊技効果ランプ 9 の一部もしくは全部の発光部材、または遊技効果ランプ 9 とは別個に設けられた報知ランプといった任意の発光部材を、予め定められた設定確認報知態様で発光させる制御が行われてもよい。このように、設定変更報知は、任意の演出装置あるいは演出装置とは異なる報知装置を用いて、設定値が変更可能な状態であることの報知を行うことができればよい。設定確認報知は、任意の演出装置あるいは演出装置とは異なる報知装置を用いて、設定値が確認可能な状態であることの報知を行うことができればよい。なお、設定変更報知や設定確認報知が行われる形態に限定されるものではなく、設定変更報知や設定確認報知の一方または双方が行われないものであってもよい。

10

【0684】

設定変更終了コマンドとなるコマンド 9 3 X X H と、設定確認終了コマンドとなる 9 4 0 1 H とが用意される形態に限定されるものではなく、設定変更終了コマンドおよび設定確認終了コマンドとして、共通の設定終了時コマンドが用いられるものであってもよい。この場合、電源投入時コマンド処理では、ステップ A K S 0 2 7 にて、設定終了時コマンドを受信したときに設定変更を終了すると判定し、ステップ A K S 0 3 3 にて、設定終了時コマンドを受信したときに設定確認を終了すると判定すればよい。

20

【0685】

(特徴部 7 1 A K に関する説明)

図 2 1 - 3 3 は、この実施例の特徴部 7 1 A K に関し、パチンコ遊技機 1 の背面側に設けられた出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 の構成例を示している。出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 は、パチンコ遊技機 1 の背面側において、演出制御用 C P U 1 2 0 が搭載された演出制御基板 1 2 の右上部分に設けられていればよい。出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 は、演出制御基板 1 2 を収容する基板ケースに形成された開口部を介して外部から操作可能となっている。出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 は、所定の演出出力などを初期設定するためのスイッチ切替操作といった、所定の動作を検出可能な回転式のスイッチであればよい。出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 により初期設定される演出出力には、少なくとも、スピーカ 8 L、8 R の音量が含まれていればよい。また、遊技効果ランプ 9 などの発光部材の発光量が含まれていてもよい。例えば遊技場の係員が遊技機用枠 3 を開放したときに、出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 を操作可能な状態になる。このように、出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 は、遊技機用枠 3 を開放することが、演出出力の初期設定を変更可能にする条件となっている。出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 は、演出出力を複数段階のいずれかに初期設定する。また、出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 のスイッチ位置に応じて、スティックコントローラ 3 1 A などを用いて遊技者による演出出力の変更調整を許可するか禁止するかが切り替えられる。演出制御用 C P U 1 2 0 は、こうした演出出力の設定を示すデータを、出力設定情報として R A M 1 2 2 の所定領域などに記憶させればよい。

30

40

【0686】

図 2 1 - 3 3 (B) に示すように、出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 は、「0」から「F」までの計 1 6 個のチャンネルを備えており、ツマミ 7 1 A K 0 0 2 を回動操作する動作により、チャンネルに対応するスイッチ位置を切り替えることができる。この実施例では、出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 のスイッチ位置が「0」～「F」のいずれであるかに応じて、音量が 6 段階のいずれかに初期設定されるとともに、遊技者による音量調整を許可するか否かが切り替えられる。出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 は直接または所定回路を介して演出制御用 C P U 1 2 0 に接続され、出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 のスイッチ位置を示す切替スイッチ信号が演出制御用 C P U 1 2 0 に入力されることにより、チャンネルに対応するスイッチ位置を特定することができる。

50

【0687】

図21-34は、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置に応じた演出出力などの初期設定制御71AKC01を示している。この初期設定制御71AKC01において、例えば、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置が「5」である場合には、スピーカ8L、8Rから出力される音声の音量について、「音量6（最大）」に応じて上限音量が「97.0」に初期設定され、遊技者による音量設定（調整）が可能（許可）に制御される。なお、スピーカ8L、8Rから出力される音声の音量に限定されず、例えば遊技効果ランプ9の光量といった、任意の演出装置の出力量を出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置に応じて初期設定できればよい。出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置が「6」～「F」のいずれかである場合には、遊技者による音量設定（調整）が不可（禁止）となるので、初期設定された演出出力により演出が実行される。また、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置が「F」である場合に対応して、演出表示装置5において節電機能等設定画面が表示可能となり、節電機能の有無や種類（節電モード）、および、RTC126により現在日時を示す値の設定（変更）を行うことができる。

10

【0688】

このように、出力量切替スイッチ71AK001は、演出制御用CPU120が搭載された演出制御基板12に設けられ、演出出力の調整に関する動作をツマミ71AK002により受け付けて、スイッチ位置を切り替える動作の検出に基づいて、演出の出力量を複数段階のいずれかに制御することを可能にする。演出制御用CPU120では、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を特定可能なスイッチ信号に基づいて、演出の出力量を複数段階のいずれかに制御するための処理が実行される。

20

【0689】

図21-35は、特徴部71AKに関して、設定変更報知、設定確認報知、初期化報知の実行例を示している。この実行例では、設定変更報知として、図21-35（A）に示すように、設定変更報知画面71AKD01が演出表示装置5に表示され、設定変更報知音声71AKE01がスピーカ8L、8Rから出力される。また、設定確認報知として、図21-35（B）に示すように、設定確認報知画面71AKD02が演出表示装置5に表示され、設定確認報知音声71AKE02がスピーカ8L、8Rから出力される。初期化報知として、図21-35（C）に示すように、初期化報知画面71AKD03が演出表示装置5に表示され、初期化報知音声71AKE03がスピーカ8L、8Rから出力される。特徴部71AKでは、上記実施例と同様に、演出制御メイン処理のステップAKS012にて電源投入時コマンド処理が実行される。この電源投入時コマンド処理では、ステップAKS026での制御により、設定変更報知が開始され、ステップAKS028での制御により、設定変更報知が終了する。また、ステップAKS032での制御により、設定確認報知が開始され、ステップAKS034での制御により、設定確認報知が終了する。さらに、ステップAKS030での制御により、初期化報知期間の開始に伴い初期化報知が開始され、初期化報知期間の終了に伴い初期化報知が終了する。なお、設定変更報知画面71AKD01、設定確認報知画面71AKD02、初期化報知画面71AKD03は、演出表示装置5における表示領域の全体に表示される態様に限定されず、演出表示装置5における表示領域の一部に表示される態様であってもよい。

30

40

【0690】

特徴部71AKは、出力量切替スイッチ71AK001を備えて構成され、音量などの演出出力を、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置に対応した複数段階のいずれかとする初期設定ができる。その一方で、設定変更報知、設定確認報知、初期化報知における音声出力は、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置に対応した音量の初期設定にかかわらず、パチンコ遊技機1において出力可能な最大音量である「音量6（最大）」（上限音量「97.0」）にて、出力すればよい。例えば、設定変更報知では、「設定変更中です」というメッセージが報知される設定変更報知音声71AKE01を、スピーカ8L、8Rから最大音量で出力する。設定確認報知では、「設定確認中です」

50

というメッセージが報知される設定確認報知音声 7 1 A K E 0 2 を、スピーカ 8 L、8 R から最大音量で出力する。初期化報知では、「初期化されました」というメッセージが報知される初期化報知音声 7 1 A K E 0 3 を、スピーカ 8 L、8 R から最大音量で出力する。

【0691】

このように、出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 におけるスイッチ位置を切り替える動作に応じて、演出出力の調整に関する動作を検出し、その検出に基づいて演出の出力量を複数段階のいずれかに制御する一方で、パチンコ遊技機 1 における設定値の変更に関する報知となる設定変更報知では、設定変更報知音声 7 1 A K E 0 1 の出力として、演出出力の調整に関する動作の検出にかかわらず共通の出力量となる最大音量により報知を行う。設定確認報知や初期化報知でも、設定確認報知音声 7 1 A K E 0 2 や初期化報知音声 7 1 A K E 0 3 の出力として、演出出力の調整に関する動作の検出にかかわらず共通の出力量となる最大音量により報知を行えばよい。このように、共通の出力量により報知を行うので、設定値の変更や確認、R A M 1 0 2 における記憶内容の初期化（クリア）に伴い、不正行為が行われることを防止できる。

【0692】

図 2 1 - 3 6 は、特徴部 7 1 A K に関して、遊技者音量調整や節電機能設定などが行われる場合の表示例を示している。例えば、出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 のスイッチ位置が「0」であり、未だ遊技者による演出出力の調整が行われていない場合には、音量設定が「音量 1（最小）」である。図 2 1 - 3 6（A）は、この場合に対応して演出表示装置 5 に表示される遊技者音量調整画面 7 1 A K D 1 1 を示している。遊技者音量調整画面 7 1 A K D 1 1 は、6 段階の音量に対応した 6 個のメモリを示す演出画像を含み、現在の音量に応じて、各メモリの表示色を異ならせる。例えば、音量設定が「音量 1（最小）」であるときには、1 つのメモリを第 1 表示色（例えば赤色）で表示する一方、残った 5 つのメモリを第 2 表示色（例えば白色）で表示する。このとき、スティックコントローラ 3 1 A の操作桿（レバー）を右に傾倒操作する動作が検出されたことに対応して、音量設定を「音量 2」に変更するとともに、遊技者音量調整画面 7 1 A K D 1 1 において第 1 表示色のメモリを 1 つ増加させる。このように、スティックコントローラ 3 1 A の操作桿（レバー）を第 1 方向（右方向など）に傾倒操作する第 1 動作が検出されるごとに、演出出力の設定が最大に達するまで、複数段階の演出出力量を 1 段階ずつ増加させるように変更すればよい。一方、スティックコントローラ 3 1 A の操作桿（レバー）を第 2 方向（左方向）に傾倒操作する第 2 動作が検出されるごとに、演出出力の設定が最小に達するまで、複数段階の演出出力量を 1 段階ずつ減少させるように変更すればよい。

【0693】

出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 のスイッチ位置が「F」である場合には、節電機能や R T C 1 2 6 の値を設定可能になる。図 2 1 - 3 6（B）は、この場合に対応して演出表示装置 5 に表示される節電機能等設定画面 7 1 A K D 1 2 を示している。節電機能等設定画面 7 1 A K D 1 2 は、節電機能設定を行うための表示エリアと、R T C 1 2 6 による現在日時（現在時刻）の値を設定するための表示エリアとを含んでいる。節電機能等設定画面 7 1 A K D 1 2 が表示されたときに、遊技場の係員などがスティックコントローラ 3 1 A やプッシュボタン 3 1 B を操作する動作が検出されたことに応じて、節電機能の有無や種類（節電モード）、および、R T C 1 2 6 による現在日時を示す値の設定（変更）を実行する。演出制御用 C P U 1 2 0 では、節電機能等設定画面 7 1 A K D 1 2 の表示や、各設定を変更する動作の検出に基づいて、節電機能などを設定（変更）するための処理が実行される。例えば節電機能等設定画面 7 1 A K D 1 2 の表示において「節電モード A」を選択することが設定された場合には、デモ画面表示が行われる客待ちデモ中であるときに限り、節電機能を発動させる制御が行われるものであればよい。また、節電機能等設定画面 7 1 A K D 1 2 の表示において「節電モード B」を選択することが設定された場合には、客待ちデモ中に加えて変動表示の実行中にも、例えば遊技効果ランプ 9 の輝度（発光量）を低下させるなど、節電機能を発動させる制御が行われるものであればよい。

【0694】

図21-37は、特徴部71AKに関して、演出制御用CPU120により実行される演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。この演出制御メイン処理は、上記実施例における演出制御メイン処理に代えて実行できればよい。特徴部71AKの演出制御メイン処理において、演出制御用CPU120は、上記実施例と同様に初期化处理（ステップ71AKS011）、電源投入時コマンド処理（ステップ71AKS012）を実行する。ステップ71AKS011の初期化处理は、上記実施例におけるステップAKS011の初期化处理に対応する処理であり、ステップ71AKS012の電源投入時コマンド処理は、上記実施例におけるステップAKS012の電源投入時処理に対応する処理であればよい。ステップ71AKS012の電源投入時コマンド処理を実行した後、上記実施例とは異なり、開始時出力切替処理（ステップAKS013）を実行する。その後には、上記実施例と同様に、タイマ割込フラグがオンとなっているか否かを判定し（ステップ71AKS014）、オフであれば（ステップ71AKS014；No）、ステップ71AKS014の処理を繰り返し実行して待機する。これに対し、タイマ割込フラグがオンである場合には（ステップ71AKS014；Yes）、タイマ割込フラグをクリアしてオフ状態とし（ステップ71AKS015）、コマンド解析処理（ステップ71AKS016）、演出制御プロセス処理（ステップ71AKS017）、演出用乱数更新処理（ステップ71AKS018）を順に実行する。さらに、特徴部71AKの演出制御メイン処理では、進行中出力変更処理（ステップ71AKS019）を実行してから、ステップ71AKS014に戻る。

10

20

【0695】

図21-38は、開始時出力切替処理として、ステップ71AKS013にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。開始時出力切替処理において、演出制御用CPU120は、出力量切替スイッチ71AK001からの切替スイッチ信号に基づいて、スイッチ位置を特定する（ステップ71AKS031）。このときには、特定されたスイッチ位置が「F」であるか否かを判定する（ステップ71AKS032）。そして、スイッチ位置が「F」以外である場合には（ステップ71AKS032；No）、スイッチ位置に応じた演出出力の調整により、出力量の初期設定を切り替える制御を行い（ステップ71AKS033）、開始時出力切替処理を終了する。ステップ71AKS033では、例えばチャンネルに対応するスイッチ位置を特定可能に示す初期出力設定データを、RAM122の所定領域に記憶させればよい。

30

【0696】

ステップ71AKS032にてスイッチ位置が「F」と判定された場合には（ステップ71AKS032；Yes）、節電機能などの設定を開始する制御を行う（ステップ71AKS034）。例えば、演出制御用CPU120は、節電機能などの設定に対応して予め用意された制御データに基づき、演出表示装置5に節電機能等設定画面71AKD12を表示させるように、制御を行えばよい。こうして節電機能などを設定する制御が開始された後には、設定が完了したか否かを判定する（ステップ71AKS035）。ステップ71AKS035では、節電機能等設定画面71AKD12において、「終了」を示す項目の選択が確定した場合に、設定が完了したと判定すればよい。この設定が完了していない場合には（ステップ71AKS035；No）、節電機能などの設定中に対応する制御を行い（ステップ71AKS036）、ステップ71AKS035に戻る。ステップ71AKS036では、スティックコントローラ31Aの操作桿（レバー）を傾倒操作する動作の検出や、プッシュボタン31Bを押下操作する動作の検出などに応じて、節電機能等設定画面71AKD12における表示を変更可能となるように、制御を行えばよい。

40

【0697】

ステップ71AKS035にて設定が完了したと判定された場合には（ステップ71AKS035；Yes）、節電機能などの設定を終了する制御を行い（ステップ71AKS037）、開始時出力切替処理を終了する。ステップ71AKS037において、例えば

50

、演出制御用CPU120は、節電機能の有無や種類（節電モード）を示す節電機能データを、RAM122の所定領域などに記憶させる。また、RTC126の値を変更する設定が行われた場合には、変更後の値を示すデータがRTC126にセットされる。

【0698】

図21-39は、進行中出力変更処理として、ステップ71AKS019にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。進行中出力変更処理において、演出制御用CPU120は、切替許可条件が成立したか否かを判定する（ステップ71AKS051）。切替許可条件は、パチンコ遊技機1における遊技制御の進行に伴う演出制御の実行中に、出力量切替スイッチ71AK001を用いた演出出力の調整を許可する条件として、予め定められていればよい。例えば、遊技機用枠3が開放された場合に、切替許可条件が成立するようにしてもよい。このような切替許可条件が成立した場合には（ステップ71AKS051；Yes）、出力量切替スイッチ71AK001からの切替スイッチ信号に基づいて、スイッチ位置を検出する（ステップ71AKS052）。この検出結果により、スイッチ位置の変更があったか否かを判定する（ステップ71AKS053）。例えば、演出制御用CPU120は、RAM122の所定領域に記憶されている初期出力設定データに示されるスイッチ位置と、切替スイッチ信号から特定されるスイッチ位置とを比較して、比較結果が合致しない場合に、スイッチ位置の変更があったと判定すればよい。

【0699】

ステップ71AKS053にてスイッチ位置の変更があったと判定された場合には（ステップ71AKS053；Yes）、変更後のスイッチ位置が「F」であるか否かを判定する（ステップ71AKS054）。このとき、スイッチ位置が「F」以外である場合には（ステップ71AKS054；No）、スイッチ位置に応じた演出出力の調整により、出力量の初期設定を切り替える制御を行う（ステップ71AKS055）。ステップ71AKS055では、例えばチャンネルに対応するスイッチ位置を特定可能に示す初期出力設定データを、RAM122の所定領域に記憶（更新）させればよい。

【0700】

ステップ71AKS054にてスイッチ位置が「F」であると判定された場合には（ステップ71AKS054；Yes）、節電機能などの設定を開始する制御を行う（ステップ71AKS056）。この場合には、開始時出力切換処理のステップ71AKS034～71AKS037と同様の処理を実行すればよい。すなわち、設定が完了したか否かを判定し（ステップ71AKS057）、完了していない場合には（ステップ71AKS057；No）、節電機能などの設定中に対応する制御を行い（ステップ71AKS058）、ステップ71AKS057に戻る。その後、設定が完了した場合には（ステップ71AKS057；Yes）、節電機能などの設定を終了する制御を行う（ステップ71AKS058）。

【0701】

ステップ71AKS051にて切替許可条件が成立していない場合や（ステップ71AKS051；No）、ステップ71AKS053にてスイッチ位置の変更がない場合（ステップ71AKS053；No）、あるいは、ステップ71AKS055やステップ71AKS059にて制御を行った後には、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置に基づき、遊技者による音量などの調整が可能であるか否かを判定する（ステップ71AKS060）。ステップ71AKS060では、出力量切替スイッチ71AK001における現在のスイッチ位置が「0」～「5」のいずれかである場合に、遊技者による音量設定（調整）が可能（許可）であることに対応して、遊技者による調整が可能であると判定すればよい。遊技者による調整が不可（禁止）である場合には（ステップ71AKS060；No）、進行中出力変更処理を終了する。なお、ステップ71AKS051にて切替許可条件が成立したか否かを判定するものに限定されず、ステップ71AKS051による判定を行うことなく、ステップ71AKS052によるスイッチ位置の検出が行われるものであってもよい。

【0702】

10

20

30

40

50

ステップ71AKS060にて遊技者による調整が可能であると判定された場合には（ステップ71AKS060；Yes）、演出の出力量を変更させる動作の検出があったか否かを判定する（ステップ71AKS061）。ステップ71AKS061では、例えば遊技者音量調整画面71AKD11を表示しているときに、スティックコントローラ31Aやプッシュボタン31Bを操作する動作の検出結果に基づいて、複数段階の演出出力量を変更させる動作の検出があったか否かを判定すればよい。このような動作の検出がない場合には（ステップ71AKS061；No）、進行中出力変更処理を終了する。これに対し、動作の検出があったと判定された場合には（ステップ71AKS061；Yes）、検出結果に応じた出力量を調整する制御を行い（ステップ71AKS062）、進行中出力変更処理を終了する。ステップ71AKS062では、遊技者音量調整画面71AKD11において、プッシュボタン31Bを押下操作する動作が検出された場合に、変更後の音量設定などを示す更新出力設定データを、RAM122の所定領域に記憶（更新）させればよい。

【0703】

（特徴部71AKに関する変形例の説明）

図21-40は、特徴部71AKの変形例において、演出制御による報知や画面表示などに関し、制御の優先度を示している。パチンコ遊技機1では、電源投入による電力供給の開始に伴い、設定変更状態に制御された場合に、パチンコ遊技機1における遊技の進行を停止させる遊技停止状態となる。これに対し、電源投入による電力供給の開始に伴い、設定確認状態に制御された場合には、遊技停止状態とならないように制御してもよい。これに対応して、演出制御用CPU120は、電源投入時コマンド処理のステップAKS031における遊技停止状態開始時処理を実行しないようにして、設定確認状態である場合には、例えば出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を特定可能な切替スイッチ信号の入力を有効にしてもよい。この場合に、設定変更報知の優先度71AKP11は、演出制御に関する優先度のうちで、最も高い優先度となり、節電機能等設定画面などの優先度71AKP12よりも高い優先度となる。これに対し、設定確認報知の優先度71AKP13は、節電機能等設定画面などの優先度71AKP12よりも低い優先度となる。通常時における遊技の進行に対応した通常遊技画面の優先度71AKP1Zは、演出制御に関する優先度のうちで、最も低い優先度となるので、設定変更報知の優先度AKP11や節電機能等設定画面などの優先度71AKP12、さらには設定確認報知の優先度AKP13よりも、低い優先度となる。

【0704】

このように、設定変更報知の優先度71AKP11は、節電機能等設定画面などの優先度71AKP12よりも高いので、電源投入時コマンド処理のステップAKS026により設定変更報知を開始する制御が行われた場合には、設定変更の終了となる前に、仮に、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置が「F」の特定位置に切り替えられたとしても、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を切り替える動作の検出にかかわらず節電機能等設定画面71AKD12の表示は開始されない。これに対し、設定確認報知の優先度71AKP13は、節電機能等設定画面などの優先度71AKP12よりも低いので、電源投入時コマンド処理のステップAKS032により設定確認報知を開始する制御が行われた場合には、設定確認の終了となる前に、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置が「F」の特定位置に切り替えられたときには、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を切り替える動作の検出に基づいて、節電機能等設定画面71AKD12の表示が開始されてもよい。このように、設定値の変更を行うときには演出の出力量の初期設定を切り替える制御が実行されない一方で、設定値の確認を行うときには演出の出力量の初期設定を切り替える制御が実行されてもよい。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、設定値の確認とともに演出の出力量の段階を適切に制御することができる。

【0705】

ステップ71AKS012にて電源投入時コマンド処理を実行してからステップ71A

K S 0 1 3にて開始時出力切替処理を実行することで、設定変更状態であるときには出力量切替スイッチ7 1 A K 0 0 1のスイッチ位置を変更する動作の検出にかかわらず演出の出力量の制御を実行しないように制限する形態に限定されるものではなく、電源投入時コマンド処理にて出力量切替スイッチ7 1 A K 0 0 1のスイッチ位置を変更する動作が検出されたか否かを判定可能とし、その動作が検出された場合には、スイッチ位置を特定可能に示す情報を記憶しておき、設定変更状態が終了してから、記憶情報に基づいて演出の出力量の制御を実行するものであってもよい。例えば、上記実施例の電源投入時コマンド処理において、ステップA K S 0 2 7により設定変更の終了ではないと判定された場合に、出力量切替スイッチ7 1 A K 0 0 1からの切替スイッチ信号に基づいて、スイッチ位置を特定する。このときには、スイッチ位置の特定結果を示す情報を、R A M 1 2 2の所定領域に記憶させておく。その後、開始時出力切替処理のステップ7 1 A K S 0 3 1では、スイッチ位置の特定結果を示す情報に基づいて、出力量切替スイッチ7 1 A K 0 0 1のスイッチ位置を特定すればよい。この場合にも、設定変更状態であるときには、出力量切替スイッチ7 1 A K 0 0 1のスイッチ位置を変更する動作の検出にかかわらず演出の出力量の制御を実行しないように制限できる。

10

【0706】

あるいは、設定変更状態であるときには、例えば出力量切替スイッチ7 1 A K 0 0 1のスイッチ位置が「F」であるか否かといった、特定のスイッチ位置であるか否かの判定を行い、特定のスイッチ位置である場合には、節電機能等設定画面7 1 A K D 1 2を演出表示装置5に表示する制御よりも、設定変更報知画面7 1 A K D 0 1を演出表示装置5に表示する制御を優先して行うようにしてもよい。この場合には、電源投入時コマンド処理のステップA K S 0 2 8における制御により、設定変更報知が終了すると、優先して行っていた設定変更報知画面7 1 A K D 0 1を演出表示装置5に表示する制御も終了するので、演出表示装置5において節電機能等設定画面7 1 A K D 1 2の表示を開始させることができる。

20

【0707】

スティックコントローラ3 1 Aやプッシュボタン3 1 Bとは異なり、遊技者が所定操作する動作を検出可能な検出装置を設け、この検出装置による動作の検出に基づいて、パチンコ遊技機1における設定値を変更可能にしてもよい。例えば錠スイッチ5 1やクリアスイッチA K 0 0 1とともに、あるいは代えて、遊技者による切替操作や押下操作などの動作を検出可能な設定値変更スイッチを設け、設定値変更スイッチにより遊技者の動作が検出されたことに基づいて、クリアスイッチA K 0 0 1により動作が検出されたときと同様に、パチンコ遊技機1における設定値を変更するものであってもよい。

30

【0708】

以上のように、特徴部7 1 A Kの演出制御メイン処理では、ステップ7 1 A K S 0 1 2にて、上記実施例と同様に電源投入時コマンド処理を実行した後、ステップ7 1 A K S 0 1 3にて開始時出力切替処理を実行する。電源投入時コマンド処理では、例えばステップA K S 0 2 5やステップA K S 0 3 1にて、遊技停止状態開始時処理を実行する。遊技停止状態開始時処理が実行された後には、設定変更終了コマンドや設定確認終了コマンドとは異なるコマンドの受信が無効となり、通常の演出に関する制御が実行されないように規制される。この場合には、出力量切替スイッチ7 1 A K 0 0 1のスイッチ位置を特定可能な切替スイッチ信号の入力も無効となり、スイッチ位置に応じた演出出力の調整や節電機能等設定画面7 1 A K D 1 2の表示が行われないように、出力量切替スイッチ7 1 A K 0 0 1のスイッチ位置を変更する動作の検出に基づく制御が制限（禁止）される。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、パチンコ遊技機1における設定値の変更を許可する設定変更状態に制御された場合には、演出の出力量の調整に関する動作の検出にかかわらず、演出の出力量の初期設定を切り替える制御の実行が制限（禁止）される。これにより、設定値を変更するための制御が、演出の出力量の初期設定を切り替える制御よりも優先されるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

40

50

【0709】

演出制御用CPU120は、パチンコ遊技機1における遊技の進行に応じた演出の実行を制御する。演出制御用CPU120は、演出制御基板に備えられている。出力量切替スイッチ71AK001は、演出制御用CPU120が搭載された演出制御基板12に設けられ、演出の出力量の調整に関する動作をツマミ71AK002により受け付ける。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、演出の出力量の初期設定を適切に切り替えることができる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

【0710】

特徴部71AKの演出制御メイン処理では、ステップ71AKS012にて電源投入時コマンド処理を実行した後に、ステップ71AKS013にて開始時出力切替処理を実行する。ステップ71AKS013の開始時出力切替処理では、ステップ71AKS033にて、スイッチ位置に応じた演出出力の初期設定を切り替える制御を行い、または、ステップ71AKS034～71AKS037にて、節電機能などを設定する制御を行う。こうして、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御された場合には、設定変更状態が終了する前に出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を変更する動作の検出があると、設定変更状態が終了してから、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を変更する動作の検出に基づいた演出の出力量の段階に制御する。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、演出の出力量の初期設定を適切に切り替えることができる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

【0711】

演出表示装置5の表示画面やスピーカ8L、8Rからの音声出力により設定変更報知を行う場合に、設定変更報知音声71AKE01は、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置に対応した音量の初期設定にかかわらず、パチンコ遊技機1において出力可能な最大音量により出力される。このように、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を変更する動作の検出にかかわらず共通の出力量により報知を行うことにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、不正行為が行われることも防止できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

【0712】

(特徴部71AKに係る手段の説明)

以上の特徴部71AKに関して、従来、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定に変更可能な遊技機として、例えば特開2010-200902号公報に記載されているものがある。また、演出に関する設定を変更可能な遊技機として、例えば特開2015-29614号公報に記載されているものがある。しかしながら、特開2010-200902号公報や特開2015-29614号公報に記載の技術では、有利度が異なる複数の設定を変更中に、演出の設定を変更するときの制御について、考慮されていなかった。そのため、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定値に変更する作業に支障が生じるおそれがあった。そこで、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる遊技機を提供するための特徴部71AKに係る手段1の遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機1など）であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値1～3のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップSa13の設定変更処理を実行するCPU103など）と、

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップS25の特別図柄プロセス処理を実行するCPU103など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップSa6、Sa12を実行するCPU103など）と、

演出の出力量の調整に関する動作を検出可能な演出調整用検出手段（例えば出力量切替

10

20

30

40

50

スイッチ 7 1 A K 0 0 1 など) と、

前記演出調整用検出手段による動作の検出にもとづいて演出の出力量を複数段階のいずれかに制御する出力量制御手段 (例えばステップ 7 1 A K S 0 1 3 の開始時出力切替処理やステップ 7 1 A K S 0 1 9 の進行中出力変更処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など) と、

前記変更許可状態であるときに、前記演出調整用検出手段による動作の検出にかかわらず前記出力量制御手段による制御の実行を制限する制限手段 (例えばステップ 7 1 A K S 0 1 2 の電源投入時コマンド処理としてステップ A K S 0 1 2 の処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など) とを備える、

ことを特徴とする遊技機であってもよい。

このような構成によれば、変更許可状態であるときには出力量制御手段による制御の実行が制限されるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0713】

また、特開 2 0 1 0 - 2 0 0 9 0 2 号公報や特開 2 0 1 5 - 2 9 6 1 4 号公報に記載の遊技機の問題を解決する特徴部 7 1 A K に係る手段 F の遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態 (例えば大当り遊技状態など) に制御可能な遊技機 (例えばパチンコ遊技機 1 など) であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値 (例えば設定値 1 ~ 3 のいずれかなど) に設定可能な設定手段 (例えばステップ S a 1 3 の設定変更処理を実行する C P U 1 0 3 など) と、

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段 (例えばステップ S 2 5 の特別図柄プロセス処理を実行する C P U 1 0 3 など) と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段 (例えばステップ S a 6、S a 1 2 を実行する C P U 1 0 3 など) と、

演出の出力量の調整に関する動作を検出可能な演出調整用検出手段 (例えば出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 など) と、

前記演出調整用検出手段による動作の検出にもとづいて演出の出力量を複数段階のいずれかに制御する出力量制御手段 (例えばステップ 7 1 A K S 0 1 3 の開始時出力切替処理やステップ 7 1 A K S 0 1 9 の進行中出力変更処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など) と、

前記変更許可状態であるときに、前記演出調整用検出手段による動作の検出にかかわらず前記出力量制御手段による制御の実行を制限する制限手段 (例えばステップ 7 1 A K S 0 1 2 の電源投入時コマンド処理としてステップ A K S 0 1 2 の処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など) とを備え、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部 (例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 L, 1 0 7 S G 0 0 5 C, 1 0 7 S G 0 0 5 R) の各々において演出用識別情報 (例えば、飾り図柄) の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部 (例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア) において縮小識別情報 (例えば、小図柄) の可変表示を実行可能な表示手段 (例えば、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5) と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示 (例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像) を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段 (例えば、演出制御用 C P U 1 2 0 が図 8 - 2 2、図 8 - 2 3 に示すエラー報知処理を実行する部分) と、

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状

10

20

30

40

50

態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり（例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、VDPに対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置107SG005に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる部分）、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図8-30（B）に示すように、画像表示装置107SG005の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分）ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、変更許可状態であるときには出力量制御手段による制御の実行が制限されるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。また、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0714】

また、特開2010-200902号公報や特開2015-29614号公報に記載の遊技機の問題を解決する特徴部71AKに係る手段Gの遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機1など）であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値1～3のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップSa13の設定変更処理を実行するCPU103など）と

、
設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップS25の特別図柄プロセス処理を実行するCPU103など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップSa6、Sa12を実行するCPU103など）と

、
演出の出力量の調整に関する動作を検出可能な演出調整用検出手段（例えば出力量切替スイッチ71AK001など）と、

前記演出調整用検出手段による動作の検出にもとづいて演出の出力量を複数段階のいずれかに制御する出力量制御手段（例えばステップ71AKS013の開始時出力切替処理やステップ71AKS019の進行中出力変更処理を実行する演出制御用CPU120など）と、

前記変更許可状態であるときに、前記演出調整用検出手段による動作の検出にかかわらず前記出力量制御手段による制御の実行を制限する制限手段（例えばステップ71AKS012の電源投入時コマンド処理としてステップAKS012の処理を実行する演出制御用CPU120など）とを備え、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置107SG005）と、

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段（例えば、演出制御用CPU120が図8-27に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置107SG005に電断復旧画像を表示させる部分）と、

を備え、

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識

10

20

30

40

50

別情報を表示しない（例えば、図 8-28 及び図 8-31 に示すように、画像表示装置 107SG005 において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用 CPU 120 が CPU 103 から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部分）ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、変更許可状態であるときには出力量制御手段による制御の実行が制限されるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。また、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0715】

特徴部 71AK に係る手段 2 の遊技機として、

遊技の進行に応じた演出の実行を制御する演出制御手段（例えば演出制御用 CPU 120 など）と、 10

前記演出制御手段が設けられた演出制御基板（例えば演出制御基板 12 など）とを備え、

前記演出制御基板に、前記演出調整用検出手段により検出可能な動作を受け付ける受付手段（例えば出力量切替スイッチ 71AK001 のツマミ 71AK002 など）をさらに備える、

ことを特徴とする特徴部 71AK に係る手段 1 の遊技機であってもよい。

このような構成においては、演出の出力量を適切に制御しつつ、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0716】

20

特徴部 71AK に係る手段 3 の遊技機として、

前記出力量制御手段は、前記変更許可状態が終了する前に前記演出調整用検出手段による動作の検出があったときは、前記変更許可状態が終了してから、前記演出調整用検出手段による動作の検出にもとづいた演出の出力量の段階に制御する（例えばステップ 71AKS013 における開始時出力切替処理の実行など）、

ことを特徴とする特徴部 71AK に係る手段 1 または手段 2 の遊技機であってもよい。

このような構成においては、演出の出力量の段階を適切に制御しつつ、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0717】

30

特徴部 71AK に係る手段 4 の遊技機として、

遊技者による遊技中の動作とは異なり、遊技機の初期化に関する動作を検出可能な初期化用検出手段（例えばクリアスイッチ AK001 など）を備え、

前記変更許可状態であるときに、前記設定手段による設定値を、前記初期化用検出手段による動作の検出に応じて変更可能である（例えば設定切替スイッチ 52 に代えてクリアスイッチ AK001 を用いる場合など）、

ことを特徴とする特徴部 71AK に係る手段 1～手段 3 のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定値を変更するための構成を別個に設けることなく、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0718】

40

特徴部 71AK に係る手段 5 の遊技機として、

前記設定手段による設定値の変更に関する報知を行う変更報知手段（例えば演出表示装置 5、スピーカ 8L、8R など）を備え、

前記変更報知手段は、前記演出調整用検出手段による動作の検出にかかわらず共通の出力量により報知（例えば設定変更報知音声 71AKE01 の出力など）を行う、

ことを特徴とする特徴部 71AK に係る手段 1～手段 4 のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、不正行為による設定値の変更を防止しつつ、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0719】

50

特徴部 7 1 A K に係る手段 6 の遊技機として、

前記設定手段にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態に制御可能な設定確認制御手段（例えばステップ A K S 0 0 2 の設定確認処理を実行する C P U 1 0 3 など）を備え、

前記出力量制御手段は、

前記設定確認状態であるときに、前記演出調整用検出手段による動作の検出にもとづく演出の出力量の段階を制御可能であり（例えば設定確認報知の優先度 7 1 A K P 1 3 よりも高い節電機能等設定画面の優先度 7 1 A K P 1 2 など）、

前記変更許可状態であるときに、前記演出調整用検出手段による動作の検出にもとづく演出の出力量の段階を制御しない（例えば節電機能等設定画面の優先度 7 1 A K P 1 2 よりも高い設定変更報知の優先度 7 1 A K P 1 1 など）、

ことを特徴とする特徴部 7 1 A K に係る手段 1 ～手段 5 のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定値の確認とともに演出の出力量の段階を制御することができる一方、設定値の変更を行うときには演出の出力量の段階が制御されないので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

なお、上記した特徴部 7 1 A K に係る手段 2 ～手段 6 と手段 1 との対応関係は、特徴部 7 1 A K に係る手段 2 ～手段 6 と手段 F との対応関係、あるいは、特徴部 7 1 A K に係る手段 2 ～手段 6 と手段 G との対応関係に適用することができる。

【0720】

（特徴部 7 2 A K に関する説明）

図 2 1 - 4 1 は、動作用モータ A K 0 1 1 ～ A K 0 1 4 によって駆動される可動部材による電源投入時動作の実行例を示している。動作用モータ A K 0 1 1 ～ A K 0 1 4 によって駆動される可動部材には、第 1 可動演出装置となる第 1 可動部材と、第 2 可動演出装置となる第 2 可動部材とが含まれている。第 1 可動部材は、演出表示装置 5 の左下位置を原点位置（退避位置）として停止する。その退避位置から右斜め上に上昇して、演出表示装置 5 の表示画面の前方側に重複する進出位置で停止した後に、再び退避位置に戻る動作演出を行う。第 1 可動部材は、回動機構と、第 1 ～第 3 分裂片と、スライド機構とを含んでいる。回動機構の先端部には、第 1 ～第 3 分裂片が設けられている。第 1 ～第 3 分裂片は、合体した閉状態のときを原点位置として、このときに所定の図形を形成している。第 1 可動部材の回動機構は、動作用モータ A K 0 1 1 によって原点位置である退避位置から演出表示装置 5 の表示画面中央部における進出位置まで回動される。これにより、第 1 可動部材が演出表示装置 5 の表示画面中央部まで進出した後には、動作用モータ A K 0 1 2 によって第 1 ～第 3 分裂片が分裂する開状態となる。その一方で、第 1 可動部材が原点位置にあるときには、第 1 ～第 3 分裂片を開状態とすることができない。第 1 可動部材のスライド機構は、第 1 可動部材の回動機構および第 1 ～第 3 分裂片が進出位置まで回動された後、動作用モータ A K 0 1 3 によって横方向にスライドさせる。第 1 可動部材のスライド機構は、第 1 可動部材が演出表示装置 5 の表示画面中央部にあるときを原点位置として、回動機構および第 1 ～第 3 分裂片を、演出表示装置 5 の左側位置と右側位置との間でスライドさせることができればよい。

【0721】

第 2 可動部材は、演出表示装置 5 の上方位置を原点位置（退避位置）として停止する。その退避位置から下降して、演出表示装置 5 の表示画面の前方側に重複する進出位置で停止した後に、再び退避位置に戻る動作演出を行う。第 2 可動部材は、動作用モータ A K 0 1 4 によって原点位置である退避位置から演出表示装置 5 の表示画面中央部やや上方における進出位置まで下降され、進出位置から退避位置まで上昇される。このように、第 2 可動部材は、動作用モータ A K 0 1 4 の駆動力によって上下に単純往復する演出動作を行う。

【0722】

第 1 可動部材の回動機構は、原点位置が原点センサ A K 0 2 1 によって検出される。第

1 可動部材の第1～第3分裂片は、原点位置が原点センサAK022によって検出される。第1可動部材のスライド機構は、原点位置が原点センサAK023によって検出される。第2可動部材は、原点位置が原点センサAK024によって原点位置が検出される。動作モータAK011は、第1可動部材の回動機構を原点位置と進出位置との間で移動可能にする駆動力を提供する。動作モータAK012は、第1可動部材の第1～第3分裂片を原点位置の閉状態と開状態との間で移動可能にする駆動力を提供する。動作モータAK013は、第1可動部材のスライド機構を原点位置と演出表示装置5の左側位置または右側位置との間で移動可能にする駆動力を提供する。動作モータAK014は、第2可動部材を原点位置と進出位置との間で移動可能にする駆動力を提供する。

【0723】

第1可動部材および第2可動部材による電源投入時動作には、ロングイニシャル動作と、ショートイニシャル動作とが含まれている。ロングイニシャル動作は、遊技の進行に伴う演出の実行中における通常の演出動作と同様の動作を行う初期動作である。ロングイニシャル動作を実行することにより、通常の演出動作において不具合が発生するか否かを確認できる。ショートイニシャル動作は、通常の演出動作における一部の動作を省略した動作であり、第1可動部材や第2可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作である。

【0724】

電源投入時動作としてロングイニシャル動作が実行される場合には、まず、実線矢印72KM01で示すように、第1可動部材の回動機構を、動作モータAK011の駆動力により原点位置（退避位置）から進出位置である演出表示装置5における表示画面中央部の前方側にて重複する位置まで移動させる。続いて、破線矢印72AKM02で示すように、第1可動部材の第1～第3分裂片を、動作モータAK012の駆動力により原点位置の閉状態から開状態になるよう移動させる。その後、破線矢印72AKM03で示すように、第1可動部材の第1～第3分裂片を、動作モータAK012の駆動力により開状態から閉状態（原点位置）まで移動させる。次に、実線矢印72AKM04～72AKM06で示すように、第1可動部材のスライド機構を、動作モータAK013の駆動力により原点位置から右方向の可動位置まで移動させてから左方向の可動位置まで移動した後に原点位置に戻す。それから、実線矢印72AKM07で示すように、第1可動部材の回動機構を、動作モータAK011の駆動力により進出位置から原点位置（退避位置）に復帰させる。その後、破線矢印72AKM08、72AKM09で示すように、第2可動部材を、動作モータAK014の駆動力により原点位置（退避位置）から進出位置まで移動させてから原点位置（退避位置）に復帰させる。

【0725】

電源投入時動作としてショートイニシャル動作が実行される場合には、ロングイニシャル動作の一部を省略した動作が行われるようにすればよい。例えば矢印72AKM01～72AKM09で示される動作のうち、破線矢印72AKM02、72AKM03、72AKM08、72AKM09で示される動作を実行するための制御が行われる。この場合、第1可動部材の第1～第3分裂片は、第1可動部材の回動機構が進出位置に移動しなければ、閉状態から開状態に移動させることができない。そのため、ショートイニシャル動作においても、実線矢印72AKM01、72AKM07で示される動作が必要になる。また、ロングイニシャル動作では、破線矢印72AKM02、72AKM03、72AKM08、72AKM09で示される動作よりも移動量が大きくなるように、第1可動部材の第1～第3分裂片や第2可動部材の動作が行われてもよい。ショートイニシャル動作では、実線矢印72AKM04～72AKM06で示される動作よりも移動量が小さくなるように、第1可動部材のスライド機構を移動させてもよい。

【0726】

ショートイニシャル動作では、原点センサAK021～AK024による検出結果に応じて、少なくとも一部の動作が省略されたり追加されたりしてもよい。例えば原点センサAK022がオフであり、その他の原点センサがオンである場合には、第1可動部材の第1～第3分裂片を原点位置である閉状態に移動させる動作として、破線矢印72AKM0

10

20

30

40

50

3 の方向に移動させるように、動作用モータ A K 0 1 2 を駆動させる。そして、原点センサ A K 0 2 2 がオンになったときに、動作用モータ A K 0 1 2 の駆動を停止させればよい。その後、実線矢印 7 2 A K M 0 1、7 2 A K M 0 7 で示される移動量よりも小さくなるように、第 1 可動部材の回動機構を移動させることで、原点センサ A K 0 2 1 を一旦オフにしてからオンとなるように、動作用モータ A K 0 2 1 を駆動させる。また、第 2 可動部材については、破線矢印 7 2 A K M 0 8、7 2 A K M 0 9 で示されるように移動させることで、原点センサ A K 0 2 4 を一旦オフにしてからオンとなるように、動作用モータ A K 0 2 4 を駆動させればよい。

【0727】

図 2 1 - 4 2 は、動作用モータ A K 0 1 1 ~ A K 0 1 4 によって可動部材を駆動するために用いられる制御パターンを示している。これらの制御パターンを構成するパターンデータは、演出制御基板 1 2 に搭載された R O M 1 2 1 の所定領域に予め記憶されていればよい。この実施例では、可動部材の制御パターンとして、ショートイニシャル制御パターン 7 2 A K P 0 1 と、ロングイニシャル制御パターン 7 2 A K P 0 2 と、演出用動作 A 制御パターン 7 2 A K P 1 1 と、演出用動作 B 制御パターン 7 2 A K P 1 2 とが予め用意されている。

【0728】

ショートイニシャル制御パターン 7 2 A K P 0 1 は、ショートイニシャル動作を実行するために用いられる制御パターンである。ロングイニシャル制御パターン A K P 0 2 は、ロングイニシャル動作を実行するために用いられる制御パターンである。演出用動作 A 制御パターン 7 2 A K P 1 1 は、例えばリーチ演出といった、遊技の進行に伴って実行される第 1 演出に含まれる可動部材の動作を実行するために用いられる制御パターンである。演出用動作 B 制御パターン 7 2 A K P 1 2 は、例えば予告演出といった、遊技の進行に伴って実行される第 1 演出とは異なる第 2 演出に含まれる可動部材の動作を実行するために用いられる制御パターンである。なお、可動部材の制御パターンとしては、より多くの制御パターンが用意されてもよいし、一部の制御パターンが用意されてもよい。演出制御用 C P U 1 2 0 は、R O M 1 2 1 から読み出したパターンデータに基づいて、動作用モータ A K 0 1 1 ~ A K 0 1 4 の駆動内容を決定し、可動部材の動作を制御すればよい。

【0729】

図 2 1 - 4 3 は、この実施例の特徴部 7 2 A K に関し、演出制御用 C P U 1 2 0 により実行される電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。この電源投入時コマンド処理は、上記実施例における演出制御メイン処理のステップ A K S 0 1 2 にて実行できればよい。特徴部 7 2 A K の電源投入時コマンド処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、上記実施例と同様に主基板 1 1 からの受信コマンドを判定する（ステップ 7 2 A K S 0 0 1 ~ 7 2 A K S 0 0 4）。ステップ 7 2 A K S 0 0 3 にて受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定された場合には（ステップ 7 2 A K S 0 0 3 ; Y e s）、上記実施例と同様に、遊技停止状態開始時処理を実行し（ステップ 7 2 A K S 0 0 5）、設定変更報知を開始する制御を行う（ステップ 7 2 A K S 0 0 6）。

【0730】

ステップ 7 2 A K S 0 0 6 による制御を行った後には、上記実施例とは異なり、ショートイニシャル動作を実行する制御を行う（ステップ 7 2 A K S 0 0 7）。例えば、演出制御用 C P U 1 2 0 は、ショートイニシャル制御パターン 7 2 A K P 0 1 のパターンデータを R O M 1 2 1 の所定領域から読み出し、読出データに基づいて動作用モータ A K 0 1 1 ~ A K 0 1 4 による可動部材の動作制御を実行する。ステップ 7 2 A K S 0 0 7 における制御が実行されることにより、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作を実行する制御を行うことができる。なお、ステップ 7 2 A K S 0 0 8 以降に進んだ後の期間においても、ショートイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ 7 2 A K S 0 0 7 における制御が継続して実行され、ショートイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。

【0731】

ステップ72AKS007による制御に続いて、上記実施例と同様に、設定変更を終了するか否かを判定する（ステップ72AKS008）。設定変更を終了しない場合には（ステップ72AKS008；No）、ステップ72AKS008を繰り返し実行して待機する。ステップ72AKS008にて設定変更を終了すると判定された場合には（ステップ72AKS008；Yes）、設定変更報知を終了する制御を行い（ステップ72AKS009）、遊技停止状態終了時処理を実行する（ステップ72AKS010）。

【0732】

ステップ72AKS010にて遊技停止状態終了時処理を実行した後は、上記実施例とは異なり、ロングイニシャル動作を実行する制御を行い（ステップ72AKS011）、ステップ72AKS014に進む。ステップ72AKS011において、例えば、演出制御用CPU120は、ロングイニシャル制御パターン72AKP02のパターンデータをROM121の所定領域から読み出し、読出データに基づいて動作用モータAK011～AK014による可動部材の動作制御を実行する。ステップ72AKS011における制御が実行されることにより、変更許可状態としての設定変更状態が終了してから、可動部材の初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。また、ステップ72AKS011における制御によりロングイニシャル動作が実行可能になるので、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行わないようにすることができる。なお、ステップ72AKS014に進んだ後においても、ロングイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ72AKS011における制御が継続して実行され、ショートイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。

【0733】

ステップ72AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合には（ステップ72AKS001；Yes）、ショートイニシャル動作を実行する制御を行い（ステップ72AKS012）、続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行う（ステップ72AKS013）。ステップ72AKS013では、ステップ72AKS012での制御によるショートイニシャル動作が終了してから、ロングイニシャル動作を実行する制御が開始されればよい。ステップ72AKS012、72AKS013における制御が実行されることにより、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御されないときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。なお、ステップ72AKS014に進んだ後においても、ロングイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ72AKS013における制御が継続して実行され、ショートイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。ステップ72AKS011における制御と、ステップ72AKS013における制御は、共通のロングイニシャル制御パターン72AKP02を用いて、共通の処理により実行されてもよい。あるいは、ステップ72AKS011における制御と、ステップ72AKS013における制御は、共通のロングイニシャル制御パターン72AKP02を用いる一方で、異なる処理により実行されてもよい。

【0734】

その後、初期化報知を実行する制御を行う（ステップ72AKS014）。なお、初期化報知を実行する制御を行ってから、ロングイニシャル動作を実行する制御を行うようにしてもよい。ステップ72AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合には、ステップ72AKS012によりショートイニシャル動作を実行する制御が行われる前に、初期化報知を実行する制御が行われてもよい。

【0735】

ステップ72AKS004にて受信コマンドが設定確認開始コマンドであると判定された場合には（ステップ72AKS004；Yes）、上記実施例と同様に、遊技停止状態開始時処理を実行し（ステップ72AKS015）、設定確認報知を開始する制御を行う（ステップ72AKS016）。続いて、上記実施例とは異なり、ショートイニシャル動作を実行する制御を行う（ステップ72AKS017）。ステップ72AKS017にお

ける制御が実行されることにより、パチンコ遊技機1にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作を実行する制御を行うことができる。なお、ステップ72AKS018以降に進んだ後の期間においても、ショートイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ72AKS017における制御が継続して実行され、ショートイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。

【0736】

ステップ72AKS017による制御に続いて、上記実施例と同様に、設定確認を終了するか否かを判定する(ステップ72AKS018)。設定確認を終了しない場合には(ステップ72AKS018; No)、ステップ72AKS018を繰り返し実行して待機する。ステップ72AKS018にて設定確認を終了すると判定された場合には(ステップ72AKS018; Yes)、設定確認報知を終了する制御を行い(ステップ72AKS019)、遊技停止状態終了時処理を実行する(ステップ72AKS020)。

10

【0737】

ステップ72AKS020にて遊技停止状態終了時処理を実行した後は、上記実施例とは異なり、ロングイニシャル動作を実行する制御を行い(ステップ72AKS021)、電源投入時コマンド処理を終了する。ステップ72AKS021における制御が実行されることにより、パチンコ遊技機1にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態が終了してから、可動部材の初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。また、ステップ72AKS021における制御によりロングイニシャル動作が実行可能になるので、設定値を確認するための設定確認状態であるときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行わないようにすることができる。なお、電源投入時コマンド処理が終了した後においても、ロングイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ72AKS021における制御が継続して実行され、ロングイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。

20

【0738】

ステップ72AKS002にて受信コマンドが停電復旧指定コマンドであると判定された場合には(ステップ72AKS002; Yes)、ショートイニシャル動作を実行する制御を行い(ステップ72AKS022)、続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行ってから(ステップ72AKS023)、電源投入時コマンド処理を終了する。ステップ72AKS023では、ステップ72AKS022での制御によるショートイニシャル動作が終了してから、ロングイニシャル動作を実行する制御が開始されればよい。ステップ72AKS022、72AKS023における制御が実行されることにより、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御されないときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。なお、電源投入時コマンド処理が終了した後においても、ロングイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ72AKS023における制御が継続して実行され、ロングイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。ステップ72AKS021における制御と、ステップ72AKS023における制御は、共通のロングイニシャル制御パターン72AKP02を用いて、共通の処理により実行されてもよい。あるいは、ステップ72AKS021における制御と、ステップ72AKS023における制御は、共通のロングイニシャル制御パターン72AKP02を用いる一方で、異なる処理により実行されてもよい。

30

40

【0739】

(特徴部72AKに関する変形例の説明)

図21-44は、特徴部72AKの変形例において実行される電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。この変形例における電源投入時コマンド処理では、ステップ72AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合と(ステップ72AKS001; Yes)、ステップ72AKS010にて遊技停止状態終了時処理を実行した後に、ショートイニシャル動作を実行する制御を行い(ス

50

テップ72AKS031)、続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行ってから(ステップ72AKS032)、ステップ72AKS014に進み、初期化報知を実行する制御を行う。ステップ72AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合は、電源投入による電力供給の開始に伴い、遊技制御用マイクロコンピュータ100のRAM102における記憶内容を初期化(クリア)したことに対応して、ステップ72AKS014における制御が実行されることにより、初期化報知を実行する。この初期化報知が実行されるときには、ステップ72AKS031、72AKS032における制御が実行されることにより、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。また、ステップ72AKS010にて遊技停止状態終了時処理を実行した後も、ステップ72AKS031、72AKS032における制御が実行されることにより、変更許可状態としての設定変更状態が終了してから、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。このように、ステップ72AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合と、ステップ72AKS010にて遊技停止状態終了時処理を実行した後において、共通のステップ72AKS031、72AKS032における制御により、ショートイニシャル動作に続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。

10

【0740】

この変形例における電源投入時コマンド処理では、ステップ72AKS002にて受信コマンドが停電復旧指定コマンドであると判定された場合と(ステップ72AKS002; Yes)、ステップ72AKS020にて遊技停止状態終了時処理を実行した後に、ショートイニシャル動作を実行する制御を行い(ステップ72AKS033)、続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行ってから(ステップ72AKS034)、電源投入時コマンド処理を終了する。ステップ72AKS002にて受信コマンドが停電復旧指定コマンドであると判定された場合は、電源投入による電力供給の開始に伴い、遊技制御用マイクロコンピュータ100のRAM102における記憶内容を停電時の記憶内容に復旧させる。このような停電復旧が実行されるときには、ステップ72AKS033、72AKS034における制御が実行されることにより、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。また、ステップ72AKS020にて遊技停止状態終了時処理を実行した後も、ステップ72AKS033、72AKS034における制御が実行されることにより、パチンコ遊技機1にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態が終了してから、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。このように、ステップ72AKS002にて受信コマンドが停電復旧通知コマンドであると判定された場合と、ステップ72AKS020にて遊技停止状態終了時処理を実行した後において、共通のステップ72AKS033、72AKS034における制御により、ショートイニシャル動作に続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。

20

30

【0741】

ショートイニシャル動作やロングイニシャル動作は、初期化報知が行われることに伴い実行する制御が行われてもよいし、初期化報知が行われなくても実行する制御が行われてもよい。また、ショートイニシャル動作やロングイニシャル動作は、停電復旧報知が行われることに伴い実行する制御が行われてもよいし、停電復旧報知が行われなくても実行する制御が行われてもよい。また、遊技の進行に伴う演出を実行する制御が開始された後に、復帰動作条件が成立したことに基づいて、ショートイニシャル動作を実行する制御を行うようにしてもよい。遊技の進行に伴う演出を実行する制御が開始された後に、初期動作条件が成立したことに基づいて、ロングイニシャル動作を実行する制御を行うようにしてもよい。

40

【0742】

可動部材の構成は、第1可動部材や第2可動部材を含む形態に限定されるものではなく

50

、少なくとも、復帰動作となるショートイニシャル動作と、初期動作となるロングイニシャル動作を実行可能であり、遊技の進行に伴う演出において、予め定められた動作態様により動作可能なものであればよい。ショートイニシャル動作やロングイニシャル動作は、可動部材の構成にあわせて、任意に指定されたものであればよい。

【0743】

以上のように、特徴部72AKの電源投入時コマンド処理では、ステップ72AKS007にて、ショートイニシャル動作を実行する制御を行う。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、パチンコ遊技機1における設定値の変更を許可する設定変更状態に制御された場合には、第1可動部材や第2可動部材といった可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作を実行する制御が行われる。これにより、設定値を変更するための制御が行われるときに、可動部材が原点位置に復帰されるので、設定値の変更作業などが可動部材によって妨げられないようにして、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

【0744】

特徴部72AKの電源投入時コマンド処理では、ステップ72AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合に、ステップ72AKS012、72AKS013における制御が行われることで、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。これに対し、ステップ72AKS007での制御によりショートイニシャル動作を実行した場合には、ステップ72AKS008にて設定変更を終了すると判定されるまで、ロングイニシャル動作を実行する制御を行わない。設定変更状態であるときに初期動作となるロングイニシャル動作が実行されると、設定変更報知の実行が妨げられ、適切な報知を行えなくなってしまうおそれがある。そこで、設定変更状態が終了してからロングイニシャル動作を実行する制御を行い、設定確認状態であるときにはロングイニシャル動作を実行する制御を行わないようにする。このように、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、可動部材による初期動作となるロングイニシャル動作が実行されないようにして、設定値の変更作業が妨げられないようにすることで、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。したがって、設定値の適切な変更が可能になる。

【0745】

ステップ72AKS008にて設定変更を終了すると判定された場合には、ステップ72AKS011にて、ロングイニシャル動作を実行する制御を行う。こうして、変更許可状態としての設定変更状態が終了してから、初期動作となるロングイニシャル動作のみを実行する制御を行う。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、可動部材の無駄な動作を防止して、可動部材を動作させる制御負担を軽減することができる。したがって、設定値の適切な変更が可能になる。

【0746】

特徴部72AKの変形例における電源投入時コマンド処理では、ステップ72AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合に、ステップ72AKS031、72AKS032における制御が行われることで、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。このときには、ステップ72AKS014における制御が行われることで、初期化報知を実行する制御を行う。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、RAM102における記憶内容が初期化（クリア）されることで、パチンコ遊技機1における遊技の制御に関する初期化が行われた場合には、初期化報知が実行され、この初期化報知が実行されるときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。また、ステップ72AKS008にて設定変更を終了すると判定された場合にも、ステップ72AKS031、72AKS032における制御が行われることで、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、可動部材の動作を共通化して、可動部材を動作させる制御負担

10

20

30

40

50

を軽減することができる。したがって、設定値の適切な変更が可能になる。

【0747】

特徴部72AKの電源投入時コマンド処理では、ステップAKS017にて、ショートイニシャル動作を実行する制御を行う。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、パチンコ遊技機1における設定値を確認するための設定確認状態に制御された場合には、第1可動部材や第2可動部材といった可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作を実行する制御が行われる。その後、ステップ72AKS018にて設定確認を終了すると判定された場合には、ステップ72AKS021にて、ロングイニシャル動作を実行する制御を行う。こうして、設定確認状態が終了してから、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。設定確認状態であるときに初期動作となるロングイニシャル動作が実行されると、設定確認報知の実行が妨げられ、適切な報知を行えなくなってしまうおそれがある。そこで、設定確認状態が終了してからロングイニシャル動作を実行する制御を行い、設定確認状態であるときにはロングイニシャル動作を実行する制御を行わないようにする。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、設定確認状態であるときには、可動部材による初期動作となるロングイニシャル動作が実行されないようにして、設定値を容易に確認できるようにする。したがって、設定値の適切な変更が可能になる。

10

【0748】

(特徴部72AKに係る手段の説明)

以上の特徴部72AKに関して、従来、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定に変更可能な遊技機として、例えば特開2010-200902号公報に記載されているものがある。また、可動部材を原点位置に復帰させる遊技機として、例えば特開2016-221154号公報に記載されているものがある。しかしながら、特開2010-200902号公報や特開2016-221154号公報に記載の技術では、設定の変更と可動部材の動作が競合する場合について、考慮されていなかった。そのため、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定値に変更する作業に支障が生じるおそれがあった。そこで、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる遊技機を提供するための特徴部72AKに係る手段1の遊技機として、

20

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機1など）であって、

30

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値1～3のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップSa13の設定変更処理を実行するCPU103など）と、

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップS25の特別図柄プロセス処理を実行するCPU103など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップSa6およびステップSa12の処理を実行するCPU103など）と、

遊技の進行に応じて動作可能な可動部材（例えば動作用モータAK011～AK013によって動作する第1可動部材、動作用モータAK014によって動作する第2可動部材など）と、

40

少なくとも、前記可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作（例えばショートイニシャル動作など）の制御と、前記可動部材による初期動作（例えばロングイニシャル動作など）の制御とを実行可能な可動制御手段（例えばステップAKS012の電源投入時コマンド処理を実行する演出制御用CPU120など）とを備え、

前記可動制御手段は、前記変更許可状態であるときに、前記復帰動作を実行する制御を行う（例えばステップ72AKS007の実行など）、

ことを特徴とする遊技機であってもよい。

このような構成によれば、変更許可状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させ

50

る復帰動作が実行されるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0749】

また、特開2010-200902号公報や特開2016-221154号公報に記載の遊技機の問題を解決する特徴部72AKに係る手段Fの遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機1など）であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値1～3のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップSa13の設定変更処理を実行するCPU103など）と、

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップS25の特別図柄プロセス処理を実行するCPU103など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップSa6およびステップSa12の処理を実行するCPU103など）と、

遊技の進行に応じて動作可能な可動部材（例えば動作用モータAK011～AK013によって動作する第1可動部材、動作用モータAK014によって動作する第2可動部材など）と、

少なくとも、前記可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作（例えばショートイニシャル動作など）の制御と、前記可動部材による初期動作（例えばロングイニシャル動作など）の制御とを実行可能な可動制御手段（例えばステップAKS012の電源投入時コマンド処理を実行する演出制御用CPU120など）とを備え、

前記可動制御手段は、前記変更許可状態であるときに、前記復帰動作を実行する制御を行い（例えばステップ72AKS007の実行など）、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報（例えば、小図柄）の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置107SG005）と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示（例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像）を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段（例えば、演出制御用CPU120が図8-22、図8-23に示すエラー報知処理を実行する部分）と、

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり（例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、VDPに対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置107SG005に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる部分）、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図8-30（B）に示すように、画像表示装置107SG005の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分）ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、変更許可状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作が実行されるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。また、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

10

20

30

40

50

【0750】

また、特開2010-200902号公報や特開2016-221154号公報に記載の遊技機の問題を解決する特徴部72AKに係る手段Gの遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機1など）であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値1～3のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップSa13の設定変更処理を実行するCPU103など）と

、
設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップS25の特別図柄プロセス処理を実行するCPU103など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップSa6およびステップSa12の処理を実行するCPU103など）と、

遊技の進行に応じて動作可能な可動部材（例えば動作用モータAK011～AK013によって動作する第1可動部材、動作用モータAK014によって動作する第2可動部材など）と、

少なくとも、前記可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作（例えばショートイニシャル動作など）の制御と、前記可動部材による初期動作（例えばロングイニシャル動作など）の制御とを実行可能な可動制御手段（例えばステップAKS012の電源投入時コマンド処理を実行する演出制御用CPU120など）とを備え、

前記可動制御手段は、前記変更許可状態であるときに、前記復帰動作を実行する制御を行い（例えばステップ72AKS007の実行など）、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置107SG005）と、

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段（例えば、演出制御用CPU120が図8-27に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置107SG005に電断復旧画像を表示させる部分）と、

を備え、

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図8-28及び図8-31に示すように、画像表示装置107SG005において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用CPU120がCPU103から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部分）ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、変更許可状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作が実行されるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。また、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0751】

特徴部72AKに係る手段2の遊技機として、

前記可動制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、前記復帰動作に続いて前記初期動作を実行する制御を行い（例えばステップ72AKS012、72AKS01

10

20

30

40

50

3の実行など)、

前記変更許可状態であるときに、前記復帰動作に続いて前記初期動作を実行する制御を行わない(例えばステップ72AKS008の実行など)、

ことを特徴とする特徴部72AKに係る手段1の遊技機であってもよい。

このような構成においては、変更許可状態であるときに、可動部材による初期動作が実行されないようにして、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0752】

特徴部72AKに係る手段3の遊技機として、

前記可動制御手段は、前記変更許可状態が終了してから、前記初期動作のみを実行する制御を行う(例えばステップ72AKS011の実行など)、

ことを特徴とする特徴部72AKに係る手段2の遊技機であってもよい。

このような構成においては、可動部材による無駄な動作を防止するとともに、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0753】

特徴部72AKに係る手段4の遊技機として、

電力供給の開始に伴って遊技機の初期化が行われた場合に、初期化報知を実行する初期化報知手段(例えば演出表示装置5、スピーカ8L、8R、ステップ72AKS014を実行する演出制御用CPU120など)を備え、

前記可動制御手段は、

前記初期化報知が実行されるときに、前記復帰動作に続いて前記初期動作を実行する制御を行い(例えばステップ72AKS014の実行に伴うステップ72AKS031、72AKS032の実行など)、

前記変更許可状態が終了してから、前記復帰動作に続いて前記初期動作を実行する制御を行う(例えばステップ72AKS005～72AKS010に続くステップ72AKS031、72AKS032の実行など)、

ことを特徴とする特徴部72AKに係る手段2の遊技機であってもよい。

このような構成においては、可動部材による動作を共通化して制御負担を軽減するとともに、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0754】

特徴部72AKに係る手段5の遊技機として、

前記設定手段にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態に制御可能な設定確認制御手段(例えばステップAKS002の設定確認処理を実行するCPU103など)を備え、

前記可動制御手段は、

前記設定確認状態であるときに、前記復帰動作を実行する制御を行い(例えばステップ72AKS017の実行など)、

前記設定確認状態が終了してから、前記初期動作を実行する制御を行う(例えばステップ72AKS021の実行など)、

ことを特徴とする特徴部72AKに係る手段1～手段4のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定確認状態であるときに、可動部材による初期動作が実行されないようにして、設定値を容易に確認できるとともに、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

なお、上記した特徴部72AKに係る手段2～手段5と手段1との対応関係は、特徴部72AKに係る手段2～手段5と手段Fとの対応関係、あるいは、特徴部72AKに係る手段2～手段5と手段Gとの対応関係に適用することができる。

【0755】

(特徴部73AKに関する説明)

図21-45は、この実施例の特徴部73AKに関し、演出制御用CPU120により実行される電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。この電源投入時

10

20

30

40

50

コマンド処理は、上記実施例における演出制御メイン処理のステップ A K S 0 1 2 にて実行できればよい。特徴部 7 3 A K においても、ショートイニシャル動作やロングイニシャル動作の動作内容については、この実施例の特徴部 7 2 A K と同様の内容であればよい。特徴部 7 3 A K の電源投入時コマンド処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、上記実施例と同様に主基板 1 1 からの受信コマンドを判定する（ステップ 7 3 A K S 0 0 1 ～ 7 3 A K S 0 0 4）。ステップ 7 3 A K S 0 0 3 にて受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定された場合には（ステップ 7 3 A K S 0 0 3 ; Y e s）、上記実施例と同様に、遊技停止状態開始時処理を実行し（ステップ 7 3 A K S 0 0 5）、設定変更報知を開始する制御を行う（ステップ 7 3 A K S 0 0 6）。

【 0 7 5 6 】

ステップ 7 3 A K S 0 0 6 による制御を行った後には、設定変更を終了するか否かを判定する（ステップ 7 3 A K S 0 0 7）。設定変更を終了しない場合には（ステップ 7 3 A K S 0 0 7 ; N o）、ステップ 7 3 A K S 0 0 7 を繰り返し実行して待機する。ステップ 7 3 A K S 0 0 7 にて設定変更を終了すると判定された場合には（ステップ 7 3 A K S 0 0 7 ; Y e s）、設定変更報知を終了する制御を行い（ステップ 7 3 A K S 0 0 8）、遊技停止状態終了時処理を実行する（ステップ 7 3 A K S 0 0 9）。このように、特徴部 7 3 A K の電源投入時コマンド処理では、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作としてのショートイニシャル動作を実行する制御を行わない。

【 0 7 5 7 】

ステップ 7 3 A K S 0 0 1 にて受信コマンドが R A M クリア通知コマンドであると判定された場合や（ステップ 7 3 A K S 0 0 1 ; Y e s）、ステップ 7 3 A K S 0 0 9 にて遊技停止状態終了時処理を実行した後には、ショートイニシャル動作を実行する制御を行い（ステップ 7 3 A K S 0 1 0）、続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行う（ステップ 7 3 A K S 0 1 1）。ステップ 7 3 A K S 0 1 1 では、ステップ 7 3 A K S 0 1 0 での制御によるショートイニシャル動作が終了してから、ロングイニシャル動作を実行する制御が開始されればよい。ステップ 7 3 A K S 0 1 0、7 3 A K S 0 1 1 における制御が行われることにより、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御されないときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。また、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御された場合に、その設定変更状態が終了してから、復帰動作となるショートイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。あるいは、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御された場合に、その設定変更状態が終了してから、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。

【 0 7 5 8 】

その後、初期化報知を実行する制御を行う（ステップ 7 3 A K S 0 1 2）。なお、初期化報知を実行する制御を行ってから、ショートイニシャル動作やロングイニシャル動作を実行する制御を行うようにしてもよい。あるいは、ショートイニシャル動作を実行する制御を行ってから、初期化報知を実行する制御を行い、その後にロングイニシャル動作を実行する制御を行うようにしてもよい。

【 0 7 5 9 】

ステップ 7 3 A K S 0 0 4 にて受信コマンドが設定確認開始コマンドであると判定された場合には（ステップ 7 3 A K S 0 0 4 ; Y e s）、上記実施例と同様に、遊技停止状態開始時処理を実行し（ステップ 7 3 A K S 0 1 3）、設定確認報知を開始する制御を行う（ステップ 7 3 A K S 0 1 4）。続いて、ショートイニシャル動作を実行する制御を行う（ステップ 7 3 A K S 0 1 5）。ステップ 7 3 A K S 0 1 5 における制御が実行されることにより、パチンコ遊技機 1 にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作を実行する制御を行うことができる。なお、ステップ 7 3 A K S 0 1 6 以降に進んだ後の期間においても、ショートイニシ

ャル動作期間が終了するまで、ステップ73AKS015における制御が継続して実行され、ショートイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。

【0760】

ステップ73AKS015による制御に続いて、設定確認を終了するか否かを判定する（ステップ73AKS016）。設定確認を終了しない場合には（ステップ73AKS016；No）、ステップ73AKS016を繰り返し実行して待機する。ステップ73AKS016にて設定確認を終了すると判定された場合には（ステップ73AKS016；Yes）、設定確認報知を終了する制御を行い（ステップ73AKS017）、遊技停止状態終了時処理を実行する（ステップ73AKS018）。次に、ロングイニシャル動作を実行する制御を行い（ステップ73AKS019）、電源投入時コマンド処理を終了する。ステップ73AKS019における制御が実行されることにより、パチンコ遊技機1にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態が終了してから、可動部材の初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。また、ステップ73AKS019における制御によりロングイニシャル動作が実行可能になるので、設定値を確認するための設定確認状態であるときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行わないようにすることができる。なお、電源投入時コマンド処理が終了した後においても、ロングイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ73AKS019における制御が継続して実行され、ロングイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。

【0761】

ステップ73AKS002にて受信コマンドが停電復旧指定コマンドであると判定された場合には（ステップ73AKS002；Yes）、ショートイニシャル動作を実行する制御を行い（ステップ73AKS020）、続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行ってから（ステップ73AKS021）、電源投入時コマンド処理を終了する。ステップ73AKS021では、ステップ73AKS020での制御によるショートイニシャル動作が終了してから、ロングイニシャル動作を実行する制御が開始されればよい。ステップ73AKS020、73AKS021における制御が実行されることにより、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御されないときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。なお、電源投入時コマンド処理が終了した後においても、ロングイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ73AKS021における制御が継続して実行され、ロングイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。ステップ73AKS019における制御と、ステップ73AKS021における制御は、特徴部72AKの場合と同様に、共通のロングイニシャル制御パターン72AKP02を用いて、共通の処理により実行されてもよい。あるいは、ステップ73AKS019における制御と、ステップ73AKS021における制御は、特徴部72AKの場合と同様に、共通のロングイニシャル制御パターン72AKP02を用いる一方で、異なる処理により実行されてもよい。

【0762】

図21-46は、特徴部73AKに関して、設定確認報知の実行中に表示される設定確認報知画面73AKD01を示している。設定確認報知画面73AKD01では、「設定確認中」というメッセージを報知するための文字画像が表示されるとともに、パチンコ遊技機1において設定された設定値の履歴が表示可能となる。設定値の履歴は、例えば演出制御基板12に搭載されたRAM122のバックアップ領域に設定値情報をRTC情報とともに記憶することにより、演出制御基板12の側において累積的に格納されてもよい。あるいは、設定値の履歴は、RAM122とは別個に設けられた不揮発性の記憶装置（例えばフラッシュメモリなど）にて、所定領域に設定値情報をRTC情報とともに記憶することにより、演出制御基板12の側において累積的に格納されてもよい。あるいは、設定値の履歴は、主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100のRAM102にて、バックアップ領域に設定値情報をRTC情報とともに記憶しておき、設定確認

開始コマンドが送信される場合に、設定値の履歴を特定可能な演出制御コマンドとして予め用意された設定値履歴コマンドを、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信することにより、演出制御基板 1 2 の側では、電力供給の開始に伴い特定できるようにしてもよい。

【0763】

設定確認報知画面 7 3 A K D 0 1 が表示される場合に、可動部材が原点位置から外れた位置で停止した状態になっていると、演出表示装置 5 の表示画面を視認しにくくなり、設定値の履歴を把握しにくくなる。そこで、特徴部 7 3 A K の電源投入時コマンド処理では、ステップ 7 3 A K S 0 1 5 における制御が実行されることにより、パチンコ遊技機 1 にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作となるショートイニシャル動作を実行する制御を行う。このように、電力供給の開始に伴い設定確認状態に制御される場合には、設定変更状態に制御される場合とは異なり、復帰動作となるショートイニシャル動作が実行されるので、設定確認報知画面 7 3 A K D 0 1 にて表示可能となる設定値の履歴を、遊技場の係員などが容易に把握することができる。その一方で、特徴部 7 3 A K の電源投入時コマンド処理では、ステップ 7 3 A K S 0 1 8 における制御によりロングイニシャル動作が実行可能になるので、パチンコ遊技機 1 にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態であるときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行わない。このように、電力供給の開始に伴い設定確認状態に制御される場合には、この設定確認状態であるときに、復帰動作となるショートイニシャル動作が実行される一方で、初期動作となるロングイニシャル動作が実行されないので、設定確認報知画面 7 3 A K D 0 1 にて表示可能となる設定値の履歴を、遊技場の係員などが容易に把握することができるようになってから、ロングイニシャル動作が実行されてしまう場合に可動部材により設定値の履歴が把握しにくくなってしまうことを防止できる。

【0764】

なお、設定変更状態に制御される場合にも、設定値の履歴が表示可能となるものであってもよい。この場合には、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させるショートイニシャル動作を実行する制御を行えばよい。このように、電力供給の開始に伴い設定確認状態に制御されることで、設定値の履歴が表示可能となる場合には、復帰動作となるショートイニシャル動作が実行されるようにして、設定値の履歴を容易に把握することができるものであってもよい。

【0765】

以上のように、特徴部 7 3 A K の電源投入時コマンド処理では、ステップ 7 3 A K S 0 0 1 にて受信コマンドが R A M クリア通知コマンドであると判定された場合に、ステップ 7 3 A K S 0 1 0 にて、ショートイニシャル動作を実行する制御を行う。これに対し、ステップ 7 3 A K S 0 0 3 にて受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定された場合には、ステップ 7 3 A K S 0 0 7 にて設定変更を終了すると判定されるまで、ショートイニシャル動作を実行する制御を行わない。これにより、設定値を変更するための制御が行われるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作となるショートイニシャル動作が実行されないので、設定値の変更作業が復帰動作によって妨げられないようにして、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

【0766】

特徴部 7 3 A K の電源投入時コマンド処理では、ステップ 7 3 A K S 0 0 7 にて設定変更を終了すると判定された後に、ステップ 7 3 A K S 0 1 0 における制御が行われることで、復帰動作としてのショートイニシャル動作を実行する制御を行う。このように、変更許可状態としての設定変更状態が終了してから、復帰動作となるショートイニシャル動作を実行する制御を行うので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、可動部材を適切に原点位置に復帰させる動作が可能になる。

【0767】

特徴部 73AK の電源投入時コマンド処理では、ステップ 73AKS001 にて受信コマンドが RAM クリア通知コマンドであると判定された場合に、ステップ 73AKS010、73AKS011 における制御が行われることで、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。このときには、ステップ 73AKS012 における制御が行われることで、初期化報知を実行する制御を行う。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、RAM102 における記憶内容が初期化（クリア）されることで、パチンコ遊技機 1 における遊技の制御に関する初期化が行われた場合には、初期化報知が実行され、この初期化報知が実行されるときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。また、ステップ 73AKS007 にて設定変更を終了すると判定された場合にも、ステップ 73AKS010、73AKS011 における制御が行われることで、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、可動部材の動作を共通化して、可動部材を動作させる制御負担を軽減することができる。したがって、設定値の適切な変更が可能になる。

10

【0768】

設定確認報知画面 73AKD01 では、パチンコ遊技機 1 において設定された設定値の履歴が表示可能となる。特徴部 73AK の電源投入時コマンド処理では、ステップ 73AK004 にて受信コマンドが設定確認開始コマンドであると判定された場合に、ステップ 73AKS015 にて、ショートイニシャル動作を実行する制御を行う。こうして、設定値の履歴を表示可能な設定確認表示となる設定確認報知画面 73AKD01 の表示が実行されているときに、復帰動作となるショートイニシャル動作を実行する制御を行う。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、設定確認表示を容易に把握することができる。したがって、設定値の適切な変更が可能になる。

20

【0769】

演出制御用 CPU120 は、主基板 11 から送信された演出制御コマンドに基づいて、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行に応じた演出の実行を制御する。特徴部 73AK の電源投入時コマンド処理では、ステップ 73AKS003 にて、設定変更開始コマンドとなるコマンド 9100H を受信したときに、受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定される。主基板 11 から送信される設定変更開始コマンドとなるコマンド 9100H は、RAM クリア通知コマンドとなるコマンド 9000H や停電復旧指定コマンドとなるコマンド 9200H、設定確認開始コマンドとなるコマンド 9400H とは異なっている。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、パチンコ遊技機 1 における設定値の変更を許可する設定変更状態に制御される場合に、設定変更状態に制御されない場合とは異なる情報としてのコマンドが送信される。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、演出に関する制御負担を軽減することができる。したがって、設定値の適切な変更が可能になる。

30

【0770】

（特徴部 73AK に係る手段の説明）

以上の特徴部 73AK に関して、従来、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定に変更可能な遊技機として、例えば特開 2010-200902 号公報に記載されているものがある。また、可動部材を原点位置に復帰させる遊技機として、例えば特開 2016-221154 号公報に記載されているものがある。しかしながら、特開 2010-200902 号公報や特開 2016-221154 号公報に記載の技術では、設定の変更と可動部材の動作が競合する場合について、考慮されていなかった。そのため、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定値に変更する作業に支障が生じるおそれがあった。そこで、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる遊技機を提供するための特徴部 73AK に係る手段 1 の遊技機として、

40

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当たり遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機 1 など）であって、

50

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値１～３のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップＳａ１３の設定変更処理を実行するＣＰＵ１０３など）と、

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップＳ２５の特別図柄プロセス処理を実行するＣＰＵ１０３など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップＳａ６およびステップＳａ１２の処理を実行するＣＰＵ１０３など）と、

遊技の進行に応じて動作可能な可動部材（例えば動作用モータＡＫ０１１～ＡＫ０１３によって動作する第１可動部材、動作用モータＡＫ０１４によって動作する第２可動部材など）と、

少なくとも、前記可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作の制御を実行可能な可動制御手段（例えばステップＡＫＳ０１２の電源投入時コマンド処理を実行する演出制御用ＣＰＵ１２０など）とを備え、

前記可動制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、前記復帰動作を実行する制御を行い（例えばステップ７３ＡＫＳ０１０の実行など）、

前記変更許可状態であるときに、前記復帰動作を実行する制御を行わない（例えばステップ７３ＡＫＳ００５～７３ＡＫＳ００９の実行など）、

ことを特徴とする遊技機であってもよい。

このような構成によれば、変更許可状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作が実行されないので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【０７７１】

また、特開２０１０－２００９０２号公報や特開２０１６－２２１１５４号に記載の遊技機の問題を解決する特徴部７３ＡＫに係る手段Ｆの遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当たり遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機１など）であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値１～３のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップＳａ１３の設定変更処理を実行するＣＰＵ１０３など）と、

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップＳ２５の特別図柄プロセス処理を実行するＣＰＵ１０３など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップＳａ６およびステップＳａ１２の処理を実行するＣＰＵ１０３など）と、

遊技の進行に応じて動作可能な可動部材（例えば動作用モータＡＫ０１１～ＡＫ０１３によって動作する第１可動部材、動作用モータＡＫ０１４によって動作する第２可動部材など）と、

少なくとも、前記可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作の制御を実行可能な可動制御手段（例えばステップＡＫＳ０１２の電源投入時コマンド処理を実行する演出制御用ＣＰＵ１２０など）とを備え、

前記可動制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、前記復帰動作を実行する制御を行い（例えばステップ７３ＡＫＳ０１０の実行など）、

前記変更許可状態であるときに、前記復帰動作を実行する制御を行わず（例えばステップ７３ＡＫＳ００５～７３ＡＫＳ００９の実行など）、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、

10

20

30

40

50

「右」の飾り図柄表示エリア 107SG005L, 107SG005C, 107SG005R) の各々において演出用識別情報 (例えば、飾り図柄) の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部 (例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア) において縮小識別情報 (例えば、小図柄) の可変表示を実行可能な表示手段 (例えば、画像表示装置 107SG005) と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示 (例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像) を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段 (例えば、演出制御用 CPU 120 が図 8-22、図 8-23 に示すエラー報知処理を実行する部分) と、

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり (例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、VDP に対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置 107SG005 に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる部分)、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない (例えば、図 8-30 (B) に示すように、画像表示装置 107SG005 の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分) ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、変更許可状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作が実行されないのを、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。また、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0772】

なお、特定異常が発生して遊技停止状態となった場合には、設定手段により設定値が変更された場合に遊技停止状態から復帰するようにしてもよい。例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生して遊技停止状態となった場合には、電力供給が停止されたのち電力供給が開始されたときに設定手段による設定値の変更が許可され、設定値が変更されたこと (変更操作を行った結果変更前と同じ設定値にすることを含む) に基づいて初期化処理が行われることにより、特定異常が解消されて遊技停止状態から復帰するようにしてもよい。ただし、その場合には、初期化処理が行われるため、縮小可変表示部における縮小識別情報は遊技停止状態となる前の状況にかかわらず初期表示となる。初期化処理を行うことなく遊技停止状態から復帰させるようにするには、例えば、遊技場の係員が操作可能 (遊技者は操作不可能) なリセットボタン等のエラー解除操作手段を設け、該エラー解除操作手段が操作された場合には、遊技停止状態から復帰させて特定異常が発生する以前の遊技状態に戻すようにすることが考えられる。

また、特定異常が発生して遊技停止状態となった場合に、現在の設定値を確認する設定確認操作が行われたときに遊技停止状態から復帰するようにしてもよい。例えば、遊技場の係員が操作可能 (遊技者は操作不可能) な設定手段に係る機能として設定値変更機能と設定値確認機能を設け、設定値変更操作が行われた場合には初期化処理が行われて遊技停止状態から復帰し、設定値確認操作が行われた場合には初期化処理が行われることなく遊技停止状態から復帰するようにしてもよい。このようにすれば、初期化処理を行うことなく遊技停止状態から復帰させたい場合に、容易に復帰させることができる。

【0773】

また、特開 2010-200902 号公報や特開 2016-221154 号に記載の遊技機の問題を解決する特徴部 73AK に係る手段 G の遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態 (例えば大当り遊技状態など) に制御可能な遊技機 (例えばパチンコ遊技機 1 など) であって、

10

20

30

40

50

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値１～３のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップＳａ１３の設定変更処理を実行するＣＰＵ１０３など）と、

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップＳ２５の特別図柄プロセス処理を実行するＣＰＵ１０３など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップＳａ６およびステップＳａ１２の処理を実行するＣＰＵ１０３など）と、

遊技の進行に応じて動作可能な可動部材（例えば動作用モータＡＫ０１１～ＡＫ０１３によって動作する第１可動部材、動作用モータＡＫ０１４によって動作する第２可動部材など）と、

少なくとも、前記可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作の制御を実行可能な可動制御手段（例えばステップＡＫＳ０１２の電源投入時コマンド処理を実行する演出制御用ＣＰＵ１２０など）とを備え、

前記可動制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、前記復帰動作を実行する制御を行い（例えばステップ７３ＡＫＳ０１０の実行など）、

前記変更許可状態であるときに、前記復帰動作を実行する制御を行わず（例えばステップ７３ＡＫＳ００５～７３ＡＫＳ００９の実行など）、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア１０７ＳＧ００５Ｌ，１０７ＳＧ００５Ｃ，１０７ＳＧ００５Ｒ）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置１０７ＳＧ００５）と、

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段（例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０が図８－２７に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置１０７ＳＧ００５に電断復旧画像を表示させる部分）と、

を備え、

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図８－２８及び図８－３１に示すように、画像表示装置１０７ＳＧ００５において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用ＣＰＵ１２０がＣＰＵ１０３から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部分）ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、変更許可状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作が実行されないのを、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。また、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【０７７４】

なお、電断から復旧したときの状態を、設定値の変更を許可する変更許可状態としてもよいし、設定値の変更を許可しない変更不許可状態としてもよい。変更許可状態とする場合には、電断復旧表示の表示中に設定変更操作が行われる場合があるが、その場合には、画像表示装置５、１０７ＳＧ００５の表示を、電断復旧表示から設定変更中表示に切り替えるようにしてもよいし、両方の表示を行うようにしてもよい。

また、電断から復旧したときの状態が変更不許可状態である場合には、変更許可状態とするためには、一旦電源をオフにしたのち、例えば、図２１－２７に示すように、錠スイ

10

20

30

40

50

ッチおよびクリアスイッチがともにオンとなっている状態にして電源投入を行うようにすればよい。

なお、この実施の形態においては、電断復旧表示と設定変更中表示のいずれについても、図 8-31 (A) や図 21-35 (A) に示すように、画像表示装置 5、107SG005 の画面全体で表示されるため、電断復旧表示や設定変更中表示の表示中に、縮小可変表示部に縮小識別情報が表示されることはない。

【0775】

特徴部 73AK に係る手段 2 の遊技機として、

前記可動制御手段は、前記変更許可状態が終了してから、前記復帰動作を実行する制御を行う（例えばステップ 73AKS010 の実行など）、

ことを特徴とする特徴部 73AK に係る手段 1 の遊技機であってもよい。

このような構成においては、可動部材を適切に動作させ、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0776】

特徴部 73AK に係る手段 3 の遊技機として、

電力供給の開始に伴って遊技機の初期化が行われた場合に、初期化報知を実行する初期化報知手段（例えば演出表示装置 5、スピーカ 8L、8R、ステップ 73AKS012 を実行する演出制御用 CPU120 など）を備え、

前記可動制御手段は、

前記初期化報知が実行されるときに、前記復帰動作に続いて前記可動部材による初期動作を実行する制御を行い（例えばステップ 73AKS010～73AKS012 の実行など）、

前記変更許可状態が終了してから、前記復帰動作に続いて前記初期動作を実行する制御を行う（例えばステップ 73AKS005～73AKS009 に続くステップ 73AKS010 の実行など）、

ことを特徴とする特徴部 73AK に係る手段 1 または手段 2 の遊技機であってもよい。

このような構成においては、可動部材による動作を共通化して制御負担を軽減するとともに、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0777】

特徴部 73AK に係る手段 4 の遊技機として、

前記設定手段にて設定されている設定値を確認するための設定確認表示を実行可能な設定表示手段（例えば演出表示装置 5 など）を備え、

前記設定表示手段は、前記設定確認表示において前記設定手段にて設定された設定値の履歴を表示可能であり（例えば設定確認報知画面 73AKD01 の表示など）、

前記可動制御手段は、前記設定確認表示が実行されているときに、前記復帰動作を実行する制御を行い、前記初期動作を実行する制御を行わない（例えばステップ 73AKS015、73AKS016 の実行など）、

ことを特徴とする特徴部 73AK に係る手段 1～手段 3 のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定確認表示が実行されているときに、可動部材による初期動作が実行されないようにして、設定確認表示を容易に把握できるとともに、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0778】

特徴部 73AK に係る手段 5 の遊技機として、

前記遊技制御手段からの情報にもとづいて演出の実行を制御する演出制御手段（例えば AKS015 のコマンド解析処理を実行する演出制御用 CPU120 など）を備え、

前記遊技制御手段は、電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御される場合に、該変更許可状態に制御されない場合とは異なる情報（例えば設定変更開始コマンドとなるコマンド 9100H など）を送信する、

ことを特徴とする特徴部 73AK に係る手段 1～手段 4 のいずれかの遊技機であっても

10

20

30

40

50

よい。

このような構成においては、演出制御手段による制御負担を軽減するとともに、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

なお、上記した特徴部 7 3 A K に係る手段 2 ～手段 5 と手段 1 との対応関係は、特徴部 7 3 A K に係る手段 2 ～手段 5 と手段 F との対応関係、あるいは、特徴部 7 3 A K に係る手段 2 ～手段 5 と手段 G との対応関係に適用することができる。

【0779】

(特徴部 7 4 A K に関する説明)

図 2 1 - 4 7 は、この実施例の特徴部 7 4 A K に関し、確認演出を実行するために用いられる演出制御パターン 7 4 A K P 0 1 の構成例を示している。演出制御パターン 7 4 A K P 0 1 を構成するパターンデータは、演出制御基板 1 2 に搭載された R O M 1 2 1 の所定領域に予め記憶されていればよい。確認演出は、電源投入により電力供給が開始された後、予め定められた確認演出条件の成立に基づいて実行可能に制御される。特徴部 7 4 A K の確認演出は、左のスピーカ 8 L からラッパの音を 2 回出力する確認音の出力と、右のスピーカ 8 R からドラムの音を 2 回出力する確認音の出力と、スティックコントローラ 3 1 A の操作桿（レバー）に内蔵された振動用モータを所定パターンで 2 セット駆動する確認振動とを、含んでいる。演出制御パターン 7 4 A K P 0 1 には、確認演出プロセスタイマ初期値 7 4 A K J 0 0 を示すデータが含まれ、例えば R A M 1 2 2 の所定領域に設けられた確認演出プロセスタイマの初期値を設定可能にする。また、演出制御パターン 7 4 A K P 0 1 には、確認演出プロセスタイマ判定値 7 4 A K J 0 1 と対応付けられた第 1 確認演出制御データ 7 4 A K D 0 1、確認演出プロセスタイマ判定値 7 4 A K J 0 2 と対応付けられた第 2 確認演出制御データ 7 4 A K D 0 2、確認演出プロセスタイマ判定値 7 4 A K J 0 3 と対応付けられた第 3 確認演出制御データ 7 4 A K D 0 3 が、含まれている。第 1 確認演出制御データ 7 4 A K D 0 1 は、左のスピーカ 8 L からラッパの音を 2 回出力する確認音の出力を制御するために用いられる。第 2 確認演出制御データ 7 4 A K D 0 2 は、右のスピーカ 8 R からドラムの音を 2 回出力する確認音の出力を制御するために用いられる。第 3 確認演出制御データ 7 4 A K D 0 3 は、スティックコントローラ 3 1 A の操作桿（レバー）に内蔵された振動用モータを所定パターンで 2 セット駆動する確認振動を制御するために用いられる。確認演出の実行を制御するときには、確認演出プロセスタイマのタイマ値が更新され、確認演出プロセスタイマ判定値 7 4 A K J 0 1 ～7 4 A K J 0 3 のいずれかと合致したときに、合致した判定値に対応する第 1 ～第 3 確認演出制御データ 7 4 A K D 0 3 を用いた制御を行うことにより、確認音の出力や確認振動を実行することができる。

【0780】

また、確認演出の実行中は、遊技効果ランプ 9 に含まれる一部または全部の発光部材を点灯させてもよい。例えば、確認演出が開始されると、発光部材の点灯が開始されるとともに、左のスピーカ 8 L から確認音の出力が開始される。左のスピーカ 8 L による確認音の出力が終了すると、右のスピーカ 8 R から確認音の出力が開始される。右のスピーカ 8 R による確認音の出力が終了すると、スティックコントローラ 3 1 A の操作桿（レバー）に内蔵された振動用モータによる確認振動が開始される。そして、スティックコントローラ 3 1 A の操作桿（レバー）に内蔵された振動用モータによる確認振動が終了するとともに発光部材が消灯され、確認演出が終了する。確認演出は、パチンコ遊技機 1 における電源投入により電力供給が開始された後、予め定められた確認受付期間内に、プッシュボタン 3 1 B を押下操作する動作が検出されることにより確認演出条件が成立して、実行が開始される。左のスピーカ 8 L による確認音の出力と、右のスピーカ 8 R による確認音の出力と、スティックコントローラ 3 1 A の操作桿（レバー）に内蔵された振動用モータによる確認振動とのうち、いずれか 1 の演出を実行する制御が行われているときには、他の演出を実行する制御が行われない。このように、確認演出に含まれる確認音の出力および確認振動のうち、いずれか 1 の演出を実行するときには、他の演出を実行しないように、制御が行われるようにすればよい。このように、確認音の出力と確認振動が互いに異なるタ

イメージで実行されることにより、各演出装置を用いた演出を正常に実行できるか否かを、遊技場の係員などが容易に把握することができる。

【0781】

図21-48は、特徴部74AKに関して、演出制御用CPU120により実行される演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。この演出制御メイン処理は、上記実施例における演出制御メイン処理に代えて実行できればよい。特徴部74AKの演出制御メイン処理において、演出制御用CPU120は、上記実施例と同様に初期化处理（ステップ74AKS011）、電源投入時コマンド処理（ステップ74AKS012）を実行した後、タイマ割込フラグがオンとなっているか否かを判定し（ステップ74AKS013）、オフであれば（ステップ74AKS013；No）、ステップ74AKS013を繰り返し実行して待機する。これに対し、タイマ割込フラグがオンである場合には（ステップ74AKS013；Yes）、タイマ割込フラグをクリアしてオフ状態とし（ステップ74AKS014）、コマンド解析処理（ステップ74AKS015）、演出制御プロセス処理（ステップ74AKS016）、演出用乱数更新処理（ステップ74AKS017）を順に実行する。さらに、特徴部74AKの演出制御メイン処理では、確認演出制御処理（ステップ74AKS018）を実行してから、ステップ74AKS013に戻る。

10

【0782】

図21-49は、確認演出制御処理として、ステップ74AKS018にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。確認演出制御処理において、演出制御用CPU120は、初期化報知を開始したか否かを判定する（ステップ74AKS031）。例えば上記実施例の電源投入時コマンド処理では、ステップAKS030における制御が行われることで、初期化報知が開始される。この後、ステップ74AKS031における判定が最初に行われたときに、初期化報知の開始であると判定すればよい。RAM122の所定領域に初期化報知開始フラグを設け、この初期化報知開始フラグがオンであるときに、初期化報知の開始であると判定してもよい。

20

【0783】

ステップ74AKS031にて初期化報知の開始であると判定された場合には（ステップ74AKS031；Yes）、確認受付期間を開始する制御が行われる（ステップ74AKS032）。確認受付期間は、初期化報知の開始に伴い開始され、例えば30秒間あるいは1分間といった、予め定められた確認受付時間の経過に伴い終了すればよい。

30

【0784】

ステップ74AKS031にて初期化報知の開始ではないと判定された場合には（ステップ74AKS031；No）、確認受付期間であるか否かを判定する（ステップ74AKS033）。ステップ74AKS032にて確認受付期間が開始された場合や、ステップ74AKS033にて確認受付期間であると判定された場合には（ステップ74AKS033；Yes）、可変表示が開始されたか否かを判定する（ステップ74AKS034）。例えば、演出制御用CPU120は、主基板11から送信された第1変動開始コマンドや第2変動開始コマンドを受信したことにより、可変表示が開始されたと判定すればよい。

40

【0785】

ステップ74AKS034にて可変表示の開始であると判定された場合には（ステップ74AKS034；Yes）、確認受付期間を中止する制御を行い（ステップ74AKS035）、確認演出制御処理を終了する。このように、確認受付期間であるときに可変表示が開始された場合には、確認受付期間を中止して、確認演出条件が成立しないように制限する。可変表示の開始に伴い確認受付期間を中止することで、遊技の進行に伴う演出の実行と確認演出の実行とが重複しないように制御して、確認演出を適切に実行することができる。

【0786】

ステップ74AKS034にて可変表示の開始ではないと判定された場合には（ステッ

50

プ74AKS034; No)、確認演出を開始させるための動作検出があったか否かを判定する(ステップ74AKS036)。ステップ74AKS036では、プッシュボタン31Bを押下する動作が検出された場合に、確認演出を開始させるための動作検出があったと判定すればよい。このとき、動作検出がない場合には(ステップ74AKS036; No)、確認演出制御処理を終了する。これに対し、動作検出があったと判定された場合には(ステップ74AKS036; Yes)、確認演出を実行するために用いられる演出制御パターン74AKP01をROM121の所定領域から読み出し(ステップ74AKS037)、確認演出プロセスタイマ初期値74AKJ00を確認演出プロセスタイマに設定する(ステップ74AKS038)。また、最初の確認演出プロセスタイマ判定値74AKD01によるタイマ値の判定が行われるように設定し(ステップ74AKS039)、ステップ74AKS046に進む。なお、ステップ74AKS036にて動作検出があったと判定され、確認演出を実行するための設定などが行われる場合には、確認受付期間を終了する制御を行ってもよい。

【0787】

ステップ74AKS033にて確認受付期間ではないと判定された場合には(ステップ74AKS033; No)、確認演出中であるか否かを判定する(ステップ74AKS040)。ステップ74AKS040では、例えば確認演出プロセスタイマによる経過時間の計測がスタートしている場合に、確認演出中であると判定すればよい。このとき、確認演出中でなければ(ステップ74AKS040; No)、確認演出制御処理を終了する。これに対し、確認演出中であると判定された場合には(ステップ74AKS040; Yes)、可変表示が開始されたか否かを判定する(ステップ74AKS041)。そして、可変表示の開始であると判定された場合には(ステップ74AKS041; Yes)、確認演出を中止する制御を行い(ステップ74AKS042)、確認演出制御処理を終了する。このように、確認演出中に可変表示が開始された場合には、確認演出の実行を中止することで、遊技の進行に伴う演出の実行と確認演出の実行とが重複しないように制御して、確認演出を適切に実行することができる。

【0788】

ステップ74AKS041にて可変表示の開始ではないと判定された場合には(ステップ74AKS041; No)、確認演出プロセスタイマの更新制御を行う(ステップ74AKS043)。次に、確認演出プロセスタイマのタイムアウトが発生したか否かを判定する(ステップ74AKS044)。このとき、タイムアウトが発生していれば(ステップ74AKS044; Yes)、確認演出を終了させる制御を行い(ステップ74AKS045)、確認演出制御処理を終了する。これに対し、タイムアウトが発生していないと判定された場合には(ステップ74AKS044; No)、確認演出プロセスタイマのタイマ値が判定値と合致したか否かを判定する(ステップ74AKS046)。判定値と合致しない場合には(ステップ74AKS046; No)、確認演出制御処理を終了する。

【0789】

ステップ74AKS046にて判定値と合致したと判定された場合には(ステップ74AKS046; Yes)、その判定値に対応する確認演出制御データを用いた演出を開始させる(ステップ74AKS047)。また、演出制御パターン74AKP01において次に格納されている確認演出プロセスタイマ判定値によるタイマ値の判定が行われるように設定してから(ステップ74AKS048)、確認演出制御処理を終了する。

【0790】

図21-50は、特徴部74AKに関して、確認演出の制御例を示すタイミング図などである。図21-50(A)は、電源投入により電力供給が開始されたときに、クリアスイッチAK001を押下操作する動作の検出がある一方で、錠スイッチ51をオンに切替操作する動作の検出がないことに対応して、設定変更状態に制御されない場合を示している。図21-50(B)は、電源投入により電力供給が開始されたときに、クリアスイッチAK001を押下操作する動作の検出があるとともに、錠スイッチ51をオンに切替操作する動作の検出があることに対応して、設定変更状態に制御される場合を示している。

図 2 1 - 5 0 (C) は、各タイミングにおける制御内容を示している。

【0791】

タイミング 7 4 A K T 0 1 での電源投入による電力供給の開始に伴い、設定変更状態に制御されない場合に、演出制御基板 1 2 では、例えば演出制御用 C P U 1 2 0 が、タイミング 7 4 A K T 0 2 にて R A M クリア通知コマンドを受信したと判定する。上記実施例の電源投入時コマンド処理では、ステップ A K S 0 2 1 にて受信コマンドが R A M クリア通知コマンドであると判定されたことにより、ステップ A K S 0 3 0 での制御が行われ、初期化報知が開始される。そうすると、特徴部 7 4 A K の演出制御メイン処理に含まれるステップ 7 4 A K S 0 1 8 の確認演出制御処理では、ステップ 7 4 A K S 0 3 1 にて初期化報知の開始であると判定され、ステップ 7 4 A K S 0 3 2 での制御により、確認受付期間が開始される。この確認検出期間内のタイミング 7 4 A K T 0 3 にて、プッシュボタン 3 1 B を押下操作する動作が検出されると、確認演出制御処理のステップ 7 4 A K S 0 3 6 にて確認演出の開始動作を検出したと判定され、確認演出制御処理のステップ 7 4 A K S 0 3 7 ~ 7 4 A K S 0 4 8 といった、確認演出を実行する制御が開始される。こうして確認演出を実行する制御が開始されることにより、演出制御パターン 7 4 A K P 0 1 に含まれる第 1 ~ 第 3 確認演出制御データ 7 4 A K D 0 1 ~ 7 4 A K D 0 3 などを用いて、第 1 ~ 第 3 確認演出となる複数種類の演出が順番に実行される。その後、タイミング 7 4 A K T 0 4 になると、確認演出制御処理のステップ 7 4 A K S 0 4 4 にて確認演出プロセスタイマがタイムアウトしたと判定され、ステップ 7 4 A K S 0 4 5 での制御が行われることにより、確認演出が終了する。

【0792】

これに対し、タイミング 7 4 A K T 1 1 での電源投入による電力供給の開始に伴い、設定変更状態に制御される場合に、演出制御基板 1 2 では、例えば演出制御用 C P U 1 2 0 が、タイミング 7 4 A K T 1 2 にて設定変更開始コマンドを受信したと判定する。上記実施例の電源投入時コマンド処理では、ステップ A K S 0 2 3 にて受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定されたことにより、ステップ A K S 0 2 5 の遊技停止状態開始時処理が実行された後に、ステップ A K S 0 2 6 の制御が行われ、設定変更報知が開始される。このときには、設定変更終了コマンドを受信した場合の他は、設定変更報知を継続して実行する制御が行われ、初期化報知を実行する制御などが開始されない。その後、タイミング 7 4 A K T 1 3 にて、主基板 1 1 から送信された設定変更終了コマンドを受信すると、電源投入時コマンド処理のステップ A K S 0 2 7 にて設定変更を終了すると判定されることで、ステップ A K S 0 2 8 、 A K S 0 2 9 に続いて、ステップ A K S 0 3 0 の制御が行われ、初期化報知が開始される。

【0793】

このようにして、タイミング 7 4 A K T 1 3 にてステップ A K S 0 3 0 の制御による初期化報知が開始されると、特徴部 7 4 A K の演出制御メイン処理に含まれるステップ 7 4 A K S 0 1 8 の確認演出制御処理では、ステップ 7 4 A K S 0 3 1 にて初期化報知の開始であると判定され、ステップ 7 4 A K S 0 3 2 での制御により、確認受付期間が開始される。したがって、タイミング 7 4 A K T 1 3 では、初期化報知の開始に伴い、確認受付期間が開始される。この確認受付期間内のタイミング 7 4 A K T 1 4 にて、プッシュボタン 3 1 B を押下操作する動作が検出されると、確認演出制御処理のステップ 7 4 A K S 0 3 6 にて確認演出の開始動作を検出したと判定され、確認演出制御処理のステップ 7 4 A K S 0 3 7 ~ 7 4 A K S 0 4 8 といった、確認演出を実行する制御が開始される。こうして確認演出を実行する制御が開始されることにより、演出制御パターン 7 4 A K P 0 1 に含まれる第 1 ~ 第 3 確認演出制御データ 7 4 A K D 0 1 ~ 7 4 A K D 0 3 などを用いて、第 1 ~ 第 3 確認演出となる複数種類の演出が順番に実行される。その後、タイミング 7 4 A K T 1 5 になると、確認演出制御処理のステップ 7 4 A K S 0 4 4 にて確認演出プロセスタイマがタイムアウトしたと判定され、ステップ 7 4 A K S 0 4 5 での制御が行われることにより、確認演出が終了する。

【0794】

なお、確認演出に含まれる演出は、パチンコ遊技機 1 が備える任意の演出装置を用いた演出であればよい。例えば、スティックコントローラ 3 1 A の操作桿（レバー）に内蔵された振動用モータを駆動することによる確認振動に加えて、あるいは代えて、プッシュボタン 3 1 B に内蔵された振動用モータを駆動することによる確認振動を実行できるものであってもよい。

【0795】

以上のように、特徴部 7 4 A K の演出制御メイン処理では、ステップ 7 4 A K S 0 1 2 にて、上記実施例と同様に電源投入時コマンド処理を実行した後、ステップ 7 4 A K S 0 1 8 にて確認演出制御処理を実行する。電源投入時コマンド処理では、例えばステップ A K S 0 2 5 やステップ A K S 0 3 1 にて、遊技停止状態開始時処理を実行する。遊技停止状態開始時処理が実行された後には、設定変更終了コマンドや設定確認終了コマンドとは異なるコマンドの受信が無効となり、通常の演出に関する制御が実行されないように規制される。この場合には、確認演出を実行する制御も行われない。これに対し、ステップ A K S 0 2 1 にて受信コマンドが R A M クリア通知コマンドであると判定された場合に、ステップ A K S 0 3 0 にて、初期化報知を実行する制御を行う。その後、ステップ 7 4 A K S 0 1 8 の確認演出制御処理では、ステップ 7 4 A K S 0 3 1 にて初期化報知の開始であると判定されたことなどに基づいて、確認演出条件が成立したときに、ステップ 7 4 A K S 0 3 7 以降に進み、確認演出を実行する制御を行う。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、パチンコ遊技機 1 における設定値の変更を許可する設定変更状態に制御された場合には、確認演出を実行する制御を行わない。これにより、設定値を変更するための制御が、確認演出を実行する制御よりも優先されるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

【0796】

電源投入時コマンド処理では、設定変更状態に対応してステップ A K S 0 2 5 ～ A K S 0 3 0 における制御などが行われる。その後、演出制御メイン処理のステップ 7 4 A K S 0 1 8 にて確認演出制御処理を実行することで、変更許可状態としての設定変更状態が終了してから、確認演出条件の成立に応じて確認演出を実行する制御を行う。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、確認演出を適切に実行できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

【0797】

プッシュボタン 3 1 B やプッシュセンサ 3 5 B は、遊技者による押下操作などの動作を検出可能に構成されている。特徴部 7 4 A K の確認演出制御処理では、ステップ 7 4 A K S 0 3 2 における制御が実行されることにより、確認受付期間となり、その後にステップ 7 4 A K S 0 3 6 で開始動作の検出があったと判定されることにより、確認演出条件が成立する。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、確認演出を適切に実行できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

【0798】

特徴部 7 4 A K の演出制御メイン処理のステップ 7 4 A K S 0 1 8 にて確認演出制御処理を実行するときには、ステップ 7 4 A K S 0 3 2 における制御が実行されることにより、設定確認状態に制御されずに R A M 1 0 2 の記憶内容が初期化（クリア）された場合に、設定確認状態が終了した場合と共通の確認受付期間となる。この確認受付期間における確認演出条件の成立に応じて、確認演出を実行する制御を行う。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、確認演出の実行に関する制御を共通化して、確認演出の制御負担を軽減することができる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

【0799】

特徴部 7 4 A K で用いられる演出制御パターン 7 4 A K P 0 1 は、第 1 確認演出制御データ 7 4 A K D 0 1 や第 2 確認演出制御データ 7 4 A K D 0 2 を含むことで、スピーカ 8 L、8 R から確認音を出力させる制御を可能にする。こうして、確認演出は、音出力手段となるスピーカ 8 L、8 R による確認用の音声の出力を含む。これにより、設定値の変更

作業に支障が生じることを防止する場合に、確認演出を適切に実行できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

【0800】

(特徴部74AKに係る手段の説明)

以上の特徴部74AKに関して、従来、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定に変更可能な遊技機として、例えば特開2010-200902号公報に記載されているものがある。また、確認音を出力させる制御を行う遊技機として、例えば特開2016-220833号公報に記載されているものがある。しかしながら、特開2010-200902号公報や特開2016-220833号公報に記載の技術では、設定の変更と確認用の演出が競合する場合について、考慮されていなかった。そのため、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定値に変更する作業に支障が生じるおそれがあった。そこで、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる遊技機を提供するための特徴部74AKに係る手段1の遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機1など）であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値1～3のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップSa13の設定変更処理を実行するCPU103など）と

、
設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップS25の特別図柄プロセス処理を実行するCPU103など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップSa6およびステップSa12の処理を実行するCPU103など）と、

演出を実行可能な演出手段（例えば演出表示装置5、スピーカ8L、8Rなど）と、

電力供給が開始された後、確認演出条件の成立にもとづいて前記演出手段による確認演出の制御を実行可能な確認制御手段（例えばステップ74AKS018の確認演出制御処理を実行する演出制御用CPU120など）とを備え、

前記確認制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行い（例えばステップAKS021、AKS030を実行した後におけるステップ74AKS018の実行など）、

前記変更許可状態であるときに、前記確認演出を実行する制御を行わない（例えばステップAKS025～AKS029の実行など）、

ことを特徴とする遊技機であってもよい。

このような構成によれば、変更許可状態であるときに、確認演出が実行されないのので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0801】

また、特開2010-200902号公報や特開2016-220833号公報に記載の遊技機の問題を解決する特徴部74AKに係る手段Fの遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機1など）であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値1～3のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップSa13の設定変更処理を実行するCPU103など）と

、
設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップS25の特別図柄プロセス処理を実行するCPU103など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップSa6およびステップSa12の処理を実行するC

10

20

30

40

50

P U 1 0 3 など) と、

演出を実行可能な演出手段 (例えば演出表示装置 5、スピーカ 8 L、8 R など) と、

電力供給が開始された後、確認演出条件の成立にもとづいて前記演出手段による確認演出の制御を実行可能な確認制御手段 (例えばステップ 7 4 A K S 0 1 8 の確認演出制御処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など) とを備え、

前記確認制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行い (例えばステップ A K S 0 2 1、A K S 0 3 0 を実行した後におけるステップ 7 4 A K S 0 1 8 の実行など)、

前記変更許可状態であるときに、前記確認演出を実行する制御を行わず (例えばステップ A K S 0 2 5 ~ A K S 0 2 9 の実行など)、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部 (例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 L, 1 0 7 S G 0 0 5 C, 1 0 7 S G 0 0 5 R) の各々において演出用識別情報 (例えば、飾り図柄) の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部 (例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア) において縮小識別情報 (例えば、小図柄) の可変表示を実行可能な表示手段 (例えば、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5) と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示 (例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像) を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段 (例えば、演出制御用 C P U 1 2 0 が図 8 - 2 2、図 8 - 2 3 に示すエラー報知処理を実行する部分) と、

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり (例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、V D P に対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる部分)、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない (例えば、図 8 - 3 0 (B) に示すように、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分) ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、変更許可状態であるときに、確認演出が実行されないのので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。また、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【 0 8 0 2 】

また、特開 2 0 1 0 - 2 0 0 9 0 2 号公報や特開 2 0 1 6 - 2 2 0 8 3 3 号公報に記載の遊技機の問題を解決する特徴部 7 4 A K に係る手段 G の遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態 (例えば大当り遊技状態など) に制御可能な遊技機 (例えばパチンコ遊技機 1 など) であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値 (例えば設定値 1 ~ 3 のいずれかなど) に設定可能な設定手段 (例えばステップ S a 1 3 の設定変更処理を実行する C P U 1 0 3 など) と、

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段 (例えばステップ S 2 5 の特別図柄プロセス処理を実行する C P U 1 0 3 など) と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段 (例えばステップ S a 6 およびステップ S a 1 2 の処理を実行する C

10

20

30

40

50

P U 1 0 3 など) と、

演出を実行可能な演出手段 (例えば演出表示装置 5、スピーカ 8 L、8 R など) と、

電力供給が開始された後、確認演出条件の成立にもとづいて前記演出手段による確認演出の制御を実行可能な確認制御手段 (例えばステップ 7 4 A K S 0 1 8 の確認演出制御処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など) とを備え、

前記確認制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行い (例えばステップ A K S 0 2 1、A K S 0 3 0 を実行した後におけるステップ 7 4 A K S 0 1 8 の実行など)、

前記変更許可状態であるときに、前記確認演出を実行する制御を行わず (例えばステップ A K S 0 2 5 ~ A K S 0 2 9 の実行など)、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部 (例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 L、1 0 7 S G 0 0 5 C、1 0 7 S G 0 0 5 R) の各々において演出用識別情報 (例えば、飾り図柄) の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部 (例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア) において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段 (例えば、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5) と、

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段 (例えば、演出制御用 C P U 1 2 0 が図 8 - 2 7 に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 に電断復旧画像を表示させる部分) と、

を備え、

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない (例えば、図 8 - 2 8 及び図 8 - 3 1 に示すように、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用 C P U 1 2 0 が C P U 1 0 3 から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部分) ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、変更許可状態であるときに、確認演出が実行されないので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。また、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0803】

特徴部 7 4 A K に係る手段 2 の遊技機として、

前記確認制御手段は、前記変更許可状態が終了してから、前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行う (例えばステップ A K S 0 2 5 ~ A K S 0 3 0 を実行した後におけるステップ 7 4 A K S 0 1 8 の実行など)、

ことを特徴とする特徴部 7 4 A K に係る手段 1 の遊技機であってもよい。

このような構成においては、確認演出を適切に実行して、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0804】

特徴部 7 4 A K に係る手段 3 の遊技機として、

遊技者による動作を検出可能な遊技用検出手段 (例えばプッシュボタン 3 1 B、プッシュセンサ 3 5 B など) を備え、

前記確認演出条件は、確認受付期間であるときに前記遊技用検出手段による動作の検出にもとづいて成立する (例えばステップ 7 4 A K S 0 3 6 の実行など)、

ことを特徴とする特徴部 7 4 A K に係る手段 1 または手段 2 の遊技機であってもよい。

このような構成においては、確認演出を適切に実行して、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0805】

特徴部 7 4 A K に係る手段 4 の遊技機として、

前記確認制御手段は、電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されずに初期化が行われた場合に、前記変更許可状態が終了した場合と共通の確認受付期間における前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行う（例えばステップ 7 4 A K S 0 3 3、7 4 A K S 0 3 6 の実行など）、

ことを特徴とする特徴部 7 4 A K に係る手段 1 ～手段 3 のいずれか遊技機であってもよい。

このような構成においては、確認演出の実行を共通化して、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0806】

10

特徴部 7 4 A K に係る手段 5 の遊技機として、

演出音を出力可能な音出力手段（例えばスピーカ 8 L、8 R など）を備え、

前記確認演出は、前記音出力手段による確認用の音声の出力を含む（例えば第 1 確認演出制御データ 7 4 A K D 0 1、第 2 確認演出制御データ 7 4 A K D 0 2 を用いたステップ 7 4 A K S 0 4 7 の実行など）、

ことを特徴とする特徴部 7 4 A K に係る手段 1 ～手段 4 のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、確認演出を適切に実行して、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

なお、上記した特徴部 7 4 A K に係る手段 2 ～手段 5 と手段 1 との対応関係は、特徴部 7 4 A K に係る手段 2 ～手段 5 と手段 F との対応関係、あるいは、特徴部 7 4 A K に係る手段 2 ～手段 5 と手段 G との対応関係に適用することができる。

20

【0807】

（特徴部 7 5 A K に関する説明）

図 2 1 - 5 1 は、この実施例の特徴部 7 5 A K に関し、演出制御用 C P U 1 2 0 により実行される電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。この電源投入時コマンド処理は、上記実施例の特徴部 7 4 A K における演出制御メイン処理のステップ 7 4 A K S 0 1 2 にて実行できればよい。特徴部 7 5 A K の電源投入時コマンド処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、上記実施例と同様に主基板 1 1 からの受信コマンドを判定する（ステップ 7 5 A K S 0 0 1 ～7 5 A K S 0 0 4）。ステップ 7 5 A K S 0 0 3 にて受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定された場合には（ステップ 7 5 A K S 0 0 3 ; Y e s）、上記実施例と同様に、遊技停止状態開始時処理を実行し（ステップ 7 5 A K S 0 0 5）、設定変更報知を開始する制御を行う（ステップ 7 5 A K S 0 0 6）。

30

【0808】

ステップ 7 5 A K S 0 0 6 による制御を行った後には、設定変更を終了するか否かを判定する（ステップ 7 5 A K S 0 0 7）。設定変更を終了しない場合には（ステップ 7 5 A K S 0 0 7 ; N o）、上記実施例とは異なり、設定変更中確認演出制御処理を実行してから（ステップ 7 5 A K S 0 0 8）、ステップ 7 5 A K S 0 0 7 に戻る。このように、特徴部 7 5 A K の電源投入時コマンド処理では、ステップ 7 5 A K S 0 0 8 にて設定変更中確認演出制御処理が実行されることにより、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御されたときに、確認演出を実行するための制御を行うことができる。ステップ 7 5 A K S 0 0 7 にて設定変更を終了すると判定された場合には（ステップ 7 5 A K S 0 0 7 ; Y e s）、設定変更報知を終了する制御を行い（ステップ 7 5 A K S 0 0 9）、遊技停止状態終了時処理を実行する（ステップ 7 5 A K S 0 1 0）。

40

【0809】

ステップ 7 5 A K S 0 0 1 にて受信コマンドが R A M クリア通知コマンドであると判定された場合や（ステップ 7 5 A K S 0 0 1 ; Y e s）、ステップ 7 5 A K S 0 1 0 にて遊技停止状態終了時処理を実行した後には、初期化報知を実行する制御を行い（ステップ 7 5 A K S 0 1 1）、電源投入時コマンド処理を終了する。

【0810】

50

ステップ75AKS003にて受信コマンドが設定確認開始コマンドであると判定された場合には（ステップ75AKS003；Yes）、上記実施例と同様に、設定確認状態に対応する処理を実行した後（ステップ75AKS012～75AKS016）、電源投入時コマンド処理を終了する。このように、特徴部75AKの電源投入時コマンド処理では、電力供給の開始に伴い、設定変更状態に制御されたときにはステップ75AKS008の設定変更中確認演出制御処理を実行する一方で、設定確認状態に制御されたときには設定変更中確認演出制御処理に相当する処理を実行しない。したがって、設定変更状態であるときに確認演出を実行可能とする制御を行う一方で、設定確認状態であるときには確認演出を実行可能とする制御を行わない。

【0811】

10

図21-52は、設定変更中確認演出制御処理として、ステップ75AKS008にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。設定確認中確認演出制御処理において、演出制御用CPU120は、まず、確認演出済みであるか否かを判定する（ステップ75AKS031）。ステップ75AKS031では、例えばRAM122の所定領域に設けられた確認演出完了フラグがオンである場合に、確認演出済みであると判定すればよい。確認演出完了フラグは、確認演出の実行が完了したときに、オン状態にセットされればよい。ステップ75AKS031にて確認演出済みである場合には（ステップ75AKS031；Yes）、設定変更中確認演出制御処理を終了する。

【0812】

20

ステップ75AKS031にて確認演出済みではないと判定された場合には（ステップ75AKS031；No）、確認演出中であるか否かを判定する（ステップ75AKS032）。このとき、確認演出中でなければ（ステップ75AKS032；No）、確認演出を開始させるための動作検出があったか否かを判定する（ステップ75AKS033）。ステップ75AKS033にて動作検出がない場合には（ステップ75AKS033；No）、設定変更中確認演出制御処理を終了する。ステップ75AKS033にて動作検出があったと判定された場合には（ステップ75AKS033；Yes）、確認演出の実行を開始するための設定として、演出制御パターン74AKP01を読み出し（ステップ75AKS034）、確認演出プロセスタイマ初期値74AKJ00を設定し（ステップ75AKS035）、最初の確認演出プロセスタイマ判定値74AKD01を設定する（ステップ75AKS036）。このように、設定変更中確認演出制御処理では、ステップ75AKS033の判定が行われるので、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、確認受付期間のような一定期間を設けることなく、任意のタイミングでプッシュボタン31Bを押下操作する動作が検出されたことなどにより、確認演出条件が成立して確認演出の実行を開始させることができる。

30

【0813】

ステップ75AKS032にて確認演出中であると判定された場合には（ステップ75AKS032；Yes）、確認演出プロセスタイマの更新制御を行い（ステップ75AKS037）、タイムアウトが発生したか否かを判定する（ステップ75AKS038）。このとき、タイムアウトが発生していれば（ステップ75AKS038；Yes）、確認演出を終了させる制御を行い（ステップ75AKS039）、確認演出制御処理を終了する。これに対し、タイムアウトが発生していないと判定された場合には（ステップ75AKS038；No）、確認演出プロセスタイマのタイマ値が判定値と合致したか否かを判定する（ステップ75AKS040）。判定値と合致しない場合には（ステップ75AKS040；No）、確認演出制御処理を終了する。

40

【0814】

ステップ75AKS040にて判定値と合致したと判定された場合には（ステップ75AKS040；Yes）、その判定値に対応する確認演出制御データを用いた演出を開始させる（ステップ75AKS041）。また、演出制御パターン74AKP01において次に格納されている確認演出プロセスタイマ判定値によるタイマ値の判定が行われるように設定してから（ステップ75AKS042）、確認演出制御処理を終了する。

50

【0815】

図21-53は、特徴部75AKに関して、確認演出の制御例を示すタイミング図などである。図21-53(A)は、電源投入により電力供給が開始されたときに、クリアスイッチAK001を押下操作する動作の検出がある一方で、錠スイッチ51をオンに切替操作する動作の検出がないことに対応して、設定変更状態に制御されない場合を示している。図21-53(B)は、電源投入により電力供給が開始されたときに、クリアスイッチAK001を押下操作する動作の検出があるとともに、錠スイッチ51をオンに切替操作する動作の検出があることに対応して、設定変更状態に制御される場合を示している。図21-53(C)は、各タイミングにおける制御内容を示している。

【0816】

タイミング75AKT01での電源投入による電力供給の開始に伴い、設定変更状態に制御されない場合は、特徴部74AKで設定変更状態に制御されない場合と同様であり、タイミング74AKT02にてRAMクリア通知コマンドを受信したことにより、初期化報知が開始され、これに伴い、確認受付期間が開始される。この確認受付期間内のタイミング75AKT03にて、確認演出の開始動作を検出すると、確認演出を実行する制御が開始され、演出制御パターン74AKP01に含まれる第1～第3確認演出制御データ74AKD01～74AKD03などを用いて、第1～第3確認演出となる複数種類の演出が順番に実行される。その後、タイミング75AKT04になると、確認演出が終了する。

【0817】

これに対し、タイミング75AKT11での電源投入による電力供給の開始に伴い、設定確認状態に制御される場合は、特徴部74AKで設定変更状態に制御される場合とは異なり、タイミング75AKT12にて設定変更開始コマンドを受信したことにより、電源投入時コマンド処理のステップ75AKS003にて受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定される。これにより、ステップ75AKS005、75AKS006に続いて、ステップ75AKS007にて設定変更を終了するか否かを判定するが、このとき終了しない場合には、ステップ75AKS008にて設定変更中確認演出制御処理が実行される。特徴部75AKの設定変更中確認演出制御処理では、ステップ75AKS032にて確認演出中ではないと判定された場合に、ステップ75AKS033にて開始動作の検出があったか否かを判定する。こうして、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、プッシュボタン31Bを押下操作する動作の検出などにより、確認演出条件を成立させることができる。例えば設定変更状態であるときのタイミング75AKT13にて、プッシュボタン31Bを押下操作する動作が検出されると、設定変更中確認演出制御処理のステップ75AKS033にて確認演出の開始動作を検出したと判定され、設定変更中確認演出制御処理のステップ75AKS034～75AKS042といった、確認演出を実行する制御が開始される。こうして、演出制御パターン74AKP01に含まれる第1～第3確認演出制御データ74AKD01～74AKD03などを用いて、第1～第3確認演出となる複数種類の演出が順番に実行される。その後、タイミング75AKT14になると、確認演出が終了する。

【0818】

タイミング75AKT14となった後、タイミング75AKT15にて、主基板11から送信された設定変更終了コマンドを受信すると、特徴部75AKの電源投入時コマンド処理では、ステップ75AKS007にて設定変更を終了すると判定されることで、ステップ75AKS009、75AKS010に続いて、ステップ75AKS011の制御が行われ、初期化報知が開始される。この初期化報知が開始されたときには、特徴部74AKの場合と同様に、演出制御メイン処理のステップ74AKS018にて確認演出制御処理が実行されることで、確認受付期間が開始されるように制御すればよい。そして、この確認受付期間にて確認演出の開始動作を検出した場合には、再び確認演出を実行する制御が開始されるようにすればよい。

【0819】

以上のように、特徴部 7 5 A K の電源投入時コマンド処理は、ステップ 7 5 A K S 0 0 8 にて実行される設定変更中確認演出制御処理を含み、設定変更中確認演出制御処理のステップ 7 5 A K S 0 3 3 にて開始動作の検出があったと判定された場合には、確認演出条件の成立により、ステップ 7 4 A K S 0 3 7 以降に進み、確認演出を実行する制御を行う。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、パチンコ遊技機 1 における設定値の変更を許可する設定変更状態に制御された場合に、確認演出条件の成立に基づいて確認演出を実行する制御を行うので、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、確認演出を実行可能とすることで、遊技機の状態を的確に確認して、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止できる。

【0 8 2 0】

特徴部 7 5 A K の電源投入時コマンド処理では、ステップ 7 5 A K S 0 0 1 にて受信コマンドが R A M クリア通知コマンドであると判定された場合に、特徴部 7 4 A K と同様の確認演出制御処理が実行されることで、確認受付期間が開始される。この確認受付期間であるときに、確認演出条件の成立に応じて確認演出を実行する制御を行う。これに対し、設定変更中確認演出制御処理では、確認受付期間を設けることなくステップ 7 5 A K S 0 3 3 にて開始動作の検出があったと判定された場合に、確認演出を実行する制御を行う。これにより、変更許可条件としての設定変更状態であるときには、いつでも確認演出を実行できるので、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止する場合に、設定値の変更とともに確認演出を適切に実行できる。

【0 8 2 1】

特徴部 7 5 A K の電源投入時コマンド処理では、設定変更状態に対応してステップ 7 5 A K S 0 0 5 ～ 7 5 A K S 0 1 1 における制御などが行われる。その後、特徴部 7 4 A K と同様の確認演出制御処理が実行されることで、確認受付期間が開始される。こうして、変更許可状態としての設定変更状態が終了してから、確認受付期間における確認演出条件の成立に応じて確認演出を実行する制御を行うので、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止する場合に、確認演出を適切に実行できる。

【0 8 2 2】

プッシュボタン 3 1 B やプッシュセンサ 3 5 B は、遊技者による押下操作などの動作を検出可能に構成されている。例えば特徴部 7 5 A K の設定変更中確認演出制御処理では、ステップ 7 5 A K S 0 3 3 にて開始動作の検出があったと判定されることにより、確認演出条件が成立する。また、特徴部 7 4 A K と同様の確認演出制御処理が実行されることで、ステップ 7 4 A K S 0 3 6 にて開始動作の検出があったと判定されることにより、確認演出条件が成立する。これにより、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止する場合に、確認演出を適切に実行できる。

【0 8 2 3】

(特徴部 7 5 A K に係る手段の説明)

以上の特徴部 7 5 A K に関して、従来、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定に変更可能な遊技機として、例えば特開 2 0 1 0 - 2 0 0 9 0 2 号公報に記載されているものがある。また、確認音を出力させる制御を行う遊技機として、例えば特開 2 0 1 6 - 2 2 0 8 3 3 号公報に記載されているものがある。しかしながら、特開 2 0 1 0 - 2 0 0 9 0 2 号公報や特開 2 0 1 6 - 2 2 0 8 3 3 号公報に記載の技術では、設定の変更と確認用の演出が競合する場合について、考慮されていなかった。そのため、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じるおそれがあった。そこで、遊技機の状態の確認作業に支障が生じることを防止できる遊技機を提供するための特徴部 7 5 A K に係る手段 1 の遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当たり遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機 1 など）であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値 1 ～ 3 のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップ S a 1 3 の設定変更処理を実行する C P U 1 0 3 など）と

、

10

20

30

40

50

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップS25の特別図柄プロセス処理を実行するCPU103など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップSa6およびステップSa12の処理を実行するCPU103など）と、

演出を実行可能な演出手段（例えば演出表示装置5、スピーカ8L、8Rなど）と、

電力供給が開始された後、確認演出条件の成立にもとづいて前記演出手段による確認演出の制御を実行可能な確認制御手段（例えばステップ74AKS018の確認演出制御処理、ステップ75AKS008の設定変更中確認演出制御処理を実行する演出制御用CPU120など）とを備え、

10

前記確認制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、確認受付期間における前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行い（例えばステップ74AKS018における確認演出制御処理の実行など）、

前記変更許可状態であるときに、前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行う（例えばステップ75AKS008における設定変更中確認演出制御処理の実行など）、

ことを特徴とする遊技機であってもよい。

このような構成によれば、変更許可状態であるときに、確認演出を実行できるので、遊技機の状態を的確に確認して、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止できる。

20

【0824】

また、特開2010-200902号公報や特開2016-220833号公報に記載の遊技機の問題を解決する特徴部75AKに係る手段Fの遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当たり遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機1など）であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値1～3のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップSa13の設定変更処理を実行するCPU103など）と、

30

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップS25の特別図柄プロセス処理を実行するCPU103など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップSa6およびステップSa12の処理を実行するCPU103など）と、

演出を実行可能な演出手段（例えば演出表示装置5、スピーカ8L、8Rなど）と、

電力供給が開始された後、確認演出条件の成立にもとづいて前記演出手段による確認演出の制御を実行可能な確認制御手段（例えばステップ74AKS018の確認演出制御処理、ステップ75AKS008の設定変更中確認演出制御処理を実行する演出制御用CPU120など）とを備え、

40

前記確認制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、確認受付期間における前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行い（例えばステップ74AKS018における確認演出制御処理の実行など）、

前記変更許可状態であるときに、前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行い（例えばステップ75AKS008における設定変更中確認演出制御処理の実行など）、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、

50

「右」の飾り図柄表示エリア 107SG005L, 107SG005C, 107SG005R) の各々において演出用識別情報 (例えば、飾り図柄) の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部 (例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア) において縮小識別情報 (例えば、小図柄) の可変表示を実行可能な表示手段 (例えば、画像表示装置 107SG005) と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示 (例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像) を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段 (例えば、演出制御用 CPU 120 が図 8-22、図 8-23 に示すエラー報知処理を実行する部分) と、

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり (例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、VDP に対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置 107SG005 に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる部分)、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない (例えば、図 8-30 (B) に示すように、画像表示装置 107SG005 の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分) ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、変更許可状態であるときに、確認演出を実行できるので、遊技機の状態を的確に確認して、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止できる。また、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0825】

また、特開 2010-200902 号公報や特開 2016-220833 号公報に記載の遊技機の問題を解決する特徴部 75AK に係る手段 G の遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態 (例えば大当り遊技状態など) に制御可能な遊技機 (例えばパチンコ遊技機 1 など) であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値 (例えば設定値 1~3 のいずれかなど) に設定可能な設定手段 (例えばステップ Sa13 の設定変更処理を実行する CPU 103 など) と、

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段 (例えばステップ S25 の特別図柄プロセス処理を実行する CPU 103 など) と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段 (例えばステップ Sa6 およびステップ Sa12 の処理を実行する CPU 103 など) と、

演出を実行可能な演出手段 (例えば演出表示装置 5、スピーカ 8L、8R など) と、

電力供給が開始された後、確認演出条件の成立にもとづいて前記演出手段による確認演出の制御を実行可能な確認制御手段 (例えばステップ 74AKS018 の確認演出制御処理、ステップ 75AKS008 の設定変更中確認演出制御処理を実行する演出制御用 CPU 120 など) とを備え、

前記確認制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、確認受付期間における前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行い (例えばステップ 74AKS018 における確認演出制御処理の実行など)、

前記変更許可状態であるときに、前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行い (例えばステップ 75AKS008 における設定変更中確認演出制御処理

10

20

30

40

50

の実行など)、
さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置 107SG005）と、

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段（例えば、演出制御用 CPU 120 が図 8-27 に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置 107SG005 に電断復旧画像を表示させる部分）と、

を備え、

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図 8-28 及び図 8-31 に示すように、画像表示装置 107SG005 において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用 CPU 120 が CPU 103 から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部分）ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、変更許可状態であるときに、確認演出を実行できるので、遊技機の状態を的確に確認して、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止できる。また、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0826】

特徴部 75AK に係る手段 2 の遊技機として、

前記確認制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されずに初期化が行われた場合に、確認受付期間における前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行い（例えばステップ 74AKS033、74AKS036 の実行など）、

前記変更許可状態であるときに、確認受付期間を設けることなく前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行う（例えばステップ 75AKS033 の実行など）、

ことを特徴とする特徴部 75AK に係る手段 1 の遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定値の変更とともに確認演出を適切に実行して、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止できる。

【0827】

特徴部 75AK に係る手段 3 の遊技機として、

前記確認制御手段は、前記変更許可状態が終了してから、確認受付期間における前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行う（例えばステップ 75AKS005～75AKS011 を実行した後におけるステップ 74AKS018 の実行など）、

ことを特徴とする特徴部 75AK に係る手段 1 または手段 2 の遊技機であってもよい。

このような構成においては、確認演出を適切に実行して、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止できる。

【0828】

特徴部 75AK に係る手段 4 の遊技機として、

遊技者による動作を検出可能な遊技用検出手段（例えばプッシュボタン 31B、プッシュセンサ 35B など）を備え、

前記確認演出条件は、前記遊技用検出手段による動作の検出にもとづいて成立する（例えばステップ 75AKS033 の実行など）、

10

20

30

40

50

ことを特徴とする特徴部 7 5 A K に係る手段 1 ～手段 3 のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、確認演出を適切に実行して、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止できる。

なお、上記した特徴部 7 5 A K に係る手段 2 ～手段 4 と手段 1 との対応関係は、特徴部 7 5 A K に係る手段 2 ～手段 4 と手段 F との対応関係、あるいは、特徴部 7 5 A K に係る手段 2 ～手段 4 と手段 G との対応関係に適用することができる。

【0829】

(特徴部 7 1 A K ～7 5 A K に共通する手段の説明)

特徴部 7 1 A K ～7 5 A K に係る手段 A の遊技機として、

10

設定に関する動作を検出可能な設定用検出手段（例えば錠スイッチ 5 1 など）と、

遊技機の初期化に関する動作を検出可能な初期化用検出手段（例えばクリアスイッチ A K 0 0 1 など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定用検出手段による動作の検出にもとづいて設定確認状態に制御可能な設定確認制御手段と（例えばステップ A K S 0 0 1、A K S 0 0 2 を実行する C P U 1 0 3 など）、

電力供給の開始に伴い前記初期化用検出手段による動作の検出にもとづいて前記変更許可状態に制御可能な変更許可制御手段とを備える（例えばステップ S a 6、S a 1 3 を実行する C P U 1 0 3 など）、

ことを特徴とする特徴部 7 1 A K ～7 5 A K に係る遊技機であってもよい。

20

このような構成においては、設定確認状態と変更許可状態に適切に制御して、設定値の適切な設定が可能になる。

【0830】

特徴部 7 1 A K ～7 5 A K に係る手段 B の遊技機として、

設定に関する動作を検出可能な設定用検出手段（例えば錠スイッチ 5 1 など）と、

初期化に関する動作を検出可能な初期化用検出手段（例えばクリアスイッチ A K 0 0 1 など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定用検出手段により動作が検出されず前記初期化用検出手段により動作が検出された場合に、該電力供給の開始とともに初期化報知を実行する一方、電力供給の開始に伴い前記設定用検出手段により動作が検出された場合に、該動作が検出されなくなってから初期化報知を実行する初期化報知手段（例えばステップ A K S 0 1 2 の電源投入時コマンド処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など）とを備える、

30

ことを特徴とする特徴部 7 1 A K ～7 5 A K に係る遊技機であってもよい。

このような構成においては、初期化報知を適切に実行して、設定値の適切な設定が可能になる。

【0831】

特徴部 7 1 A K ～7 5 A K に係る手段 C の遊技機として、

遊技媒体が所定領域に進入することにもとづいて付与される遊技価値に関する情報を表示可能な情報表示手段（例えば表示モニタ 2 9 など）を備え、

前記情報表示手段は、前記設定手段にて設定されている設定値を表示可能である（例えば第 1 表示部 2 9 A による表示など）、

40

ことを特徴とする特徴部 7 1 A K ～7 5 A K に係る遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定値を表示するための構成を別個に設けることなく、設定値の適切な設定が可能になる。

【0832】

特徴部 7 1 A K ～7 5 A K に係る手段 D の遊技機として、

演出の出力量に関する動作を検出可能な演出用検出手段（例えば出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 など）と、

前記設定手段による設定値に関する表示を、演出の出力量に関する表示よりも優先して表示する表示制御手段（例えばステップ A K S 0 2 6 を実行する演出制御用 C P U 1 2 0

50

など)を備える、

ことを特徴とする特徴部 7 1 A K ~ 7 5 A K に係る遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定値に関する表示が適切に行われ、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0833】

特徴部 7 1 A K ~ 7 5 A K に係る手段 E の遊技機として、

遊技制御手段からの情報に基づいて演出の実行を制御する演出制御手段（例えば A K S 0 1 5 のコマンド解析処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など）と、

前記演出制御手段は、前記変更許可状態であるときに、該変更許可状態の終了を通知する通知情報とは異なる情報にもとづく制御を制限する情報制限手段（例えば A K S 0 2 7 を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など）とを備える、

10

ことを特徴とする特徴部 7 1 A K ~ 7 5 A K に係る遊技機であってもよい。

このような構成においては、不具合の発生を防止して、設定値の適切な設定が可能になる。

【0834】

(特徴部の関連づけに係る説明)

特徴部 7 1 A K ~ 7 5 A K に関する各構成は、他の特徴部に関する各構成の一部または全部と、適宜、組み合わせられてもよい。このように組み合わせられた特徴部、あるいは、組み合わせられていない個別の特徴部について、他の特徴部に関する各構成の一部または全部と、適宜、組み合わせられてもよい。例えば、特徴部 7 1 A K に関し、演出制御メイン処理のステップ 7 1 A K S 0 1 3 にて開始時出力切替処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 の構成、特徴部 7 2 A K に関し、電源投入時コマンド処理のステップ 7 2 A K 0 0 7 にてショートイニシャル動作を実行する制御を行う演出制御用 C P U 1 2 0 の構成、特徴部 7 3 A K に関し、電源投入時コマンド処理のステップ 7 3 A K S 0 0 7 にて設定変更を終了すると判定されるまで、ショートイニシャル動作を実行する制御を行わない演出制御用 C P U 1 2 0 の構成、特徴部 7 4 A K に関し、演出制御メイン処理のステップ 7 4 A K S 0 1 8 にて確認演出制御処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 の構成、特徴部 7 5 A K に関し、電源投入時コマンド処理のステップ 7 5 A K S 0 0 8 にて設定変更中確認演出制御処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 の構成は、一部または全部を、適宜、組合せたものであってもよい。

20

30

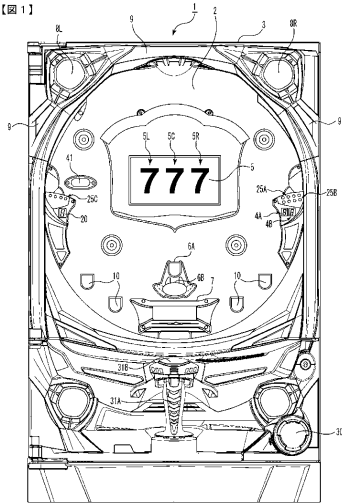
【符号の説明】

【0835】

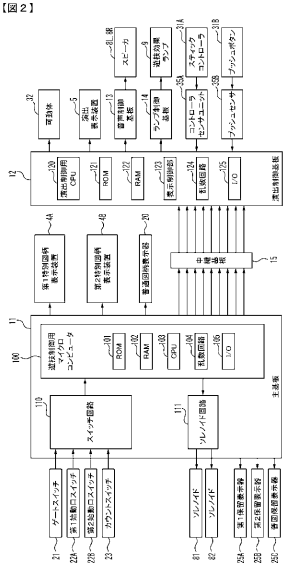
1	パチンコ遊技機
2	遊技盤
4 A	第 1 特別図柄表示装置
4 B	第 2 特別図柄表示装置
5	画像表示装置
1 1	主基板
1 2	演出制御基板
5 1	錠スイッチ
1 0 0	遊技制御用マイクロコンピュータ
1 0 3	C P U
1 2 0	演出制御用 C P U
A K 0 0 1	クリアスイッチ
7 1 A K 0 0 1	出力量切替スイッチ
7 2 A K P 0 1	ショートイニシャル制御パターン
7 2 A K P 0 2	ロングイニシャル制御パターン
7 4 A K P 0 1	演出制御パターン

40

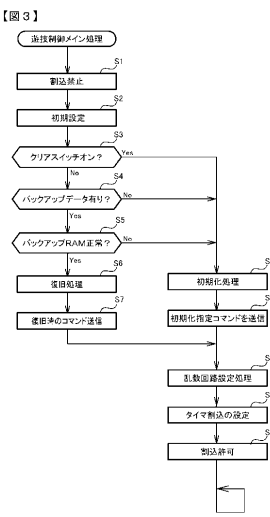
【図 1】



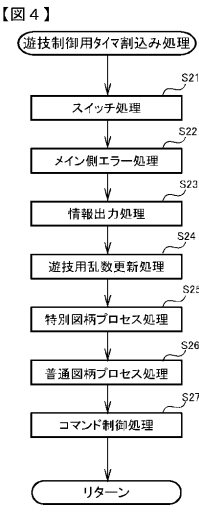
【図 2】



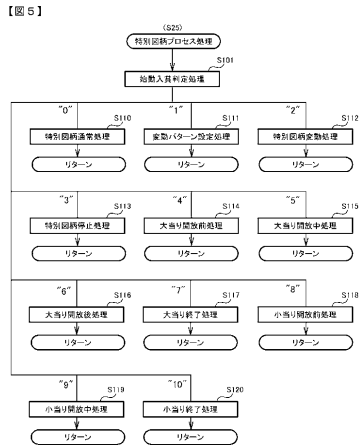
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 8 - 2】

【図 8 - 2】

MODE	EXT	名称	内容
80	D1	第1変動開始	第1特別の変動開始を指定
80	D2	第2変動開始	第2特別の変動開始を指定
81	XX	変動パターン指定	変動パターン(指定表示時間)を指定
8C	XX	変動表示結果指定	変動表示結果を指定
8F	00	図解確定	演出図解の表示表示の停止指定
95	XX	遊技状態指定	現在の遊技状態を指定
98	XX	上ラ指定	XXで所す上ラへの表示を指定
A0	XX	当り開始指定	大当りまたは小当りの開始指定
A1	XX	大入賞口開放指定	大入賞口開放を指定
A2	XX	大入賞口開放後指定	大入賞口開放後を指定
A3	XX	当り終了指定	大当りまたは小当りの終了指定
B1	00	第1増設口入賞指定	第1増設口入賞への入賞を通知
B2	00	第2増設口入賞指定	第2増設口入賞への入賞を通知
C1	XX	第1増設口回数通知	第1増設口回数を通知
C2	XX	第2増設口回数通知	第2増設口回数を通知
C4	XX	図解指定	演出図解の入賞時判定結果(表示結果)を指定
C6	XX	変動パターン	変動パターン(指定表示時間)を指定
C7	00	変動後図解通知	変動後の図解を通知

(B)

MODE	EXT	名称	指定内容
80	X0	第1変動表示結果指定	はずれ
80	X1	第2変動表示結果指定	大当り(確変A)
80	X2	第3変動表示結果指定	大当り(確変B)
8C	X3	第4変動表示結果指定	大当り(確変C)
8C	X4	第5変動表示結果指定	大当り(非確変)
8C	X5	第6変動表示結果指定	小当り

【図 8 - 3】

【図 8 - 3】

乱数値	範囲	用途
MR1	1~65536	特図表示結果判定用
MR2	1~100	大当り種別判定用
MR3	1~997	変動パターン判定用
MR4	3~13	普通表示結果判定用

【図 8 - 4】

【図 8 - 4】

変動パターン	演出変動時間(ms)	内容
PA1-1	12000	短縮なし(通常状態)→ multiplier (ハズレ)
PA1-2	5750	同様に短縮なし(通常状態)→ multiplier (ハズレ)
PA1-3	3750	同様に短縮なし(通常状態)→ multiplier (ハズレ)
PA1-4	3000	短縮(短縮状態)→ multiplier (ハズレ)
PA2-1	20000	multiplier (ハズレ)
PA2-2	50000	multiplier (ハズレ)
PB1-1	20000	multiplier (大当り)
PB1-2	50000	multiplier (大当り)
PC1-1	3000	特殊鳴り(小当りまたは変動大当り)

【図 8 - 7】

【図 8 - 7】

(A) 大当り種別判定テーブル

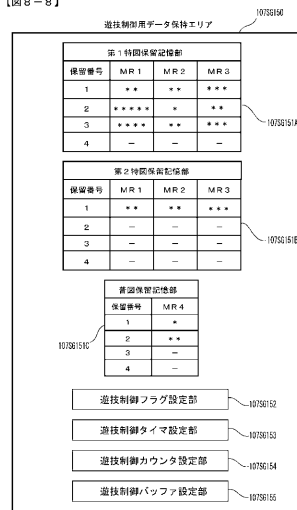
変動パターン	判定値(MR2)	大当り種別
第1特別	1~50	非確変
	51~80	確変A
	81~95	確変B
	96~100	確変C
第2特別	1~50	非確変
	51~100	確変A

(B) 大当り種別

大当り種別	確定制御	短縮制御	ラウンド数
確変A	次回大当りまで	次回大当りまで	16(通常開放ラウンド)
確変B	次回大当りまで	次回大当りまで	5(通常開放ラウンド)
確変C(突破)	次回大当りまで	なし	2(通常開放ラウンド)
非確変	無し	100回(100回開放ラウンド)	16(通常開放ラウンド)

【図 8 - 8】

【図 8 - 8】



【図 8 - 5】

【図 8 - 5】

変動パターン	変動表示時間(A)	変動表示時間(B)	変動表示時間(C)	変動表示時間(D)	変動表示時間(E)	変動表示時間(F)	変動表示時間(G)
PA1-1(通常ハズレ短縮なし)	12000	5750	3750	3000	20000	50000	20000
PA1-2(通常ハズレ短縮なし)	-	-	-	-	60%	-	-
PA1-3(通常ハズレ短縮なし)	-	-	-	-	70%	-	-
PA1-4(通常ハズレ短縮なし)	-	-	-	-	80%	-	-
PA1-5(通常ハズレ短縮なし)	-	-	-	-	90%	-	-
PA1-6(通常ハズレ短縮なし)	-	-	-	-	100%	-	-
PA2-1(通常ハズレ短縮なし)	-	-	-	-	30%	20%	10%
PA2-2(通常ハズレ短縮なし)	-	-	-	-	40%	30%	20%
PA2-3(通常ハズレ短縮なし)	-	-	-	-	50%	40%	30%
PA2-4(通常ハズレ短縮なし)	-	-	-	-	60%	50%	40%
PA2-5(通常ハズレ短縮なし)	-	-	-	-	70%	60%	50%
PA2-6(通常ハズレ短縮なし)	-	-	-	-	80%	70%	60%
PA2-7(通常ハズレ短縮なし)	-	-	-	-	90%	80%	70%
PA2-8(通常ハズレ短縮なし)	-	-	-	-	100%	90%	80%

【図 8 - 6】

【図 8 - 6】

(A) 表示結果判定テーブル1 (第1特別図柄用)

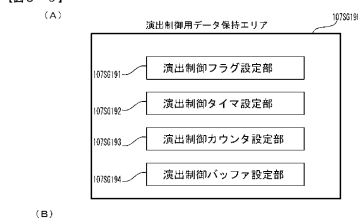
遊技状態	判定値(MR1)	特図表示結果
通常状態 または時短状態	1~219(1/300)	大当り
	54000~54651(1/100)	小当り
	上記数値以外	ハズレ
確変状態	10000~12180(1/30)	大当り
	54000~54651(1/100)	小当り
	上記数値以外	ハズレ

(A) 表示結果判定テーブル2 (第2特別図柄用)

遊技状態	判定値(MR1)	特図表示結果
通常状態 または時短状態	1~219(1/300)	大当り
	-	小当り
	上記数値以外	ハズレ
確変状態	10000~12180(1/30)	大当り
	-	小当り
	上記数値以外	ハズレ

【図 8 - 9】

【図 8 - 9】



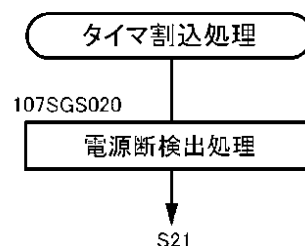
(B)

パレット	演出制御フラグ	演出制御フラグ	演出制御フラグ	演出制御フラグ	演出制御フラグ	演出制御フラグ	演出制御フラグ
1-0	0 1 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 1 0 2 (H)	0	0	0
1-1	0 1 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 1 0 2 (H)	0	0	0
1-2	0 1 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 1 0 2 (H)	0	0	1
1-3	0 1 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 1 0 3 (H)	1	-	-
1-4	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	-	-	-
2-0	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	-	-	-
2-1	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	-	-	-
2-2	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	-	-	-
2-3	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	-	-	-
2-4	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	0 0 0 0 (H)	-	-	-

演出制御フラグ '0' = ○
演出制御フラグ '1' = ◇
演出制御フラグ '2' = ☆

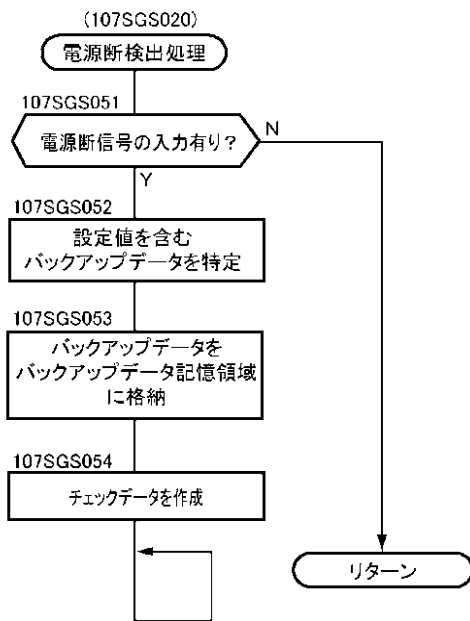
【図 8 - 10】

【図 8 - 10】

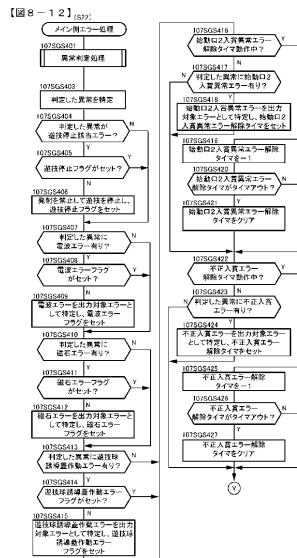


【図 8 - 1 1】

【図 8 - 1 1】

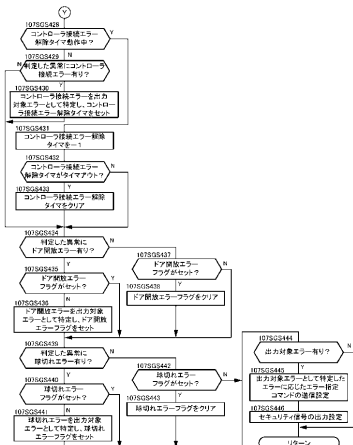


【図 8 - 1 2】



【図 8 - 1 3】

【図 8 - 1 3】



【図 8 - 1 4】

【図 8 - 1 4】

(A) 単エラー

EXTデータ

01(H)	0	0	0	0	0	0	0	1	0
02(H)	0	0	0	0	0	0	0	1	0
04(H)	0	0	0	0	0	0	1	0	0
08(H)	0	0	0	0	0	1	0	0	0
10(H)	0	0	0	0	1	0	0	0	0
20(H)	0	0	0	1	0	0	0	0	0
40(H)	0	1	0	0	0	0	0	0	0
80(H)	1	0	0	0	0	0	0	0	0

(B) 複数エラー

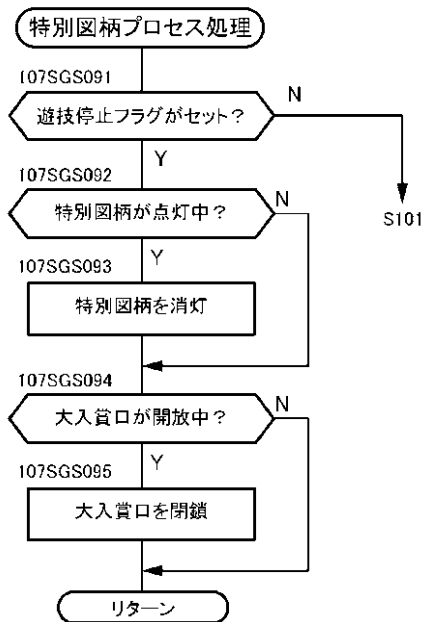
03(H)	0	0	0	0	0	0	1	1	
05(H)	0	0	0	0	0	0	1	0	1
09(H)	0	0	0	0	0	1	0	0	1
0E(H)	0	0	0	0	0	0	1	1	0
07(H)	0	0	0	0	0	0	1	1	1
0F(H)	0	0	0	0	0	1	1	1	1
FF(H)	1	1	1	1	1	1	1	1	1

【図 8 - 1 5】

【図 8 - 1 5】

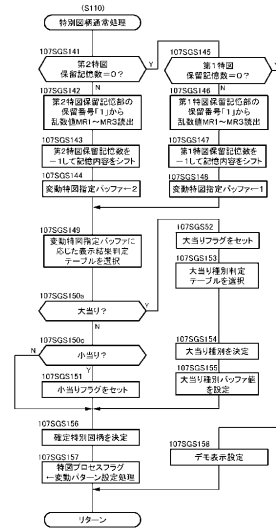
エラー番号	エラー名称	エラー発生	エラー内容	解除条件	監視停止	リセット
1	電源エラー	00(H)	電源検出	電源オフ	○	電源リセット
2	磁石エラー	40(H)	磁石検出	電源オフ	○	電源リセット
3	過電圧検出エラー	20(H)	過電圧検出	電源オフ	○	電源リセット
4	磁石エラー	10(H)	磁石検出	電源オフ	○	電源リセット
5	不正入力エラー	08(H)	不正入力検出	電源オフ	○	電源リセット
6	不正入力エラー	02(H)	不正入力検出	電源オフ	○	電源リセット
7	ドア開閉エラー	04(H)	ドア開閉検出	電源オフ	○	電源リセット
8	磁石エラー	01(H)	磁石検出	電源オフ	○	電源リセット

【图 8-16】



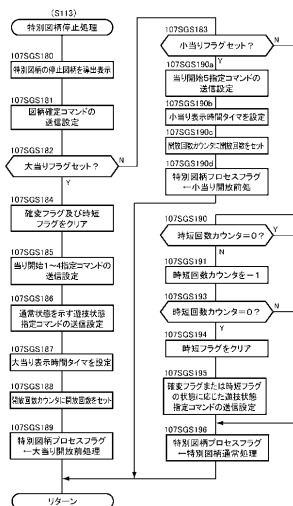
【図 8-17】

【图 8-17】



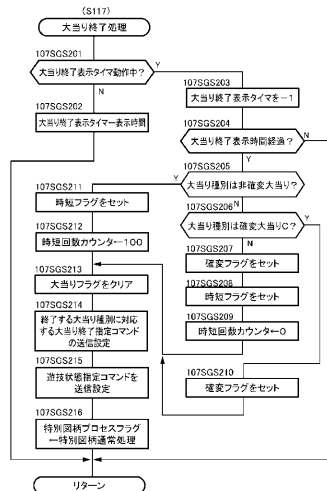
【图 8-18】

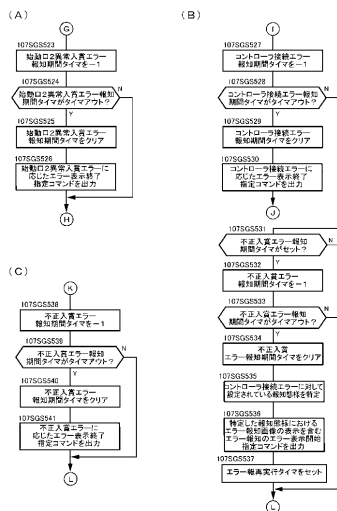
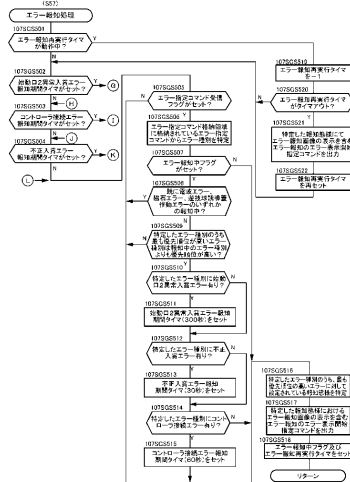
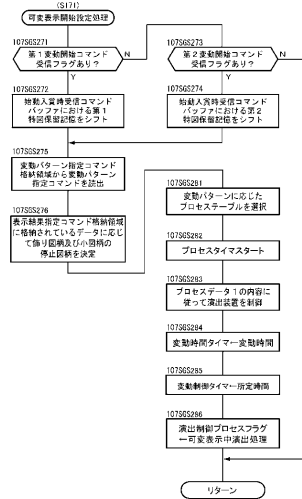
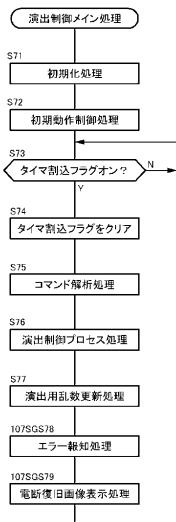
【图 8-18】



【图 8-19】

【图 8-19】

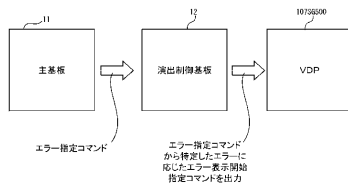




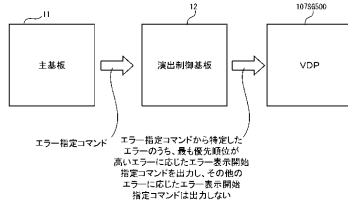
【図 8-24】

【图 8-24】

(A) 発生したエラーが1つのみの場合



(B) 発生したエラーが複数の場合

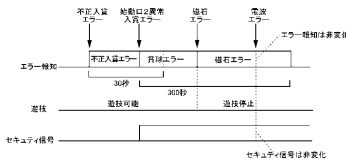


※いずれの場合の競技停止エラーの観戦中である場合はエラー表示開始時定コマンド出力せず

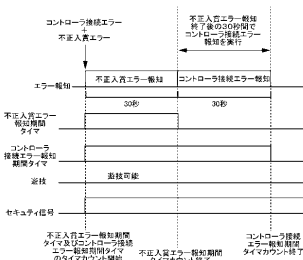
【図 8-25】

【图 8-25】

(A)

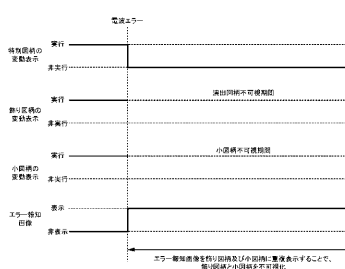


(B)



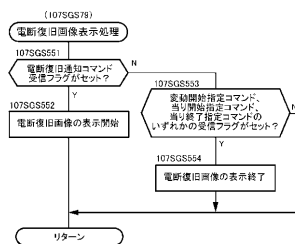
【図 8-26】

【图 8-26】



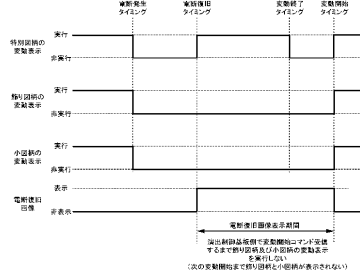
【図 8-27】

【图 8-27】



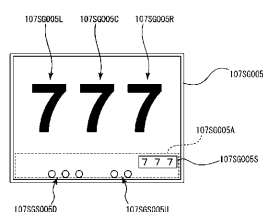
【図 8-28】

【图 8-28】



【图 8-29】

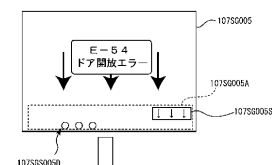
【图 8-29】



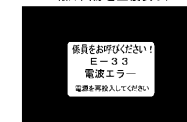
【図 8-30】

【圖 8-30】

(A) 変動表示中にドア開放エラー発生



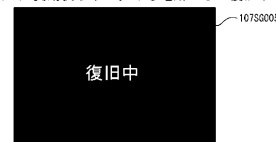
(B) ドア開放エラー報知中に電波エラー発生
(飾り図柄及び小図柄に対してエラー
報知画像を重複表示)



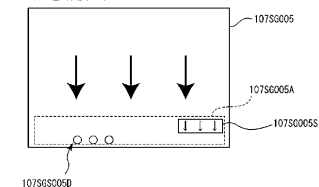
【图 8-3-1】

【图 8-31】

(A) 変動表示中における電断からの復旧中

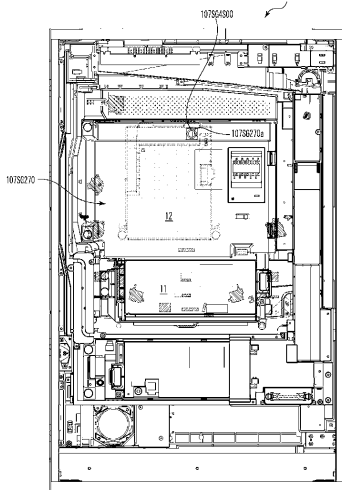


(B) 電斷復旧完了



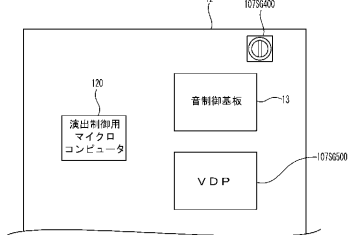
【図 8-32】

【図 8-32】変形例 1



【図 8-33】

【図 8-33】変形例 1



【図 8-36】

【図 8-36】変形例 1

(A) ドア開放エラー報知中



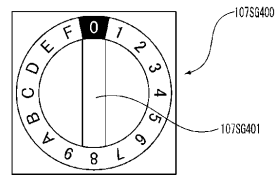
設定切替スイッチのチャンネルをCにセット後、フッシュボタンを5回操作
可動体、フッシュボタン、ステイックコントローラ等の動作チェックを実行

(B) 動作チェック結果画像をドア開放エラー報知画像、演出図柄及び小区域に重複表示

役物チェックリスト	
可動体	×
フッシュボタン	○
ステイックコントローラ	○
・	・
・	・

【図 8-34】

【図 8-34】変形例 1



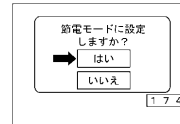
【図 8-35】

【図 8-35】変形例 1

(A) ドア開放エラー報知中

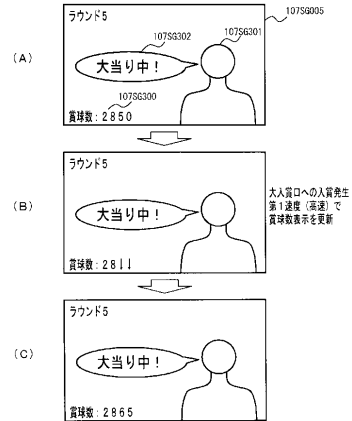


(B) 設定切替スイッチのチャンネルをFにセット



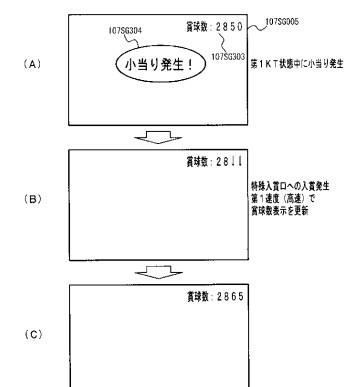
【図 8-37】

【図 8-37】変形例 2



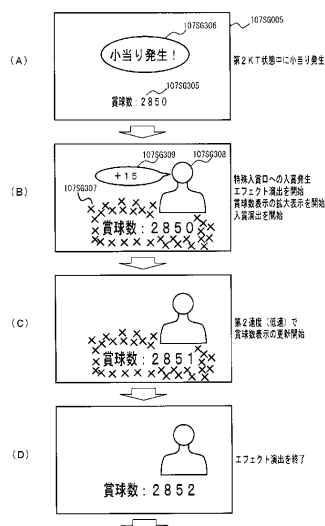
【図 8-38】

【図 8-38】変形例 2



【图 8-39】

【图 8-39】变形例 2



【图 9】

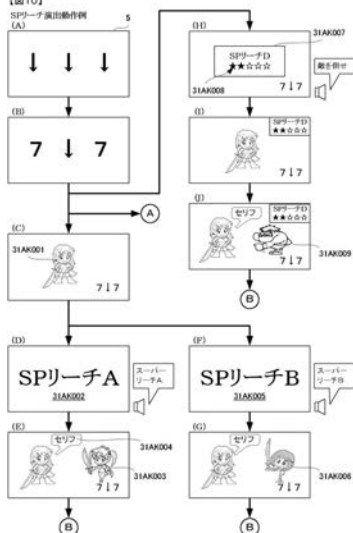
【圖9】

実験パターン	内容
PA1-1	素リチアハズレ
PA1-2	素リチアハズレ(短時間用)
PA2-1	ノーマルリチアハズレ
PA2-2	スーパーリチアハズレ
PA2-3	スーパーリチアハズレ
PA2-4	スーパーリチアハズレ
PA2-5	スーパーリチアハズレ
PA2-6	スーパーリチアハズレ
PA3-1	スーパーリチアD-Hハズレ
PA3-2	スーパーリチアD-C-Hハズレ
PA3-3	スーパーリチアD-C-Bハズレ
PA3-4	スーパーリチアB-Aハズレ
⋮	⋮
⋮	⋮
⋮	⋮
PB2-1	ノーマルリチア大当り
PB2-2	スーパーリチア大当り
PB2-3	スーパーリチア大当り
PB2-4	スーパーリチア大当り
PB2-5	スーパーリチア大当り
PB2-6	スーパーリチア大当り
PB3-1	スーパーリチアD-C大当り
PB3-2	スーパーリチアD-C大当り
PB3-3	スーパーリチアD-C大当り
PB3-4	スーパーリチアB-A大当り

リーチ種類	信頼度	タイトル報知
ノーマルリーチ	☆☆☆☆☆	なし
スーパーリーチE	★★★★☆	表示
スーパーリーチD	★★★★☆	表示＋音声
スーパーリーチC	★★★★☆	表示＋音声
スーパーリーチB	★★★★☆	表示＋音声
スーパーリーチA	★★★★☆	表示＋音声

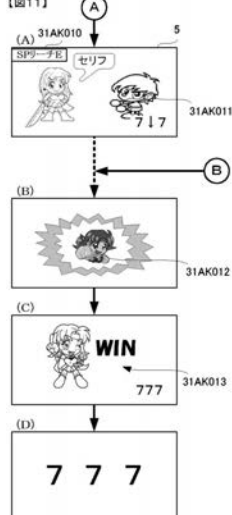
【 叉 1 0 】

【図10】
SPリーチ演出動作例



【义 1 1】

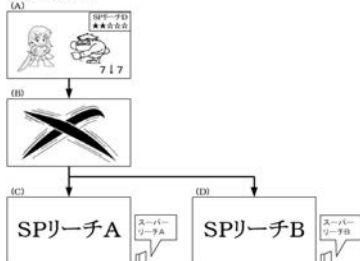
【例 11】



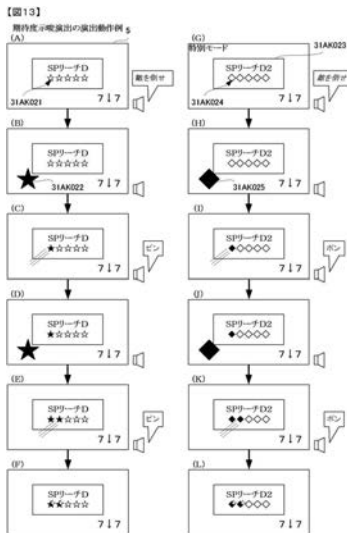
【 図 1 2 】

【圖12】

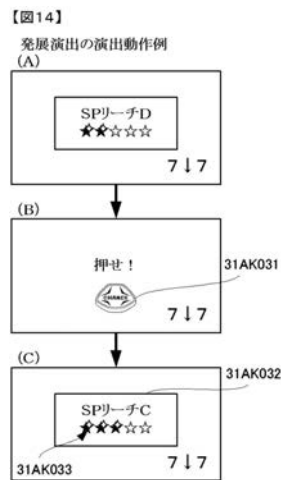
発展演出の演出動作例



【図13】



【図14】

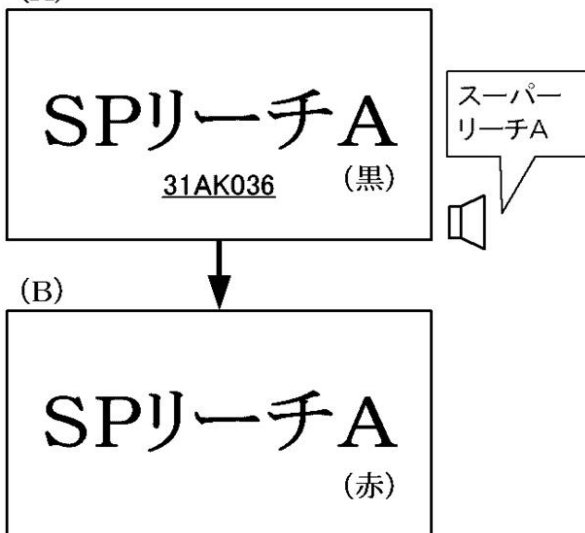


【図15】

【図15】

タイトル予告の演出動作例

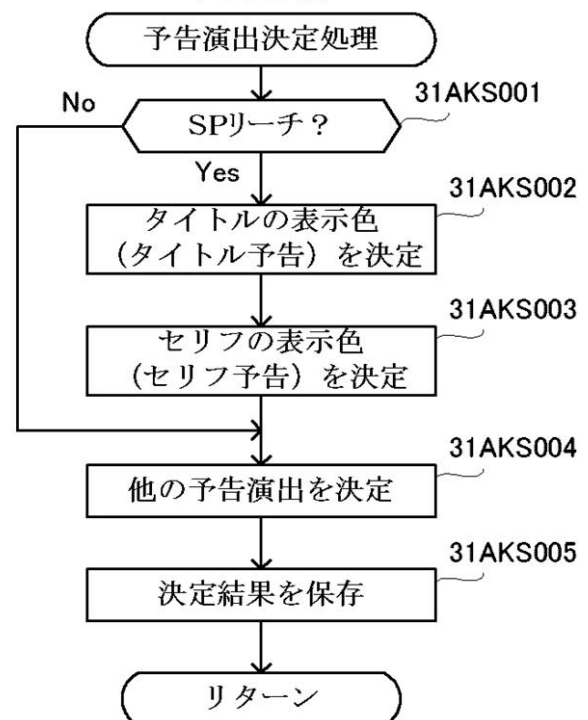
(A)



【図16】

【図16】

(S171内)



【図 17】

【図17】

(A)31AKS002における決定割合

タイトル 表示色	決定割合		信頼度
	大当たり時	ハズレ時	
黒	10%	80%	最低
赤	15%	10%	低
黒→赤	20%	9%	中
黒→フルーツ柄	35%	1%	高
赤→フルーツ柄	20%	0%	最高

(B)31AKS002における決定割合(特別モード)

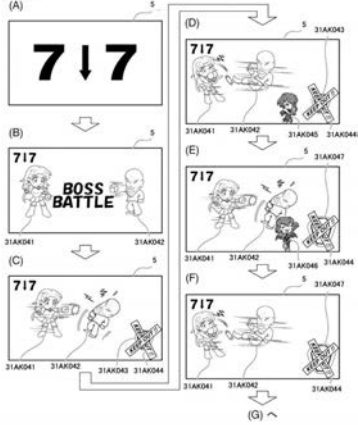
タイトル 表示色	決定割合		信頼度
	大当たり時	ハズレ時	
黒	5%	70%	最低
赤	10%	16%	低
黒→赤	25%	12%	中
黒→フルーツ柄	40%	2%	高
赤→フルーツ柄	20%	0%	最高

(C)31AKS003における決定割合

台詞 表示色	決定割合		信頼度
	大当たり時	ハズレ時	
白	10%	90%	低
赤	30%	9%	中
白→赤	60%	1%	高

【図 18】

【図18】



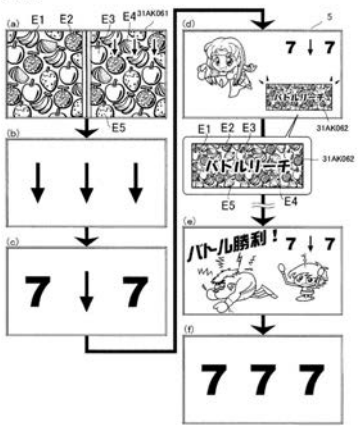
【図 19】

【図19】

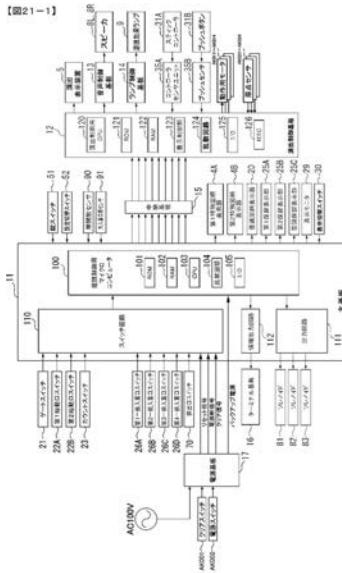


【図 20】

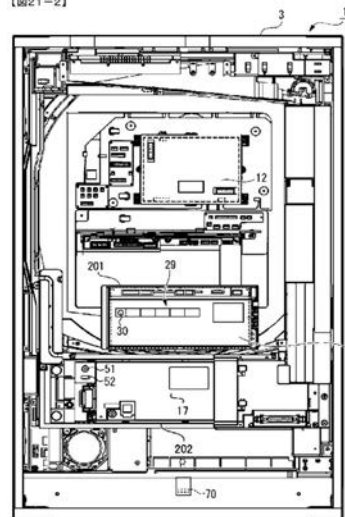
【図20】



【図 21-1】



【図 21-2】



【図 21-3】

MODE	EXT	名称	内容
80	01	第1発動開始	第1特図の発動開始を指定
80	02	第2発動開始	第2特図の発動開始を指定
81	XX	発動パターン指定	発動パターン(発動表示時間)を指定
8C	XX	発動表示結果通知	発動表示結果を指定
8F	00	図柄通知	図柄の発動表示の停止指定
90	00	RAM777通知	電源投入時のRAM777を通知
91	00	設定変更開始	電源投入時の設定変更開始を指定
92	00	待電復旧開始	待電復旧処理の発動を指定
93	XX	設定変更終了	電源投入時の設定変更終了を指定
94	00	設定確認開始	電源投入時の設定確認開始を指定
94	01	設定確認終了	電源投入時の設定確認終了を指定
95	XX	選択状況指定	現在の選択状況を指定
96	XX	エラー指定	エラー発生を指定
9F	00	保持待ち指定	保持待ち(インジェクション)の発生を指定
A0	XX	切り開始指定	大当り・小当りの開始を指定
A1	XX	大当り開始中指定	大当り開始中を指定
A2	XX	大当り開始後指定	大当り開始後を指定
A3	XX	小当り終了指定	小当り終了を指定
B1	00	第1発動口入賞指定	第1発動口入賞への入賞を通知
B2	00	第2発動口入賞指定	第2発動口入賞への入賞を通知
C1	XX	第1保留記憶数通知	第1保留記憶数を通知
C2	XX	第2保留記憶数通知	第2保留記憶数を通知
D1	00	V入賞通知指定	V入賞したことを指定

【図 21-4】

乱数	範囲	用途	加算
MR1	0~65535	特図表示結果判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
MR2	0~299	大当り種別判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
MR3	1~997	発動パターン判定用	0.002秒毎および新込処理 残り時間に1ずつ加算
MR4	3~23	普通図柄当り判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
MR5	3~23	MR4初回値決定用	0.002秒毎および新込処理 残り時間に1ずつ加算

【図 21-5】

発動パターン	特図発動時間(ms)	内容
PA1-1	12000	短期なし(通常状態)→ホリーチ(はずれ)
PA1-2	3750	保留3→短期短縮(通常状態)→ホリーチ(はずれ)
PA1-3	3750	保留3→短期短縮(通常状態)→ホリーチ(はずれ)
PA1-4	3000	短期(特図短縮中)→ホリーチ(はずれ)
PA2-1	20000	ノーマルリーチ(はずれ)
PA2-2	43000	スーパリーチα(はずれ)
PA2-3	53000	スーパリーチβ(はずれ)
PB1-1	20000	ノーマルリーチ(大当り)
PB1-2	43000	スーパリーチα(大当り)
PB1-3	53000	スーパリーチβ(大当り)
PC1-1	4000	小当り

【図 21-6】

(A) 表示結果判定テーブル(設定値1)		
大当り判定値(MR1[0~65535]と比較される)		
発動特図指定バッファ=第1 (第1特別図柄)	大当り	小当り
	1020~1079, 13320~14242(確率:1/99)	32767~34078(確率:1/50)
発動特図指定バッファ=第2 (第2特別図柄)	大当り	小当り
	1020~1079, 13320~14242(確率:1/99)	32767~65535(確率:100/200)

(B) 表示結果判定テーブル(設定値2)		
大当り判定値(MR1[0~65535]と比較される)		
発動特図指定バッファ=第1 (第1特別図柄)	大当り	小当り
	1020~1079, 13320~13757(確率:1/150)	32767~33426(確率:1/99)
発動特図指定バッファ=第2 (第2特別図柄)	大当り	小当り
	1020~1079, 13320~13757(確率:1/150)	32767~65535(確率:100/200)

(C) 表示結果判定テーブル(設定値3)		
大当り判定値(MR1[0~65535]と比較される)		
発動特図指定バッファ=第1 (第1特別図柄)	大当り	小当り
	1020~1079, 13320~13586(確率:1/200)	なし(確率:0)
発動特図指定バッファ=第2 (第2特別図柄)	大当り	小当り
	1020~1079, 13320~13586(確率:1/200)	32767~65535(確率:100/200)

【図 21-7】

(A) 大当り種別判定テーブル(第1特別図柄用)			
判定結果	MR2 (設定値1)	MR2 (設定値2)	MR2 (設定値3)
大当りA	0~49	0~99	0~149
大当りB	50~149	100~249	150~249
大当りC	150~299	250~299	250~299

(B) 大当り種別判定テーブル(第2特別図柄用)			
判定結果	MR2 (設定値1)	MR2 (設定値2)	MR2 (設定値3)
大当りA	0~29	0~69	0~199
大当りB	30~99	70~269	200~269
大当りC	100~299	270~299	270~299

(C)小当り種別判定テーブル				
判定結果	MR2 (設定値1)	MR2 (設定値2)	MR2 (設定値3)	V入賞大当り 大当り種別
小当りA	0～99	0～149	0～199	大当りD
小当りB	100～299	150～299	200～299	大当りE

【図 21-8】

【図21-8】

大当り種別

大当り種別	時短制御	開放対象	ラウンド数
大当りA	なし	第1大入賞口	5
大当りB	20回 (20回以内の大当りまで)	第1大入賞口	10
大当りC	100回 (100回以内の大当りまで)	第1大入賞口	15
大当りD	なし	第2大入賞口	4
大当りE	100回 (100回以内の大当りまで)	第2大入賞口	14

【図 21-9】

【図21-9】

(A) 大当り用変動パターン判定テーブル(大当りA用)

変動パターン	MR3 (設定値1)	MR3 (設定値2)	MR3 (設定値3)
ノーマルPB1-1	1~300	1~350	1~400
スーパーPB1-2	301~800	351~825	401~850
スーパーPB1-3	801~997	826~997	851~997

(B) 大当り用変動パターン判定テーブル(大当りB、大当りC用)

変動パターン	MR3 (設定値1)	MR3 (設定値2)	MR3 (設定値3)
ノーマルPB1-1	1~100	1~150	1~200
スーパーPB1-2	101~350	151~450	201~550
スーパーPB1-3	351~997	451~997	551~997

(C) 小当り用変動パターン判定テーブル

変動パターン	MR3 (設定値1)	MR3 (設定値2)	MR3 (設定値3)
小当りPC1-1	1~997	1~997	1~997

【図 21-10】

【図21-10】

(A) はずれ用変動パターン判定テーブルA(低ベース中含算保留記憶数1個以下用)

変動パターン	MR3 (設定値1)	MR3 (設定値2)	MR3 (設定値3)
遊リ-チPA1-1	1~350	1~400	1~450
ノーマルPA2-1	351~700	401~700	451~700
スーパーPA2-2	701~900	701~900	701~900
スーパーPA2-3	901~997	901~997	901~997

(B) はずれ用変動パターン判定テーブルB(低ベース中含算保留記憶数2~4個用)

変動パターン	MR3 (設定値1)	MR3 (設定値2)	MR3 (設定値3)
遊リ-チPA1-2	1~800	1~450	1~500
ノーマルPA2-1	401~700	451~700	501~700
スーパーPA2-2	701~900	701~900	701~900
スーパーPA2-3	901~997	901~997	901~997

(C) はずれ用変動パターン判定テーブルC(低ベース中含算保留記憶数5個以上用)

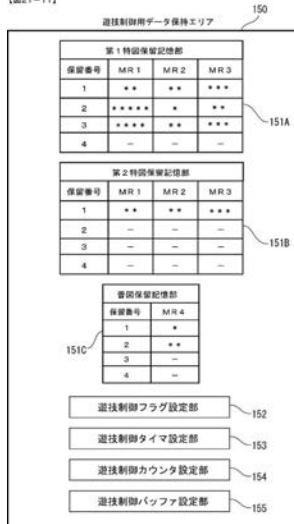
変動パターン	MR3 (設定値1)	MR3 (設定値2)	MR3 (設定値3)
遊リ-チPA1-3	1~450	1~500	1~550
ノーマルPA2-1	451~700	501~700	551~700
スーパーPA2-2	701~900	701~900	701~900
スーパーPA2-3	901~997	901~997	901~997

(D) はずれ用変動パターン判定テーブルD(高ベース中用)

変動パターン	MR3 (設定値1)	MR3 (設定値2)	MR3 (設定値3)
遊リ-チPA1-4	1~450	1~500	1~550
ノーマルPA2-1	451~700	501~700	551~700
スーパーPA2-2	701~900	701~900	701~900
スーパーPA2-3	901~997	901~997	901~997

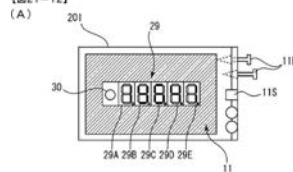
【図 21-11】

【図21-11】



【図 21-12】

【図21-12】



(B) フェグ+ドット

表示No	表示内容	略記	1桁目	2、3桁目	4、5桁目
1	連比 (%)	y6	1~3	y	6. 00~99
2	役比 (%)	y7	1~3	y	7. 00~99
3	連比 (%)	A6	1~3	A	6. 00~99
4	役比 (%)	A7	1~3	A	7. 00~99
5	ペース1 (%)	bL	1~3	b	L. 00~99
6	ペース2 (%)	B6	1~3	b	6. 00~99

【図 2 1 - 1 3】

[illegible]

【図 2 1 - 1 4】

0000H	内蔵ROMエリア
2FFFFH 3000H	
EFFFH F000H	非使用
F3FFFH F400H	内蔵RAMエリア
FDFFFH FE00H	非使用
FEFBFH FEC0H	内蔵レジスタエリア
FFFFFH	非使用

【図 2 1 - 1 5】

【图21-15】

RAM制御領域
非使用領域
RAMデータ領域
その他の領域

【図 2 1 - 1 6】

【圖21-16】

(A) 選ば・選ば・ベース値の表示変化の図解

設定値 1

1 (選) 2 (選) 3 (選) 4 (選) 5 (選) 6 (選)

5 s 5 s 5 s 5 s 5 s 5 s

表示切替スイッチ操作

設定値 2

1 (選) 2 (選) 3 (選) 4 (選) 5 (選) 6 (選)

5 s 5 s 5 s 5 s 5 s 5 s

表示切替スイッチ操作

設定値 3

1 (選) 2 (選) 3 (選) 4 (選) 5 (選) 6 (選)

5 s 5 s 5 s 5 s 5 s 5 s

表示切替スイッチ操作

...

(B-1)

1 9 6 4 1

↓

(B-2)

1 9 7 6 3

↓

(B-3)

1 8 6 5 8

↓

(B-4)

1 8 7 6 8

表示切替スイッチ操作

↓

(B-5)

1 6 7 4 0

↓

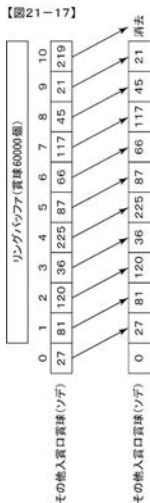
(B-6)

1 6 6 4 2

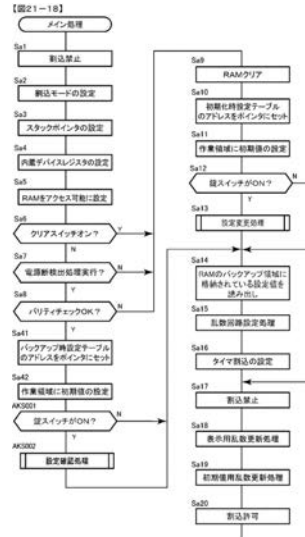
↓

...

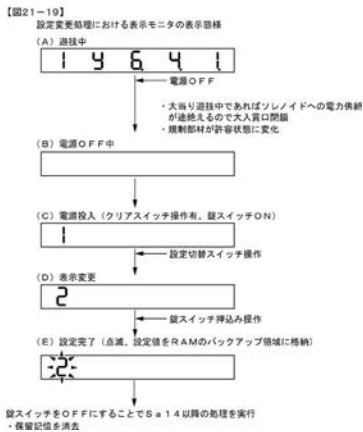
【図 21-17】



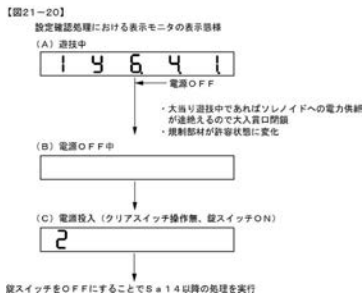
【図 21-18】



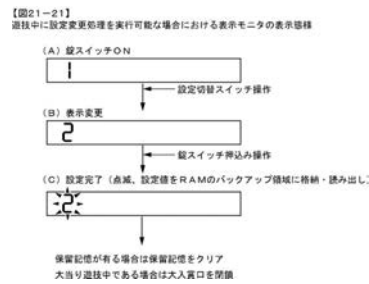
【図 21-19】



【図 21-20】



【図 21-21】

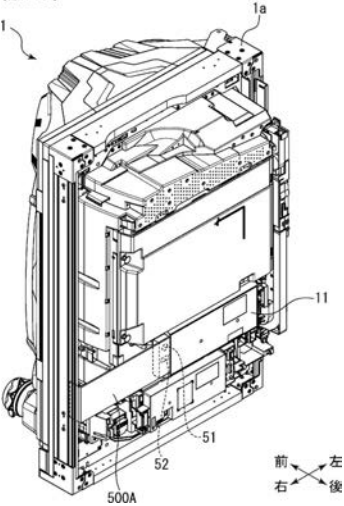


【図 21-22】



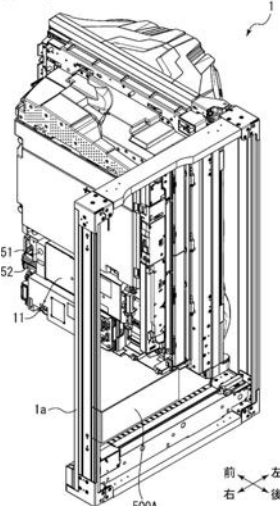
【図 21 - 23】

【図21-23】



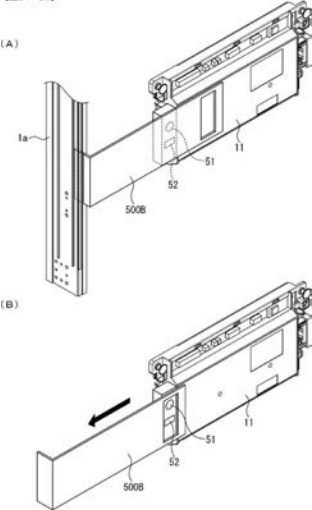
【図 21 - 24】

【図21-24】



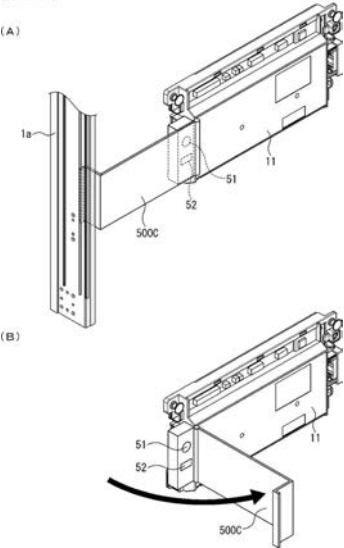
【図 21 - 25】

【図21-25】



【図 21 - 26】

【図21-26】



【図 21-27】

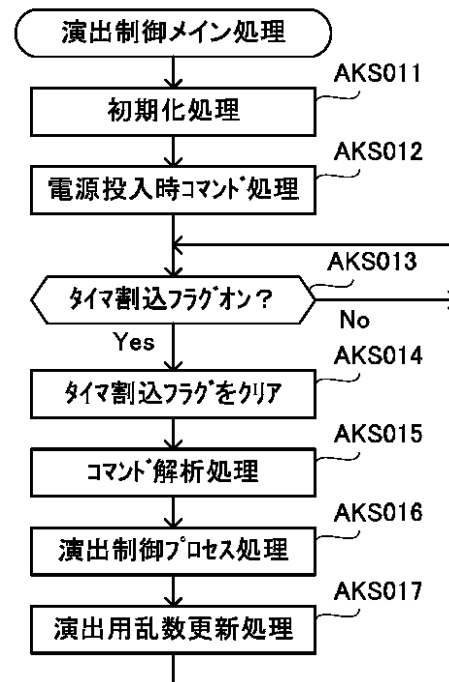
【図21-27】

電源投入時のスイッチ検出

		クリアスイッチ	
		オン	オフ
錠 ス イ ッ チ	オン	設定変更状態	設定確認状態
	オフ	初期化状態 (RAMクリア)	停電復旧状態

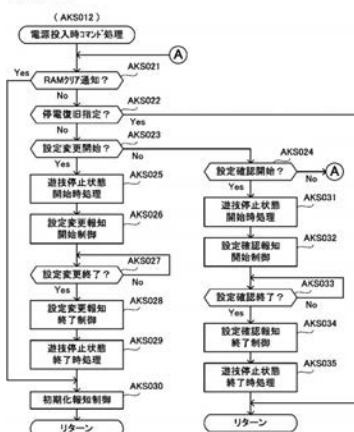
【図 21-28】

【図21-28】



【図 21-29】

【図21-29】



【図 21-30】

【図21-30】

優先度

高

↑
↓
低

設定変更通知、設定確認通知	AKP01
節電機能等設定画面など	AKP02
磁石エラー通知など	AKP03
・	・
・	・
通常遊技画面	AKP0Z

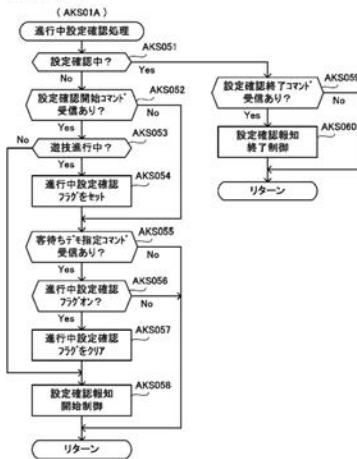
【図 21-31】

【図21-31】



【図 21-32】

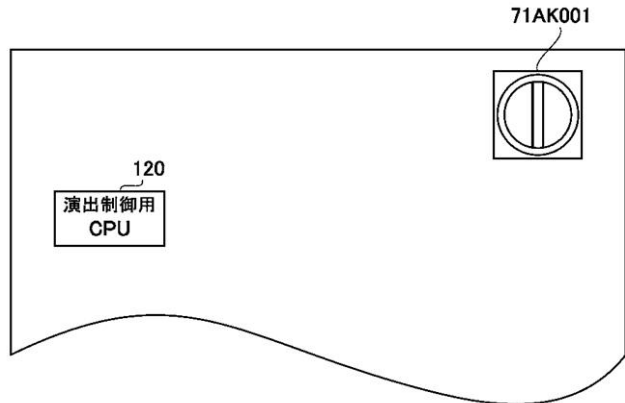
【図21-32】



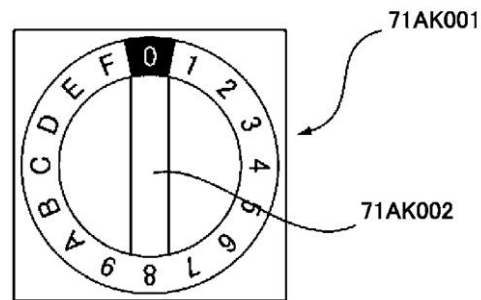
【図 21-33】

【図21-33】

(A)



(B)



【図 21-34】

【図21-34】

スイッチ 位置	用途	上限音量	遊技者 音量調整
0	音量1(最小)	80.0	可
1	音量2	85.0	可
2	音量3	88.5	可
3	音量4	92.0	可
4	音量5	94.5	可
5	音量6(最大)	97.0	可
6	音量1(最小)	80.0	不可
7	音量2	85.0	不可
8	音量3	88.5	不可
9	音量4	92.0	不可
A	音量5	94.5	不可
B	音量6(最大)	97.0	不可
C	音量4	92.0	不可
D	音量4	92.0	不可
E	音量4	92.0	不可
F	節電機能設定、RTC設定	80.0	不可

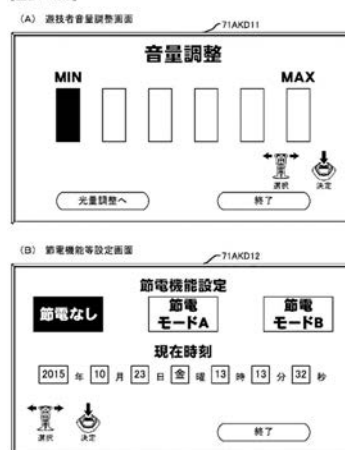
【図 21-35】

【図21-35】



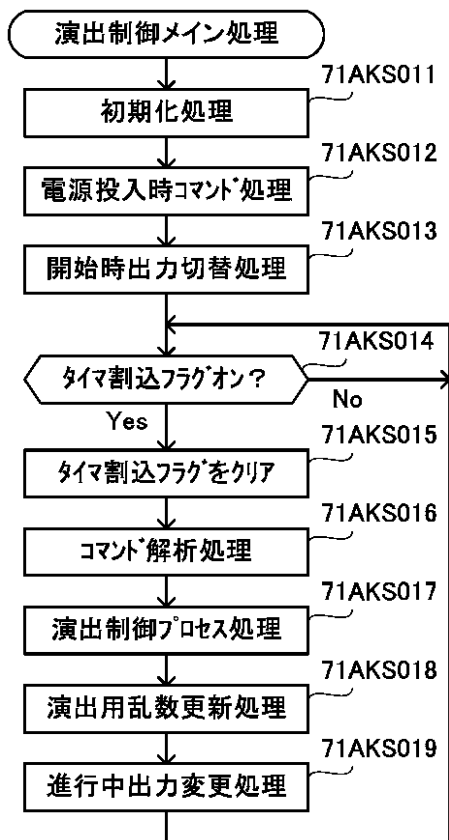
【図 21-36】

【図21-36】



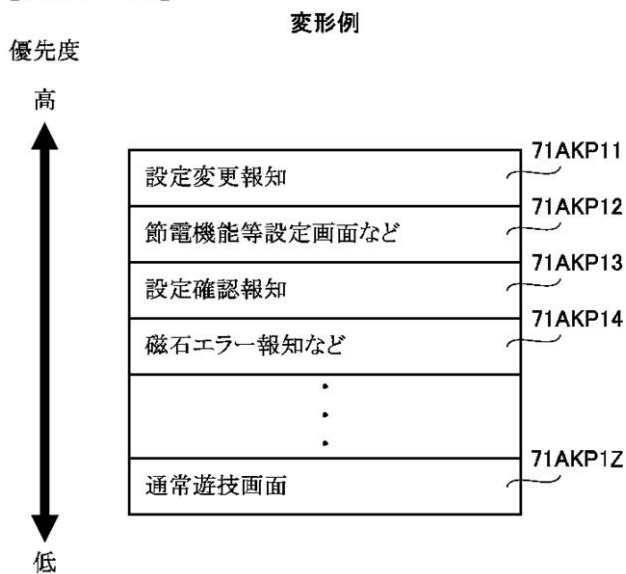
【図21-37】

【図21-37】



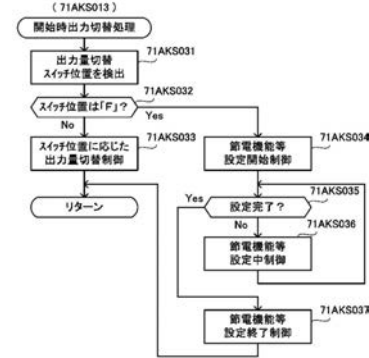
【図21-40】

【図21-40】



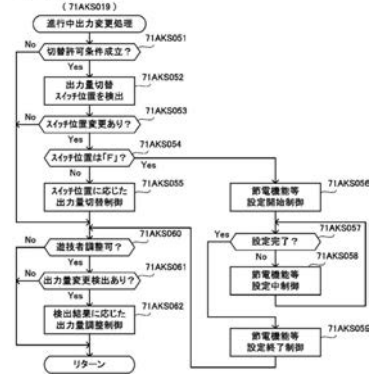
【図21-38】

【図21-38】



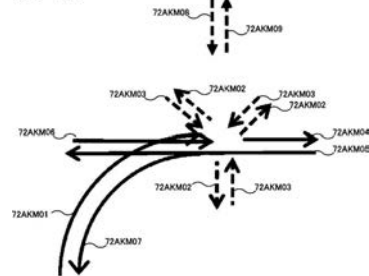
【図21-39】

【図21-39】



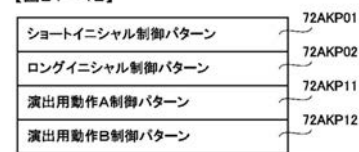
【図21-41】

【図21-41】

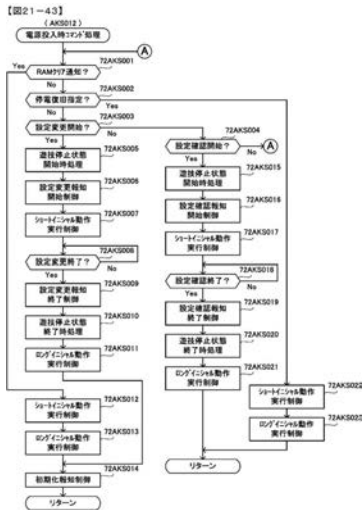


【図21-42】

【図21-42】



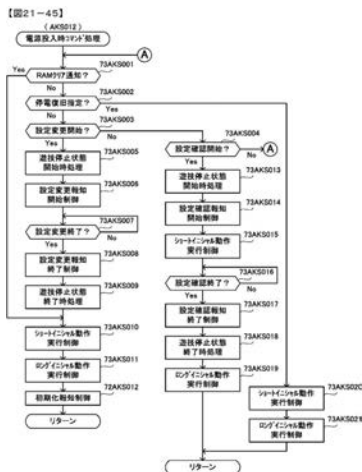
【図 2 1 - 4 3】



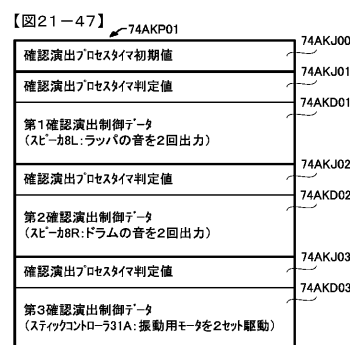
【図 2 1 - 4 4】



【図 2 1 - 4 5】



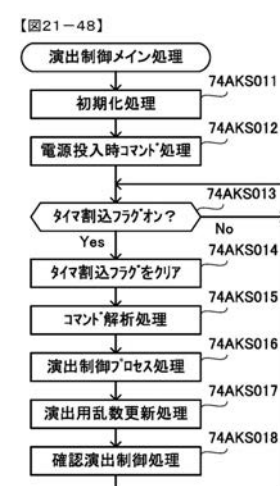
【図 2 1 - 4 7】



【图 2 1 - 4 6】

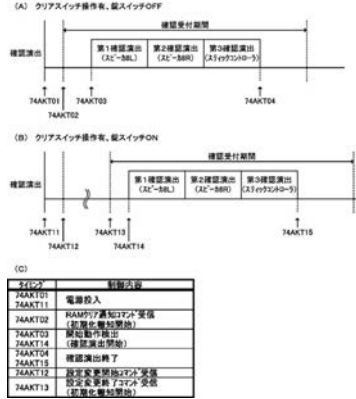


【図 2 1 - 4 8】



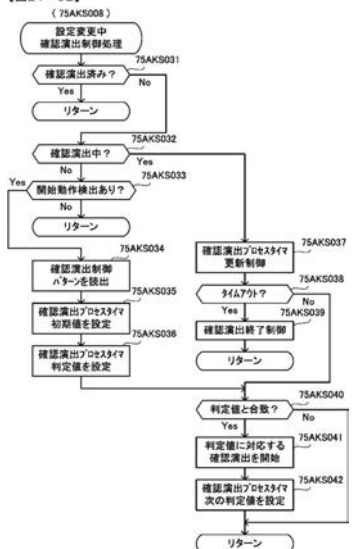
【図 2 1 - 5 0】

【圖21-50】



【図 2 1 - 5 2】

【圖21-52】



【図 21 - 53】

【図 21 - 53】

(A) クリアスイッチ操作時、磁スイッチOFF



(B) クリアスイッチ操作時、磁スイッチON



(C)

イベント	説明
75AKT01	電源投入
75AKT11	RAMの75AKT01受信
75AKT02	(磁気化開始)
75AKT03	磁気化終了
75AKT13	(磁気化完了)
75AKT04	磁気化完了
75AKT14	磁気化完了
75AKT15	磁気化完了